2021年度

講義要項

帝京短期大学

通信教育課程

目次

学習成果・・ 3

凡例　履修方法・・・T：通信科目、S：スクーリング科目、TS：通信・スクーリング科目

学年	科目名		履修方法	授業形態	科目コード	掲載ページ
1	生活とモラル		T	講義	1010	4
1	文章表現法		T	講義	1020	5
1	生活文化論		T	講義	1030	6
1	日本国憲法		T	講義	1040	7
1	情報基礎演習Ⅰ		S	演習	1050	8
1	情報基礎演習Ⅱ		S	演習	1060	9
1	英語		T	講義	1070	10
1	英語コミュニケーション		S	演習	1080	11
1	保育学Ⅰ		T	講義	2040	12
1	保育原理	2016～2018年度入学生	T	講義	2041	13
1	保育原理	2019年度入学生以降	T	講義	4010	14
1	保育学Ⅱ		T	講義	2050	15
1	保育者論	2019年度入学生以降	T	講義	4080	16
1	教育原理	2018年度入学生まで	T	講義	3010	17
1	教育原理	2019年度入学生以降	T	講義	4020	18
1	小児保健Ⅰ		T	講義	2100	19
1	子どもの保健ⅠA		T	講義	2101	20
1	こどもの保健		T	講義	4120	21
1	小児栄養		TS	演習	2130	22
1	子どもの食と栄養	2016～2018年度入学生	S	演習	2131	23
1	こどもの食と栄養	2019年度入学生以降	S	演習	4130	24
1	家族援助論		T	講義	2150	25
1	家庭支援論		T	講義	2151	26
1	保育内容の指導法(健康Ⅰ)	2015年度入学生まで	T	講義	2160	27
1	保育内容の指導法(健康Ⅰ)	2016～2018年度入学生	TS	演習	2161	28
1	保育内容の指導法(人間関係Ⅰ)	2015年度入学生まで	T	講義	2170	29
1	保育内容の指導法(人間関係Ⅰ)	2016～2018年度入学生	TS	演習	2171	30
1	保育内容の指導法(環境Ⅰ)	2015年度入学生まで	TS	演習	2180	31
1	保育内容の指導法(環境Ⅰ)	2016～2018年度入学生	S	演習	2181	32
1	保育内容の指導法(言葉Ⅰ)	2015年度入学生まで	TS	演習	2190	33
1	保育内容の指導法(言葉Ⅰ)	2016～2018年度入学生	S	演習	2191	34
1	保育内容の指導法(表現Ⅰ)	2015年度入学生まで	TS	演習	2200	35
1	保育内容の指導法(表現Ⅰ)	2016～2018年度入学生	S	演習	2201	36
1	幼児教育課程論		T	講義	3030	37
1	教育課程・保育の計画と評価		T	講義	4140	38
1	保育の心理学		T	講義	4090	39
1	障害児保育	2019年度入学生以降	TS	演習	4280	40
1	こどもと健康		T	演習	4190	41
1	こどもと人間関係		T	演習	4200	42
1	こどもと環境		T	演習	4210	43
1	こどもと言葉		T	演習	4220	44
1	こどもと表現		S	演習	4230	45
1	学校保健Ⅰ	2018年度入学生まで	T	講義	2320	46
1	学校保健Ⅰ	2019年度入学生以降	T	講義	4370	47
1	教育相談		T	講義	2350	48
1	幼児理解・教育相談		T	講義	4500	49
1	音楽概論	2018年度入学生まで	T	講義	2420	50
1	音楽概論	2019年度入学生以降	T	講義	4430	51
1	教職論		T	講義	2070	52
1	教育行政学	2018年度入学生まで	T	講義	3020	53
1	教育行政学	2019年度入学生以降	T	講義	4470	54
1	教育の方法と技術	2018年度入学生まで	T	講義	3041	55
1	教育の方法と技術	2019年度入学生以降	T	講義	4490	56
1	精神保健		T	講義	2140	57
1	特別支援教育		TS	演習	4480	58
1	こども演習		TS	演習	4510	59
1	幼児生活論		T	講義	3050	60
1	生活	2016～2018年度入学生	T	講義	3051	61
1	生活	2019年度入学生以降	T	講義	4440	62
1	国語	2016～2018年度入学生	T	講義	3055	63

学年	科目名		履修方法	授業形態	科目コード	掲載ページ
1	国語	2019年度入学生以降	T	講義	4450	64
2	体育理論		T	講義	1090	65
2	体育実技		S	実技	1100	66
2	社会福祉概論		T	講義	2010	67
2	社会福祉	2016～2018年度入学生	T	講義	2011	68
2	社会福祉	2019年度入学生以降	T	講義	4040	69
2	社会福祉援助技術		S	演習	2021	70
2	児童福祉論		T	講義	2030	71
2	児童家庭福祉		T	講義	2031	72
2	こども家庭福祉		T	講義	4030	73
2	児童養護原理		T	講義	2060	74
2	社会的養護		T	講義	2061	75
2	社会的養護Ⅰ		T	講義	4060	76
2	発達心理学		T	講義	2080	77
2	教育心理学	2015年度入学生まで	TS	演習	2091	78
2	教育心理学	2016～2018年度入学生	S	演習	2092	79
2	こども家庭支援の心理学		T	講義	4100	80
2	こどもの理解と援助		S	演習	4110	81
2	小児保健Ⅱ		T	講義	2110	82
2	子どもの保健ⅠB		T	講義	2111	83
2	小児保健実習		S	演習	2120	84
2	子どもの保健演習		S	演習	2121	85
2	こどもの健康と安全		S	演習	4270	86
2	乳児保育	2016～2018年度入学生	S	演習	2221	87
2	乳児保育Ⅰ		T	講義	4250	88
2	障害児保育	2016～2018年度入学生	S	演習	2231	89
2	音楽実技		S	演習	2250	90
2	こどもと音楽		S	演習	4240	91
2	身体表現		S	演習	2260	92
2	保育内容指導法(健康・環境)		S	演習	4160	93
2	保育内容指導法(人間関係・言葉)		S	演習	4170	94
2	保育内容指導法(表現)		S	演習	4180	95
2	学校保健Ⅱ	2018年度入学生まで	T	講義	2330	96
2	学校保健Ⅱ	2019年度入学生以降	T	講義	4380	97
2	看護学	2018年度入学生まで	T	講義	2340	98
2	看護学	2019年度入学生以降	T	講義	4400	99
2	児童と文化Ⅰ		T	講義	4410	100
2	基礎栄養学	2018年度入学生まで	T	講義	2360	101
2	基礎栄養学	2019年度入学生以降	T	講義	4390	102
2	キャリアデザイン		T	講義	4460	103
2	教育実習指導	2018年度入学生まで	S	演習	3070	104
2	教育実習指導	2019年度入学生以降	S	演習	4520	105
2･3	教育実習		S	実習	3080	106
2	教育実習Ⅰ		J	実習	4530	107
2	保育実習指導Ⅰ	2018年度入学生まで	S	演習	2281	108
2	保育実習指導Ⅰ	2019年度入学生以降	S	演習	4300	109
2	保育実習ⅠA		S	実習	2290	110
2	保育実習Ⅰ(保育所)		J	実習	4310	111
3	相談援助		S	演習	2022	112
3	保育相談支援		S	演習	2023	113
3	こども家庭支援論		T	講義	4050	114
3	子育て支援		TS	演習	4290	115
3	保育者論	2016～2018年度入学生	T	講義	2051	116
3	保育内容総論	2015年度入学生まで	TS	演習	2211	117
3	保育内容総論	2016～2018年度入学生	S	演習	2212	118
3	保育内容総論	2019年度入学生以降	S	演習	4150	119
3	乳児保育	2015年度入学生まで	TS	演習	2220	120
3	乳児保育Ⅱ		S	演習	4260	121
3	障害児保育	2015年度入学生まで	TS	演習	2230	122
3	養護内容		TS	演習	2240	123
3	社会的養護内容		S	演習	2241	124
3	社会的養護Ⅱ		S	演習	4070	125
3	美術表現		S	演習	2270	126
3	保育内容の指導法(健康Ⅱ)		T	講義	2370	127
3	保育内容の指導法(人間関係Ⅱ)		T	講義	2380	128

学年	科目名		履修方法	授業形態	科目コード	掲載ページ
3	保育内容の指導法(環境Ⅱ)		T	講義	2390	129
3	保育内容の指導法(言葉Ⅱ)		T	講義	2400	130
3	保育内容の指導法(表現Ⅱ)		T	講義	2410	131
3	児童と文化Ⅱ		T	講義	4420	132
3	教育実習Ⅱ		J	実習	4540	133
3	教職実践演習(幼稚園)	2015年度入学生まで	TS	演習	3060	134
3	教職実践演習(幼稚園)	2016～2018年度入学生	S	演習	3061	135
3	教職実践演習(幼稚園)	2019年度入学生以降	S	演習	4550	136
3	保育実習ⅠB		S	実習	2300	137
3	保育実習Ⅰ(施設)		J	実習	4320	138
3	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	2018年度入学生まで	S	演習	2500	139
3	保育実習指導Ⅱ・Ⅲ	2019年度入学生以降	S	演習	4330	140
3	保育実習Ⅱ		S	実習	2510	141
3	保育実習Ⅱ(保育所)		J	実習	4340	142
3	保育実習Ⅲ		S	実習	2520	143
3	保育実習Ⅲ(施設)		J	実習	4350	144
3	総合演習		TS	演習	2310	145
3	保育実践演習	2016～2018年度入学生	S	演習	2311	146
3	保育実践演習	2019年度入学生以降	TS	演習	4360	147
科目等	保育者論(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5011	148
科目等	教育行政学(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5020	149
科目等	教育課程・保育の計画と評価(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5031	150
科目等	保育内容の指導法(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5040	151
科目等	教育の方法と技術(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5050	152
科目等	幼児理解の理論と方法(特例)	幼稚園教諭特例コース	T	講義	5060	153

学習成果

こども教育学科 こども教育専攻 通信教育課程

1. 基礎力
①建学の精神を理解し、常に向上させるために努力する力を身に付けることができる。
②総合的な知識・技術を身に付け、対象児・者の最善の利益を考慮した発想力を持つことができる。

2. 実践力
①子どもの発達課題を理解し、教育課程に基づき指導計画をたて保育の計画と評価を実践することができる。
②子どもを取り巻く環境を理解し、臨機応変に保育を展開できる。

3. フィードバック能力
①教育・保育・福祉の場における様々な場面での即応力を身に付ける。
②物事の事象や本質を捉え、内容を的確に他者に伝えることができる。

4. 地域理解力
①子どもと保護者を取り巻く社会的環境を踏まえ、地域の福祉や保育を担う専門職としての資質を身に付ける。
②地域の特徴(自然や文化)を活かした福祉サービスを提供することができる。
③地域福祉の推進の中核を担う専門職として、子どもの健全育成と子育て支援について地域や家庭と協働する力を身に付ける。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
生活とモラル Life and Morality	上　憲治	単独	卒 選	幼 選	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	1010	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	日本道徳教育学会の理事や評議員勤め、また「原体験研究会」を主宰して多年道徳教育について猿窮している。本科目においてはそこで研究された人間としての生き方を反映している。
－	－	

授業の概要

日本的倫理性について、西欧近代思想家の指導内容と日本的思想（特に西田幾多郎）内容との比較によって、その特徴を浮き彫りにすることで理解する。

授業の目的

我々の日常の生き方を考えるに先ず私たちが日本人であるということがその基軸になる。そのアイデンティティーを捉えることにより、私が日々生きる基礎づけを得ることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	近代から現代の欧米精神の流入により私たちの精神性は大きな影響を受けている。そのため生き方に不調和が生じてしまう。欧米の精神性と我々の精神性との違いを十分に理解し、私の立ち位置や生き方を私に馴染んだものに近づけることを目標とする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

上憲治『日本的倫理性』帝京短期大学

参考書

新形信和『日本人の＜わたし＞を見つめて 比較文化論のすすめ』新曜社
阿部謹也『ヨーロッパを見る視角』岩波書店
末木文美士『哲学の現場 日本で考えるということ』トランスビュー
酒井潔『自我の哲学史』講談社
林信弘『無の人間学』晃洋書房
金谷武洋『日本語に主語はいらない』講談社

試験対策

日本精神と欧米精神の対比により日本精神の特異性とその生き方について十分に理解して整理しておくこと。

学習のアドバイス

テキストや参考文献で自分の納得できるところを中心にして、十分に考察して記述する。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	上 憲治	問題の設定	「日本的倫理性を求める」ことを考える。
2	上 憲治	自我観の考察	近代西欧の自我観について理解する。
3	上 憲治	デカルトのコギト	日本的コギトの発想と設定
4	上 憲治	コギトの幻惑	「我」の実態
5	上 憲治	コギトの発展	日本的コギトの考察
6	上 憲治	ジョン・ロックのタブラ・ラサ	ジョン・ロックのタブラ・ラサの理解
7	上 憲治	ジョン・ロック認識論の問題点	認識におけるパラレル性とワープ現象と言語
8	上 憲治	タブラ・ラサの呪縛からの解放	新タブラ・ラサの考察
9	上 憲治	ライプニッツのモナド論	「個人と予定調和」とワープ現象
10	上 憲治	モナド論と自我	近代西欧自我観の本質
11	上 憲治	我々にとってのモナド論	「認識論の呪縛」や「物自体の幻惑」
12	上 憲治	カントの物自体	物自体の概要
13	上 憲治	物自体は存在するか	コギトから生まれた物自体の裏切りの結果
14	上 憲治	西田哲学と西洋哲学	デカルト批判、カント批判
15	上 憲治	西田の場所論	ライプニッツ、ベルグソンとの関連

レポート作成等の方法・留意点

テキストのみならず参考書も用いて日本的な生き方を発見していただきたい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキスト及び参考文献をよく読み込み、レポートを文章表現に注意してまとめて提出する。	60時間
復習	レポートは添削して返却されるので、添削コメントを参考に再度学修し、レポート第2回課題の提出及び試験準備に当たる。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートを添削して返却するので次の学習に反映する。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
文章表現法				上 憲治		単独	卒	幼	保
Japanese sentence style							選	選	選
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
1	講義	通信	2	30時間	1020		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	–	日本道徳教育学会や日本柔道整復学会の論文査読委員を多年経験している。本科目では論文査読での文書作成についての識見を反映している。
–	–	

授業の概要

論文やレポートを作成するための具体的な作業過程を順を追って実践しながら学習する。

授業の目的

レポート（報告書）を作成する技術と文章表現力の取得を目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	目標としては大学に提出するレポートの作成に照準を合わせる。レポートのテーマ決めや資料収集、情報整理・分析、次に叙述構成へと進める工程を取得することが１つの目標である。もう一つの目標は読み手が理解しやすい文章作成の修得である。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

野内良三『日本語作文術：伝わる文章を書くために』中央公論新社
花井等他『論文の書き方マニュアル：ステップアップ式リサーチ戦略のすすめ 新版』有斐閣

参考書

金谷武洋『日本語に主語はいらない 百年の誤謬を正す』講談社
木下是雄『レポートの組み立て方』筑摩書房
その他サブテキスト内に掲載

試験対策

分かりやすい文章の作成する力を身に着け、分かり難い文章を分かりやすく直せる訓練をしておいてほしい。

学習のアドバイス

テキストをていねいに読み込み、よく理解して、カード作成においては手順を踏んで着実に作成することで、レポート作成は見通しのきく、明るいものになる。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	上 憲治	はじめに	サブテキストでこの科目の概要を理解する
2	上 憲治	第一部 「書く力」初級編(1)	テキスト「日本語作文術」の「Ⅰ作文術の心得」
3	上 憲治	第一部 「書く力」初級編(2)	短文で分かり易く、修飾語は曲者、他を読了
4	上 憲治	第一部 「レポート作成」ステップ 1(1)	テキスト「論文の書き方マニュアル」ステップ 1 を読了
5	上 憲治	第一部 「レポート作成」ステップ 1(2)	論文テーマを決めるエリアの資料を速読する
6	上 憲治	第一部 「レポート作成」ステップ 1(3)	論文のアウトラインを決め、章立てを構想する
7	上 憲治	第二部 「書く力」中級編(1)	テキスト「日本語作文術」の「Ⅱ文をまとめる」
8	上 憲治	第二部 「レポート作成」ステップ 2(1)	テキスト「論文の書き方マニュアル」ステップ 2 を読了
9	上 憲治	第二部 「レポート作成」ステップ 2(2)	資料収集、書き取りカード作成（第 1 章）
10	上 憲治	第二部 「レポート作成」ステップ 2(3)	カードを分類（第 2 章）
11	上 憲治	第二部 「レポート作成」ステップ 2(4)	筋立てをする（第 3 章）
12	上 憲治	第三部 「書く力」上級編(1)	テキスト「日本語作文術」の「Ⅲ段落を組み立てる」
13	上 憲治	第三部 「レポート作成」ステップ 3(1)	テキスト「論文の書き方マニュアル」ステップ 3 を読了
14	上 憲治	第三部 「レポート作成」ステップ 3(2)	「確認作業」と「下書き」
15	上 憲治	第三部 「レポート作成」ステップ 3(3)	「清書」

レポート作成等の方法・留意点

読み手がつかえることなくスムーズに読み進めることができる文章作成を目標とし、レポート作成の重要要素であるカードを丁寧に着実に作成していただきたい。また作成したカードの分類整理もその配分でレポート記述が自ずと組み立てられるよう十分検討していただきたい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキストの該当箇所を事前に理解しておく。	60時間
復習	テキストの示すやり方を実践し、改善を繰り返す。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	作業過程（トピックカード）をレポート提出し、都度ごとに添削して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
生活文化論 Life and Culture Theory	金指 有里佳	単独	卒 選	幼 選	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	1030	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	
－	－	

授業の概要

伝統文化や伝統的生活文化を知り、衣生活、食生活、住生活の生活文化等に関して生活者として伝統文化の偉大さを理解し、それを基にこれからの生活の向上及び伝承の大切さについて学ぶ。

授業の目的

生活文化は人間が生きていくための多様な活動を通して生活全体の中から生み出されたものであり、あらゆる生活の中で生活様式として定着してきたものを生活文化と捉える。様々な切り口からみた生活の文化的側面を考察し、伝統文化の偉大さや今日の生活に定着した身近な生活文化について理解を深めることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	今日まで伝承されてきた生活のあらゆる面に関わる文化について知識を養い、人々の暮らしの文化的位置付けについて理解を深め、生活文化の伝承の必要性を把握する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	科目修得試験により評価する。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

佐々井啓他『シリーズ生活科学　生活文化論』朝倉書店

参考書

日本家政学会『家政学シリーズ21　生活文化論』朝倉書店
川崎衿子他『生活文化を考える』光生館

試験対策

サブテキストにもしっかり目を通し理解をしておくこと。

学習のアドバイス

日常生活においても、教科書、参考書に書かれていることを意識しながら、生活者として生活文化に結び付けてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	金指 有里佳	生活文化とは	1.「生活」の定義　2.「文化」の意味　3.「生活文化」とは
2	金指 有里佳	生活文化と民族	1.風土に住まう　2.現代に生きる民族服　3.食文化の分布
3	金指 有里佳	貴族の生活（1） [平安時代]	1.寝殿造りに住まう　2.束帯と襲色目　3.大饗
4	金指 有里佳	武家の生活 [室町・安土桃山時代]	1.座敷の発達　2.武家服飾と古典芸能　3.本膳料理と懐石料理
5	金指 有里佳	貴族の生活（2） [ヨーロッパ 18 世紀]	1.ロココ様式の室内装飾　2.18 世紀フランス宮廷の美 3.ブルボン王朝の豪奢な食卓
6	金指 有里佳	市民の生活（1） [江戸時代]	1.町家　2.「だて」と「いき」　3.飲食店と料理屋の出現
7	金指 有里佳	市民の生活（2） [ヨーロッパ 19 世紀]	1.アーツ・アンド・クラフツ運動から世紀末芸術へ 2.ダンディとクリノリン　3.レストランの出現
8	金指 有里佳	市民の生活（3） [アメリカ 19 世紀]	1.夢のアメリカンホームを求めて　2.ミシンと既製服の誕生 3.西部開拓とアメリカンスタイルの確立
9	金指 有里佳	明治の生活文化	1.都市住宅とサラリーマン　2.和服と女学生 3.行事食と日常食
10	金指 有里佳	明治の洋風文化	1.洋風住居　2.鹿鳴館と改良服・アクセサリー 3.西洋料理の開化
11	金指 有里佳	新しい造形 [ヨーロッパ 20 世紀]	1.モダンハウスの誕生　2.背広服とイブニングドレス 3.食の合理性とおいしさの追求
12	金指 有里佳	大正ロマンの世界	1.文化住宅とシンプルライフ　2.洋風の和服 3.コロッケの流行
13	金指 有里佳	昭和のモダニズム	1.インターナショナルスタイルの住宅 2.モダンガールの誕生　3.洋食の常食化
14	金指 有里佳	流行は世界に [20 世紀後半]	1.nLDK スタイルと商品化住宅　2.ジーンズとミニスカート 3.ファストフードとグルメ時代
15	金指 有里佳	21 世紀の生活文化	1.個をつなぐ住まい　2.機能性とファッション 3.食品機能の追求と食環境の充実を目指して

レポート作成等の方法・留意点

レポートを書く際は、教科書、参考書を読むことは勿論のこと、地域において伝承されている文化がありましたら、それを取り上げてもいいです。最後に必ず自分の意見を書くことを忘れないで下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	改めて現在の生活文化を意識しながら生活をし、また地域にも目を向けてみる。	60時間
復習	伝承されてきた生活が現在の生活を豊かにしていることを忘れず、生活をしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
日本国憲法 Constitution of Japan	小田桐 忍	単独	卒	幼	保
			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	1040	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	−	
−	地域理解力	

授業の概要

憲法は、主権者である私たち国民が制定し、権力を行使する国家を制限する根本法である。そうした主権者の制定した憲法に基づいて政治を行う立憲政治の原則がわが国では採用されている。だからこそ、みなさんは、帝京短期大学在学中に、憲法が保障する基本原則に触れつつ、基本的人権や民主主義の諸原則を十分検討することも大切である。他方、憲法を取り巻く状況も変化してきた。そこで改めて憲法の問題状況を整理し直し、日本国憲法の将来について、学び直す必要性がある。本科目では、これからの時代に活躍するみなさんがこうした憲法について学習する。

授業の目的

1.日本国憲法を最高法規として理解し、自分自身の問題として主体的に捉える。
2.日本国憲法の基礎知識を獲得し、主権者として将来の憲法論議に参加する
3.憲法判例に関する討議に参加し、客観的に形成された自分の意見を述べる。
4.わが国の歴史を振り返り、日本国憲法の現代的意義について考察する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	将来のわが国のリーダーとして積極的に周囲をリードすることができる。
②	さまざまな形で問われる日本国憲法に関する基礎知識を活用することができる。
③	自分の意見を客観的に述べ、他人の意見をしっかり聞くことができる。
④	次世代に対して、責任をもってより良い社会を引き継ぐことができる。
⑤	わが国の基本路線としての国際協調性や多文化共存性を推進することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

工藤達朗『よくわかる憲法　第2版』ミネルヴァ書房

参考書

芦部信喜『憲法』岩波書店
辻村みよ子『憲法』日本評論社
どちらも公共図書館に所蔵されています。一度手にとって内容を確認してください。

試験対策

教科書の全てと理解度テスト・関連憲法条文を試験範囲とする。

学習のアドバイス

憲法の理解の先にある私たちの日常と平和を大切にしていただきたい。憲法を生かしながら生活していただきたい。幸せな世界を建設していただきたい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小田桐 忍	日本国憲法の基本原理（1）	大日本帝国憲法の崩壊と日本国憲法の成立について理解する。
2	小田桐 忍	日本国憲法の基本原理（2）	憲法改正と憲法変遷について検討する。
3	小田桐 忍	国民主権と象徴天皇制	国民主権と象徴天皇の両立について考察する。
4	小田桐 忍	平和主義	憲法９条をめぐる問題点について検討する。
5	小田桐 忍	幸福追求権と自己決定権	基本的人権の根底にある考え方を理解する。
6	小田桐 忍	思想・良心・信教の自由	それぞれの自由権の意義について把握する。
7	小田桐 忍	表現の自由と名誉・ プライヴァシー	両者の関連性とそれを取り巻く諸問題について考察する。
8	小田桐 忍	集会・結社の自由と学問の自由	これらの自由権をめぐる諸議論について概観する。
9	小田桐 忍	職業選択の自由と生存権	職業選択の自由・生存権・労働基本権について議論する。
10	小田桐 忍	裁判における人権と参政権	裁判における人権・参政権・選挙制度・選挙運動を考察する。
11	小田桐 忍	その他の基本的人権をめぐる 諸問題	上記1から10までで取り扱えなかった問題を検討する。
12	小田桐 忍	国会の機能と権能	国権の最高機関としての国会について考察する。
13	小田桐 忍	わが国議院内閣制	内閣総理大臣の権能及び衆議院の解散について考察する。
14	小田桐 忍	わが国の司法制度	裁判員制度を含むわが国の司法制度の歴史から性格までを検討する。
15	小田桐 忍	わが国の地方自治	地方自治の本旨の説明をもって日本国憲法全103条の考察を終える。

レポート作成等の方法・留意点

学習およびレポート執筆の際は、教科書を吟味熟読した後、参考書欄に挙げたような比較的平易な書物も併せて検討していただきたい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容に対応する日本国憲法の条文を精読する。	60時間
復習	各回の授業で摘出されたキーワードについて自分の言葉でまとめ直す。また、予習時の条文を再読する。	
以上の予習・復習を繰り返すことによって、科目修得試験を突破するための力が備わることだろう。		

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物は添削して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
情報基礎演習Ⅰ	菊地 紀子、横関 節子	クラス分け	卒	幼	保
Computer Literacy Ⅰ			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	1	30時間	1050	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	
－	－	

授業の概要

こども教育の現場でも、いまやコンピュータはなくてはならないものとなってきている。保育者の事務処理はもとより、 これからは園児に対する教材作成や園児にコンピュータを使わせることも考えられる。それらのことを考慮し､コンピュー タの基本的な知識と情報処理技能の習得をめざす。

授業の目的

PowerPointで自己紹介をしたり紙芝居を作成できるようにするためPowerPointによるプレゼンテーション技術を習得する。また、Wordを用いて日本語文書処理をマスターし、合わせてビジネス文書の基本的な書き方を習得する。さらにビジネスシーンで多く使用されている表計算ソフトであるExcelを用い、Wordとの表作成の違いなどを学習する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	コンピュータを使いこなすための基本的な知識の習得及びこども教育の現場で使用される具体的な事例をもとに、様々なアプリケーションソフトの特性を生かし、目的とすることを達成するための有効な使い方を習得する。

成績評価方法及び基準

習得状況確認	50%	
授業態度・教材提出	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

菊地紀子『事例で学ぶコンピュータリテラシー（新訂版）』学文社

参考書

なし

試験対策

授業に全て出席し、教材を作成し、実際のこども教育現場を想定した応用力を身につけると合格できる試験。

学習のアドバイス

提出物は授業内で作成し提出するため、スクーリング期間は全て出席することを前提とする。 授業内で収集したデータは、個人を特定しない形で、教育改善に使用し公表することがある。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	菊地 紀子 横関 節子	概要説明	受講前調査 タイピングテスト タイピング練習
2	菊地 紀子 横関 節子	PowerPoint(1)	情報収集、情報発信の手段について
3	菊地 紀子 横関 節子	PowerPoint(2)	情報発信の手法について
4	菊地 紀子 横関 節子	PowerPoint(3)	自己紹介
5	菊地 紀子 横関 節子	PowerPoint(4)	童謡、昔話
6	菊地 紀子 横関 節子	PowerPoint(5)	発表
7	菊地 紀子 横関 節子	Word(1)	文書作成 手紙文とビジネス文書の違い
8	菊地 紀子 横関 節子	Word(2)	文書作成 表作成
9	菊地 紀子 横関 節子	Word(3)	文書作成 地図作成
10	菊地 紀子 横関 節子	Word(4)	文書作成 画像処理
11	菊地 紀子 横関 節子	Word(5)	文書作成 図形処理
12	菊地 紀子 横関 節子	Word(6)	文書作成 図形内テキスト挿入
13	菊地 紀子 横関 節子	Excel(1)	表計算 効率的な表作成
14	菊地 紀子 横関 節子	Excel(2)	表計算 効率的な入力
15	菊地 紀子 横関 節子	まとめ	最終確認及びアンケート

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	入力文字数が 10 分間で 150 文字以上ないと合格することが難しいため、入力練習を毎日 10 分すること。	15時間
復習	その日に習得したことを忘れないため、もう 1 度やってみて復習すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物は確認し、不備があれば返却し、再提出を求める。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
情報基礎演習Ⅱ	菊地　紀子、横関　節子	クラス分け	卒	幼	保
Computer Literacy Ⅱ			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	1	30時間	1060	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
－	－	

受講要件

「情報基礎演習Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

情報基礎演習Ⅰの受講により、基本的な知識と情報処理技能の習得が出来たことを前提として、さらに高度な情報処理技能や応用事例をもとに情報処理技能の定着を図る。

授業の目的

Wordでは具体的な事例を作成しながら、保育者となった時に応用できる技術を身に着ける。Excelでは表計算ならではの計算やグラフ作成機能を習得するとともにWindows上で行われるマルチメディアの基礎を学習する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	情報基礎演習Ⅰの受講により習得できた基本的な知識及び情報処理技能をもとにさらに発展させた内容を行う。こども教育の現場で使用される具体的な事例を中心に、様々なアプリケーションソフトの特性を生かし、目的とすることを達成するための応用的な使い方を習得する。

成績評価方法及び基準

習得状況確認	50%	
授業態度・教材提出	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

菊地紀子『事例で学ぶコンピュータリテラシー （新訂版）』学文社

参考書

なし

試験対策

授業に全て出席し、教材を作成し、実際のこども教育現場を想定した応用力を身につけると合格できる試験。

学習のアドバイス

提出物は授業内で作成し提出するため、スクーリング期間は全て出席することを前提とする。 情報基礎演習Ⅰを受講していることが受講条件となる。授業内で収集したデータは、個人を特定しない形で、教育改善に使用し公表することがある。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	菊地 紀子 横関 節子	Word(1)	文書作成　園だより
2	菊地 紀子 横関 節子	Word(2)	文書作成　保健だより・身体測定について
3	菊地 紀子 横関 節子	Word(3)	文書作成　給食だより・配膳について
4	菊地 紀子 横関 節子	Word(4)	文書作成　運動会プログラム
5	菊地 紀子 横関 節子	Word(5)	文書作成　芋ほりのお知らせ
6	菊地 紀子 横関 節子	Word(6)	文書作成　学習発表会プログラム
7	菊地 紀子 横関 節子	Excel(1)	表計算　　給食献立表
8	菊地 紀子 横関 節子	Excel(2)	表計算　　計算機能　関数
9	菊地 紀子 横関 節子	Excel(3)	表計算　　相対参照と絶対参照
10	菊地 紀子 横関 節子	Excel(4)	表計算　　収支の計算
11	菊地 紀子 横関 節子	Excel(5)	表計算　　データベース機能
12	菊地 紀子 横関 節子	Excel(6)	表計算　　グラフ作成　円グラフ・棒グラフ
13	菊地 紀子 横関 節子	Excel(7)	表計算　　グラフ作成　折れ線グラフ
14	菊地 紀子 横関 節子	Excel(8)	表計算　　アンケートの集計
15	菊地 紀子 横関 節子	まとめ	最終確認及びアンケート

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	入力文字数が 10 分間で 200 文字以上ないと合格することが難しいため、入力練習を毎日 10 分すること。	15時間
復習	その日に習得したことを忘れないため、もう 1 度やってみて復習すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物は確認し、不備があれば返却し、再提出を求める。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
英語 English				石井 登		単独	卒 必	幼 選	保 必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
1	講義	通信	2	30時間	1070		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	Goodwill Guideとして訪日観光客の案内や接待をしたり、SNSで世界中の人々と日々交流をしている経験を活かして適切なアドバイスをしたい。
－	－	

授業の概要

映画シナリオのテキストと映画（DVD等）を交互に学習し、内容を理解したうえでEXERCISEを行い、さらに映画の内容についてのレポートを作成する。

授業の目的

どの言語の学習目標も、様々な日常的な場面でコミュニケーションができるようになることである。このコースでは、映画の視聴やシナリオの読解を通して、社会生活に必要な語彙や、日常の会話（スピーキング・リスニング）の能力を高めることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	ますます国際化する社会生活のなかで外国人との接触も多くなっている。このコースでは、そのような状況下で外国人とコミュニケーションをとるのに必要とされる、基本的な英語の語彙力やリスニング、スピーキングの力を身に付けることを目標とする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

曽根田憲三『シャレード』開文社出版

参考書

ビデオ(DVD)シャレード
英和辞典

試験対策

・Text の Exercise をしっかり復習すること。
・「シャレード」に対する感想を英文で述べられるようにすること（50語以上が望ましい）。

学習のアドバイス

シナリオとビデオ（DVD）を併用し、テキスト→英語の字幕で映画視聴→テキスト→英語字幕で映画視聴を何回か繰り返し、 字幕なしで会話が追えるようになれば、あなたのリスニングやスピーキングの力は飛躍的に増すだろう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	石井 登	Lesson1 “I’m Getting A Divorce"	離婚と結婚についての表現
2	石井 登	Lesson2 “I’m Not A Lady of Leisure Anyone”	仕事についての表現
3	石井 登	Lesson3 “Remember What Happened To Your Husband"	お金にまつわる表現
4	石井 登	Lesson4 “I’m Having A Nervous Breakdown"	何語が話せるかに関する表現
5	石井 登	Lesson5 “Won’t You Come In For A Minute"	「寄って行きませんか」という表現
6	石井 登	Lesson6 “Women Make The Best Spices"	信頼と嘘にまつわる表現
7	石井 登	Lesson7 “I’m trying To Find Out Who You Are”	電話でのやりとり
8	石井 登	Lesson8 “Is There A Mrs. Dyle?”	いくつかの語彙
9	石井 登	Lesson9 “Why Don’t We Search The Rooms？”	会話の聞き取り練習
10	石井 登	Lesson10 “Let’s Go Somewhere Crowded	入浴に関する表現
11	石井 登	Lesson11 “Not Allowed To Kiss Back, Huh?”	話を促したり聞き返す表現
12	石井 登	Lesson12 “I love You，Adam"	会話の聞き取りと英文の訂正問題
13	石井 登	Lesson13 “I’m Going To See What He’s Up to”	会話の聞き取りといくつかの語彙
14	石井 登	Lesson14 “They’re Worth A Fortune"	ナチュラルスピードの会話を聞き取る
15	石井 登	Lesson15&16 “Someone Is Trying To kill Me/Did You Say Marriage License?”	声に出してセリフを演じる

レポート作成等の方法・留意点

テキストの英文とDVDを交互に繰り返し見ることで物語の概要は十分に把握できるだろう。Exerciseは丹念に辞書を用いて調べよう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	まずビデオ（DVD）に目を通し、ストーリーの流れをつかもう。 その上でテキストの英文にあたり、エクササイズを行おう。 映画の該当部分を、できれば英語の字幕で何回か見よう。 テキスト→英語の字幕で映画視聴→テキスト→英語字幕で映画視聴を何回か繰り返す。最後に字幕なしで視聴し会話を追えるようになるのを目標としよう。	60時間
復習	Exerciseの間違えた部分を中心に、どうして自分が選択した答えではなく正解の方の答えになるのか、明確に把握し、すべてのExerciseの問いに正しく答えられるようにしておこう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを付して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
英語コミュニケーション	石井　登	単独	卒	幼	保
English Communication			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	60時間	1080	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	Goodwill Guideとして訪日観光客の案内や接待をしたり、SNSで世界中の人々と日々交流をしている経験を活かして実践的な英語力を養えるよう工夫したい。
–	–	

授業の概要

成長過程の子どもとのコミュニケーションに必要な様々な英語表現を中心に学びながら、基礎的な会話力を養う。Unit終了ごとに、小テストやディクテーションを行うことで、そのつど授業で学んだことを定着させる。

授業の目的

高校までに獲得した英語を基礎として、保育現場でのコミュニケーションに役立ちうる英会話能力を獲得することを目的とします。その際、いかに手持ちの英語知識を基にしてコミュニケーションを行っていけるかということをめざしますが、保育関係で必要とされる基本的な語彙の獲得も目的のひとつとなります。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	昨今の保育現場は諸外国の子どもたちが日本の子どもたちと一緒に過ごし、学べる環境が前提となっており、それに対応する英会話力が必要とされます。同時に、グローバルな観点から様々な国、民族、宗教、慣習、価値観などの違いについての知見を得ておくことも非常に大切です。保育の現場で使われる英会話を中心としたテキストを活用して、現場ですぐに活用できる英会話力を身に付けると同時に異文化理解を深めることも目標とします。

成績評価方法及び基準

小テスト	30%
スクーリング試験	55%
授業態度	15%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

赤松直子他『保育の英会話＜第２版＞』萌文書林

参考書

スクーリング時には英和辞書、又は同等の機能を有するものを持参してください。

試験対策

小テストの復習が大切です。詳細はスクーリング時に説明します。

学習のアドバイス

短期集中の授業であるため、小テストにより学習状況を随時確認します。毎回の授業内容の復習を取りこぼしのないよう徹底してください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容	回数	担当教員	題目	内容
1	石井　登	Unit1 First Step to Childcare English(1)	自己紹介についての英会話	16	石井　登	Unit10 Fighting(1)	けんか、文房具に関する英会話
2	石井　登	Unit1 First Step to Childcare English(2)	保育園の教室や設備についての英会話	17	石井　登	Unit10 Fighting(2)	体の部位、命令文に関する英会話
3	石井　登	Unit2 Welcome to Minato Nursery School!(1)	保護者や子どもとの最初の英会話	18	石井　登	Unit11 Injuries and illness(1)	けが、病気、症状についての英会話
4	石井　登	Unit2 Welcome to Minato Nursery School!(2)	教室内の設備やものについての英会話	19	石井　登	Unit11 Injuries and illness(2)	医療機関、救急処置についての英会話
5	石井　登	Unit3 Time and Numbers	時間や数字についての英会話	20	石井　登	Unit12 Telephone Calls	電話での応対、行事への招待、伝言の残し方についての英会話
6	石井　登	Unit4 Directions(1)	街の様々な施設についての英会話	21	石井　登	Unit13 Field Trip(1)	遠足、交通機関についての英会話
7	石井　登	Unit4 Directions(2)	遠案内についての英会話・手紙の読解	22	石井　登	Unit13 Field Trip(2)	if 表現、お知らせについての英会話
8	石井　登	Unit5 Davy Meets His Classmate(1)	子どもの遊びについての英会話	23	石井　登	Unit14 Baby Care(1)	赤ちゃんへの言葉かけ、育児用品についての英会話
9	石井　登	Unit5 Davy Meets His Classmate(2)	園庭の設備や遊びについての英会話	24	石井　登	Unit14 Baby Care(2)	赤ちゃんの成長・発達についての英会話
10	石井　登	Unit6 Dropping Davy off and Picking Him Up	子どもの気分や状態についての英会話	25	石井　登	Unit15 Graduation Day	卒園、祝福、感謝、記念日、家系図についての英会話
11	石井　登	Unit7 Jobs at Nursery School(1)	保育者の一日の仕事についての英会話	26	石井　登	まとめ(1)	これまで行ったワーク前半部分を振り返る総まとめ
12	石井　登	Unit7 Jobs at Nursery School(2)	英語の歌や折り紙に関する英会話	27	石井　登	まとめ(2)	これまで行ったワーク中間部分を振り返る総まとめ
13	石井　登	Unit8 Lunchtime(1)	昼食についての英会話と簡単な分数表現	28	石井　登	まとめ(3)	これまで行ったワーク後半部分を振り返る総まとめ
14	石井　登	Unit8 Lunchtime(2)	料理の献立や調理法についての英会話	29	石井　登	まとめ(4)	これまで行ったワークやジグゾーパズルを用いた総まとめ
15	石井　登	Unit9 Toilet Dialog	排泄、連絡帳、英文でのコミュニケーションについて	30	石井　登	まとめ(5)	これまで行ったワークの重要箇所による総まとめと動画視聴

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	未知の単語の意味を調べ、学習する英文・英会話の内容を予め把握しておくこと。	30時間
復習	テキストの英会話の部分を中心に何度も音読し、重要表現はしっかり暗唱できるようにしよう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	各ユニットの修了毎に小テストを行い、返却時に正解の確認や注意点などを解説する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育学Ⅰ	白取　真実	単独	卒	幼	保
Science of early childhood care and education Ⅰ			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2040	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として現場で経験したことを活かし、現場での対応例を交えながら指導を行う。
－	－	

授業の概要

保育の意義及び目的について理解し、子ども家庭福祉の法体系及び子ども・子育て支援新制度等の法令や制度について学ぶ。国内外の保育の思想と歴史的変遷について理解する。保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、内容、環境・方法、子ども理解に基づく保育の過程とその循環等、保育所保育指針における保育の基本を踏まえ、保育の現状と課題を理解する。

授業の目的

健やかな子どもの育ちを支えるために必要な保育の基本的仕組みについて考える科目である。この授業は「子ども」とはどういう存在なのか、その発達の理解、保育の意義、諸外国と日本を合わせた歴史、思想、保育のねらいや内容、方法等を取り上げる。そして、保育がおかれている現状を保育現場と家庭、社会の視点から捉えることで、子どもが育つ環境を理解し、保育方法・保育内容につなげる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育の基本的な仕組みについて知る。
②	子どもと子ども観について理解する。
③	保育内容・方法について理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

天野珠路他『保育原理』中央法規

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』
佐伯一弥『改訂版　Workで学ぶ保育原理』わかば社

試験対策

試験は記述問題となるのでレポート作成の方法に従って記述すること。
また、テキストだけでなく、サブテキストのテーマ学習等も読み込んでおくと良いでしょう。

学習のアドバイス

保育の基礎となる科目で、専門用語や覚えなければいけない箇所も多いです。わからないことは、自分で調べながら、学習を進めて下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	保育の理念と概念	日本の保育の理念と概念について
2	白取 真実	保育の社会的役割と責任	保育の社会的役割と責任について
3	白取 真実	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	子ども・子育て支援新制度について 地域における子ども・子育て支援事業
4	白取 真実	保育の実施体系	保育施設の設置および運営の基準
5	白取 真実	保育所保育指針に基づく保育	保育所保育指針と幼稚園教育要領
6	白取 真実	保育の目標と方法	保育所保育指針にみる保育の目標 生活と遊びを通した総合的な保育
7	白取 真実	乳児の保育	乳児保育の基本と内容
8	白取 真実	1歳以上3歳未満児の保育	1歳以上3歳未満児の保育の基本と内容
9	白取 真実	3歳以上児の保育	3歳以上児の保育の基礎 小学校との連携と接続
10	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(1)	子ども理解の視点 子ども理解と「ねらい」の設定
11	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(2)	子ども理解の方法教育課程・全体的な計画の方法
12	白取 真実	諸外国の保育の思想と歴史	近代以前の保育と保育思想
13	白取 真実	日本の保育の思想と歴史	近代までの日本の保育の思想と歴史
14	白取 真実	諸外国の保育の現状と課題	世界の保育制度について
15	白取 真実	日本の保育の現状と課題	子育てにかかわる現状と課題

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成する際に、何を言いたいのか、という基本を常に留意していくことが大切です。当初、自分が意図したはずの内容が書いているうちにずれてしまうことが多々あります。書き終わってからも読み直し、自分の言いたいことが表現されているかに注意してください。 また、レポートを書く際に、さまざまな文献を参照することと思いますが、他の著者の意見と自分の意見を混同しないようにしましょう。自分の意見と引用文献とは明確に区別し、引用文献には必ず出典を明記するように気を付けて下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育所保育指針を通読する。	60時間
復習	保育所保育指針を読み直し、確認する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育原理 （対象：2016 ～ 2018 年度入学生） Science of early childhood care and education	白取　真実	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2041	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として現場で経験したことを活かし、現場での対応例を交えながら指導を行う。
－	－	

授業の概要

保育の意義及び目的について理解し、子ども家庭福祉の法体系及び子ども・子育て支援新制度等の法令や制度について学ぶ。国内外の保育の思想と歴史的変遷について理解する。保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、内容、環境・方法、子ども理解に基づく保育の過程とその循環等、保育所保育指針における保育の基本を踏まえ、保育の現状と課題を理解する。

授業の目的

健やかな子どもの育ちを支えるために必要な保育の基本的仕組みについて考える科目である。この授業は「子ども」とはどういう存在なのか、その発達の理解、保育の意義、諸外国と日本を合わせた歴史、思想、保育のねらいや内容、方法等を取り上げる。そして、保育がおかれている現状を保育現場と家庭、社会の視点から捉えることで、子どもが育つ環境を理解し、保育方法・保育内容につなげる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育の基本的な仕組みについて知る。
②	子どもと子ども観について理解する。
③	保育内容・方法について理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

天野珠路他『保育原理』中央法規

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』
佐伯一弥『改訂版　Workで学ぶ保育原理』わかば社

試験対策

試験は記述問題となるのでレポート作成の方法に従って記述すること。
また、テキストだけでなく、サブテキストのテーマ学習等も読み込んでおくと良いでしょう。

学習のアドバイス

保育の基礎となる科目で、専門用語や覚えなければいけない箇所も多いです。わからないことは、自分で調べながら、学習を進めて下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	保育の理念と概念	日本の保育の理念と概念について
2	白取 真実	保育の社会的役割と責任	保育の社会的役割と責任について
3	白取 真実	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	子ども・子育て支援新制度について 地域における子ども・子育て支援事業
4	白取 真実	保育の実施体系	保育施設の設置および運営の基準
5	白取 真実	保育所保育指針に基づく保育	保育所保育指針と幼稚園教育要領
6	白取 真実	保育の目標と方法	保育所保育指針にみる保育の目標 生活と遊びを通した総合的な保育
7	白取 真実	乳児の保育	乳児保育の基本と内容
8	白取 真実	1歳以上3歳未満児の保育	1歳以上3歳未満児の保育の基本と内容
9	白取 真実	3歳以上児の保育	3歳以上児の保育の基礎 小学校との連携と接続
10	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(1)	子ども理解の視点 子ども理解と「ねらい」の設定
11	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(2)	子ども理解の方法教育課程・全体的な計画の方法
12	白取 真実	諸外国の保育の思想と歴史	近代以前の保育と保育思想
13	白取 真実	日本の保育の思想と歴史	近代までの日本の保育の思想と歴史
14	白取 真実	諸外国の保育の現状と課題	世界の保育制度について
15	白取 真実	日本の保育の現状と課題	子育てにかかわる現状と課題

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成する際に、何を言いたいのか、という基本を常に留意していくことが大切です。当初、自分が意図したはずの内容が書いているうちにずれてしまうことが多々あります。書き終わってからも読み直し、自分の言いたいことが表現されているかに注意してください。 また、レポートを書く際に、さまざまな文献を参照することと思いますが、他の著者の意見と自分の意見を混同しないようにしましょう。自分の意見と引用文献とは明確に区別し、引用文献には必ず出典を明記するように気を付けて下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育所保育指針を通読する。	60時間
復習	保育所保育指針を読み直し、確認する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育原理（対象：2019年度入学生以降） Science of early childhood care and education	白取　真実	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4010	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として現場で経験したことを活かし、現場での対応例を交えながら指導を行う。
－	－	

授業の概要

保育の意義及び目的について理解し、子ども家庭福祉の法体系及び子ども・子育て支援新制度等の法令や制度について学ぶ。国内外の保育の思想と歴史的変遷について理解する。保育所保育に関する基本原則、保育における養護、保育の目標、内容、環境・方法、子ども理解に基づく保育の過程とその循環等、保育所保育指針における保育の基本を踏まえ、保育の現状と課題を理解する。

授業の目的

健やかな子どもの育ちを支えるために必要な保育の基本的仕組みについて考える科目である。この授業は「子ども」とはどういう存在なのか、その発達の理解、保育の意義、諸外国と日本を合わせた歴史、思想、保育のねらいや内容、方法等を取り上げる。そして、保育がおかれている現状を保育現場と家庭、社会の視点から捉えることで、子どもが育つ環境を理解し、保育方法・保育内容につなげる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育の基本的な仕組みについて知る。
②	子どもと子ども観について理解する。
③	保育内容・方法について理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

天野珠路他『保育原理』中央法規

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』
佐伯一弥『改訂版　Workで学ぶ保育原理』わかば社

試験対策

試験は記述問題となるのでレポート作成の方法に従って記述すること。
また、テキストだけでなく、サブテキストのテーマ学習等も読み込んでおくと良いでしょう。

学習のアドバイス

保育の基礎となる科目で、専門用語や覚えなければいけない箇所も多いです。わからないことは、自分で調べながら、学習を進めて下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	保育の理念と概念	日本の保育の理念と概念について
2	白取 真実	保育の社会的役割と責任	保育の社会的役割と責任について
3	白取 真実	子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令	子ども・子育て支援新制度について 地域における子ども・子育て支援事業
4	白取 真実	保育の実施体系	保育施設の設置および運営の基準
5	白取 真実	保育所保育指針に基づく保育	保育所保育指針と幼稚園教育要領
6	白取 真実	保育の目標と方法	保育所保育指針にみる保育の目標 生活と遊びを通した総合的な保育
7	白取 真実	乳児の保育	乳児保育の基本と内容
8	白取 真実	1歳以上3歳未満児の保育	1歳以上3歳未満児の保育の基本と内容
9	白取 真実	3歳以上児の保育	3歳以上児の保育の基礎 小学校との連携と接続
10	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(1)	子ども理解の視点 子ども理解と「ねらい」の設定
11	白取 真実	子ども理解に基づく保育の過程(2)	子ども理解の方法教育課程・全体的な計画の方法
12	白取 真実	諸外国の保育の思想と歴史	近代以前の保育と保育思想
13	白取 真実	日本の保育の思想と歴史	近代までの日本の保育の思想と歴史
14	白取 真実	諸外国の保育の現状と課題	世界の保育制度について
15	白取 真実	日本の保育の現状と課題	子育てにかかわる現状と課題

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成する際に、何を言いたいのか、という基本を常に留意していくことが大切です。当初、自分が意図したはずの内容が書いているうちにずれてしまうことが多々あります。書き終わってからも読み直し、自分の言いたいことが表現されているかに注意してください。 また、レポートを書く際に、さまざまな文献を参照することと思いますが、他の著者の意見と自分の意見を混同しないようにしましょう。自分の意見と引用文献とは明確に区別し、引用文献には必ず出典を明記するように気を付けて下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育所保育指針を通読する。	60時間
復習	保育所保育指針を読み直し、確認する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育学Ⅱ Science of early childhood care and education Ⅱ	永井　理恵子	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2050	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
–	–	幼稚園教諭として幼稚園で子どもと実践した「環境を通した保育」の実際を伝える。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

「保育学Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

現代社会における教職・保育職の重要性の高まりを受け、その意義、役割、資質能力、職務内容について修得し、自己の適性を考える。

授業の目的

保育学Ⅰで学習したことをもとに、保育者とは何かということを深く考察することを目的としている。保育の本質を問直し、乳幼児の発達上の特性をも考慮しながら、各個人の保育観・子ども観を形成していく。また、保育所保育指針をもとに保育所が求められている現状を把握し、地域に根付いた保育所のあり方について検討を行う。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者の専門性とは何かを総合的に理解する。
②	保育者の仕事内容を理解する。
③	保護者や地域社会と保育者の関係について理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

上野恭裕『プロとしての保育者論』保育出版社（情報教育出版）

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

試験は記述問題となるので自分のレポートを読み直しておくのも効果的であろう。

学習のアドバイス

テキストだけでなく他の文献や書籍を活用し、自身の保育観と照らし合わせること。また、他の科目と関連している科目で あることから、今までの学習とこれからの学習に生かすように意識しながら学習する。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	働く目的を考える	人はなぜ働くのか、子どもとどのように向き合うべきかを理解する。
2	永井 理恵子	保育現場が求める保育者像 (1)	保育者に求められる気づきとは何かを知る。
3	永井 理恵子	保育現場が求める保育者像 (2)	保育者としての基本的資質とプロ意識及び保育者の倫理について学ぶ。
4	永井 理恵子	保育現場での保育者	「信頼される保育者」とはどのような存在なのかを理解する。
5	永井 理恵子	保育者の仕事内容を理解する(1)	自由保育・主活動における保育者の役割を理解する。
6	永井 理恵子	保育者の仕事内容を理解する (2)	子どもの生活に寄り添うとはどういうことなのかを理解する。
7	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事 (1)	園全体から見た保育者の仕事を理解する。
8	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事 (2)	集団生活から見た保育者の仕事を理解する。
9	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事 (3)	保護者・教職員同士の関わりを理解する。
10	永井 理恵子	保護者と保育者の役割について	「信頼される保育者」になるために必要なことを学ぶ。
11	永井 理恵子	地域社会における保育者の役割	子育てを支える地域社会を目指して保育者ができることを考察する。
12	永井 理恵子	子ども理解	子どもを理解するための視点、手段と方法について。
13	永井 理恵子	虐待について	虐待の実態を知り、発見と対応を学ぶ。
14	永井 理恵子	行事に対する保育者の取り組み	行事の必要性、保育士の具体的な役割、地域との連携について。
15	永井 理恵子	幼保小連携について	幼稚園、保育園、小学校連携の具体的な取り組みと今後の課題について。

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成する際に、何を言いたいのか、という基本を常に留意していくことが大切である。当初、自分が意図したはずの内容が書いているうちにずれてしまうことが多々ある。書き終わってからも読み直し、自分の言いたいことが表現されているかに注意すること。
また、レポートを書く際に、さまざまな文献を参照することと思うが、他の著者の意見と自分の意見を混同しないこと。これは自分自身の意識の中でも必要だが、レポート作成の上ではことさら注意が必要である。自分の意見と引用文献とは明確に区別し、引用文献には必ず出典を明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育所保育方針・保育所保育方針の解説書を読み込んでおく。	60時間
復習	総合的な意味での援助について学習のたびにふり返る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育者論 （対象：2019 年度入学生以降）	永井　理恵子	単独	卒	幼	保
Theory of Early Childhood Teacher			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4080	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	－	幼稚園教諭として幼稚園で子どもと実践した「環境を通した保育」の実践を伝える。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

「保育原理」が受講済であること。

授業の概要

現代社会における教職・保育職の重要性の高まりを受け、その意義、幼稚園教諭・保育士・保育教諭の役割、資質能力、職務内容について修得し、教職・保育職への意欲を高め、適性を判断し、進路選択に質する理解を得る。

授業の目的

保育原理・教育原理で学習したことをもとに、保育者とは何かを深く洞察することを目的とする。保育・教育の本質を見直し、乳幼児の発達上の特性も配慮しながら、各個人の保育観・教育観・子ども観を形成する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児教育・保育の目的と、その担い手である保育者の役割と意義を理解し説明できる。
②	自らの保育者としての適性や課題を客観的に理解し、よりよいあり方を目指し学ぶことの必要性を説明できる。
③	様々な専門職や人々と協働や連携して職務に当たることの重要性を説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

榎田二三子他『シードブック　三訂　保育者論』建帛社

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

試験は記述問題となるので自分のレポートを読みなおしておくのも効果的であろう。

学習のアドバイス

テキストだけでなく他の文献や書籍を活用し、自身の保育観と照らし合わせること。また、他の科目と関連している科目であることから、今までの学習とこれからの学習に生かすように意識しながら学習する。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	保育者の役割・倫理	教育・保育の原理について学び、保育者の役割・倫理について学ぶ
2	永井 理恵子	教育・保育の制度	現代日本の乳幼児教育保育制度について学ぶ
3	永井 理恵子	保育職の専門性	保育職に必要な資格、要件、責務などの職業的特徴を知る
4	永井 理恵子	幼稚園教諭の仕事	幼稚園教諭の具体的な仕事について学ぶ 可能であれば自宅近所の幼稚園で 働く教諭の様子を見学する
5	永井 理恵子	保育士の仕事	保育所保育士の具体的な仕事について学ぶ 可能であれば自宅近所の保育所 で働く保育士の様子を見学する
6	永井 理恵子	保育者の資質・能力	保育者に求められる資質と能力について学び、自らの適性を顧みる
7	永井 理恵子	子育て・特別支援	子育て支援、保護者支援、特別支援の概念と実際について学ぶ
8	永井 理恵子	地域との関わり	地域とのかかわりについて学ぶ
9	永井 理恵子	保育計画	保育の計画を立てる方法について学び、実際に作成する
10	永井 理恵子	チーム学校運営、協働	園内外（小学校を含む）の専門職の連携による職務遂行について学ぶ
11	永井 理恵子	専門職的成長	資質向上のための様々な研修と、生涯学習の重要性について学ぶ
12	永井 理恵子	日本の教育・保育者	日本の保育者から教職観、保育者観を学ぶ
13	永井 理恵子	欧米の教育・保育者	欧米の保育者から教職観、保育者観を学ぶ
14	永井 理恵子	自らの適性を考える	自分は教職・保育職に適するのかを各自で考える
15	永井 理恵子	理想の保育者とは	これからの学生生活で、理想の保育者を目指して何を学ぶか考える

レポート作成等の方法・留意点

レポートを書く際に教科書などの様々な文献を参照するが、引用文献を明確にし、自分の文章と混合しないよう十分に注意すること。引用した箇所は「　　」で囲み、自分の文と区別し、出典を示すこと。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	常に手元に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の本体および解説書を置き、それを見ながら勉学を進めるようにしましょう。	60時間
復習	過去に学んだことについても振り返りをしましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育原理（対象：2018 年度入学生まで） Fundamentals in Education	林 恵	単独	卒	幼	保
			選	必	～15 選 / 16～ 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3010	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	高等学校や特別支援学校教諭としての勤務経験を活かし、具体的な教育事例を伝えつつ指導をおこなう。
－	－	

授業の概要

教育の意義と目的及び子ども家庭福祉等との関わり、乳幼児の教育の特性や人間形成と家庭・地域・社会との関連性について理解する。国内外の教育の思想と変遷を学習した上で、基礎的理論、教育制度と教育実践の基礎的な理論と取り組みの実際について学ぶ。生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

授業の目的

この授業では教育に関する基本的概念、実践原理などを体系的に理解するため、教育の意味や目的、教師の役割、近代の教育につながる教育の歴史・思想など、教育の基礎について幅広く身に付けることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育の基本的概念、教育の意義や目的、その理念や思想、教育の歴史的変遷など教育の背景について説明できる。
②	教育の様々な取り組み（教育実践）を知り説明できる。
③	教育の制度について学び、就学前教育から小学校教育へとつながる過程や、生涯にわたる学習を支える社会の状況と現在の教育の課題について説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

谷田貝公昭他『新版　教育原理【コンパクト版保育者養成シリーズ】』一藝社

参考書

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社
文部科学省『幼稚園教育要領 』
厚生労働省『保育所保育指針 』

試験対策

科目修得試験の問題は、教科書やサブテキストの内容から、教育に関する専門用語の知識の確認や説明を回答する問題など になります。特に教育史はサブテキストと合わせて学習し、歴史上の人物とその功績について理解するようにしてください。

学習のアドバイス

テキストのみで学習するのではなく、新聞やニュースなどから時事問題について知り、関心を持ち、教育や子どもを取り巻く環境について考えるよう努めてください。特に就学前の子どもの保育・教育制度の変化は時々刻々と変化してきています。 常に新しい情報を取り入れましょう。 教育学や保育学で使われる専門用語の知識やその意味を理解することが大切になりますので、教科書やサブテキストを充分活用して学習しましょう。学習のすすめ方の詳細は、サブテキストを参照してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵	講義概要・教育とは何か	本講義内容と受講の方法を理解する。教育とは何か、人間における教育の意義と目的について学び、教育の理念の理解を深める。
2	林 恵	教育活動の場	地域や家庭など様々な教育活動の場を知り、福祉との関連と幅広い概念の教育について知る。
3	林 恵	人間の成長と発達	人間の発達と教育のかかわりについて学ぶ。 乳幼児期の発達の段階に応じた教育の特性 について理解し、人間形成と教育との関連について知る。
4	林 恵	子ども観と教育	子どもをどのような存在として見てきたか、子ども観の変遷を知る。
5	林 恵	教師と教育	教師とは何か、自分の経験から「良い先生」とはどのような存在かを考える。
6	林 恵	日本教育史・思想と制度（1）	日本の教育の歴史・思想とそれにかかわる教育者について知る。
7	林 恵	日本教育史・思想と制度（2）	日本の教育の歴史・制度（教育法規・教育行政）について知る。
8	林 恵	世界教育史・思想と制度（1）	世界の教育の歴史・思想とそれにかかわる教育者について知る。
9	林 恵	世界教育史・思想と制度（2）	世界の教育の歴史・制度や教育課程について知る。
10	林 恵	様々な教育実践（1）	日本の教育課程（内容、方法、計画と評価）について理解する。
11	林 恵	様々な教育実践（2）	国内外の様々な教育方法や教育環境について知る。
12	林 恵	生涯教育と生涯学習	人生における継続した教育の在り方と意味について考える。
13	林 恵	現代の教育と課題（1）	外国にルーツのある子どもや支援の必要な子どもなどの教育について理解を深める。
14	林 恵	現代の教育と課題（2）	現代社会の子どもの教育課題について新聞記事などを基に理解を深める。
15	林 恵	振り返りとまとめ	これまでの学習を振り返り、その不足について学ぶ。

レポート作成等の方法・留意点

・学修した内容がどれだけ身についたか確認するため、定められた期限までにレポートを 2 回提出してください。
・設問の意味にしっかり答えられていないレポートは再提出になります。質問の意図をよく読み取って答えるようにしてく ださい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	普段から新聞記事などを読み教育に関する課題について整理しておくこと。教育史は暗記しなければならない部分が多いので、地道に繰り返しの学習をおこなうこと。	60時間
復習	レポートが返却されたらコメントの内容を確認しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにコメントを付けて返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育原理 （対象：2019 年度入学生以降）	林 恵	単独	卒	幼	保
Fundamentals in Education			選	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4020	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	高等学校や特別支援学校教諭としての勤務経験を活かし、具体的な教育事例を伝えつつ指導をおこなう。
－	－	

授業の概要

教育の意義と目的及び子ども家庭福祉等との関わり、乳幼児の教育の特性や人間形成と家庭・地域・社会との関連性について理解する。国内外の教育の思想と変遷を学習した上で、基礎的理論、教育制度と教育実践の基礎的な理論と取り組みの実際について学ぶ。生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

授業の目的

この授業では教育に関する基本的概念、実践原理などを体系的に理解するため、教育の意味や目的、教師の役割、近代の教育につながる教育の歴史・思想など、教育の基礎について幅広く身に付けることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育の基本的概念、教育の意義や目的、その理念や思想、教育の歴史的変遷など教育の背景について説明できる。
②	教育の様々な取り組み（教育実践）を知り説明できる。
③	教育の制度について学び、就学前教育から小学校教育へとつながる過程や、生涯にわたる学習を支える社会の状況と現在の教育の課題について説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

谷田貝公昭他『新版　教育原理【コンパクト版保育者養成シリーズ】』一藝社

参考書

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社
文部科学省『幼稚園教育要領 』
厚生労働省『保育所保育指針 』

試験対策

科目修得試験の問題は、教科書やサブテキストの内容から、教育に関する専門用語の知識の確認や説明を回答する問題などになります。特に教育史はサブテキストと合わせて学習し、歴史上の人物とその功績について理解するようにしてください。

学習のアドバイス

テキストのみで学習するのではなく、新聞やニュースなどから時事問題について知り、関心を持ち、教育や子どもを取り巻く環境について考えるよう努めてください。特に就学前の子どもの保育・教育制度の変化は時々刻々と変化してきています。 常に新しい情報を取り入れましょう。 教育学や保育学で使われる専門用語の知識やその意味を理解することが大切になりますので、教科書やサブテキストを充分活用して学習しましょう。学習のすすめ方の詳細は、サブテキストを参照してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵	講義概要・教育とは何か	本講義内容と受講の方法を理解する。教育とは何か、人間における教育の意義と目的について学び、教育の理念の理解を深める。
2	林 恵	教育活動の場	地域や家庭など様々な教育活動の場を知り、福祉との関連と幅広い概念の教育について知る。
3	林 恵	人間の成長と発達	人間の発達と教育のかかわりについて学ぶ。 乳幼児期の発達の段階に応じた教育の特性 について理解し、人間形成と教育との関連について知る。
4	林 恵	子ども観と教育	子どもをどのような存在として見てきたか、子ども観の変遷を知る。
5	林 恵	教師と教育	教師とは何か、自分の経験から「良い先生」とはどのような存在かを考える。
6	林 恵	日本教育史・思想と制度（1）	日本の教育の歴史・思想とそれにかかわる教育者について知る。
7	林 恵	日本教育史・思想と制度（2）	日本の教育の歴史・制度（教育法規・教育行政）について知る。
8	林 恵	世界教育史・思想と制度（1）	世界の教育の歴史・思想とそれにかかわる教育者について知る。
9	林 恵	世界教育史・思想と制度（2）	世界の教育の歴史・制度や教育課程について知る。
10	林 恵	様々な教育実践（1）	日本の教育課程（内容、方法、計画と評価）について理解する。
11	林 恵	様々な教育実践（2）	国内外の様々な教育方法や教育環境について知る。
12	林 恵	生涯教育と生涯学習	人生における継続した教育の在り方と意味について考える。
13	林 恵	現代の教育と課題（1）	外国にルーツのある子どもや支援の必要な子どもなどの教育について理解を深める。
14	林 恵	現代の教育と課題（2）	現代社会の子どもの教育課題について新聞記事などを基に理解を深める。
15	林 恵	振り返りとまとめ	これまでの学習を振り返り、その不足について学ぶ。

レポート作成等の方法・留意点

・学修した内容がどれだけ身についたか確認するため、定められた期限までにレポートを 2 回提出してください。
・設問の意味にしっかり答えられていないレポートは再提出になります。質問の意図をよく読み取って答えるようにしてく ださい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	普段から新聞記事などを読み教育に関する課題について整理しておくこと。教育史は暗記しなければならない部分が多いので、地道に繰り返しの学習をおこなうこと。	60時間
復習	レポートが返却されたらコメントの内容を確認しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにコメントを付けて返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
小児保健Ⅰ	宍戸 洲美	単独	卒	幼	保
Child health Ⅰ			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2100	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	2007年度よりNPO法人日本子育てアドバイザー協会の子育てアドバイザー養成講座講師を勤めている。子育て支援の経験を生かし、実践的に指導する。
–	–	

授業の概要

子どもの発育・発達について学び、正常な発育・発達を促すための疾病や事故の防止、安全な環境の保持について学ぶ。

授業の目的

・子どもの発育・発達と健康な生活について理解する。
・健康な子ども及び疾病や異常と保健上の配慮事項について理解する。
・子どもの正常な発育を妨げる要因として虐待や事故防止の重要性について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの発育・発達の基本がわかり発育や発達を妨げる要因について述べることができる。
②	子どもの発育・発達を阻害する要因として疾病や事故防止、児童虐待の予防についてその重要性がわかる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座：第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会
子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書 2020』子どものからだと心・連絡会議

参考書

加藤忠明他『図表で学ぶ子どもの保健！』建帛社
財団法人厚生労働統計協会 厚生の指標『国民衛生の動向 2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

試験は教科書に沿って出題する。日頃から教科書をよく読み、内容を理解しておく。

学習のアドバイス

レポートは理解した内容を自分の言葉で表現するように訓練する。
教科書だけでなく、サブテキストや参考書等も読み内容を深める。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	宍戸 洲美	子どもの健康と保健の意義(1)	生命の維持と情緒の安定に係る保健活動の意義
2	宍戸 洲美	子どもの健康と保健の意義(2)	健康の概念と健康指標及び地域における保健活動
3	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(1)	生物としてのヒトの成り立ち 身体発育と保健
4	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(2)	生理機能の発達と保健
5	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(3)	運動機能の発達と保健
6	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(4)	精神機能の発達と保健
7	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(5)	児童虐待と発育・発達
8	宍戸 洲美	子どもの疾病と保育(1)	子どもの健康状態の把握と主な疾病
9	宍戸 洲美	子どもの疾病と保育(2)	感染症に対する予防対策
10	宍戸 洲美	環境及び衛生管理と安全管理(1)	保育環境整備と保健及び衛生管理
11	宍戸 洲美	環境及び衛生管理と安全管理(2)	事故防止及び安全対策と危機管理
12	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(1)	事故防止・安全管理の組織的取り組み
13	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(2)	救急処置及び保育における看護と応急処置
14	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(3)	児童虐待の早期発見と予防及び対応
15	宍戸 洲美	災害への備えと危機管理	防災対策及び不審者対策　被災による心のケア

レポート作成等の方法・留意点

教科書・資料、参考書などを読み、論題に従って必要なデータを集める。次に、論旨が明らかになるように論文の組み立てを考えプロットを作成する。自分の書いたものを読み直してから清書する。文字は丁寧に誤字・脱字に注意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目に沿って、計画的に教科書やサブテキスト資料等で学習する。	60時間
復習	レポートに書かれた評価を参考にして、不足している学びを補う。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
子どもの保健ＩＡ	宍戸 洲美	単独	卒	幼	保
Child health ＩA			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2101	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	2007年度よりNPO法人日本子育てアドバイザー協会の子育てアドバイザー養成講座講師を勤めている。子育て支援の経験を生かし、実践的に指導する。
－	－	

授業の概要

子どもの発育・発達について学び、正常な発育・発達を促すための疾病や自己の防止、安全な環境の保持について学ぶ。

授業の目的

・子どもの発育・発達と健康な生活について理解する。
・健康な子ども及び疾病や異常と保健上の配慮事項について理解する。
・子どもの正常な発育を妨げる要因として虐待や事故防止の重要性について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの発育・発達の基本がわかり発育や発達を妨げる要因について述べることができる。
②	子どもの発育・発達を阻害する要因として疾病や事故防止、児童虐待の予防についてその重要性がわかる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座：第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会
子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書 2020』子どものからだと心・連絡会議

参考書

加藤忠明他『図表で学ぶ子どもの保健！』建帛社
財団法人厚生労働統計協会 厚生の指標『国民衛生の動向 2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

試験は教科書に沿って出題する。日頃から教科書をよく読み、内容を理解しておく。

学習のアドバイス

レポートは理解した内容を自分の言葉で表現するように訓練する。
教科書だけでなく、サブテキストや参考書等も読み内容を深める。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	宍戸 洲美	子どもの健康と保健の意義(1)	生命の維持と情緒の安定に係る保健活動の意義
2	宍戸 洲美	子どもの健康と保健の意義(2)	健康の概念と健康指標及び地域における保健活動
3	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(1)	生物としてのヒトの成り立ち 身体発育と保健
4	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(2)	生理機能の発達と保健
5	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(3)	運動機能の発達と保健
6	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(4)	精神機能の発達と保健
7	宍戸 洲美	子どもの発育・発達と保健(5)	児童虐待と発育・発達
8	宍戸 洲美	子どもの疾病と保育(1)	子どもの健康状態の把握と主な疾病
9	宍戸 洲美	子どもの疾病と保育(2)	感染症に対する予防対策
10	宍戸 洲美	環境及び衛生管理と安全管理(1)	保育環境整備と保健及び衛生管理
11	宍戸 洲美	環境及び衛生管理と安全管理(2)	事故防止及び安全対策と危機管理
12	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(1)	事故防止・安全管理の組織的取り組み
13	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(2)	救急処置及び保育における看護と応急処置
14	宍戸 洲美	事故防止及び健康安全管理(3)	児童虐待の早期発見と予防及び対応
15	宍戸 洲美	災害への備えと危機管理	防災対策及び不審者対策　被災による心のケア

レポート作成等の方法・留意点

教科書・資料、参考書などを読み、論題に従って必要なデータを集める。次に、論旨が明らかになるように論文の組み立てを考えプロットを作成する。自分の書いたものを読み直してから清書する。文字は丁寧に誤字・脱字に注意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目に沿って、計画的に教科書やサブテキスト資料等で学習する。	60時間
復習	レポートに書かれた評価を参考にして、不足している学びを補う。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもの保健 Child health	宍戸 洲美	単独	卒	幼	保
			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4120	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	2007年度よりNPO法人日本子育てアドバイザー協会の子育てアドバイザー養成講座講師を勤めている。子育て支援の経験を生かし、実践的に指導する。
–	–	

授業の概要

子どもの発育・発達を理解した上で心身の健康の保持増進と疾病の予防や対応について学ぶ。

授業の目的

この科目では、子どもの身体発育や生理機能の発達と特性、子どもの健康状態とその把握、子どもに多い疾病とその予防及び対応など、保育における保健的対応に必要な基礎的な事項について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の健康を図る保健活動の意義を理解する。
②	子どもの身体的な発育・発達と健康な子どもについて理解する。
③	子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
④	子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働のもとで適切な対応とはどのようなことか理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

最新保育士養成講座総括編纂委員会『最新保育士養成講座：第7巻　子どもの健康と安全』全国社会福祉協議会
子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書 2020』子どものからだと心・連絡会議

参考書

財団法人構成労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向 2020/2021』
瀧澤利行『新版基礎から学ぶ学校保健 2 版』建帛社

試験対策

試験は教科書及びレポートの課題にそって出題する。日頃から教科書をよく読み、内容を理解しておくこと。

学習のアドバイス

レポートの書き方等は事前に学習してしっかり身につけておく。
教科書だけでなく、参考書や今日的な子どもの健康問題について新聞等を読み情報を集めておく。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	宍戸 洲美	子どもの心身の健康と保健の意義 (1)	・生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的 ・健康の概念と健康指標
2	宍戸 洲美	子どもの心身の健康と保健の意義 (2)	・現代社会における子どもの健康問題の現状と課題 ・地域における保健活動と児童虐待の防止
3	宍戸 洲美	子どもの身体的発育・発達と保健 (1)	・生物としてのヒトの成り立ち
4	宍戸 洲美	子どもの身体的発育・発達と保健 (2)	・身体発育と保健
5	宍戸 洲美	子どもの身体的発育・発達と保健 (3)	・生理機能の発達と保健
6	宍戸 洲美	子どもの身体的発育・発達と保健 (4)	・運動機能の発達と保健
7	宍戸 洲美	子どもの身体的発育・発達と保健 (5)	・精神機能の発達と保健
8	宍戸 洲美	子どもの心身の健康状態とその把握 (1)	・健康状態の観察 ・心身の不調等の早期発見
9	宍戸 洲美	子どもの心身の健康状態とその把握 (2)	・発育発達・発達の把握と健康
10	宍戸 洲美	子どもの心身の健康状態とその把握 (3)	・保護者との情報共有と連携
11	宍戸 洲美	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1)	・主な疾病の特徴
12	宍戸 洲美	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2)	・感染症に対する対応と予防策
13	宍戸 洲美	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (3)	・その他の疾病の対応
14	宍戸 洲美	子どもの疾病の予防及び適切な対応 (4)	・個別的な配慮を要する子どもへの対応
15	宍戸 洲美	まとめ	・子どもの発育・発達と健康保障

レポート作成等の方法・留意点

教科書や参考書などを読み、論題に従って必要なデータや資料を集める。次に論旨が明らかになるようにレポートの内容を考えプロットを作成する。プロットにそって内容を書き、最後に読み直して提出する。誤字、脱字に注意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目にそって、計画的に教科書や参考書等で学習する。	60時間
復習	レポートに書かれた評価やアドバイスを参考にして不十分なところの再学習をする。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
小児栄養 Child Nutrition	末次 敦子	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2130	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育園での栄養士経験（23年）を活かし、乳幼児の食生活や栄養について講義する。
－	－	

授業の概要

栄養の基礎的知識、乳幼児の栄養（授乳・育児用ミルク・離乳食）、幼児の発達と食生活等について学習する。

授業の目的

子どもの食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、子どもの発育・発達に応じた望ましい食支援の方法を習得することを目的とする。
グループワークを通して、授業内容の理解を深め、コミュニケーション能力を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者として子どもの発育・発達段階に応じた適切な食支援ができるようになるための基礎的知識・技術を習得することを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

堤ちはる他『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』萌文書林

参考書

厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）
厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月）
向井美恵『お母さんの疑問にこたえる乳幼児の食べる機能の気付きと支援』医歯薬出版

試験対策

主として教科書の単元を中心に出題する。

学習のアドバイス

・通信学習においては、指定の教科書を十分読み込み、適宜、参考書等を参照しながら栄養学に関わる専門用語の理解に努める。
・スクーリング学習においては、次回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は配付したプリントで要点を復習する。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞ 毎回、グループワークを行い内容の理解を深める。	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	末次 敦子	心身の健康と食生活	子どもの食生活の現状と課題を学ぶ。	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康・発育・発達と食生活
2	末次 敦子	発育・発達の特徴	子どもの食べる機能の特徴を学ぶ。	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的知識、日本人の食事摂取基準
3	末次 敦子	消化管の仕組みと機能	消化・吸収機能の特徴を学ぶ。	妊娠期（胎児期）の栄養	妊娠期（胎児期）の食生活
4	末次 敦子	栄養に関する基礎知識 (1)	糖質・脂質の消化・吸収と機能	乳児期の栄養 (1)	乳児期の授乳の意義
5	末次 敦子	栄養に関する基礎知識 (2)	たんぱく質の消化・吸収と機能	乳児期の栄養 (2)	離乳の意義と食生活
6	末次 敦子	栄養に関する基礎知識 (3)	ビタミン・ミネラル・水の機能	乳児期の栄養 (3)	乳児期の栄養上の問題と健康への対応
7	末次 敦子	胎児期の食生活	妊娠期・授乳期の栄養	乳児期の栄養 (4)	育児用ミルクの調乳
8	末次 敦子	乳児期の食生活	乳汁栄養の種類と特徴	乳児期の栄養 (5)	離乳食の調理実習 (1)5 ～ 6 か月頃および 7 ～ 8 か月頃の離乳食
9	末次 敦子	授乳・離乳の支援ガイド	離乳の意義とその方法	乳児期の栄養 (6)	離乳食の調理実習 (2)9 ～ 11 か月頃および 12 ～ 18 か月頃の離乳食
10	末次 敦子	幼児期の食生活 (1)	間食の意義と方法、お弁当について	幼児期の栄養	幼児期の心身の特徴と食生活、間食
11	末次 敦子	幼児期の食生活 (2)	現状の問題点とその対応について	学童期・思春期の栄養、生涯発達	生涯発達と食生活
12	末次 敦子	学童期の食生活	成長と食生活について	食育の基本と内容	食育の内容と計画
13	末次 敦子	食育の基本と内容 (1)	食育の内容と計画	家庭や児童福祉施設における食事	家庭や児童福祉施設における実践
14	末次 敦子	食育の基本と内容 (2)	家庭や児童福祉施設等での実践について	配慮を要する子どもの食と栄養	特別な配慮を要する子どもへの対応
15	末次 敦子	配慮を要する子どもの食生活	食物アレルギー患児への対応について	総復習とまとめ	理解度の確認

レポート作成等の方法・留意点

教科書は、キーワードを見つけながら十分に読みこなし、乳児期および幼児期がライフステージのどの区分になるかも確認してから始める。レポートは課題に従って書き進めるが、キーワードを用いて骨格を構成してから書き始め、 何度も読み返して課題に沿っているか確認してから清書する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書をよく読み、不明な用語は調べておくこと。	30時間
復習	教科書とスクーリング時に配付したプリントを読み直して振り返り、重要事項をよく理解しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	課題のレポート返却時に、フィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
子どもの食と栄養 （対象：2016 ～ 2018 年度入学生） Child Food and Nutrition	末次 敦子	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	2131	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育園での栄養士経験（23年）を活かし、乳幼児の食生活や栄養について講義する。
–	–	

授業の概要

栄養の基礎的知識、乳幼児の栄養（授乳・育児用ミルク・離乳食）、幼児の発達と食生活等について学習する。

授業の目的

子どもの食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、子どもの発育・発達に応じた望ましい食支援の方法を習得することを目的とする。
グループワークを通して、授業内容の理解を深め、コミュニケーション能力を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者として子どもの発育・発達段階に応じた適切な食支援ができるようになるための基礎的知識・技術を習得することを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

堤ちはる他『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』萌文書林

参考書

厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）
厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月）
向井美恵『お母さんの疑問にこたえる乳幼児の食べる機能の気付きと支援』医歯薬出版

試験対策

主として教科書の単元を中心に出題する。

学習のアドバイス

・スクーリング受講前に指定の教科書をよく読み、栄養学に関わる専門用語の理解に努める。
・スクーリング受講中は、次回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は要点を復習しておく。

授業計画

＜スクーリング学習＞　毎回、グループワークを行い、内容の理解を深める。

回数	担当教員	題目	内容
1	末次 敦子	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康・発育・発達と食生活
2	末次 敦子	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的知識、日本人の食事摂取基準
3	末次 敦子	妊娠期（胎児期）の栄養	妊娠期（胎児期）の食生活
4	末次 敦子	乳児期の栄養 (1)	乳児期の授乳の意義
5	末次 敦子	乳児期の栄養 (2)	離乳の意義と食生活
6	末次 敦子	乳児期の栄養 (3)	乳児期の栄養上の問題と健康への対応
7	末次 敦子	乳児期の栄養 (4)	育児用ミルクの調乳
8	末次 敦子	乳児期の栄養 (5)	離乳食の調理実習 (1)5 ～ 6 か月頃および 7 ～ 8 か月頃の離乳食
9	末次 敦子	乳児期の栄養 (6)	離乳食の調理実習 (2)9 ～ 11 か月頃および 12 ～ 18 か月頃の離乳食
10	末次 敦子	幼児期の栄養	幼児期の心身の特徴と食生活、間食
11	末次 敦子	学童期・思春期の栄養、生涯発達	生涯発達と食生活
12	末次 敦子	食育の基本と内容	食育の内容と計画
13	末次 敦子	家庭や児童福祉施設における食事	家庭や児童福祉施設における実践
14	末次 敦子	配慮を要する子どもの食と栄養	特別な配慮を要する子どもへの対応
15	末次 敦子	総復習とまとめ	理解度の確認

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書をよく読み、不明な用語は調べておくこと。	60時間
復習	教科書とスクーリング時に配付したプリントを読み直して振り返り、重要事項をよく理解しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	課題のレポート返却時に、フィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもの食と栄養 （対象：2019 年度入学生以降） Child Food and Nutrition	末次 敦子	単独	卒・選	幼・選	保・必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	4130	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育園での栄養士経験（23年）を活かし、乳幼児の食生活や栄養について講義する。
－	－	

授業の概要

栄養の基礎的知識、乳幼児の栄養（授乳・育児用ミルク・離乳食）、幼児の発達と食生活等について学習する。

授業の目的

子どもの食・栄養に関する基礎的な知識を習得し、子どもの発育・発達に応じた望ましい食支援の方法を習得することを目的とする。
グループワークを通して、授業内容の理解を深め、コミュニケーション能力を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者として子どもの発育・発達段階に応じた適切な食支援ができるようになるための基礎的知識・技術を習得することを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

堤ちはる他『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』萌文書林

参考書

厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）
厚生労働省「保育所における食事の提供ガイドライン」（平成24年3月）
向井美恵『お母さんの疑問にこたえる乳幼児の食べる機能の気付きと支援』医歯薬出版

試験対策

主として教科書の単元を中心に出題する。

学習のアドバイス

・スクーリング受講前に指定の教科書をよく読み、栄養学に関わる専門用語の理解に努める。
・スクーリング受講中は、次回の授業内容について教科書で該当する単元を予習し、授業後は要点を復習しておく。

授業計画

＜スクーリング学習＞　毎回、グループワークを行い、内容の理解を深める。

回数	担当教員	題目	内容
1	末次 敦子	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康・発育・発達と食生活
2	末次 敦子	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的知識、日本人の食事摂取基準
3	末次 敦子	妊娠期（胎児期）の栄養	妊娠期（胎児期）の食生活
4	末次 敦子	乳児期の栄養 (1)	乳児期の授乳の意義
5	末次 敦子	乳児期の栄養 (2)	離乳の意義と食生活
6	末次 敦子	乳児期の栄養 (3)	乳児期の栄養上の問題と健康への対応
7	末次 敦子	乳児期の栄養 (4)	育児用ミルクの調乳
8	末次 敦子	乳児期の栄養 (5)	離乳食の調理実習 (1)5 ～ 6 か月頃および 7 ～ 8 か月頃の離乳食
9	末次 敦子	乳児期の栄養 (6)	離乳食の調理実習 (2)9 ～ 11 か月頃および 12 ～ 18 か月頃の離乳食
10	末次 敦子	幼児期の栄養	幼児期の心身の特徴と食生活、間食
11	末次 敦子	学童期・思春期の栄養、生涯発達	生涯発達と食生活
12	末次 敦子	食育の基本と内容	食育の内容と計画
13	末次 敦子	家庭や児童福祉施設における食事	家庭や児童福祉施設における実践
14	末次 敦子	配慮を要する子どもの食と栄養	特別な配慮を要する子どもへの対応
15	末次 敦子	総復習とまとめ	理解度の確認

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書をよく読み、不明な用語は調べておくこと。	60時間
復習	教科書とスクーリング時に配付したプリントを読み直して振り返り、重要事項をよく理解しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	課題のレポート返却時に、フィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
家族援助論 Family Assistance Theory	五十嵐 元子	単独	卒	幼	保
			選	選必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2150	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	子ども家庭支援センターにおける臨床心理士としての活動を活かし、心理と福祉の両側面から家庭支援論について解説する。
−	地域理解力	

授業の概要

この科目は、まず、子どもの成長と発達にとって、家庭にどのような意義や機能があるのかについて学ぶ。ただし、家庭・家族だけで終始するものではなく、家庭・家族を取り巻く社会の在り方も重要である。それらを知り、関係機関との連携のもと、支援の在り方を学ぶとともに今後の課題を把握し、保育における家庭支援の役割の理解を深める。

授業の目的

家庭の意義や機能に関する基礎知識を習得し、保育士等が行う家庭支援の原理を学習する。家庭や家族の状況を理解するために、家庭生活を取り巻く社会的状況を把握し、支援のための社会資源を選ぶことができるような知識を養う。また、子育て困難にある家庭や家族に対する多様な支援機関の連携と支援の実際について理解し、今後の課題について考察する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子育て家庭を取り巻く社会的状況を視野に入れ、家庭や家族が抱える問題や課題を分析し、支援に必要な社会資源を選び取り、支援計画を考案できる。
②	(1)子育て支援に関する施策と(2)子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

金田昭三他『家族援助論：子育てを支える社会構築』同文書院

参考書

草野いづみ『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院
吉田眞理『家族援助論』萌文書林

試験対策

教科書・参考書を熟読し、家庭・家族を理解するための基礎的な知識や支援のあり方を自分の言葉で表現できるようにしてください。

学習のアドバイス

子育てに、どうして支援（援助）が必要になったのかその経緯を理解し、その対策について学び、学んだことについてご自分の意見（考え）をもって下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	はじめに	子育て（子育ち）支援とはなにか
2	五十嵐 元子	家庭（家族）をとりまく社会的状況	都市化・核家族化少子化・晩婚化・単身化・離婚率の増加・男女共同参画社会・地域社会の崩壊と再構築
3	五十嵐 元子	家庭（家族）とは (1)	家庭（家族）の意味
4	五十嵐 元子	家庭（家族）とは (2)	家庭（家族）の形態と機能
5	五十嵐 元子	今日における家族関係	夫婦関係・親子関係・兄弟関係・祖父母との関係
6	五十嵐 元子	子育て支援の活動事例 (1)	保育所
7	五十嵐 元子	子育て支援の活動事例 (2)	幼稚園
8	五十嵐 元子	子育て支援の活動事例 (3)	地域
9	五十嵐 元子	子育て支援の活動事例 (4)	一番印象に残った事例についての理由および考察
10	五十嵐 元子	子育て支援の内容 (1)	子育てからみた家族の問題・支援ニーズ・支援活動の内容
11	五十嵐 元子	子育て支援の内容 (2)	子育て支援の機能（幼稚園・保育所）・子育て支援の課題
12	五十嵐 元子	地域における子育て支援体制 (1)	システムとしての子育て支援・親へのソーシャルネット
13	五十嵐 元子	地域における子育て支援体制 (2)	子育てセーフティネット・子育ての地域ネットワーク
14	五十嵐 元子	子育て支援の法令および行政的施策の展望	新エンゼルプラン・保育所保育指針、幼稚園教育指導要領に表れた支援
15	五十嵐 元子	子育て支援の法令および行政的施策の展望	関係機関、施設・今後の課題と展望

レポート作成等の方法・留意点

教科書、参考書を精読し、そこで記述されている内容について熟知し、自分の言葉で説明できるようにすること。また、教科書や参考書、新聞、ニュースで把握した情報に対して、自分なりの考えを持ち、記述するよう心がけること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書、テキストの解読。	60時間
復習	予習をし、理解を深めてレポートの作成をすることにより更に支援の方法、重要性を知ることができる。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。適宜、質問・疑問を受け付け、回答する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
家庭支援論 Home support theory	五十嵐 元子	単独	卒選	幼選	保必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2151	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	子ども家庭支援センターにおける臨床心理士としての活動を活かし、心理と福祉の両側面から家庭支援論について解説する。
－	地域理解力	

授業の概要

この科目は、まず、子どもの成長と発達にとって、家庭にどのような意義や機能があるのかについて学ぶ。ただし、家庭・家族だけで終始するものではなく、家庭・家族を取り巻く社会の在り方も重要である。それらを知り、 関係機関との連携のもと、支援の在り方を学ぶとともに今後の課題を把握し、保育における家庭支援の役割の理解を深める。

授業の目的

家庭の意義や機能に関する基礎知識を習得し、保育士等が行う家庭支援の原理を学習する。家庭や家族の状況を理解するために、家庭生活を取り巻く社会的状況を把握し、支援のための社会資源を選ぶことができるような知識を養う。また、子育て困難にある家庭や家族に対する多様な支援機関の連携と支援の実際について理解し、今後の課題について考察する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子育て家庭を取り巻く社会的状況を視野に入れ、家庭や家族が抱える問題や課題を分析し、支援に必要な社会資源を選び取り、支援計画を考案できる。
②	(1)子育て支援に関する施策と(2)子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

阿部和子『子ども家庭支援論 子どもが子どもの生活をするために』萌文書林

参考書

名倉啓太郎『家族援助論』同文書院
草野いづみ『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院

試験対策

教科書・参考書を熟読し、家庭・家族を理解するための基礎的な知識や支援のあり方を自分の言葉で表現できるようにしてください。

学習のアドバイス

子どもが健やかに成長するためには、家庭・家族の在り方、支援の在り方・対策が必要です。教科書・参考書だけではなく、日常的に情報に耳を傾け、その情報も含めて支援の在り方を学んで下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	はじめに	授業内容の全体説明・保育指針の改定説明
2	五十嵐 元子	家族・家庭とは	それぞれの家族のイメージ・時代の中の家族・家族をどのように捉えるか
3	五十嵐 元子	子どもにとっての家族・家庭(1)	子どもは一人では生きられない・家庭における人間関係
4	五十嵐 元子	子どもにとっての家族・家庭(2)	子どもが育つ場の条件
5	五十嵐 元子	支援を必要とする家族の背景と子育て施設	国の取り組み
6	五十嵐 元子	支援を必要とする家族・家庭	育ちをめぐる問題（育児不安・困難・リスク）
7	五十嵐 元子	地域の子育て・支援の実際と今後の課題	家庭での育児を支える
8	五十嵐 元子	保育を必要とする家族・家庭とその支援の実際(1)	共働き
9	五十嵐 元子	保育を必要とする家族・家庭とその支援の実際(2)	保育所における子育て支援の実際
10	五十嵐 元子	障害のある子どもの家族・家庭とその支援の実際 (3)	障害のあるということの捉え方・その家族・家庭への支援の実際
11	五十嵐 元子	子どもの貧困	家族・家庭への支援・ひとり親家庭への支援
12	五十嵐 元子	養育困難家庭(1)	支援の実際
13	五十嵐 元子	養育困難家庭(2)	子育て支援をめぐる専門機関間の連携
14	五十嵐 元子	子育て支援の今後の課題	地域の支援拠点事業・支援者
15	五十嵐 元子	これまでの家庭支援の整理と今後の課題	子育て・子育ちの当面の課題

レポート作成等の方法・留意点

教科書、参考書を精読し、そこで記述されている内容について熟知し、自分の言葉で説明できるようにすること。また、教科書や参考書、新聞、ニュースで把握した情報に対して、自分なりの考えを持ち、記述するよう心がけること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書・参考書の解読。	60時間
復習	予習をし、理解を深めてレポートの作成をすることにより、さらに支援の方法および 重要性を理解することができる。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。適宜、質問・疑問を受け付け、回答する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（健康Ⅰ） （対象：2015 年度入学生まで）	髙橋 裕勝	単独	卒	幼	保
Teaching Methods For Children Care Content(Health Ⅰ)			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2160	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どものからだを育む保育者の役割について事例を挙げながら指導する。
−	−	

授業の概要

乳幼児の心とからだの健康や安全な生活に関する基礎的事項について学ぶ。領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて学ぶ。子どものからだを育む運動遊びについて、具体的な保育を想定した指導案の作成を学ぶ。

授業の目的

乳幼児の心とからだの健康や安全な生活についての理解を深めるとともに、領域「健康」に基づいた生活習慣や運動遊びの指導・援助の方法を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児の心とからだの健康や安全な生活に関する基礎的事項ついて概説できる。
②	領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて概説できる。
③	子どものからだを育む運動遊びについて、具体的な保育を想定した指導案を作成できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

河邉貴子他『演習 保育内容 健康 基礎的事項の理論と指導法』建帛社

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

試験対策

科目修得試験は記述式。教科書と領域「健康」を熟読し、内容をよく理解しておくこと。

学習のアドバイス

教科書と領域「健康」を読み進める中で、読めない漢字やわからない言葉はそのままにせずに一つひとつ調べること。

自身のからだの健康管理に努め、子どもの良きモデルとなりましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	髙橋 裕勝	健康の定義	健康の定義を理解する。
2	髙橋 裕勝	幼児期の生活	幼児期の健康な生活を考える。
3	髙橋 裕勝	子どもの身体の発達	子どもの身体の発達を理解する。
4	髙橋 裕勝	子どもの運動の発達	子どもの運動の発達を理解する。
5	髙橋 裕勝	安全の指導	子どものけが・事故の実態から安全指導を考える。
6	髙橋 裕勝	領域「健康」(1)	領域「健康」の意義、ねらい及び内容を理解する。
7	髙橋 裕勝	領域「健康」(2)	領域「健康」の内容の取り扱いを理解する。
8	髙橋 裕勝	0〜2歳児の生活と動き	0〜2歳児の生活と動きを理解する。
9	髙橋 裕勝	0〜2歳児の生活習慣	0〜2歳児の身辺自立・生活習慣を理解する。
10	髙橋 裕勝	0〜2歳児の遊び	0〜2歳児の遊びを事例から考える（教材研究）。
11	髙橋 裕勝	3〜5歳児の生活習慣	3〜5歳児の生活習慣を理解する。
12	髙橋 裕勝	3〜5歳児の運動遊び	3〜5歳児の運動遊びを事例から考える。
13	髙橋 裕勝	3〜5歳児の運動遊び指導	模擬保育や実習に向けて、事例をもとに3〜5歳児の運動遊びの指導案を作成する（教材研究）。
14	髙橋 裕勝	安全への配慮	リスクとハザードの違いを理解する。
15	髙橋 裕勝	保育者の役割	これまでの学習を振り返る。

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキストを十分に読み、分からない所は他の参考文献や資料を調べるなどして理解を深めること。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめるものです。テキストの内容をそのまま抜き出したり、つぎ合わせただけのレポートにならないよう自分の考えを自分の言葉でまとめること。作成の前に『学生便覧』のレポート作成方法を一読すること。 レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に注意すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	毎回の学習内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポート課題は、添削して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（健康Ⅰ） （対象：2016～2018 年度入学生） Teaching Methods For Children Care Content(Health Ⅰ)	髙橋 裕勝	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	30時間	2161	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どものからだを育む保育者の役割について事例を挙げながら指導する。
－	－	

授業の概要

乳幼児の心とからだの健康や安全な生活に関する基礎的事項について学ぶ。領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて学ぶ子どものからだを育む運動遊びについて、具体的な保育を想定した指導案の作成を学ぶ。

授業の目的

乳幼児の心とからだの健康や安全な生活についての理解を深めるとともに、領域「健康」に基づいた生活習慣や運動遊びの指導・援助の方法を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児の心とからだの健康や安全な生活に関する基礎的事項ついて概説できる。
②	領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて概説できる。
③	子どものからだを育む運動遊びについて、具体的な保育を想定した指導案を作成できる。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	40%
課題提出	20%
課題発表	20%
授業への参加度	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

河邉貴子他『演習 保育内容 健康 基礎的事項の理解と指導法』建帛社

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

試験対策

スクーリング試験は記述式。各回の授業内容をノートに記録して準備すること。

学習のアドバイス

教科書と領域「健康」を読み進める中で、読めない漢字やわからない言葉はそのままにせずに一つひとつ調べること。
自身のからだの健康管理に努め、子どもの良きモデルとなりましょう。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	髙橋 裕勝	健康の定義	健康の定義を理解する。	ガイダンス	授業の内容と進行、成績評価、領域「健康」の概観
2	髙橋 裕勝	幼児期の生活	幼児期の健康な生活を考える。	0～2歳児の生活と動き	0～2歳児の生活と動きを理解する。
3	髙橋 裕勝	子どもの身体の発達	子どもの身体の発達を理解する。	0～2歳児の生活習慣	0～2歳児の身辺自立・生活習慣を理解する。
4	髙橋 裕勝	子どもの運動の発達	子どもの運動の発達を理解する。	0～2歳児の遊び	0～2歳児の遊びを事例から考える（教材研究）。
5	髙橋 裕勝	安全の指導	子どものけが・事故の実態から安全指導を考える。	3～5歳児の生活習慣	3～5歳児の生活習慣を理解する。
6	髙橋 裕勝	領域「健康」(1)	領域「健康」の意義、ねらい及び内容を理解する。	3～5歳児の運動遊び指導(1)	模擬保育や実習に向けて、事例をもとに3～5歳児の運動遊びの指導案を作成する（教材研究）。
7	髙橋 裕勝	領域「健康」(2)	領域「健康」の内容の取り扱いを理解する。	3～5歳児の運動遊び指導(2)	指導案にそって模擬保育を実践し、仲間との意見交換を通して保育を改善する視点を身に付ける。
8	髙橋 裕勝	安全への配慮	リスクとハザードの違いを理解する。	保育者の役割	これまでの学習を振り返る。

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキストを十分に読み、分からない所は他の参考文献や資料を調べるなどして理解を深めること。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめるものです。テキストの内容をそのまま抜き出したり、つぎ合わせただけのレポートにならないよう自分の考えを自分の言葉でまとめること。作成の前に『学生便覧』のレポート作成方法を一読すること。 レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に注意すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	各回の学習内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	〈通信学習〉　提出されたレポート課題は、添削して返却する。 〈スクーリング学習〉　各課題は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（人間関係Ⅰ） （対象：2015 年度入学生まで） Teaching Methods For Children Care Content （Human Relations Ⅰ）	草信 和世	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2170	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として現場で経験したことを生かし、保育における人間関係について、現場での対応例を交えながら指導を行います。
－	－	

授業の概要

現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、保育現場における事例をもとに、領域「人間関係」について考えます。さらに、遊びを通して領域「人間関係」のねらいや内容についての理解を深め、指導計画の作成について学びます。

授業の目的

乳幼児期における人間関係の発達に関する基礎的な知識を身につけ、保育方法の基本的な技術を習得することを目指します。そして子どもが豊かな人間関係を発達させていくための保育の在り方について考えを深めることを目的としています。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児教育の基本的な考え方を捉え、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」に基づいた保育のねらいや方法を考案できるようになる。
②	乳幼児期の人間関係の発達とそれを支える保育者の役割を理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

無藤隆『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』萌文書林

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

試験対策

筆記試験となります。教科書を充分に学習しておいてください。

学習のアドバイス

・教科書や参考書をよく読んで要点を捉え、内容を理解するようにしてください。
・専門用語は正確に内容を理解し、自分の言葉で文章にできるようにしてください。
・サブテキストの課題や理解度テストに取り組んでください。
・子どもや保育者の具体的な様子を想像し、それを文章にできるように、事例をよく読むようにしてください。
・教科書や参考書を写しただけのレポートは認められません。
・レポート作成で参考にした文献、引用した文献は、参考文献欄に必ず記入してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	草信 和世	乳幼児教育の基本と領域「人間関係」(1)	幼稚園教育要領・保育所保育指針から領域「人間関係」のねらいと内容を学ぶ
2	草信 和世	乳幼児教育の基本と領域「人間関係」(2)	親と保育者との関わりを学ぶ
3	草信 和世	乳幼児教育の基本と領域「人間関係」(3)	友達との出会い・ぶつかりあいの意味を学ぶ
4	草信 和世	子どもと保育者の関わり (1)	子どもとの信頼関係を築き、子どもの関係をつなぐための配慮を学ぶ
5	草信 和世	子どもと保育者の関わり (2)	自己主張を支え、自立に向けた配慮を学ぶ
6	草信 和世	子どもと保育者の関わり (3)	心の安全基地として子どもの人間関係を支える意味と方法を学ぶ
7	草信 和世	遊びの中の人間関係 (1)	遊びと仲間関係の発達を学ぶ
8	草信 和世	遊びの中の人間関係 (2)	人間関係の発達を促す遊びを考える（教材研究）
9	草信 和世	家庭生活における人間関係	保護者と子どもの関係を考える
10	草信 和世	個と集団の育ち (1)	個と集団の関係を考える
11	草信 和世	個と集団の育ち (2)	集団活動の楽しさを知り、協同性が育つための工夫を学ぶ（教材研究）
12	草信 和世	人との関わりを見る視点 (1)	他者への依存と自立から発達を考える
13	草信 和世	人との関わりを見る視点 (2)	自我の発達といざこざについて考える
14	草信 和世	現代の保育の課題	現代に求められる人間関係の育ちを支える保育者の役割を考える
15	草信 和世	指導計画と保育実践	人間関係を意識した指導計画を作成し、実践を試みる（模擬保育）

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。 テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。 子どもの様子を思い描きながら、文章を作成すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（人間関係Ⅰ） （対象：2016 ～2018年度入学生） Teaching Methods For Children Care Content （Human Relations Ⅰ）	草信 和世	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	30時間	2171	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として現場で経験したことを生かし、保育における人間関係について、現場での対応例を交えながら指導を行います。
－	－	

授業の概要

現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、保育現場における事例をもとに、領域「人間関係」について考えます。さらに、遊びを通して領域「人間関係」のねらいや内容についての理解を深め、指導計画の作成について学びます。

授業の目的

乳幼児期における人間関係の発達に関する基礎的な知識を身につけ、保育方法の基本的な技術を習得することを目指します。そして子どもが豊かな人間関係を発達させていくための保育の在り方について考えを深めることを目的としています。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児教育の基本的な考え方を捉え、幼稚園教育要領及び保育所保育指針の領域「人間関係」に基づいた保育方法を考案できるようになる。
②	乳幼児期の人間関係の発達とそれを支える保育者の役割を理解する。

成績評価方法及び基準

授業への参加態度	50%
指導案の提出	20%
実技試験	30%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定ができません。

教科書

無藤隆『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係』萌文書林

参考書

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

試験対策

模擬保育の実技試験となります。教科書に出てくる活動や遊びについて学習しておいてください。

学習のアドバイス

＜通信科目＞
・教科書や参考書をよく読んで要点を捉え、内容を理解するようにしてください。
・専門用語は正確に内容を理解し、自分の言葉で文章にできるようにしてください。
・サブテキストの課題や理解度テストに取り組んでください。
・子どもや保育者の具体的な様子を想像し、それを文章にできるように、事例をよく読むようにしてください。
・教科書や参考書を写しただけのレポートは認められません。
・レポート作成で参考にした文献、引用した文献は、参考文献欄に必ず記入してください。
＜スクーリング科目＞
・スクーリング授業前に教科書の第 1 章～第 4 章までを、精読しておくこと。
・授業や参考文献に出てくる子どもの遊びについて、ノートにまとめておくと、指導計画を作成するときに参考になります。
・遅刻欠席はしないようにしてください。
・授業への積極的な参加を心がけてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	草信 和世	家庭生活を通して育つ人間関係	愛着関係の発達を学ぶ	乳幼児教育の基本と「人間関係」	幼稚園教育要領と保育所保育指針における「人間関係」のねらいと内容を学ぶ
2	草信 和世	個と集団の育ち (1)	個と集団の関係について考える	乳幼児期の発達	各年齢の人間関係の発達の特徴を学ぶ
3	草信 和世	個と集団の育ち (2)	集団で活動する楽しさから協同的な関係へ	遊びと人間関係 (1)	遊びを通して育つ人間関係を学ぶ
4	草信 和世	人との関わりを見る視点 (1)	他者への依存と自立から発達を考える	遊びと人間関係 (2)	遊びの実践を通して人間関係を考える
5	草信 和世	人との関わりを見る視点 (2)	自我の発達といざこざの理解	保育者や仲間とのかかわりと活動	人間関係の発達を促す教材を考える
6	草信 和世	現代の保育の課題 (1)	子どもの人間関係の発達の現代的な課題を考える	指導計画を作成する	人間関係を視野に入れた指導計画を立てる
7	草信 和世	現代の保育の課題 (2)	人間関係を育む保育者の役割を考える	模擬保育	指導計画にそくして、模擬保育をする
8	草信 和世	人間関係の発達と保育	発達に応じた保育とは何かをまとめる	模擬保育の振り返り	模擬保育後、内容についてフィードバックをし、指導計画の改善点を考える

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。 テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。 子どもの様子を思い描きながら、文章を作成すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	提出したレポート課題・スクーリング時の資料や課題を振り返り、重要事項についてよく理解しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	直に疑問を解消するために、講義内で質疑応答の時間を設ける。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（環境Ⅰ） （対象：2015 年度入学生まで） Teaching Methods For Children Care Content(Environment Ⅰ)	永井 理恵子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2180	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、領域「環境」の理論を指導するとともに、実際の様々な活動を指導する。
–	–	

授業の概要

こどもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な環境設定の知識と技術を修得する。

授業の目的

乳幼児期に子どもたちが園内外の自然や文化、遊具や教材などに積極的に関わり、生きる力を培うことができるようにするためには、どのような準備が必要であるのかを考察する。子どもの環境は時代とともに変化しているが、時代を経ても変わらない大切な経験とは何かを検討することにより、領域「環境」のもつ意味を探求する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	季節の移り変わり(春夏秋冬)を通して、子どもの発達に対応した保育内容とはどのようなものかを考察することができる。その際、子どものより良き生活環境について理解を深め、指導計画を立てることができる。

成績評価方法及び基準

提出物	60%	
授業の参加態度	40%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

〈通信学習〉谷田貝公昭『新版【実践　保育内容シリーズ③】環境』一藝社
〈スクーリング学習〉榎沢良彦他『シードブック 保育内容 環境 第３版』建帛社

参考書

★参考書はスクーリングに必ず持参すること。
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

教科書を十分に読み、領域「環境」の内容を把握すること。試験は全体的に出題します。

学習のアドバイス

自然環境に普段から親しむ機会をもつこと。園環境について考えておくこと。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	
1	永井 理恵子	子どもにとって環境とは	「環境」という言葉の意味	子どもにとって環境とは	「環境」という言葉の意味
2	永井 理恵子	領域「環境」とは	5領域における領域「環境」の位置	領域「環境」とは	5領域における「環境」の位置
3	永井 理恵子	子どもの身体の発育と環境	発育と環境の関わり 運動技能の獲得	子どもの身体の発育と環境	発育と環境の関わり 運動技能の獲得
4	永井 理恵子	子どもの心の発達と環境	ビオトープの活用の理念と方法	子どもの情緒の発達と環境	豊かな情緒の発達と環境
5	永井 理恵子	子どもの知恵の発達と環境	認識の発達と環境の保育展開	子どもの知的発達と環境	認識の発達と環境の保育展開
6	永井 理恵子	0～2歳児の環境遊び(1)	春の遊び 夏の遊び	環境としての絵本	子どもの絵本について実例から学ぶ（教材研究）
7	永井 理恵子	0～2歳児の環境遊び(2)	秋の遊び 冬の遊び	構成遊具の種類と効果	構成遊具について実例から学ぶ（教材研究）
8	永井 理恵子	0～2歳児の環境遊び(3)	科学性を育む遊び 文字・数字・記号	形や図形の構成と理解	子どもを取りまく環境の形や図形（教材研究）、造形体験を行う
9	永井 理恵子	3～6歳児の環境遊び(1)	春・夏の遊び 動植物 自然物で遊ぶ	季節の遊び (1)	春から夏の自然（模擬保育）
10	永井 理恵子	3～6歳児の環境遊び(2)	秋・冬の遊び 葉っぱと遊ぶ 木と遊ぶ	季節の遊び (2)	秋から冬の自然（模擬保育）
11	永井 理恵子	3～6歳児の環境遊び(3)	自然環境を取り入れた遊び 色水遊び	フィールドワーク	自然の観察 、地域社会の取材
12	永井 理恵子	環境上の工夫・配慮	保育室の環境 ユニバーサルデザイン	ポスター製作	フィールドワークをポスターにする
13	永井 理恵子	環境を通した指導計画	幼児期の目標 教育課程と指導計画	指導案作成(1)	設定された条件に基づき指導案作成を行う
14	永井 理恵子	環境教育を通した指導の評価	保育の記録と評価	指導案作成(2)	設定された条件に基づき指導案作成を行う
15	永井 理恵子	環境教育と未来	身近な環境 自然教育の目標 未来の教育	総括	全体のふりかえり、発表、模擬実践を行う

レポート作成等の方法・留意点

教科書を十分に読み、そこから自分なりに考えたことや感じたこと等をまとめてみましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	シラバスで次回の内容を確認し、教科書を十分に読み進めておくこと。	30時間
復習	授業で学習した「環境」の内容を振り返り、理解を深めておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	疑問点はスクーリング期間中にいつでも訊いてください。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（環境Ⅰ） （対象：2016 ～2018年度入学生） Teaching Methods For Children Care Content （Environment Ⅰ）	永井　理恵子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	2181	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、領域「環境」の理論を指導するとともに、実際の様々な活動を指導する。
－	－	

授業の概要

こどもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な環境設定の知識と技術を修得する。

授業の目的

乳幼児期に子どもたちが園内外の自然や文化、遊具や教材などに積極的に関わり、生きる力を培うことができるようにするためには、どのような準備が必要であるのかを考察する。子どもの環境は時代とともに変化しているが、時代を経ても変わらない大切な経験とは何かを検討することにより、領域「環境」のもつ意味を探求する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	季節の移り変わり（春夏秋冬）を通して、子どもの発達に対応した保育内容とはどのようなものかを考察することができる。 その際、子どものより良き生活環境について理解を深め、指導計画を立てることができる。

成績評価方法及び基準

提出物	60%	
授業の参加態度	40%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

榎沢良彦他『シードブック 保育内容 環境 第３版』建帛社

参考書

★参考書はスクーリングに必ず持参すること。
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

教科書を十分に読み、領域「環境」の内容を把握すること。試験は全体的に出題します。

学習のアドバイス

自然環境に普段から親しむ機会をもつこと。園環境について考えておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	子どもにとって環境とは	「環境」という言葉の意味
2	永井 理恵子	領域「環境」とは	５領域における「環境」の位置
3	永井 理恵子	子どもの身体の発育と環境	発育と環境の関わり 運動技能の獲得
4	永井 理恵子	子どもの情緒の発達と環境	豊かな情緒の発達と環境
5	永井 理恵子	子どもの知的発達と環境	認識の発達と環境の保育展開
6	永井 理恵子	環境としての絵本	子どもの絵本について実例から学ぶ（教材研究）
7	永井 理恵子	構成遊具の種類と効果	構成遊具について実例から学ぶ（教材研究）
8	永井 理恵子	形や図形の構成と理解	子どもを取りまく環境の形や図形（教材研究）、造形体験を行う
9	永井 理恵子	季節の遊び (1)	春から夏の自然（模擬保育）
10	永井 理恵子	季節の遊び (2)	秋から冬の自然（模擬保育）
11	永井 理恵子	フィールドワーク	自然の観察 、地域社会の取材
12	永井 理恵子	ポスター制作	フィールドワークをポスターにする
13	永井 理恵子	指導案作成(1)	設定された条件に基づき指導案作成を行う
14	永井 理恵子	指導案作成(2)	設定された条件に基づき指導案作成を行う
15	永井 理恵子	総括	全体のふりかえり、発表、模擬実践を行う

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	シラバスで次回の内容を確認し、教科書を授業の進行に合わせて読み進めておくこと。	60時間
復習	授業で学習した「環境」の内容を振り返り、理解を深めておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	疑問点はスクーリング期間中にいつでも訊いてください。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（言葉Ⅰ） （対象：2015 年度入学生まで）	近藤 万里子	単独	卒	幼	保
The contents of childcare: Language Ⅰ			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2190	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	–	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
–	–	

授業の概要

5領域の関連と「言葉」のねらいと内容について説明することができる。子どもが健やかに成長し、その活動が上り豊かに展開されるための発達に対応した子どもとの関わり方と援助の実際を理解する。

授業の目的

・子どもの発達を5領域の観点と関連から捉え、子ども理解を深めながら、総合的に保育するために、保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について理解する。
・保育者として発達段階に応じた適切な関わりを行うために、言語習得過程について学習する。
・日々変化する社会への対応する力を付けるため、子どもを取り巻く環境の変化について考察する。
・言葉を育てる文化財への関心を持ち、実践から学びながら学習する。
・保育者として指導力を身に付けるために、子どものことばを育てる保育者の役割について理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	言葉にかかわる養護と教育それぞれの関連性を理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
②	子どもの言語発達を5領域の観点から理解し、子どもの各年齢に応じた具体的な保育内容の展開を学び、指導案を作成することができる。

成績評価方法及び基準

課題発表	30%	
筆記試験	70%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3版』みらい

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
榎沢良彦他『シードブック　保育内容言葉　第2版』建帛社
ジャン・ピエール・ポッツィ『ちいさな哲学者たち』（DVD）アミューズソフトエンタテインメント

試験対策

記述問題も含みますので日頃から自分の考えを文章で表現する練習をして下さい。

学習のアドバイス

日常の中で子どもの言葉に対する疑問を見つけてきて下さい。スクーリングにおいてディスカッションを行います。どんどん 疑問を話し合って下さい。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	近藤 万里子	言語発達（1）	言語発達の概観	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容
2	近藤 万里子	言語発達（2）	子どもの発達とことばの関係	言語発達と保育者のことば（1）	言語発達の概観
3	近藤 万里子	保育者のかかわり（1）	0 歳児	言語発達と保育者のことば（2）	子どもの発達とことばの関係
4	近藤 万里子	保育者のかかわり（2）	1 ～ 2 歳児	言語発達と表現	子どもの言語表現
5	近藤 万里子	保育者のかかわり（3）	3 ～ 4 歳児	言語発達と順序	レディネスについて
6	近藤 万里子	保育者のかかわり（4）	5 ～ 6 歳児	言語発達と人間関係	子ども同士の対話について
7	近藤 万里子	言葉の発達をめぐる問題（1）	社会環境の変容	言語発達と環境	生活と言葉
8	近藤 万里子	言葉の発達をめぐる問題（2）	特別な配慮を要する子ども	教材研究（1）	絵本
9	近藤 万里子	ことばの発達をうながす援助	遊びの中から	教材研究（2）	劇遊び
10	近藤 万里子	保育者の役割	子どもの言葉を育てる関わり	指導案作成	指導案の作成について
11	近藤 万里子	領域「言葉」について	ねらいと内容	模擬保育（1）	練習
12	近藤 万里子	言葉を育てる文化的環境	教材研究「絵本」「紙芝居」「ことば遊び」	模擬保育（2）	発表
13	近藤 万里子	言葉を育てる対話	聞く力・話す力	模擬保育（3）	評価
14	近藤 万里子	保育者のことば	保育者のことばの与える力について	振り返り	自己課題を見つける
15	近藤 万里子	まとめ	復習と総括	まとめ	自己課題の解決方法を考える

レポート作成等の方法・留意点

教科書や参考文献の内容を理解し、各段階の子どもの言語発達の特徴を考えて下さい。教科書や明記した参考文献以外にも自分で資料を集めて作成すると尚良いです。引用したものは必ず引用箇所と文献を明記して下さい。保育者の関わり方については自分を保育者の立場に置き換えて考えて下さい。引用だけにならないように引用をもとにして自分の考えを述べて下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・日常の中で子どもの言葉に対する疑問を見つけておくこと。 ・教科書はしっかりと読み込み、各章ごとにまとめておくこと。	30時間
復習	・授業ごとに、授業内容を自分の言葉でまとめておくこと。 ・小テストを見直し、不明な部分はもう一度教科書を見返しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（言葉Ⅰ） （対象：2016～2018年度入学生）	近藤　万里子	単独	卒	幼	保
The contents of childcare: Language Ⅰ			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	2191	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
－	－	

授業の概要

5領域の関連と「言葉」のねらいと内容について説明することができる。子どもが健やかに成長し、その活動が上り豊かに展開されるための発達に対応した子どもとの関わり方と援助の実際を理解する。

授業の目的

・子どもの発達を5領域の観点と関連から捉え、子ども理解を深めながら総合的に保育するために、保育内容の領域「言葉」のねらいと内容について理解する。
・保育者として発達段階に応じた適切な関わりを行うために、言語習得過程について学習する。
・日々変化する社会への対応する力を付けるため、子どもを取り巻く環境の変化について考察する。
・言葉を育てる文化財への関心を持ち、実践から学びながら学習する。
・保育者として指導力を身に付けるために、子どものことばを育てる保育者の役割について理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	言葉にかかわる内容を養護と教育それぞれの関連性を理解し、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
②	子どもの言語発達を5領域の観点から理解し、子どもの各年齢に応じた具体的な保育内容の展開を学び、指導案を作成することができる。

成績評価方法及び基準

課題発表	30%
筆記試験	70%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3版』みらい

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
榎沢良彦他『シードブック　保育内容言葉　第2版』建帛社
ジャン・ピエール・ポッツィ『ちいさな哲学者たち』（DVD）アミューズソフトエンタテインメント

試験対策

記述問題も含みますので日頃から自分の考えを文章で表現する練習をして下さい。

学習のアドバイス

日常の中で子どもの言葉に対する疑問を見つけてきて下さい。スクーリングにおいてディスカッションを行います。どんどん 疑問を話し合って下さい。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	オリエンテーション	領域「言葉」のねらいと内容
2	近藤 万里子	言語発達と保育者のことば（1）	言語発達の概観
3	近藤 万里子	言語発達と保育者のことば（2）	子どもの発達とことばの関係
4	近藤 万里子	言語発達と表現	子どもの言語表現
5	近藤 万里子	言語発達と順序	レディネスについて
6	近藤 万里子	言語発達と人間関係	子ども同士の対話について
7	近藤 万里子	言語発達と環境	生活と言葉
8	近藤 万里子	教材研究（1）	絵本
9	近藤 万里子	教材研究（2）	劇遊び
10	近藤 万里子	指導案作成	指導案の作成について
11	近藤 万里子	模擬保育（1）	練習
12	近藤 万里子	模擬保育（2）	発表
13	近藤 万里子	模擬保育（3）	評価
14	近藤 万里子	振り返り	自己課題を見つける
15	近藤 万里子	まとめ	自己課題の解決方法を考える

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・日常の中で子どもの言葉に対する疑問を見つけておくこと。 ・教科書はしっかりと読み込み、各章ごとにまとめておくこと。	60時間
復習	・授業ごとに、授業内容を自分の言葉でまとめておくこと。 ・小テストを見直し、不明な部分はもう一度教科書を見返しておくこと。	

課題へのフィードバック有無おおよび方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（表現Ⅰ） （対象：2015 年度入学生まで） The guidance method of childcare contents （expression Ⅰ）	髙橋 裕勝、天野 泉 若原 真由子	オムニバス	卒	幼	保
			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2200	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの表現の理解と保育者としての表現力を実践的に指導する。
−	−	

授業の概要

本講義では、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について、子どもの表現と関連付けて理解を深めると共に、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な場面を想定した保育を構想し、実現する方法を学ぶ。

授業の目的

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針等に示される保育の内容を理解した上で、領域「表現」に焦点を当て、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を実践的に習得する。表現は、豊かな環境刺激による心の動きを動因として出現するので、表現の源となる環境の充実の方法と、その表現のための技術を実践的に習得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の発達や領域「表現」の位置付け、ねらい及び内容並びに全体構造についての理解を深める。
②	様々な表現の基礎的な知識・技能を実践的に学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
③	乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、豊かな感性や創造性、表現力を養い、想像性を豊かにすることを目指す。

成績評価方法及び基準

発表	40%	スクーリングは、担当教員3名で総合的に評価します。 発表・ディスカッションは、積極的に取り組むこと。
課題提出	20%	
意欲・態度	20%	
ディスカッション	20%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

無藤隆他『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉 表現』萌文書林
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

必要に応じて紹介する。

試験対策

スクーリング学習では筆記試験は実施しないが、発表や課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

自分自身が表現活動に熱中し思い切り楽しむこと。お互いの発言や表現を認め合い協力的に行動すること。
動きやすく汚れてもよい服装や靴で受講すること。
授業に不要な物、スマートフォンはカバンにしまい、机上の学習環境と見栄えを整えること。
指示がある場合を除き、スマートフォンの使用を禁止する。飲食は授業の前に済ませておくこと。

授業計画

	＜通信学習＞			＜スクーリング学習＞		
回数	担当教員	題目	内容	担当教員	題目	内容
1	髙橋	幼児教育の基本 (1)	・幼児教育の目的と領域 ・環境を通して行う保育	若原	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児の遊びにおける領域「表現」の位置づけについて理解する。また、生成過程における「感じる」「気付く」「考える」といった内的な作用の重要性について理解する。
2	髙橋	幼児教育の基本 (2)	・幼児教育の基本 ・保育者のさまざまな役割	若原	乳幼児期の表現と小学校教科のつながり	小学校低学年音楽科・生活科・図画工作での学習内容を理解し、「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」と関連付けながら学びの連続性について考える。
3	髙橋	幼児教育の基本 (3)	・領域「表現」と他領域との関係	若原	乳幼児の表現と発達理解	DVD 等の映像及び具体的な事例から乳幼児の表現の芽生えや発達について理解する。
4	髙橋	乳幼児期の発達と表現	・表現とはなにか ・乳幼児の発達を表現としてとらえる ・乳幼児の表現を支え育む環境	若原	豊かな表現のために	乳幼児の発達に即した合唱や合奏のアンサンブル、リズム遊びの展開例を考える。わらべうたを含めた色々な楽曲を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。
5	髙橋	保育のなかの表現を支える環境づくり (1)	・時間・空間	若原	音楽活動におけるICT	ICT を活用した音楽表現活動を具体的に考え、PPT を用いて学習のまとめを発表する。
6	髙橋	保育のなかの表現を支える環境づくり (2)	・もの・人間関係・雰囲気	天野	乳幼児の造形表現と発達	映像及び具体的な事例を用いながら乳幼児にとっての造形表現の意義について理解する。
7	髙橋	生活の中にあるものを表現として味わう	・色・形ー ブロック・積み木・歌ー音・リズム ・動き・手触り・表現として味わう	天野	表現の評価と援助の方法	幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、乳幼児期の表現の在り方について考える。
8	髙橋	美しさを経験し、美しさを表現する (1)	・自然の美しさに触れる・飾る・変身する	天野	身近な素材を用いた表現〜素材の特性を活かして〜	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し素材の特徴や活動の面白さ、留意点などについて考える。
9	髙橋	美しさを経験し、美しさを表現する (2)	・あこがれる・夢中になる・こだわる	天野	幼児の表現の理解(1)	乳幼児の作品などを通して幼児の素朴な表現を理解し、乳幼児を取り巻く環境や発達を踏まえ分析的に読み取る方法を学ぶ。
10	髙橋	コミュニケーションとしての表現	・まねる・見せる・友達を受け止める ・話し合う	天野	幼児の表現の理解(2)	乳幼児の育ちや発達を「身体表現」の視点から映像資料などを用いて捉える。
11	髙橋	保育者が支える表現	・ありのままの表現を受け止める ・子どもの表現を楽しむ ・保育者も表現する	髙橋	乳幼児期の発育・発達と表現	乳幼児の育ちや発達を「身体表現」の視点から映像資料などを用いて捉える。
12	髙橋	表現を作り出す (1)	・表現する場所をつくる ・音楽に動きが引き出される ・“かく”ことを楽しむ	髙橋	生活の中における乳幼児の身体表現	画像・映像資料を通して、乳幼児の素朴な身体表現を見出す。
13	髙橋	表現を作り出す (2)	・イメージを実現する ・表現をつくり出すことを楽しむ	髙橋	保育者の身体表現	音楽を「聴く」、絵画を「観る」ことから生まれるイメージを自分なりに身体で表現する。
14	髙橋	幼児教育の現代的課題と領域「表現」(1)	・現代社会と「表現」の問題 ・表現を支えるための保育者の役割	髙橋	表現活動の実践(1)	これまでの学習を基にグループで教材研究を行い、模擬保育に向けて、指導案を作成する。
15	髙橋	幼児教育の現代的課題と領域「表現」(2)	・子どもの遊びと育ちにおける「表現」の評価 ・幼児教育と小学校教育の連携	髙橋	表現活動の実践(2)	指導案にそって、模擬保育を実践し、仲間との意見交換を通して、保育を改善する視点を身に付ける。

（各回の内容は授業の進行状況により前後する場合がある）

レポート作成等の方法・留意点

・教科書やサブテキストを十分に読み、分からない所は他の参考文献や資料を調べたりして理解を深めてください。
・レポートは学習した内容について自分の考えをまとめるものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつぎ合わせただけのレポートに ならないよう自分の考えをまとめ自分の言葉で表現してください。
・作成の前に『学生便覧』のレポート作成方法を一読すること。 レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意しましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。 特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	30時間
復習	毎回の授業内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。 授業で学んだ知識・技能を反復練習し、継続的に自身の表現力の向上に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	〈通信学習〉　提出されたレポート課題は、添削して返却します。 〈スクーリング学習〉　発表・作品は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（表現Ⅰ） （対象：2016 ～2018年度入学生） The guidance method of childcare contents （expression Ⅰ）	髙橋 裕勝、天野 泉 若原 真由子	オムニバス	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	2201	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの表現の理解と保育者としての表現力を実践的に指導する。
－	－	

授業の概要

本講義では、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について、子どもの表現と関連付けて理解を深めると共に、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な場面を想定した保育を構想し、実現する方法を学ぶ。

授業の目的

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針等に示される保育の内容を理解した上で、領域「表現」に焦点を当て、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を実践的に習得する。表現は、豊かな環境刺激による心の動きを動因として出現するので、表現の源となる環境の充実の方法と、その表現のための技術を実践的に習得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の発達や領域「表現」の位置付け、ねらい及び内容並びに全体構造についての理解を深める。
②	様々な表現の基礎的な知識・技能を実践的に学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
③	乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、豊かな感性や創造性、表現力を養い、想像性を豊かにすることを目指す。

成績評価方法及び基準

発表	40%	担当教員3名で総合的に評価します。 発表・ディスカッションは、積極的に取り組むこと。
課題提出	20%	
意欲・態度	20%	
ディスカッション	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

無藤隆他『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉 表現』萌文書林
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、発表や課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

自分自身が表現活動に熱中し思い切り楽しむこと。お互いの発言や表現を認め合い協力的に行動すること。
動きやすく汚れてもよい服装や靴で受講すること。
授業に不要な物、スマートフォンはカバンにしまい、机上の学習環境と見栄えを整えること。
指示がある場合を除き、スマートフォンの使用を禁止する。飲食は授業の前に済ませておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原 真由子	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児の遊びにおける領域「表現」の位置づけについて理解する。また、生成過程における「感じる」「気付く」「考える」といった内的な作用の重要性について理解する。
2	若原 真由子	乳幼児期の表現と小学校教科のつながり	小学校低学年音楽科・生活科・図画工作での学習内容を理解し、「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」と関連付けながら学びの連続性について考える
3	若原 真由子	乳幼児の表現と発達理解	DVD 等の映像及び具体的な事例から乳幼児の表現の芽生えや発達について理解する。
4	若原 真由子	豊かな表現のために	乳幼児の発達に即した合唱や合奏のアンサンブル、リズム遊びの展開例を考える。わらべうたを含めた色々な楽曲を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。
5	若原 真由子	音楽活動におけるICT	ICT を活用した音楽表現活動を具体的に考え、PPT を用いて学習のまとめを発表する。
6	天野 泉	乳幼児の造形表現と発達	映像及び具体的な事例を用いながら乳幼児にとっての造形表現の意義について理解する。
7	天野 泉	表現の評価と援助の方法	幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、乳幼児期の表現の在り方について考える。
8	天野 泉	身近な素材を用いた表現 ～素材の特性を活かして～	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し素材の特徴や活動の面白さ、留意点などについて考える。
9	天野 泉	幼児の表現の理解(1)	乳幼児の作品などを通して幼児の素朴な表現を理解し、乳幼児を取り巻く環境や発達を踏まえ分析的に読み取る方法を学ぶ。
10	天野 泉	幼児の表現の理解(2)	乳幼児の描画発達の先行研究から様々な切り口での描画発達の流れを理解し、乳幼児の描画における表現の意味について学ぶ。
11	髙橋 裕勝	乳幼児期の発育・発達と表現	乳幼児の育ちや発達を「身体表現」の視点から映像資料などを用いて捉える。
12	髙橋 裕勝	生活の中における乳幼児の身体表現	画像・映像資料を通して、乳幼児の素朴な身体表現を見出す。
13	髙橋 裕勝	保育者の身体表現	音楽を「聴く」、絵画を「観る」ことから生まれるイメージを自分なりに身体で表現する。
14	髙橋 裕勝	表現活動の実践(1)	これまでの学習を基にグループで教材研究を行い、模擬保育に向けて、指導案を作成する。
15	髙橋 裕勝	表現活動の実践(2)	指導案にそって、模擬保育を実践し、仲間との意見交換を通して、保育を改善する視点を身に付ける。

（各回の内容は授業の進行状況により前後する場合がある）

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。 特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	毎回の授業内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。 授業で学んだ知識・技能を反復練習し、継続的に自身の表現力の向上に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	発表・作品は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
幼児教育課程論 Infantile education course theory	溝口 綾子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3030	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭及び幼児教育講座の教職体験を活かし、教育課程の意義や編成の方法の理解及び、カリキュラムマネジメント実践の意義を理解できるようにする。
–	–	

授業の概要

学校教育における教育課程の役割・機能・意義を理解する。また、教育課程編成の基本理念や教育実践に即した編成の方法を理解する。

授業の目的

幼稚園、保育所においては入園から修了までを見通し、乳幼児とともにどのような園生活をつくりだしていくかという保育の全体計画の作成は、保育の質に関わる重要な課題である。本科目においては、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の解説を通して「環境を通して行う教育、保育」を基本とする教育課程、保育課程（全体的な計画）の意義と役割を明らかにする。また、編成における留意事項の解説を通して計画、実践、省察、評価、改善の過程について理解し、 乳幼児の充実した園生活をつくりだすために必要なその全体構造を明らかにする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園における教育課程、保育所における保育課程（全体的な計画）の意義と編成にあたっての基本的な考え方を理解する。
②	幼稚園教育課程の編成や保育所保育課程（全体的な計画）の作成の前提として、「遊び」「領域」「発達」の基礎的事項を把握する。
③	幼稚園や保育所における教育課程編成や、保育課程（全体的な計画）編成の実際について具体例から理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ　教育課程総論』北大路書房
文部科学省『幼稚園教育要領 ＜平成29年告示＞ 』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ＜平成29年告示＞ 』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説書』

試験対策

試験は、教科書に記載されている学習内容を中心に、広い視野から考えられる記述問題です。
幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針は日常的に目を通しておくことが必要です。

学習のアドバイス

サブテキストも大いに使い、学習しましょう。時間的に余裕があれば、幼稚園や保育園の保育現場に出向き、学んだことを確かめてみましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	溝口 綾子	カリキュラムの基礎理論	保育所の保育計画、幼稚園の指導計画、 保育所以外の児童福祉施設の計画と評価の意義
2	溝口 綾子	幼児教育の基本と教育課程保育課程	教育、保育の全体計画
3	溝口 綾子	教育課程・保育課程の意義と役割	教育課程・保育課程の意義及び編成の方法
4	溝口 綾子	保育内容の変遷と保育計画	保育内容の歴史的系譜
5	溝口 綾子	意図的教育と保育内容の構造	幼児の主体性と保育者の意図性
6	溝口 綾子	幼児の「遊び」と「学び」子どもの発達と指導計画	保育における「遊び」と「学び」、指導計画作成の具体例と模擬保育
7	溝口 綾子	幼稚園、保育所と小学校の連携	幼稚園、保育所、小学校の滑らかな接続
8	溝口 綾子	「幼稚園教育要領と教育課程」 「保育所保育指針と保育課程」	幼稚園教育要領と保育所保育指針の変遷
9	溝口 綾子	「領域」の意味と幼児期の発達の特性	5領域の意味と考え方・遊びを通して総合的な指導
10	溝口 綾子	発達過程と指導計画	幼児期の発達と保育及び教材研究
11	溝口 綾子	指導計画と教育課程・保育課程の関係	日常保育と教育課程、保育課程の関係
12	溝口 綾子	教育課程・保育課程の計画・実践・ 評価・改善の方法	保育の省察、記録の仕方と自己評価
13	溝口 綾子	幼稚園における教育課程編成の実際	教育課程編成の基本的な考え方と留意事項
14	溝口 綾子	保育所における保育課程編成の実際	保育所における保育課程の意義と実際
15	溝口 綾子	時代の変化と新たな保育内容	21 世紀に必要な視点

レポート作成等の方法・留意点

・教科書やサブテキストを読み返したり、他の参考文献や資料、実際の保育場面からの情報などを基に論題について内容を 絞り込み、レポートの組み立てを考える。
・レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意する。
・レポートは、必ず、第１回課題から提出すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は教科書 と並行して学習する 。 ・５領域については、各領域のねらい（３つ）と内容の関連を調べる 。	60時間
復習	・レポート課題で添削されたところは確実に再学習する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート添削の際は朱書で示し、自己学習に活かせるようにする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育課程・保育の計画と評価 Planning and evaluation of educational curriculum and childcare	溝口 綾子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4140	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭及び幼児教育講座の教職経験を活かし、教育課程の意義や編成の方法の理解及びカリキュラムマネジメント実践の意義を理解できるようにする。
－	－	

授業の概要

学校教育における教育課程の役割・機能・意義を理解する。また、教育課程編成の基本原理や教育実践に即した編成の方法を理解する。

授業の目的

幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園においては、入園から修了までを見通し、乳幼児とともにどのような園生活を創り出していくかという保育の全体的な計画の作成は保育の質にかかわる重要な課題である。本授業では環境を通して行う教育・保育を基本とする全体的な計画のあり方・指導計画との関係性について学ぶことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所における全体的な計画、幼稚園における教育課程の意義と編成にあたっての基本的な考え方を理解するとともに、各園や地域の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。
②	保育所の全体的な計画や幼稚園の教育課程に基づく指導計画作成の前提として「遊び」「領域」「発達」の基礎的事項を把握する。
③	乳幼児期の発達の特性を理解するとともに、保育・教育の過程（計画・実践・評価・改善）の全体構造を捉え理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ 教育課程総論』北大路書房
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

厚生労働省『保育所保育指針・解説書』
文部科学省『幼稚園教育要領解説』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

試験対策

試験は教科書に記載されている学習内容を中心に広い視野から考えられる記述である。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は日常的に目を通しておくこと。

学習のアドバイス

サブテキストも大いに活用して学習しましょう。時間的余裕があれば、幼稚園や保育所、こども園などの保育現場に出向き、学んだことを確かめてみましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	溝口 綾子	カリキュラムの基礎理論	保育所の保育計画、幼稚園の指導計画、保育所以外の児童福祉施設の計画と評価の意義
2	溝口 綾子	保育・教育における計画と評価	保育・教育の方針、目標と発達過程を踏まえた全体的な計画・教育課程と保育実践の評価
3	溝口 綾子	子ども理解と保育・教育の過程	計画・実践・記録・省察・評価・改善の循環の過程と、その全体構造の理解
4	溝口 綾子	「領域」の考え方と乳幼児期の発達の特性	5領域の考え方と乳幼児の遊びと保育者の援助の背景となる発達理解
5	溝口 綾子	保育・教育における全体的な計画と教育課程	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領・保育要領の意義と役割及び社会的背景
6	溝口 綾子	保育所の特性と全体的な計画の実際	保育所保育指針との関連及び保育の目標と計画の基本的な考え方
7	溝口 綾子	保育所の全体的な計画の編成と指導計画の関連	指導計画（長期・短期）作成の基本と手順及び作成上の留意点
8	溝口 綾子	保育所における指導計画作成の実際	乳幼児の生活の実態把握と課題の理解に基づいた保育の展開の具体化、保育実践事例と模擬保育
9	溝口 綾子	保育所における保育の評価と改善	保育記録と省察の仕方、保育士及び保育所の自己評価と改善の方法 保育所、幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントの重要性
10	溝口 綾子	保育所と小学校との連携	生活と発達の連続性と保育所児童保育要録の作成の実際
11	溝口 綾子	幼稚園における教育課程	幼稚園教育要領との関連及び教育課程編成の実際
12	溝口 綾子	教育課程と指導計画の関連	教育課程の基本的な考え方と指導計画の作成における留意事項
13	溝口 綾子	教育課程の評価・改善の方法と実際	教育課程に関わる自己評価とその具体例 教育課程の評価・改善にあたっての留意事項
14	溝口 綾子	幼稚園と小学校との連携	小学校との円滑な連携及び幼稚園幼児指導要録の作成の実際
15	溝口 綾子	乳幼児期の発達と保育（まとめ）	発達特性の理解と指導計画作成の基盤となる保育者の保育観・発達観

レポート作成等の方法・留意点

・教科書やサブテキストを読み返したり、他の参考文献や資料、実際の保育場面からの情報などを基に論題について内容を絞り込み、レポートの組み立てを考える。
・レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意する。
・レポートは必ず、第１回課題から提出すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は教科書と並行して学習すること。 ・５領域については、各領域のねらい（３つ）と内容の関連を調べること。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポート課題を添削し、理解不十分な個所は丁寧に説明する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育の心理学 Child Care Psychology	五十嵐 元子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4090	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	臨床心理士として保育所への発達臨床コンサルテーションに従事した経験から、発達心理学的な観点から子どもの心身の発達について解説する。
−	−	

授業の概要

保育者は、子どもの発達を丁寧に把握し、子どもに何を経験してほしいのかを考え、具体的に実践を構想する。本授業は、生涯発達の視点に立った子どもの発達理解の基礎知識を身につけ、実践への活用を考える。

授業の目的

本科目は、保育実践とかかわる発達理論や心理学的知識の基礎を学ぶことを目的とする。さらに、乳幼児期の子どもの学びの過程を支える環境、具体的な援助や仲間との相互作用の重要性について、理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について解説できる。
②	子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を示すことができる。
③	乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

藪中征代他『保育の心理学－子どもの心身の発達と保育実践』教育出版

参考書

心理科学研究会『育ちあう乳幼児心理学』有斐閣
神田英雄『0 歳から 3 歳－保育・子育てと発達研究をむすぶ 乳児編』ちいさいなかま社
神田英雄『3 歳から 6 歳－保育・子育てと発達研究をむすぶ 幼児編』ちいさいなかま社

試験対策

試験は教科書にある発達理論とかかわる語句や現象を説明する記述問題と保育実践で重視される発達の現象について論述 する問題になります。教科書の内容をよく理解し、サブテキストを活用しながら、自分の言葉で説明できるようにしておいてください。

学習のアドバイス

教科書や参考書をよく読んで要点をしっかり捉えてください。 サブテキストを活用して、研究課題・理解度テストに取り組むようにしてください。 保育実践をする立場から、教科書や参考書をよく読み、理解するよう心がけましょう。 日頃から子どもの遊びや親子の様子を観察するようにしましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	保育と心理学	保育における心理学の意義と役割・乳幼児の発達を理解することの意義、発達観、子ども観、保育観を理解する
2	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (1)	発達の定義・発達の原理・発達段階と発達課題・子どもの発達と環境
3	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (2)	発達における遺伝と環境・発達初期の経験の重要性・ヴィゴツキーの発達理論
4	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (3)	胎児期・新生児期の発達と発達課題
5	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (4)	乳幼児期の発達と発達課題
6	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (5)	児童期の発達と発達課題
7	五十嵐 元子	子どもの発達と保育 (6)	青年期・成人期・老年期の発達と発達課題
8	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (1)	身体的機能・運動機能の発達
9	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (2)	認知の発達
10	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (3)	愛着の形成と発達・自我・自己の発達
11	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (4)	遊びの発達と保育の中に見る遊び
12	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (5)	ことばの発達
13	五十嵐 元子	子どもの発達理解 (6)	社会性の発達
14	五十嵐 元子	子どもの学びと保育 (1)	基本的生活習慣の獲得と保育実践・身体機能と運動機能の獲得と保育実践
15	五十嵐 元子	子どもの学びと保育 (2)	認知の発達と保育実践・社会性の発達と保育実践

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマにそくした専門用語を理解すること。 教科書・参考書にある具体的な事例について精読すること。テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。適宜、質問には受け応える。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
障害児保育 （対象：2019 年度入学生以降） Early Childhood Special Education	五十嵐 元子	単独	卒	幼	保
			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	30時間	4280	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	子育て支援施設での発達相談や保育所への発達臨床コンサルテーションに臨床心理士として携わってきた経験から、障害児保育のあり方について解説する。
－	地域理解力	

授業の概要

現在、特別支援を要する子ども（障害・発達障害・被虐待・外国籍等）のニーズは多様化している。そのニーズや困難を理解するための基礎的な知識を習得し、他の保育者や関係機関、保護者と連携しながら、支援していくため方法を学習する。

授業の目的

障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児とその保育について、理解を深める。個々の特性や心身の発達等に応じた支援の方法に関する知識を習得し、障害児その他特別な配慮を要する子どもへの保育やクラス運営の他、家族への支援の具体的なあり方について、知識を養う。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	障害概念の歴史的変遷、インクルーシブ保育のシステムや特別支援教育に関する制度について理解し説明できる。
②	個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について解説できる。
③	特別な支援を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について考案する。
④	特別な支援を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働・保育の課題について議論できる。

成績評価方法及び基準

スクーリングにおける課題	20%
疑似体験	30%
グループディスカッションへの参加態度	50%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

尾崎康子他『よくわかる障害児保育 第 2 版』ミネルヴァ書房

参考書

堀智晴他『障害児保育の理論と実践～インクルーシブ保育の実現に向けて』ミネルヴァ書房
浜谷直人他『多様性がいきるインクルーシブ保育：対話と活動が生み出す豊かな実践に学ぶ』ミネルヴァ書房

試験対策

試験は論文形式です。教科書に沿って出題するので、熟読し、自分の言葉で説明できるようにしてください。また、日頃より、 新聞やテレビ番組等のメディアを通して、障がいや発達障がいの問題について考えるようにしてください。

学習のアドバイス

＜通信学習＞
・教科書や参考書をよく読んで要点を捉え、内容を理解するようにしてください。
・専門用語は正確に内容を理解し、自分の言葉で文章にできるようにしてください。
・サブテキストの課題や理解度テストに取り組んでください。
・教科書や参考書の写しただけのレポートは認められません。
・レポート作成で参考にした文献、引用した文献は、参考文献欄に必ず記入してください。
＜スクーリング学習＞
・スクーリング授業前に教科書を、精読しておくこと。
・授業や参考書に出てくる事例について、ノートにまとめておくと、授業の内容をより理解することができます。
・遅刻欠席はしないようにしてください。
・授業への積極的な参加を心がけてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	五十嵐 元子	障害児保育の理念	「障害」概念と障害児保育の歴史的変遷・障害のある子どもの地域 社会への参加・包容（インクルージョン）及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 (1)	疑似体験から障害児保育における子どもの健康と安全を考える
2	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (1)	肢体不自由児の理解と援助・重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 (2)	個々の発達を促す生活や遊びの環境・子ども同士のかかわりと育ちあいについて、事例を通して議論する・職員間の連携協働を考える
3	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (2)	知的障害児の理解と援助	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際 (3)	仮想事例を用いて、指導計画及び個別支援計画を作成する
4	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (3)	視覚障害・聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	家庭及び自治体・関係機関との連携 (1)	保護者や家族に対する理解と支援について考える
5	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (4)	発達障害児の理解と援助①（PDD －自閉症スペクトラム障害等）	家庭及び自治体・関係機関との連携 (2)	保護者間の交流や支えあいの意義とその支援について考える
6	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (5)	発達障害児の理解と援助②（ADHD －注意欠如多動性障害、LD －限局性学習障害等）	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 (1)	保健・医療における現状と課題を考える
7	五十嵐 元子	障害児等の理解と保育における発達援助 (6)	特別支援を要する外国にルーツを持つ子ども・被虐待児等の理解と援助	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 (2)	福祉・教育における現状と課題
8	五十嵐 元子	家庭と自治体・関係機関との連携	障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、 児童発達支援センター等）小学校との連携・協働	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題 (3)	支援の場の広がりとつながりについて 授業のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

・教科書と参考文献を読んだうえで、レポート課題と関係する文献を自分で調べて、レポート作成の参考にしてください。
・自分の考えを読み手に理解できるように、文章にしてください。
・文献からの引用箇所は「 」にし、最後に出典を記してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートは返却時にコメントを記入する。適宜、質問に受け応える。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと健康 Children and Health	韓　仁愛	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信	1	30時間	4190	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を活かし、子どもの健康をめぐる諸側面の基礎知識と保育者のあり方について伝える。
−	−	

授業の概要

子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身につける。また乳幼児の心身の健康に関する内容、運動に関する内容、健康で安全な生活習慣に関する内容について学び、適切な援助・配慮について理解を深めることをねらいとする。本科目は「通信学習」となるため、各回に示されたテキストの該当ページを精読し、章末に記された課題に取り組むこと。

授業の目的

現代の子どもの健康は、子どもを取り巻く環境の変化により、多くの問題や課題が指摘されている。領域「健康」の観点から、保育者として子どもの健康について考え、身体的・精神的側面に配慮した援助について理解を深めることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心と体、運動発達などの健康課題や健康の定義および健康の意義について説明できる。
②	子どもの体の発達的特徴を理解し、基本的な生活習慣の形成とその意義について説明できる。
③	子どもの安全教育・健康管理の基本的な考え方、リスクとハザードの違いについて理解し、怪我の特徴や病気の予防について説明できる。
④	子どもの運動発達の特徴や身体活動のあり方について説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

(1) 河邉貴子他『演習 保育内容 健康 基礎的事項の理解と指導法』建帛社
(2) 文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
(3) 厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
(4) 内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

(1) 無藤隆他『事例で学ぶ保育内容＜領域＞健康』萌文書林

試験対策

記述試験を実施するので、教科書やサブテキストを熟読して臨むこと。

学習のアドバイス

1. 教科書やサブテキストを精読すること。
2. 題目ごとに要点をまとめるなど、ノート作りをすること。
3. 身近にいる子どもをよく観察し、運動発達や運動遊びについて理解を深めること。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓　仁愛	ガイダンス	健康、安全で幸福な生活のために、「健康」とは何か
2	韓　仁愛	子どもの心身の健康	幼児期の健康な生活とは
3	韓　仁愛	子どもの身体の発達	身長と体重、体の比率、骨の形成、脊柱の湾曲、下肢の発達、 生理的機能の発達
4	韓　仁愛	子どもの運動能力の発達	運動の発達、発達の方向性、運動能力の現状、運動能力低下の背景、運動能力の構成、 幼児期の運動発達の特徴、幼児期にふさわしい運動とは、生活習慣の確立と関連動作の発達
5	韓　仁愛	子どもの生活と健康 (1)	0-2 歳児の生活と動き、身辺自立・生活習慣の獲得
6	韓　仁愛	子どもの生活と健康 (2)	0-2 歳児の身辺自立・生活習慣の獲得
7	韓　仁愛	子どもの生活と健康 (3)	3-5 歳児の生活習慣の獲得
8	韓　仁愛	子どもと遊び (1)	0-2 歳児の遊び
9	韓　仁愛	子どもと遊び (2)	3-5 歳児の運動遊びの実際
10	韓　仁愛	子どもと遊び (3)	3-5 歳児の運動遊びの指導のポイント
11	韓　仁愛	安全管理と安全教育 (1)	安全の指導
12	韓　仁愛	安全管理と安全教育 (2)	安全への配慮
13	韓　仁愛	領域「健康」のねらいと内容 および内容 の取扱い	領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いについて確認する
14	韓　仁愛	保育者の役割	子どもの心身の健康を保障し、育むために必要な保育者の役割について考える
15	韓　仁愛	まとめ	本科目の振り返りとレポート作成

レポート作成等の方法・留意点

・テキストやサブテキストを精読し、保育者の視点に立って考察すること。
・課題の意図をしっかり読み取ること。
・提出前にレポートを読み返し、課題に沿った内容であるか確認すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書やサブテキストを読み、気づいた点や疑問点はメモしておくこと。	15時間
復習	レポートを読み返し、重要なポイントをノートにまとめるなど整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと人間関係 Infants and Human relationship	白取 真実	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信	1	30時間	4200	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として保育に携わった経験を活かし、遊びながら育まれるこどもの人間関係と保育者の援助について、例を挙げながら指導する。
－	－	

授業の概要

現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、保育で保障すべき養護と教育に関する知識を身につける。特に領域「人間関係」の指導の基盤となる理論と発達的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で乳幼児期の人と関わる力が育つことを学び理解する。

授業の目的

乳児・幼児期における人間関係の発達に関する基礎的な知識を身につけ、保育方法の基本的な技術を習得することを目指します。そして子どもが豊かな人間関係を発達させていくための保育の在り方について考えを深めることを目的としています。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
②	乳幼児期の人間関係の発達について理解する。
③	保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

濱名浩他『新時代の保育双書 保育内容 人間関係 第２版』みらい
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成 29 年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成 29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成 29 年告示＞』

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説』

試験対策

試験は記述形式です。教科書に沿って出題するので、熟読し、自分の言葉で説明できるようにしてください。
また、日頃より、保育現場を見学することで、具体的なイメージができ、教科書の内容も理解しやすくなります。

学習のアドバイス

・教科書や参考書をよく読んで要点を捉え、内容を理解するようにしてください。
・専門用語は正確に内容を理解し、自分の言葉で文章にできるようにしてください。
・サブテキストの課題や理解度テストに取り組んでください。
・子どもや保育者の具体的な様子を想像し、それを文章にできるように、事例をよく読むようにしてください。
・教科書や参考書を写しただけのレポートは認められません。
・レポート作成で参考にした文献、引用した文献は、参考文献欄に必ず記入してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	現代社会と乳幼児の人間関係	人間関係の始まり、人間関係の育ちと広がりについて学ぶ
2	白取 真実	人間関係に関わる諸問題	人間関係に関わる問題の把握、人間関係を築くために必要な力について学ぶ
3	白取 真実	領域「人間関係」について	領域「人間関係」について理解する
4	白取 真実	保育者がつくる人間関係	保育者の視点からみた人間関係の理解をする
5	白取 真実	0 歳児の人間関係	0 歳児の発達と人間関係の育ちを理解する - 身近な大人との関係 -
6	白取 真実	1.2 歳児の人間関係	1.2 歳児の発達と人間関係の育ちを理解する - 探索活動、自我の芽生え -
7	白取 真実	3 歳児の人間関係	3 歳児の発達と人間関係の育ちを理解する - 他者に気付き仲間を求める -
8	白取 真実	4 歳児の人間関係	4 歳児の発達と人間関係の育ちを理解する - 自制心と仲間とのつながり -
9	白取 真実	5 歳～就学前の人間関係	5 歳～就学前までの人間関係の育ちを理解する - 仲間意識と協調性、小学校への連携 -
10	白取 真実	遊びを考える (1)	人間関係を育む遊びをテーマに部分指導案を立案し教材研究を行う
11	白取 真実	遊びを考える (2)	部分実習指導案の完成・模擬保育の練習
12	白取 真実	模擬保育 (1)	指導案、計画に基づき実践を行う
13	白取 真実	模擬保育 (2)	実践後の振り返りから改善点を見つけグループで話し合う
14	白取 真実	園全体の人間関係 (1)	保育者同士の人間関係について学ぶ
15	白取 真実	園全体の人間関係 (2)	保護者・地域との連携について学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。
テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。
子どもの様子を思い描きながら、文章を作成すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	15時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された課題には、コメントを記入して返却する。

科目名				担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと環境 Children and Environment				永井 理恵子	単独	卒 必	幼 必	保 必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験		
1	演習	通信	1	30時間	4210	有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育現場で子どもと実践した「環境を通した保育」の実際を講義する。
−	−	

授業の概要

領域「環境」の指導に関する、乳児・幼児を取り巻く環境や、乳児・幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、専門的知識・具体的技能を調和的に学習する。

授業の目的

乳幼児期に子どもたちが園内外の自然や文化、遊具や教材などに積極的に関わり、生きる力を培うことができるようにするためには、どのような準備が必要であるかを考察する。子どもの環境は時代とともに変化するが、時代を経ても変わらない大切な経験とは何かを環境をとおして検討することにより、領域「環境」の意味を探求する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳児・幼児を取り巻く環境について、その種類、望ましい在り方を理論的・実際的に理解できるとともに、具体的な環境設定を想定、判断することができるようになる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

榎沢良彦他『シードブック 保育内容 環境 第3 版』建帛社

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

テキストを読むだけでなく、「要領」「指針」も読む。また準備学習にも記載のとおり、実際の環境を見る目をもって勉学すること。

学習のアドバイス

領域「環境」の学習には、実際の在り方を見ることも非常に重要です。子どもを取り巻く身近な環境に常に興味関心をもって見る目をもってください。それがレポートや試験の成果に表れます。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	保育・教育における環境	「環境」の役割とその意義についての基本を学ぶ
2	永井 理恵子	領域「環境」の意義	「要領」「指針」における「環境」の基本的概念について学ぶ
3	永井 理恵子	乳児・幼児を取り巻く環境	乳児・幼児を取り巻く環境の全体像を知り、その種類や内容を理解する
4	永井 理恵子	5 領域と、領域「環境」	「要領」「指針」に示される5 領域と、領域「環境」との関係を理解する
5	永井 理恵子	発達における環境の意義	環境と、心身の発達における重要性について理解する
6	永井 理恵子	環境との関わりの理解	環境との関わりかたについて専門的概念（能動性、好奇心、探究心、有能感等）をとおして理解する
7	永井 理恵子	身近な環境と思考の発達	乳児・幼児の認知的発達と、環境の寄与と役割について考える
8	永井 理恵子	数量・図形との関わり	数量・図形との関わりと、算数科とのつながりについて理解する 数量・図形概念を、身近な環境や遊具などをとおして形成する筋道を知る
9	永井 理恵子	動物との関わり	動物との関わりと、理科とのつながりについて具体的に理解する 動物への愛着を、実際の体験によって五感をとおして習得する道筋を知る
10	永井 理恵子	植物との関わり	植物との関わりと、理科とのつながりについて具体的に理解する 植物の美しさや自然の偉大さを、実際の体験によって五感をとおして習得する筋道を知る
11	永井 理恵子	言葉との関わり	言葉との関わりと、国語科とのつながりについて具体的に理解する 絵本には特に力を入れて学び、紙芝居などについても学ぶ
12	永井 理恵子	社会との関わり	情報、施設、地域社会との関わりと、社会科・生活科とのつながりを理解する
13	永井 理恵子	総合的な園内環境の分析	学んできた種々の環境を総合的に考慮して園内環境を分析する力を養う
14	永井 理恵子	総合的な園内環境の計画	園内環境を、仲間と話しながら自分でデザインしてみる
15	永井 理恵子	総括	教育・保育における「環境」について振り返る

レポート作成等の方法・留意点

多様なテキストや実際に触れながら勉学し、その成果をレポートに記述しましょう。参考文献を丸写しせず、一部を参考・引用しながら、自分の考えを述べてください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省　『保育所保育指針』を常に手元に置き、常にそれらを読みながら勉学してください。「環境」の学習には領域「環境」の箇所のみならず、冒頭部分も関係しています。また、子どもにとって身近な環境は、我々の生活環境に存在しています。そうした様々な環境に注意を向けながら学習してください。	15時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと言葉 Infants and language	近藤 万里子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信	1	30時間	4220	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
－	－	

授業の概要

乳幼児期からの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げられるように、必要な知識や技術を実践的に学ぶ。また、DVD の視聴により実際の理解を促す。

授業の目的

子どもの健やかな育成に貢献できる保育者になるため、言葉を中心とする子どもの生活や遊びについての技術や理解の促進を目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの発達と言語習得過程について理解することができる。
②	言葉を育てる保育者の役割について理解し、教材やことば遊び等の知識を習得し、言葉を豊かにするための環境構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3 版』みらい
文部科学省『幼稚園教育要領< 平成29年告示>』
厚生労働省『保育所保育指針< 平成29年告示>』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領< 平成29年告示>』

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説』

試験対策

試験は記述式の問題となります。日頃から文章で学んだことや自分の考えを表現する練習をしておいて下さい。

学習のアドバイス

レポート作成の上で参考にした文献は、参考文献欄に必ず記載すること。
レポートには、教科書や参考文献を理解した上での自分の考えを書いて下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	導入・領域「言葉」の意義	学習計画を立てる、領域「言葉」について理解する
2	近藤 万里子	幼稚園教育要領及び 保育所保育指針	幼稚園教育要領及び保育所保育指針について学ぶ
3	近藤 万里子	言語発達と保育者のことば(1)	乳幼児期の言葉の発達と保育者の関わりについて学ぶ
4	近藤 万里子	言語発達と保育者のことば(2)	幼児期の言葉の発達と保育者の関わりについて学ぶ
5	近藤 万里子	言語発達と保育者のことば(3)	幼児期の言葉の発達に即した保育者の言葉を考える
6	近藤 万里子	言語発達と表現	子どもの言葉と表現について考える
7	近藤 万里子	言語発達と順序	レディネスについて学ぶ
8	近藤 万里子	言語発達と人間関係	集団の中で育まれる言葉について理解する
9	近藤 万里子	言語発達と環境	ことばを豊かにする環境について学ぶ
10	近藤 万里子	言葉の特徴	言葉遊びについて知る
11	近藤 万里子	絵本の探求(1)	子どものイメージする力を理解する
12	近藤 万里子	絵本の探求(2)	絵本作りについて学ぶ
13	近藤 万里子	ことば遊び	ことばを豊かにする「ことば遊び」
14	近藤 万里子	劇遊び(1)	見立てやごっこ遊びについて学ぶ
15	近藤 万里子	劇遊び(2)	劇遊びを通し、イメージを体現化する楽しさを体感する

レポート作成等の方法・留意点

教科書を十分読み込んだ上で、他の文献にもあたって下さい。また、日頃から、子どもの言葉に関心を持ち、新聞やニュースにも気を配るようにしましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	教科書を読み、各章ごとに自分なりにまとめておくこと。初めて目にする用語については、きちんと調べ、知っている用語は、人に説明できる程度に理解を深めておくこと。	15時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと表現 Expression with children	髙橋 裕勝、天野 泉 若原 真由子	オムニバス	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	スクーリング	2	30時間	4230	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	―	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの表現の理解と保育者としての表現力を実践的に指導する。
―	―	

授業の概要

幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身に付ける。乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について、子どもの表現と関連付けて理解を深めると共に、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な場面を想定した保育を構想し、実現する方法を学ぶ。

授業の目的

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針等に示される保育の内容を理解した上で、領域「表現」に焦点を当て、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識と技術を実践的に習得する。表現は、豊かな環境刺激による心の動きを動因として出現するので、表現の源となる環境の充実の方法と、その表現のための技術を実践的に習得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの心身の発達や領域「表現」の位置付け、ねらい及び内容並びに全体構造についての理解を深める。
②	様々な表現の基礎的な知識・技能を実践的に学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。
③	乳幼児期に育みたい資質能力を理解し、豊かな感性や創造性、表現力を養い、想像性を豊かにすることを目指す。

成績評価方法及び基準

発表	40%	担当教員3名で総合的に評価します。 発表・ディスカッションは、積極的に取り組むこと。
課題提出	20%	
意欲・態度	20%	
ディスカッション	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

無藤隆他『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、発表や課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

自分自身が表現活動に熱中し思い切り楽しむこと。お互いの発言や表現を認め合い協力的に行動すること。
動きやすく汚れてもよい服装や靴で受講すること。
授業に不要な物、スマートフォンはカバンにしまい、机上の学習環境と見栄えを整えること。
指示がある場合を除き、スマートフォンの使用を禁止する。飲食は授業の前に済ませておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原 真由子	領域「表現」のねらい及び内容の理解	乳幼児の遊びにおける領域「表現」の位置づけについて理解する。また、生成過程における「感じる」「気付く」「考える」といった内的な作用の重要性について理解する。
2	若原 真由子	乳幼児期の表現と小学校教科のつながり	小学校低学年音楽科・生活科・図画工作での学習内容を理解し、「乳幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」と関連付けながら学びの連続性について考える。
3	若原 真由子	乳幼児の表現と発達理解	DVD 等の映像及び具体的な事例から乳幼児の表現の芽生えや発達について理解する。
4	若原 真由子	豊かな表現のために	乳幼児の発達に即した合唱や合奏、リズム遊びの展開例を考える。わらべうたを含めた色々な楽曲を体験することを通し、音楽的な「学び」について考える。
5	若原 真由子	音楽活動におけるICT	ICT を活用した音楽表現活動を具体的に考え、PPT を用いて学習のまとめを発表する。
6	天野 泉	乳幼児の造形表現と発達	映像及び具体的な事例を用いながら乳幼児にとっての造形表現の意義について理解する。
7	天野 泉	表現の評価と援助の方法	幼稚園教育における評価の考え方を踏まえ、乳幼児期の表現の在り方について考える。
8	天野 泉	身近な素材を用いた表現 ～素材の特性を活かして～	身近な素材を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し素材の特徴や活動の面白さ、留意点などについて考える。
9	天野 泉	幼児の表現の理解(1)	乳幼児の作品などを通して幼児の素朴な表現を理解し、乳幼児を取り巻く環境や発達を踏まえ分析的に読み取る方法を学ぶ。
10	天野 泉	幼児の表現の理解(2)	乳幼児の描画発達の先行研究から様々な切り口での描画発達の流れを理解し、乳幼児の描画における表現の意味について学ぶ。
11	髙橋 裕勝	乳幼児期の発育・発達と表現	乳幼児の育ちや発達を「身体表現」の視点から映像資料などを用いて捉える。
12	髙橋 裕勝	生活の中における乳幼児の身体表現(1)	画像・映像資料を通して、乳幼児の素朴な身体表現を見出す。
13	髙橋 裕勝	生活の中における乳幼児の身体表現(2)	画像・映像資料を通して、乳幼児のイメージを豊かにする環境構成や言葉がけについて考える。
14	髙橋 裕勝	保育者の身体表現(1)	音楽を「聴く」、絵画を「観る」ことから生まれるイメージを自分なりに身体で表現する。
15	髙橋 裕勝	保育者の身体表現(2)	音楽を「聴く」、絵画を「観る」ことから生まれるイメージを仲間と共同して身体で表現する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。 特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	毎回の授業内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。 授業で学んだ知識・技能を反復練習し、継続的に自身の表現力の向上に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	発表・作品は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
学校保健Ⅰ（対象：2018 年度入学生まで） School health Ⅰ	中村 千景	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2320	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	小学校・中学校・高等学校での養護教諭経験を活かし、学校でみられる疾病の実際や保健管理のあり方を教授する。
－	－	

授業の概要

学校保健の構造と領域を理解し、具体的な学校保健活動の進め方について学ぶ。

授業の目的

子どもの発育・発達を理解した上で、学校保健の役割を理解し、集団の健康管理や健康教育について学ぶことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	健康とは何か、健康の概念について述べることができる。
②	学校や福祉施設などの集団の場での健康管理の重要性について述べることができる。
③	子どもの健康と発達保障の視点から健康教育の重要性について述べることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

瀧澤利行他『新版 基礎から学ぶ学校保健 第2 版』建帛社

参考書

子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議
財団法人厚生労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

自分の考えを問う問題があるので、自分はどう考えるかを書くことができるようにすること。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト・参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにするとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	中村 千景	学校保健の考え方(1)	教育と学校保健、学校保健の概念と構造
2	中村 千景	学校保健の考え方(2)	現代社会における学校保健の役割
3	中村 千景	学校保健の対象としての子ども(1)	幼児期・児童期の発育と発達
4	中村 千景	学校保健の対象としての子ども(2)	思春期の発育発達とからだ・こころの発達
5	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(1)	学校でみられる疾病と健康問題
6	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(2)	学校でみられる生活習慣病と慢性疾患
7	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(3)	学校での感染症と予防
8	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(4)	学校における歯科保健
9	中村 千景	学校保健管理(1)	健康診断と事後指導
10	中村 千景	学校保健管理(2)	子どもの生活管理と指導
11	中村 千景	学校保健管理(3)	学校環境衛生
12	中村 千景	学校安全(1)	安全の考え方と学校安全
13	中村 千景	学校安全(2)	学校安全活動の概要
14	中村 千景	学校保健教育(1)	保健学習・保健指導・その他の保健教育活動
15	中村 千景	学校保健教育(2)	学校保健教育の計画と実践

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書を充分に読み、理解を深めてください。学習した内容について自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。レポートを書くにあたって関心のあることやよく理解できなかったことなどについては他の文献を利用し、利用した場合は、参考文献・引用文献（引用箇所も明記）をレポートの参考文献欄に明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画の題目・内容と教科書・サブテキストの題目を同一としている。教科書だけではなく、サブテキストもあわせてよく読むこと。	60時間
復習	教科書やサブテキストで学んだ内容を更に深めるために、参考書を利用し理解すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
学校保健Ⅰ（対象：2019年度入学生以降） School health Ⅰ	中村 千景	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4370	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	小学校・中学校・高等学校での養護教諭経験を活かし、学校でみられる疾病の実際や保健管理のあり方を教授する。
−	−	

授業の概要

学校保健の構造と領域を理解し、具体的な学校保健活動の進め方について学ぶ。

授業の目的

子どもの発育・発達を理解した上で、学校保健の役割を理解し、集団の健康管理や健康教育について学ぶことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	健康とは何か、健康の概念について述べることができる。
②	学校や福祉施設などの集団の場での健康管理の重要性について述べることができる。
③	子どもの健康と発達保障の視点から健康教育の重要性について述べることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

瀧澤利行他『新版 基礎から学ぶ学校保健 第2 版』建帛社

参考書

子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議
財団法人厚生労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

自分の考えを問う問題があるので、自分はどう考えるかを書くことができるようにすること。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト・参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにするとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	中村 千景	学校保健の考え方(1)	教育と学校保健、学校保健の概念と構造
2	中村 千景	学校保健の考え方(2)	現代社会における学校保健の役割
3	中村 千景	学校保健の対象としての子ども(1)	幼児期・児童期の発育と発達
4	中村 千景	学校保健の対象としての子ども(2)	思春期の発育発達とからだ・こころの発達
5	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(1)	学校でみられる疾病と健康問題
6	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(2)	学校でみられる生活習慣病と慢性疾患
7	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(3)	学校での感染症と予防
8	中村 千景	学校での疾病予防と健康増進(4)	学校における歯科保健
9	中村 千景	学校保健管理(1)	健康診断と事後指導
10	中村 千景	学校保健管理(2)	子どもの生活管理と指導
11	中村 千景	学校保健管理(3)	学校環境衛生
12	中村 千景	学校安全(1)	安全の考え方と学校安全
13	中村 千景	学校安全(2)	学校安全活動の概要
14	中村 千景	学校保健教育(1)	保健学習・保健指導・その他の保健教育活動
15	中村 千景	学校保健教育(2)	学校保健教育の計画と実践

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書を充分に読み、理解を深めてください。学習した内容について自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。レポートを書くにあたって関心のあることやよく理解できなかったことなどについては他の文献を利用し、利用した場合は、参考文献・引用文献（引用箇所も明記）をレポートの参考文献欄に明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画の題目・内容と教科書・サブテキストの題目を同一としている。教科書だけではなく、サブテキストもあわせてよく読むこと。	60時間
復習	教科書やサブテキストで学んだ内容を更に深めるために、参考書を利用し理解すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育相談 Educational Counseling	五十嵐 元子	単独	卒	幼	保
			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2350	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	臨床心理士としての幼稚園・保育所・小学校への発達臨床コンサルテーションの経験から、教育相談の基礎知識や必要な技能について解説する。
－	地域理解力	

授業の概要

保育者には子ども一人ひとりの発達や家庭の状況に応じた教育相談的な対応が求められます。また、家庭、地域社会、各種相談機関等と連携して子どもを共に育てていくことも大切です。教育相談の基礎となるカウンセリングを学び、更に事例を通してより具体的な教育相談のあり方を学んでいきます。

授業の目的

今日、子育てを取り巻く社会状況が変化し続け、それと共に家族形態・生活スタイル・育児観などが多様化する中、子どもの発達、家庭の問題を理解し、保育者として、どのような姿勢で相談に臨み、支援を展開していくかを学ぶことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	現代の子育て事情と家族のあり方を学び、保護者の理解を深める。
②	相談場面におけるカウンセリングの姿勢や技術、専門機関との連携に関する基礎知識を身につける。
③	事例を通して、親子の様子から、具体的な支援を考案することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

福丸由佳他『新保育ライブラリ 保育相談支援』北大路書房

参考書

荒井聡『具体例で学ぶ 保育園での保護者支援』群青社［発売・星雲社］
一般社団法人日本保育学会 保育臨床相談システム検討委員会『地域における保育臨床相談のあり方』ミネルヴァ書房

試験対策

試験は主に教科書にある内容を習得し、かつ自分の考えが述べられるかを見ていきます。問題形式は、論述です。
繰り返し教科書を読み、知識を保育現場で活用する気持ちで試験に臨んでください。

学習のアドバイス

日頃から、家族と子育てのあり方に関するトピックを意識しておくと、教科書の内容をより深く理解することができます。
様々な場面を思い浮かべながら、保育者として、自分だったらどう対応するかを考えるようにしてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	保育相談・教育相談のめざすもの	相談の意義やねらいを学ぶ
2	五十嵐 元子	現代の子育てに関する問題	子育てを取り巻く社会的状況と問題を考える
3	五十嵐 元子	子育てに問題を抱える家族と支援	家族の見方・支援の方法を学ぶ
4	五十嵐 元子	子どもの育ちと園での経験	家庭と園の生活の違いを考慮した支援を学ぶ
5	五十嵐 元子	園における保育相談	園で実践される具体的な相談のあり方を学ぶ
6	五十嵐 元子	相談における連携	専門機関の基礎知識と連携の在り方を学ぶ
7	五十嵐 元子	発達の気になる子どもの理解と支援	発達障害がある子どもの困難と支援
8	五十嵐 元子	発達の気になる子どもの家族の理解と支援	障害受容のプロセスを知り、支援を考える
9	五十嵐 元子	あらゆる養育の課題	保護者の不安や悩みを捉え、支援を考える
10	五十嵐 元子	養育に関する課題を抱える家庭への支援	児童虐待と家族支援について考える
11	五十嵐 元子	地域の子育て家庭に対する相談	地域の親子の生活を知り、支援方法を考える
12	五十嵐 元子	施設における相談	各福祉施設の特徴を捉え、相談のあり方を学ぶ
13	五十嵐 元子	保育相談に求められる姿勢と技法	カウンセリング理論を活かした保護者とのかかわり方を学ぶ
14	五十嵐 元子	保育相談の具体的な流れ	相談のプロセスを学ぶ
15	五十嵐 元子	保育者の成長と研修の在り方	自己研鑽の意味と保育者としてのキャリアを学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。
テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点と重要事項を捉えるようにする。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。適宜、質問には受け応える。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
幼児理解・教育相談 Understanding Infants / Educational Counseling	五十嵐 元子	単独	卒選	幼必	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4500	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	臨床心理士としての幼稚園・保育所・小学校への発達臨床コンサルテーションの経験から、教育相談の基礎知識や必要な技能について解説する。
−	地域理解力	

授業の概要

保育者には子ども一人ひとりの発達や家庭の状況に応じた教育相談的な対応が求められます。また、家庭、地域社会、各種相談機関等と連携して子どもを共に育てていくことも大切です。教育相談の基礎となるカウンセリングを学び、更に事例を通してより具体的な教育相談のあり方を学んでいきます。

授業の目的

本授業は、子ども一人ひとりの発達や特性を理解し、家庭の状況に応じた教育相談的な対応を学ぶとともに、家庭、地域社会、各種相談機関等との連携の方法を身につけることが目的である。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育現場における教育・保育相談の意義と課題、関連する心理学における基礎的理論・概念を説明できる。
②	幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動の意味を考え、幼児、児童、生徒が発するサインに気づく方法を身につけ、教育・保育現場におけるカウンセリングマインドの重要性を述べることができる。
③	受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングにおける基礎的な姿勢や技術を理解し、実践することができる。
④	いじめ・不登校・不登園・虐待・非行等の課題に対する、幼児、児童及び生徒の発達段階や発達課題に応じた相談計画を作成し、園内・校内の体制整備、外部の専門機関（地域の医療・福祉・心理等の専門機関）との連携の必要性を解説できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新時代の保育双書 子どもの理解と保育・教育相談』みらい

参考書

荒井聡『具体例で学ぶ 保育園での保護者支援』群青社［発売・星雲社］
福丸由佳他『新保育ライブラリ 保育相談支援』北大路書房

試験対策

試験は主に教科書にある内容を習得し、かつ自分の考えが述べられるかを見ていきます。問題形式は、論述問題です。繰り返し教科書を読み、知識を保育現場で活用する気持ちで試験に臨んでください。

学習のアドバイス

日頃から、家族と子育てのあり方に関するトピックを意識しておくと、教科書の内容をより深く理解することができます。
様々な場面を思い浮かべながら、保育者として、自分だったらどう対応するかを考えるようにしてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	教育・保育相談の意義、役割、姿勢	基本的な相談の考え方について
2	五十嵐 元子	子どもの発達理解と相談・支援	子どもの発達を理解する時の理論や理解の方法（発達アセスメント）を学ぶ
3	五十嵐 元子	保護者理解	保護者の心理を捉え、保護者との関係の持ち方を考える
4	五十嵐 元子	子ども理解の方法と援助	子ども理解の方法（観察法・エピソード記述）を知り、それに応じた援助を考える
5	五十嵐 元子	カウンセリングマインドとカウンセリングの基礎	カウンセリングの基礎・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む) の理論および方法
6	五十嵐 元子	カウンセリングの技法	代表的な技法について実例を交えながら学習
7	五十嵐 元子	カウンセリングの実践	代表的な技法を実践しながら学ぶ
8	五十嵐 元子	発達的な問題を背景とした相談(1)	発達障害とその周辺にある子どもたちへの対応を考える
9	五十嵐 元子	発達的な問題を背景とした相談(2)	発達障害とその周辺にある子どもたちの保護者への支援を考える
10	五十嵐 元子	園・地域における専門家との連携による相談・支援(1)	保育におけるコンサルテーション・保育コンサルテーションの事例
11	五十嵐 元子	園・地域における専門家との連携による相談・支援(2)	園・地域における人的資源（専門家）と社会資源　地域における専門家の連携
12	五十嵐 元子	園・地域における専門家との連携による相談・支援(3)	園内における同僚性とカンファレンス・保育教育相談における倫理
13	五十嵐 元子	保護者への対応	要望や方針、親子関係作りと親育ちについて
14	五十嵐 元子	教育相談の事例への実践	事例について実際に問題の捉え方や対応を考える
15	五十嵐 元子	まとめ	授業の総復習

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。
教科書・参考書にある事例については、支援のねらいと方法を理解すること。
テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。質問には適宜受け応える。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
音楽概論（対象：2018年度入学生まで） an introduction to music				若原　真由子		単独	卒 選	幼 選	保 選
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験			
1	講義	通信	2	30時間	2420	有			

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	幼稚園教諭及び音楽科教育の実務経験を活かして、基本的な楽典を習得して保育における音楽表現活動を実践できるよう指導する。
フィードバック能力	－	

授業の概要

保育者として必要な音楽の基礎知識について学ぶ。具体的には音楽の構造や音楽史、楽譜の記号、音符の種類、調号などの楽典の理解に重点を置く。さらに、音階、調、和音、コード等の仕組みも理解する。簡単な弾き歌いやコードによる伴奏の創作の技法も学び、保育における音楽表現の初歩的技法を身に付ける。

授業の目的

保育者として必要な音楽の基礎知識について理解することを目的とする。
子ども達に音楽を体験させるために必用な知識・技術を身に付け、実践で役立てることができるようにすることを目的とする。具体的な内容としては楽譜に書かれている記号、音符の種類、調号など楽譜を理解することを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	音楽理論を学び、音楽をより深く理解し、実践に役立たせる。 楽譜を見て歌う、幼児の声の高低に合わせて変調する、旋律から伴奏を作成するなど、実践において必要となる知識や技術を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社

参考書

カワイ生涯学習推進グループ『知っておきたいおとなのための音楽知識』カワイ出版
土田京子『改訂版これだけは知っておきたい土田京子の説語り楽典講座』ヤマハミュージックメディア
土田京子『改訂版これだけは知っておきたい土田京子の説語り和声法講座』ヤマハミュージックメディア

試験対策

試験は教科書に記載されている学習内容にそって出題する。教科書やサブテキストの内容を十分理解しておくことが大切である。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト、参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにして下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原　真由子	楽譜の仕組み(1)	音符と休符について
2	若原　真由子	楽譜の仕組み(2)	拍子記号について
3	若原　真由子	楽譜の仕組み(3)	いろいろな拍子について－単純拍子・複合拍子・混合拍子
4	若原　真由子	音の高さ(1)	五線譜について
5	若原　真由子	音の高さ(2)	譜表についてⅠ－音部記号と音名
6	若原　真由子	音の高さ(3)	譜表についてⅡ－変化記号と派生音
7	若原　真由子	音の高さ(4)	譜表についてⅢ－強弱記号と速度記号
8	若原　真由子	音の高さ(5)	譜表についてⅣ－発想記号と奏法記号
9	若原　真由子	音の高さ(6)	譜表についてⅤ－反復記号と略記法
10	若原　真由子	音の仕組み(1)	音程について－種類と複音程
11	若原　真由子	音の仕組み(2)	音階について－長音階・短音階 / 属音・下属音・導音
12	若原　真由子	音の仕組み(3)	調について－調号 / 移調 / 関係調
13	若原　真由子	音の仕組み(4)	和音について－種類 / 転回形 / 終止形
14	若原　真由子	形式	形式のいろいろについて－楽節と動機など
15	若原　真由子	和音と伴奏	和音の進行や音型について

レポート作成等の方法・留意点

第1 回課題について：
テキストをよく読み、内容を理解し、サブテキストを参照しながら解答して下さい。
第2 回課題について：
これまで学んだ知識を基に解答して下さい。また、伴奏は複雑である必要はなく、幼児が曲の雰囲気やイメージ、リズムを感じながら歌えるように、主要三和音を基にして伴奏の音型を工夫して下さい。学習した知識を活かし、楽譜は正確に書きましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	題目部分のテキストの内容をよく読み、理解しておくこと。また、提出したレポートは必ず読み返して学習内容を振り返り、確実に身に付けること。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された2課題を添削し、不十分な個所の再学習を促す。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
音楽概論（対象：2019 年度入学生以降） an introduction to music	若原　真由子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4430	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	幼稚園教諭及び音楽科教育の実務経験を活かして、基本的な楽典を習得して保育における音楽表現活動を実践できるよう指導する。
フィードバック能力	−	

授業の概要

保育者として必要な音楽の基礎知識について学ぶ。具体的には音楽の構造や音楽史、楽譜の記号、音符の種類、調号などの楽典の理解に重点を置く。さらに、音階、調、和音、コード等の仕組みも理解する。簡単な弾き歌いやコードによる伴奏の創作の技法も学び、保育における音楽表現の初歩的技法を身に付ける。

授業の目的

保育者として必要な音楽の基礎知識について理解することを目的とする。
子ども達に音楽を体験させるために必用な知識・技術を身に付け、実践で役立てることができるようにすることを目的とする。具体的な内容としては楽譜に書かれている記号、音符の種類、調号など楽譜を理解することを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	音楽理論を学び、音楽をより深く理解し、実践に役立たせる。 楽譜を見て歌う、幼児の声の高低に合わせて変調する、旋律から伴奏を作成するなど、実践において必要となる知識や技術を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

教芸音楽研究グループ『改訂 音楽通論』教育芸術社

参考書

カワイ生涯学習推進グループ『知っておきたいおとなのための音楽知識』カワイ出版
土田京子『改訂版これだけは知っておきたい土田京子の説語り楽典講座』ヤマハミュージックメディア
土田京子『改訂版これだけは知っておきたい土田京子の説語り和声法講座』ヤマハミュージックメディア

試験対策

試験は教科書に記載されている学習内容にそって出題する。教科書やサブテキストの内容を十分理解しておくことが大切である。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト、参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにして下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原　真由子	楽譜の仕組み(1)	音符と休符について
2	若原　真由子	楽譜の仕組み(2)	拍子記号について
3	若原　真由子	楽譜の仕組み(3)	いろいろな拍子について－単純拍子・複合拍子・混合拍子
4	若原　真由子	音の高さ(1)	五線譜について
5	若原　真由子	音の高さ(2)	譜表についてⅠ－音部記号と音名
6	若原　真由子	音の高さ(3)	譜表についてⅡ－変化記号と派生音
7	若原　真由子	音の高さ(4)	譜表についてⅢ－強弱記号と速度記号
8	若原　真由子	音の高さ(5)	譜表についてⅣ－発想記号と奏法記号
9	若原　真由子	音の高さ(6)	譜表についてⅤ－反復記号と略記法
10	若原　真由子	音の仕組み(1)	音程について－種類と複音程
11	若原　真由子	音の仕組み(2)	音階について－長音階・短音階 / 属音・下属音・導音
12	若原　真由子	音の仕組み(3)	調について－調号 / 移調 / 関係調
13	若原　真由子	音の仕組み(4)	和音について－種類 / 転回形 / 終止形
14	若原　真由子	形式	形式のいろいろについて－楽節と動機など
15	若原　真由子	和音と伴奏	和音の進行や音型について

レポート作成等の方法・留意点

第1 回課題について：
テキストをよく読み、内容を理解し、サブテキストを参照しながら解答して下さい。
第2 回課題について：
これまで学んだ知識を基に解答して下さい。また、伴奏は複雑である必要はなく、幼児が曲の雰囲気やイメージ、リズムを感じながら歌えるように、主要三和音を基にして伴奏の音型を工夫して下さい。学習した知識を活かし、楽譜は正確に書きましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	題目部分のテキストの内容をよく読み、理解しておくこと。また、提出したレポートは必ず読み返して学習内容を振り返り、確実に身に付けること。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された2課題を添削し、不十分な個所の再学習を促す。

科目名				担当教員	担当形態	履修形態		
教職論 The teaching profession theory				小林 賢司	単独	卒	幼	保
						選	必	～15必 16～選
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験		
1	講義	通信	2	30時間	2070	有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	小学校長、区教育委員会での指導室長や指導主事としての経験を活かして、教職に就く者としての基本的な知識、教師として身に付けるべき資質能力等について具体的に指導する。
－	地域理解力	

授業の概要

今日及びこれからの我が国の教育の在り方や求められる教師像を踏まえ、教師として必要な基本的な知識・技能・態度を学ぶ。

授業の目的

教育の目的と役割、教職の使命、教師の資質能力、教員の職務と研修、教員の服務と身分保障などについての基本的な知識を習得することを目指している。そして、幼稚園の教師としての豊かな人間性や資質能力の育成を目的としている。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園教育に携わる者として、自己の生き方・在り方や適性について考えられるようになる。
②	教師として必要な実践に活かせる資質能力や教育的素養を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して修得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

赤星晋作『新教職概論 改訂新版』学文社

参考書

吉田辰雄他『教職入門』図書文化社
佐島群巳他『教師をめざす人のために〔教職論〕』学文社
小池俊夫他『次代を創る教師論』学文社

試験対策

試験は論文形式で行う。教科書の内容に基づくもの及び学習者の考えを問うものの両面から出題する。教科書を熟読し理解するとともに、自分の考えを確立しておくことが大切である。また、日頃から、教育の動向に関心をもつようにすること。

学習のアドバイス

1.教科書や参考文献等を通して理解を確かなものにしてレポートに反映する。
2.教科書で学んだことと、実際の教育の現状を対比するなどして、自分の考えをまとめておくとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	教職論を学ぶに当たって	・教職志望の理由　・教職論とは
2	小林 賢司	教育観と教職観	・教育とは何か　・３つの教職観
3	小林 賢司	教職の意義と役割	・教職とはどんな仕事か　・教職の意義　・教員の役割
4	小林 賢司	教師の資質能力	・資質能力とは ・教師に求められる資質能力（技能的・人格的側面）
5	小林 賢司	教員免許制度	・教員免許状の種類　・教員免許制度の総合化　・弾力化と更新制
6	小林 賢司	教師の養成教育	・教員養成カリキュラムの改革　・教師の質の保証
7	小林 賢司	教育実習と介護等体験(1)	・教育実習の意義　・教育実習の事前・事後の指導
8	小林 賢司	教育実習と介護等体験(2)	・介護等体験の意義　・介護等体験の事前・事後の指導
9	小林 賢司	教員の採用と研修(1)	・教員採用の方法　・採用者数の動向
10	小林 賢司	教員の採用と研修(2)	・教員の研修の保障　・研修の実際
11	小林 賢司	教師の職務(1)	・教師の身分　・教師の服務と分限　・懲戒及び身分保障
12	小林 賢司	教師の職務(2)	・学校（幼稚園）の教職員組織　・教師の職務
13	小林 賢司	教員評価	・教員評価の導入　・近年の教員評価の動向と課題
14	小林 賢司	これからの学校と教師	・これからの学校　・これからの教師の在り方　・進路選択
15	小林 賢司	学習のまとめ	・「教職論」のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

1.教科書及び参考書を熟読した上で、テーマについてまとめる。
2.テキストの引き写しは、評価の対象にならない。必ず自分で理解したうえで、自分の言葉でレポートにまとめる。
3.引用及び参考文献については、著者名、書名、出版社名、発行年等を参考文献欄に明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	1.事前に教科書やサブテキストをよく読み、専門的な用語や疑問に思ったことなどを調べておく。 2.レポートで指摘されたことは、必ず補習し確かな理解を図る。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育行政学（対象：2018年度入学生まで）	小林 賢司	単独	卒	幼	保
Science of educational administration			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3020	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	区の教育委員会の指導室長及び指導主事としての経験を活かし、実例を通して具体的に解説するなどして、教育行政をより卑近なものと感じられるように指導する。
－	－	

授業の概要

本科目では、現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。

授業の目的

社会状況の変化が学校教育に及ぼす影響とそれに対応するための教育政策の動向、現代公教育制度の法的・制度的な仕組みに関する基礎的な知識とそこに内在する課題のほか、学校と地域との連携や協働、学校管理下における事故・災害等の危機管理とその取組について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育に関する社会的事項については、学校を巡る近年の様々な状況の変化、子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題、近年の教育政策の動向、諸外国の教育事情や教育改革の動向などについて理解する。また、教育に関する制度的事項については、公教育の原理及び理念、公教育制度を構成していく教育関係法規、教育制度を支える教育行政の理念と仕組み、公教育制度を巡る諸課題について理解する。
②	学校と地域との連携については、地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法、地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解する。
③	学校の安全への対応については、学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性、学校を取り巻く新たな安全上の課題などについて理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して習得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小松茂久『教育行政学［改訂版］教育ガバナンスの未来図』昭和堂

参考書

河野和清『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房
石弘光『新・学問のススメ－生涯学習のこれから』講談社現代新書
喜多明人他『（提言）学校安全法－子どもと学校を守る安全指針』不磨書房
文部科学省『諸外国教育動向　2010年度版』明石書店

試験対策

教科書の内容を十分に理解するとともに、テレビのニュースや新聞などを通して、教育行政、学校教育、子どもの状況などについて広く情報を得るように努めてください。

学習のアドバイス

・サブテキストの研究課題や理解度テストを通して自分の理解の度合いを評価してください。
・教科書や参考文献を通して得られた自己の考えや意見をレポートに反映してください。
・教科書や参考文献から引用しただけのレポートは評価できません。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	教育行政学を学ぶにあたって	教育行政学の学び方について
2	小林 賢司	教育行政のフロンティア－教育の方向性を探る－	公教育制度の成立と教育行政の歴史、教育行政の活動と領域
3	小林 賢司	教育行政と地方分権改革	中央と地方の教育行政機関、地方自治体における教育改革
4	小林 賢司	教職員改革と人事行政	教員の養成・採用・研修、新たな教員像と教員養成改革
5	小林 賢司	子どもの生活と教育課程行政	子どもの生活の変容、学習指導要領と教科書
6	小林 賢司	教育費と教育財政	教育にかかる費用、教育費を担う仕組み、 教育費をめぐるをさまざまな問題と格差
7	小林 賢司	生涯学習と社会教育行政	わが国の社会教育の展開、生涯学習社会とその教育行政
8	小林 賢司	少子高齢化社会と教育行政	少子高齢化問題と教育ガバナンス、少子高齢化施策と教育ガバナンスの課題
9	小林 賢司	教育福祉と教育行政	教育福祉とは、教育福祉実践と教育行政、教育と福祉の接合
10	小林 賢司	[働くこと]をめぐる教育ガバナンス	学校教育のなかの「働くこと」、 学校教育以外の場における働くことに関する教育
11	小林 賢司	異文化のなかの子ども・青年	海外・帰国子女の教育、外国籍児童生徒の教育
12	小林 賢司	グローバル時代の教育行政	グローバル時代の学力問題、国際理解と教育政策
13	小林 賢司	児童生徒と学校の安全	語り継ぐ防災教育と生きる力、安全な環境としての学校づくり
14	小林 賢司	世界の教育行政と教育改革	アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国の教育行政と教育政策、 世界の教育政策の方向性
15	小林 賢司	教育行政学を学んで	全体のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

・レポート課題で問われている内容について、教科書や参考書を熟読した上で、論理的に述べてください。
・事前に、述べたいことをノートにまとめ、筋道を明確にして、表現方法にも気をつけながら論述してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	専門的な用語が多く出てくるため、教科書を読むだけでなく、不明な箇所がある場合は他の文献や信頼できる情報ツールを活用して、記載内容を確実に理解できるように努めてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育行政学（対象：2019年度入学生以降） Science of educational administration	小林 賢司	単独	卒	幼	保
			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4470	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	区の教育委員会の指導室長及び指導主事としての経験を活かし、実例を通して具体的に解説するなどして、教育行政をより卑近なものと感じられるように指導する。
－	－	

授業の概要

本科目では、現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。

授業の目的

社会状況の変化が学校教育に及ぼす影響とそれに対応するための教育政策の動向、現代公教育制度の法的・制度的な仕組みに関する基礎的な知識とそこに内在する課題のほか、学校と地域との連携や協働、学校管理下における事故・災害等の危機管理とその取組について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育に関する社会的事項については、学校を巡る近年の様々な状況の変化、子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題、近年の教育政策の動向、諸外国の教育事情や教育改革の動向などについて理解する。また、教育に関する制度的事項については、公教育の原理及び理念、公教育制度を構成していく教育関係法規、教育制度を支える教育行政の理念と仕組み、公教育制度を巡る諸課題について理解する。
②	学校と地域との連携については、地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法、地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解する。
③	学校の安全への対応については、学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性、学校を取り巻く新たな安全上の課題などについて理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して習得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小松茂久『教育行政学［改訂版］教育ガバナンスの未来図』昭和堂

参考書

河野和清『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房
石弘光『新・学問のススメ－生涯学習のこれから』講談社現代新書
喜多明人他『（提言）学校安全法－子どもと学校を守る安全指針』不磨書房
文部科学省『諸外国教育動向　2010年度版』明石書店

試験対策

教科書の内容を十分に理解するとともに、テレビのニュースや新聞などを通して、教育行政、学校教育、子どもの状況などについて広く情報を得るように努めてください。

学習のアドバイス

・サブテキストの研究課題や理解度テストを通して自分の理解の度合いを評価してください。
・教科書や参考文献を通して得られた自己の考えや意見をレポートに反映してください。
・教科書や参考文献から引用しただけのレポートは評価できません。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	教育行政学を学ぶにあたって	教育行政学の学び方について
2	小林 賢司	教育行政のフロンティア－教育の方向性を探る－	公教育制度の成立と教育行政の歴史、教育行政の活動と領域
3	小林 賢司	教育行政と地方分権改革	中央と地方の教育行政機関、地方自治体における教育改革
4	小林 賢司	教職員改革と人事行政	教員の養成・採用・研修、新たな教員像と教員養成改革
5	小林 賢司	子どもの生活と教育課程行政	子どもの生活の変容、学習指導要領と教科書
6	小林 賢司	教育費と教育財政	教育にかかる費用、教育費を担う仕組み、 教育費をめぐるをさまざまな問題と格差
7	小林 賢司	生涯学習と社会教育行政	わが国の社会教育の展開、生涯学習社会とその教育行政
8	小林 賢司	少子高齢化社会と教育行政	少子高齢化問題と教育ガバナンス、少子高齢化施策と教育ガバナンスの課題
9	小林 賢司	教育福祉と教育行政	教育福祉とは、教育福祉実践と教育行政、教育と福祉の接合
10	小林 賢司	[働くこと]をめぐる教育ガバナンス	学校教育のなかの「働くこと」、 学校教育以外の場における働くことに関する教育
11	小林 賢司	異文化のなかの子ども・青年	海外・帰国子女の教育、外国籍児童生徒の教育
12	小林 賢司	グローバル時代の教育行政	グローバル時代の学力問題、国際理解と教育政策
13	小林 賢司	児童生徒と学校の安全	語り継ぐ防災教育と生きる力、安全な環境としての学校づくり
14	小林 賢司	世界の教育行政と教育改革	アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国の教育行政と教育政策、 世界の教育政策の方向性
15	小林 賢司	教育行政学を学んで	全体のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

・レポート課題で問われている内容について、教科書や参考書を熟読した上で、論理的に述べてください。
・事前に、述べたいことをノートにまとめ、筋道を明確にして、表現方法にも気をつけながら論述してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	専門的な用語が多く出てくるため、教科書を読むだけでなく、不明な箇所がある場合は他の文献や信頼できる情報ツールを活用して、記載内容を確実に理解できるように努めてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育の方法と技術 （対象：2018 年度入学生まで）	小林 賢司	単独	卒	幼	保
Methodology and Skill for Education			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3041	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	小学校長、区教育委員会での指導室長や指導主事、都立教育研究所主任指導主事としての経験を活かして、教職に就く者としての基本的な知識、教師として身に付けるべき資質能力等について具体的に指導する。
−	地域理解力	

授業の概要

教育・保育の基本を学び、教師に求められる資質能力や態度を習得する。

授業の目的

幼児教育の専門職として必要な指導内容、指導方法と技術、教材と指導案の作成、情報処理の方法、家庭・地域・学校との連携などについて習得することを目指している。そして、幼稚園の教師として真摯に幼児と向き合い、円滑に関わりながら指導できる実践力を育てることを目的としている。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園教育に携わる者として、幼児教育に関わる様々な保育の方法や技術を理解する。
②	幼児の心に寄り添うことのできる柔軟な対応力や実践的な指導力を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して修得した知識・理解。

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ 幼児教育の方法』北大路書房

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説書』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
民秋言『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』萌文書林

試験対策

試験は、論文形式で出題するので教科書を熟読しておくこと。また、常に教育の動向に関心をもつようにする。

学習のアドバイス

1.日頃から保育現場の状況について、各種報道等に常に関心をもつ。
2.教科書や参考文献等を通して理解を確かにしたうえでレポートに反映する。

授業計画

＜通信学習＞教科書及びサブテキストを基にして次のことを学ぶ。

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	本科目のねらい、 幼児期にふさわしい教育の方法	環境を通しての教育 ・遊びを通しての指導
2	小林 賢司	教育課程と指導計画	幼稚園教育要領に示されている、教育課程と指導計画
3	小林 賢司	教育と指導	教育と指導の違い
4	小林 賢司	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	子どもの主体性と保育者の意図など
5	小林 賢司	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	遊びのなかの学びを規定するものなど
6	小林 賢司	「遊び」について考える、 「遊び」を内容とした教材研究	遊びと学びの関係
7	小林 賢司	方法としてのさまざまな 保育形態、指導案の作成	保育形態のタイプ ・指導案作成の方法など
8	小林 賢司	保育における個と集団の育ち	個の指導と集団の指導
9	小林 賢司	保育における評価、模擬保育、 情報機器の活用	保育における評価・保育の実践と評価など
10	小林 賢司	幼児期の教育と小学校教育の関連	小学校との接続・連携 ・円滑な接続のための幼小の連携など
11	小林 賢司	小学校の生活科〜幼小の関連〜	幼児教育と小学校教育
12	小林 賢司	家庭や地域と連携した保育	保護者とのパートナーシップ、地域の資源や教育力を活かす保育
13	小林 賢司	保育における カウンセリングマインド	基本的な生活習慣の育ちと、子どもの健やかな育ちを支援するための カウンセリングマインド
14	小林 賢司	よりよい保育を目指して	教員の資質能力を高めるために
15	小林 賢司	これからの保育 〜様々なニーズに応えるために〜	多様性に応じた保育

レポート作成等の方法・留意点

1.教科書及び参考書を熟読したうえでテーマについてまとめる。
2.テキストの引き写しは評価の対象にならない。必ず自分で理解したうえで、自分の言葉でまとめる。
3.引用及び参考文献については、著者名、書名、出版社名、発行年等を参考文献欄に明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	1.事前に教科書やサブテキストをよく読み、専門的な用語や疑問に思ったことなどを調べておく。 2.レポートで指摘されたことは、必ず補習し確かな理解を図る。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育の方法と技術 （対象：2019 年度入学生以降）	小林 賢司	単独	卒	幼	保
Methodology and Skill for Education			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4490	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	–	小学校長、区教育委員会での指導室長や指導主事、都立教育研究所主任指導主事としての経験を活かして、教職に就く者としての基本的な知識、教師として身に付ける資質能力等について具体的に指導する。
–	地域理解力	

授業の概要

教育・保育の基本を学び、教師に求められる資質能力や態度を習得する。

授業の目的

幼児教育の専門職として必要な指導内容、指導方法と技術、教材と指導案の作成、情報処理の方法、家庭・地域・学校との連携などについて習得することを目指している。そして、幼稚園の教師として真摯に幼児と向き合い、円滑に関わりながら指導できる実践力を育てることを目的としている。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園教育に携わる者として、幼児教育に関わる様々な保育の方法や技術を理解する。
②	幼児の心に寄り添うことのできる柔軟な対応力や指導力を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して修得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ 幼児教育の方法』北大路書房

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説書』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
民秋言『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』萌文書林

試験対策

試験は、論文形式で出題するので教科書を熟読しておくこと。また、常に教育の動向に関心をもつようにする。

学習のアドバイス

1. 日頃から保育現場の状況について、各種報道に関心をもつ。
2. 教科書や参考文献等を通して理解を確かにしたうえでレポートに反映する。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	本科目のねらい、 幼児期にふさわしい教育の方法	環境を通しての教育 ・遊びを通しての指導
2	小林 賢司	教育課程と指導計画	幼稚園教育要領に示されている、教育課程と指導計画
3	小林 賢司	教育と指導	教育と指導の違い
4	小林 賢司	幼児の主体的な生活を基盤とする 保育	子どもの主体性と保育者の意図など
5	小林 賢司	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	遊びのなかの学びを規定するものなど
6	小林 賢司	「遊び」について考える、 「遊び」を内容とした教材研究	遊びと学びの関係
7	小林 賢司	方法としてのさまざまな 保育形態、指導案の作成	保育形態のタイプ ・指導案作成の方法など
8	小林 賢司	保育における個と集団の育ち	個の指導と集団の指導
9	小林 賢司	保育における評価、模擬保育、 情報機器の活用	保育における評価・保育の実践と評価など
10	小林 賢司	幼児期の教育と小学校教育の関連	小学校との接続・連携 ・円滑な接続のための幼小の連携など
11	小林 賢司	小学校の生活科～幼小の関連～	幼児教育と小学校教育
12	小林 賢司	家庭や地域と連携した保育	保護者とのパートナーシップ、地域の資源や教育力を活かす保育
13	小林 賢司	保育における カウンセリングマインド	基本的な生活習慣の育ちと、子どもの健やかな育ちを支援するための カウンセリングマインド
14	小林 賢司	よりよい保育を目指して	教員の資質能力を高めるために
15	小林 賢司	これからの保育 ～様々なニーズに応えるために～	多様性に応じた保育

レポート作成等の方法・留意点

1. 教科書及び参考書を熟読したうえでテーマについてまとめる。
2. テキストの引き写しは評価の対象にならない。必ず自分で理解したうえで、自分の言葉でまとめる。
3. 引用及び参考文献については、著者名、署名、出版社名、発行年等を参考文献欄に明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	1. 事前に教科書やサブテキストをよく読み、専門的な用語や疑問に思ったことなどを調べておく。 2. レポートで指摘されたことは、必ず補修し確かな理解を図る。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
精神保健 Mental Health	塚原 望	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	2140	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	カウンセラーとして、幼児から高校生及びその保護者を対象とした相談業務の経験を活かし、授業で扱う内容が、現場でどのように活かされているかを念頭に置いたレポート対応を行う。
−	−	

授業の概要

精神保健に関わる基本的な理論を学んだ上で、発達障害等の捉え方の変化、その対応に関する考え方や法令について学ぶ。そしてそれらの知見を現場でどのように活かしていくのか考える。また、主に特別なニーズを持つ子どもをどうアセスメントするか、そのアセスメントに基づいてどのような対応をするのか、レポート課題等を通して身に付けていく。

授業の目的

1.児童に対して発達段階に応じた対応をするために、乳児期から青年期における精神の発達について学ぶ。
2.それぞれの発達段階で起こる諸問題の理解と対応について学ぶ。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育の現場における精神保健の概念を、論理的に把握・説明できる。
②	子どもの成長に関わる諸条件について理解し、説明できる。
③	子どもの問題行動の背景を、理論をもとにして考察し、対応を考えることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

古荘純一『医療・心理・教育・保育の授業と現場で役に立つ　子どもの精神保健テキスト（改訂第2版）』診断と治療社

参考書

連合大学院小児発達学研究科・森則夫他『心の科学増刊 DSM-5 対応神経発達障害の全て』日本評論社
榊原洋一『最新図解 発達障害の子どもたちをサポートする本（発達障害を考える心をつなぐ）』ナツメ社
渡部伸『障害のある子が将来にわたって受けられるサービスのすべて』自由国民社

試験対策

試験は教科書に沿って特に重要だと思われる箇所について出題します。語句説明や、論述問題です。教科書で学んだ知識を活用できるように努めてください。

学習のアドバイス

・教科書や参考文献をよく読んで、要点を捉えてください。
・教科書に書かれていることだけでなく、自身の身の回りにいる子どもの姿を観察し、学んだ理論とつなげるようにしてください。
・レポート作成の上で参考にしたり、引用したりした文献は必ず記載してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	塚原 望	未成年期の分類	未成年者を示す主な用語について、時期的な分類、法令等における分類を概観する。
2	塚原 望	乳幼児期・学童期の精神保健	乳幼児期から学童期までの精神保健にかかわる諸理論・用語について広く学ぶ。
3	塚原 望	思春期・青年期の精神保健	思春期・青年期の精神的な発達における課題や認知的特徴、自立のあり方などについて広く学ぶ。
4	塚原 望	精神医学・保健からみた親子関係	周産期の母親におけるメンタルヘルスや、親子のコミュニケーションとQOLの関連について学ぶ。
5	塚原 望	発達障害　総論	発達障害をめぐる概念について概観する。主にその分類の変遷と定義について学ぶ。
6	塚原 望	ASD（自閉スペクトラム症／自閉スペクトラム障害）	ASDについて、用語の変遷、診断基準と特性、その対応を学ぶ。
7	塚原 望	ADHD（注意欠陥・多動性障害） LD（学習障害）	ADHDについて、用語の変遷と病因、診断とその対応を学ぶ。 また、LDについて、定義、用語の変遷、アセスメントと対応について学ぶ。
8	塚原 望	知的発達症（知的障害）とその他の疾患	知的発達症に関する用語の変遷と、定義、アセスメントと対応について学ぶ。吃音やDCD（発達性協調運動障害）、チックについて、それぞれ定義、対応について学ぶ。
9	塚原 望	発達障害に関連する合併症について	発達障害に関連する合併症について、ASD、ADHD、LDなどのタイプ別に概観する。
10	塚原 望	精神神経疾患の理解	DSM-５、ICD-11における精神疾患の分類について概観しつつ、不安障害、強迫性障害及びその関連障害、その他主要な精神神経疾患について学ぶ。
11	塚原 望	子ども虐待の理解と対応	子どもに対する虐待の定義、日本における実態、リスク要因と対応について学ぶ。
12	塚原 望	子どもの攻撃性	子どもの攻撃性について、いじめの定義と対策や関連する障害について概観する。
13	塚原 望	社会支援の理解とその活用	子どもの精神保健・合理的配慮に関する法令と、社会福祉的支援機関・関連職種について概観する。
14	塚原 望	心理支援	心理的な支援について、心理アセスメントや心理療法の概要について学ぶ。
15	塚原 望	家族支援	家族支援にかかわる考え方と、具体的な支援の在り方について学ぶ。

レポート作成等の方法・留意点

出された課題についてまずは課題文をよく読み、何について記述するのかについて把握してください。「具体的に」説明する部分については、行動レベルで誰が、何を、どうするのかを明確に書くようにしてください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	教科書を読んで、わからない用語を調べるようにしてください。 内容を理解した上で、その具体例を幾つか考えてみてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
特別支援教育 special needs education	三島 秀晃	単独	卒	幼	保
			選	必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	30時間	4480	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士、幼稚園教諭として特別な支援を必要とする幼児を担任した経験を活かし、合理的配慮を中心とした、具体的支援事例を交えながら指導を行う。
–	–	

授業の概要

本授業は、特別な支援を要する子どもの理解に始まり、子ども同士が育ちあっていくためにはどうすればいいかを、グループディスカッションや疑似体験を交えて考える。

授業の目的

本科目では特別支援教育の歴史的背景や概念の理解と、その対象と教育や援助の方法を理解することを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	障害概念の歴史的変遷、特別支援教育に関する制度やシステムについて理解する。
②	個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。
③	特別な支援を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。
④	特別な支援を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働・保育の課題について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%
課題提出	20%
授業への貢献度	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

野田敦史他『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会　演習・保育と障害のある子ども』みらい

参考書

荒牧重人他『外国人の子ども白書』明石書店

試験対策

特別支援（インクルーシブ）教育の概念や制度を理解しておくこと。それぞれの障害特性を理解し、その対応について幅広い視野で考えられるようにしておくこと。

学習のアドバイス

テキストだけで学ぼうとすると実際の姿がよくわからない場合があると思います。障害に関するＥテレの特集や動画などをみると理解が深まると思います。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	三島 秀晃	障害児保育の理念	「障害」概念と障害児保育の歴史的変遷・障害のある子どもの地域社会への参加・包容（インクルージョン）及び合理的配慮の理解と特別支援教育の基本	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(7)	障害の疑似体験から障害による困難を理解し、援助の方法を考える
2	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(1)	知的障害児の理解と援助	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(8)	外国にルーツがある子ども、LGBT の子どもや貧困家庭の子どもなど、特別な配慮の必要な子どもの理解と援助
3	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(2)	発達障害児の理解と援助①（ASD）	特別支援教育の実際(1)	子ども同士の育ちあい・保育現場における生活と遊び環境の工夫・子どもの健康と安全を保障する環境の設定
4	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(3)	発達障害児の理解と援助②（ADHD、LD　等）	特別支援教育の実際(2)	指導計画及び個別の支援計画の作成と職員間の連携と協働
5	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(4)	視覚障害児等の理解と援助	家庭と自治体・関係機関との連携(1)	保護者や家族に対する理解と支援・保護者間の交流や支え合いの意義とその支援
6	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(5)	聴覚障害・言語障害児等の理解と援助	家庭と自治体・関係機関との連携(2)	特別支援教育の制度の理解と地域における自治体や関係機関（特別支援教育コーディネーター、保育所、児童発達支援センター等）小学校との連携・協働
7	三島 秀晃	特別な支援を要する子どもの理解と保育における発達援助(6)	肢体不自由児の理解と援助・重症心身障害児、医療的ケア児の理解と援助	特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	保健・医療における現状と課題・福祉・教育における現状と課題　支援の場の広がりとつながり
8				授業のまとめ	これまでの授業を振り返り、特別支援教育とは何かについて考える

レポート作成等の方法・留意点

・学修した内容がどれだけ身についたか確認するため、定められた期限までにレポートを１回出してください。
・設問の意味にしっかり答えられていないレポートは再提出になります。質問の意図をよく読み取って答えるようにしてください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキストの第１部と第２部をよく読んで、障害のある子どもの基本的事項について理解を深めておいてください。	60時間
復習	実習等で出会った支援が必要な子どもに対して、学んだことを基に、実践でどのように対応するのか支援計画を立てられるようにしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こども演習 Learning about sociality and basic childcare	五十嵐 元子、三島 秀晃	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	−

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	演習	通信・スクーリング	2	30時間	4510	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	カウンセラー業務の経験を活かし、コミュニケーション能力を育成する。 幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育の知識・技術を解説する。
−	−	

受講要件

指定期日までにレポートを提出していること。

授業の概要

本授業は、建学の精神をもとに社会人として必要な知識・技術を理解し、実生活のなかで実践できるようにするとともに、保育者を目指す学生として、基本的な知識を身に付けることを目的とする。また、新入生が仲間と良好な関係を築き、学生生活になじめるようにグループワークを実施し、知的な学習集団の形成への糸口とする。

授業の目的

本授業は、乳幼児期における教育・保育に関して基礎的な知識を身につけ、保育者として求められる基礎的な態度と保育技術を習得することを目的としている。さらにグループワークを通して、自分の意見を伝え、他者の考えを聞く姿勢を培い、人間関係を作ることの重要性について考察する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	建学の精神をもとに社会人として必要な知識・技術を理解し実践する。
②	保育者を目指す学生として基本的な知識を身に付ける。
③	仲間と良好な関係を築き、知的な学習集団の形成を目指す。

成績評価方法及び基準

通信学習：レポート課題	40%
スクーリング学習：授業への参加状況	30%
スクーリング学習：スクーリング試験	30%

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

適宜資料を配付する。

試験対策

試験は、論文形形式で行う。スクーリング学習の理解度と自分の考えが述べられているかを確認します。

学習のアドバイス

・幼稚園教育要領等は、保育者を目指す学生にとって、最も基礎・基本的なものです。何度も読み返し理解度を深めて下さい。
・スクーリング学習では、仲間や教員と積極的に交流し、協力的に行動して下さい。

授業計画

	＜通信学習＞			＜スクーリング学習＞		
回数	担当教員	題目	内容	担当教員	題目	内容
1	五十嵐元子	幼稚園教育要領(1)	前文、第1 章総則を熟読し、概要を理解する	五十嵐元子 三島　秀晃	オリエンテーション	授業の到達目標と概要を理解する
2	五十嵐元子	幼稚園教育要領(2)	第2 章ねらいおよび内容、第3 章教育課程に係る教育時間の終了後に行う教育活動などの留意事項を熟読し、概要を理解する	三島　秀晃	グループエンカウンター(1)	グループワークを通してからだをほぐす
3	五十嵐元子	保育所保育指針(1)	第1 章総則、第3 章健康及び安全、第4 章子育て支援、第5 章職員の資質向上を熟読し、概要を理解する	三島　秀晃	グループエンカウンター(2)	グループワークを通して協働の楽しさを体感する
4	五十嵐元子	保育所保育指針(2)	第2 章保育の内容を熟読し、概要を理解する	三島　秀晃	グループエンカウンター(3)	グループワークを通して仲間を理解し良好な関係に繋げる
5	五十嵐元子	幼保連携型認定こども園教育保育要領(1)	第1 章総則、第3 章健康及び安全、第4 章子育ての支援を熟読し、概要を理解する	五十嵐元子	建学の精神(1)	日常の挨拶や身だしなみを見直し実践する
6	五十嵐元子	幼保連携型認定こども園教育保育要領(2)	第2 章ねらい及び内容並びに配慮事項を熟読し、概要を理解する	五十嵐元子	建学の精神(2)	具体的な目標設定と継続的な努力について考える
7	五十嵐元子	三者の共通点と相違点	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の共通点と相違点を整理する	五十嵐元子	建学の精神(3)	誠実な言動と信頼関係の構築について考える
8				五十嵐元子	まとめ	現代社会に求められる保育者を考える

レポート作成等の方法・留意点

・先ずは、3 つの教科書を読み、乳幼児期の教育・保育について全体像をつかんで下さい。その後、何度も読み返し、少しずつ理解度を深めて下さい。
・レポートは、教科書に示された内容を踏まえて、自分の考えを述べて下さい。
・「はじめ〜なか〜おわり」に構成するなど、整理された文章を作成して下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・ 通信学習では、教科書内の分からない所や関心のある所をそれぞれの解説書を用いて調べること。 ・ スクーリング学習では、各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。 特に、幼稚園教育要領等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	・各回の学習内容を自分なりの方法で整理・記録すること。 ・スクーリング学習で得た社会人として必要な知識や技術を実生活のなかで実践するように努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。グループワークにおいてコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
幼児生活論	茂木 寿美子	単独	卒	幼	保
Child environment			選	選必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3050	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭や臨床心理士として児童相談所や医療機関等で培った経験をもとに、子ども理解に必要な知識の理解に必要な解説を行う。
－	－	

授業の概要

幼児期までに子どもは「遊び」を通して様々なものを習得していきながら成長します。そして就学後には学校での授業を通した学びから学習を重ねていくことが中心となります。この２つの時期を全く別のものととらえるのではなく、つながりを持ったものとして理解し、そのことを意識したうえで幼児期の遊びを捉えることのできる力を身に付けていきます。

授業の目的

1. 幼児の生活の中心となる遊びについてその理論的な背景や種類について学ぶ。
2. 子どもの置かれた環境や発達段階に応じて、遊びを中心とした保育の計画的な取り組みや総合的な評価ができる。
3. 幼児教育と小学校教育をつなぐ生活科の役割を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	良き生活者としての新しい知識、情報、技術があらゆる生活基盤に必要である。その生活圏は、幼稚園・保育園・学校・家族・地域社会・自然と多岐に渡る。その生活の中で子ども達が豊かな関わりを具体的活動及び体験を通して、人との関わり・社会及び自然と関わることにより、自分自身の生活上の習慣・技術を身に付けられるようにする。保育者は、保護者との信頼関係のもと、その子ども達の成長を支援できるよう、豊かな知識・技術を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

勅使千鶴他『子どもの発達とあそびの指導』ひとなる書房
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編＜平成29年告示＞』

参考書

内山隆他『子どもとともにつくる総合的な遊び』東洋館出版社
安彦忠彦他『小学校学習指導要領の解説と展開 生活編』教育出版

試験対策

記号の選択問題、記述問題があります。テキスト内で用いられている事例の解釈の基礎となる周辺領域・専門用語・理論的背景などを十分に理解し、自分なりに応用できるようにしておいてください。

学習のアドバイス

自分の身のまわりにいる人、ニュースなどから得られる情報などに関心を持ち、ここで学ぶことと関連付けて解釈しようとすることで理解を深めて自分のものとしていって下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	茂木 寿美子	生活を通した活動(1)	年齢に応じた活動
2	茂木 寿美子	生活を通した活動(2)	自主的・主体的に取り組む活動
3	茂木 寿美子	生活を通した活動(3)	身体的諸力の発達を促す活動
4	茂木 寿美子	生活を通した活動(4)	知的能力を発達させる活動
5	茂木 寿美子	生活を通した活動(5)	人と人とを結ぶ社会や交友性を形成する活動
6	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(1)	保育指針や教育要領から捉える保育における遊びの位置づけ
7	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(2)	３歳未満児の発達過程に照らし合わせた遊びの展開
8	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(3)	３歳以上児の発達過程に照らし合わせた遊びの展開
9	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(4)	子どもの発達過程と子どもの生活・遊び
10	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(5)	子どもの遊び・生活に関する指導と子どもの捉え方～個と集団～
11	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(6)	幼児の遊びを通した生活の実践的な指導
12	茂木 寿美子	保育の中の遊びと子ども(7)	幼児が主体的に関わる活動と保育者の役割
13	茂木 寿美子	「あそび」の理論	遊びの種類による幼児と保育者の関わり方と指導法
14	茂木 寿美子	「あそび」の変容	遊びをめぐる日本と世界の動向
15	茂木 寿美子	小学校へつながる遊び	小学校での「生活」に繋がる幼児期の生活論

レポート作成等の方法・留意点

論題は自分の身近にあるものや興味のある分野から選択すると取り組みやすくなります。関連する資料を集めてみるのもよいでしょう。テーマが多岐に渡ると焦点がぼけてしまうので、１つに絞り論点を明確にしてみて下さい。論述が苦手な人は次のようなやり方を参考にしてみて下さい。先ずはじめに、書こうと思うことを、事例や他の人の考え方そして自分の考え等をバランスよく入れながら箇条書きにしていきます。次に仕上がりの文章をイメージしながら並べ替えて文にしていきます。最後に既定の字数に調整しながら、読み手に分かりやすい文章に整えてみて下さい。辞書を引いて誤字や脱字、用語の誤用に注意しながら進めましょう。ホームページも参考文献として記載して下さい。引用が多い場合には不合格となりますので、自分の言葉で考えを述べられるようにして下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	実際に子ども達が遊んでいる場に足を運び、観察しながら教科書に書いてあった内容と照らし合わせてみて下さい。実際に子ども達と関わりあえる場があればなお良いです。その場には、ただ子ども達と一緒に遊んだり楽しんで遊ぶといったことだけではなく、その遊びをどのように捉えることができるのかを考えてみる工夫を心掛けて下さい。	60時間
復習		

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対して講評を記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
生活（対象：2016~2018年度入学生） The development and life of the child	白取 真実	単独	卒	幼	保
			選	選必	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3051	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	保育士として保育に携わった経験を活かし、学生からの質問に答える。
フィードバック能力	−	

授業の概要

子どもを取り巻く生活環境は大きく変化しています。本講義では、子どもの生活や、子どもが豊かな生活を送るための保育者の役割を学ぶ。また、小学校での生活科につながる考え方を踏まえ、保育者の援助の仕方についても理解する。

授業の目的

子どもの立場になって活動しながら、子どもを取り巻く環境や、目標、内容、指導計画等について学ぶことを目的としています。
子どもが生活を送ることのおもしろさを味わい、保育者の役割、関わりを通して小学校教育の在り方についても考える。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼児の生活の中心となる遊びについてその理論的背景や種類について学ぶ。
②	子どものおかれた環境や発達段階に応じて、遊びを中心とした保育の計画的な取り組みや総合的な評価ができる。
③	幼児教育と小学校教育をつなぐ生活科の役割を理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

中村俊哉他『実践事例で学ぶ１０の姿と生活科』大学図書出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

参考書

内山隆他『子どもとともにつくる総合的な学び』東洋館出版社

試験対策

記号の選択問題・記述問題があります。テキスト内で用いた事例の解釈の基礎となる周辺領域・専門用語・理論的背景などを十分理解し、自分なりに応用できるようにしておいてください。

学習のアドバイス

「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」と幼児教育の連携の柱となる「生活科」に焦点を当てて、保育実践と共に学んでほしいと思います。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科の関連について	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が生まれた背景と生活科の関連について理解する
2	白取 真実	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科への接続	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と生活科の目標の繋がりについて理解する
3	白取 真実	「健康な心と体」と生活科	10の姿「健康な心と体」が活きる生活科での取り組みについて理解する
4	白取 真実	「自立心」と生活科	10の姿「自立心」と保育について理解する
5	白取 真実	「協同性」と生活科	10の姿「協同性」と保育について理解する
6	白取 真実	「道徳性・規範意識の芽生え」と生活科	10の姿「道徳性・規範意識の芽生え」と保育について理解する
7	白取 真実	「社会生活との関わり」と生活科	10の姿「社会生活との関わり」と保育について理解する
8	白取 真実	「思考力の芽生え」と生活科	10の姿「思考力の芽生え」と保育について理解する
9	白取 真実	「自然との関わり・生命尊重」と生活科	10の姿「自然との関わり・生命尊重」と保育について理解する
10	白取 真実	「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」と生活科	10の姿「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」と保育について理解する
11	白取 真実	「言葉による伝え合い」と生活科	10の姿「言葉による伝え合い」と保育について理解する
12	白取 真実	「豊かな感性と表現」と生活科	10の姿「豊かな感性と表現」と保育について理解する
13	白取 真実	保幼小連携のためのスタートカリキュラム	スタートカリキュラムの必要性とその意義について理解する
14	白取 真実	生活科の実践での中の保幼小接続実践	幼児教育と小学校教育の接続：「遊び」と「学習」について理解する
15	白取 真実	カリキュラム・マネジメントの重要性	幼児教育と小学校教育の接続とカリキュラムマネジメントについて理解する

レポート作成等の方法・留意点

論題は自分の身近にあるものや興味のある分野から選択すると取り組み易くなります。関連する資料を集めてみるのも良いでしょう。テーマが多岐に渡ると焦点がぼけてしまうので、１つに絞り論旨を明確にしてください。まず始めに、書こうと思うことを、事例や他の人の考え方そして自分の考え等をバランスよく入れながら箇条書きにしていきます。次に仕上がりの文章をイメージしながら並べ替えて文にしていきます。最後に、規定の字数になるように調整しながら、読み手に伝わりやすい文章に整えてください。辞書を用いて誤字や脱字、用語の誤用に注意しながら進めましょう。ホームページも参考文献として記載してください。引用が多い場合には不合格となりますので、自分の言葉で考えを述べられるようにして下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	保育所保育指針・幼稚園教育要領などを熟読し、子どもの発達過程を事前に学んでおく必要があります。また、乳幼児期だけに限らず小学校生活について、小学校で習う「生活科」について調べておきましょう。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
生活（対象：2019 年度入学生以降） The development and life of the child	白取 真実	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4440	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	保育士として保育に携わった経験を活かし、学生からの質問に答える。
フィードバック能力	－	

授業の概要

子どもを取り巻く生活環境は大きく変化しています。本講義では、子どもの生活や、子どもが豊かな生活を送るための保育者の役割を学ぶ。また、小学校での生活科につながる考え方を踏まえ、保育者の援助の仕方についても理解する。

授業の目的

子どもの立場になって活動しながら、子どもを取り巻く環境や、目標、内容、指導計画等について学ぶことを目的としています。
子どもが生活を送ることのおもしろさを味わい、保育者の役割、関わりを通して小学校教育の在り方についても考える。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼児の生活の中心となる遊びについてその理論的背景や種類について学ぶ。
②	子どものおかれた環境や発達段階に応じて、遊びを中心とした保育の計画的な取り組みや総合的な評価ができる。
③	幼児教育と小学校教育をつなぐ生活科の役割を理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

中村俊哉他『実践事例で学ぶ１０の姿と生活科』大学図書出版
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

参考書

内山隆他『子どもとともにつくる総合的な学び』東洋館出版社

試験対策

記号の選択問題・記述問題があります。テキスト内で用いた事例の解釈の基礎となる周辺領域・専門用語・理論的背景などを十分理解し、自分なりに応用できるようにしておいてください。

学習のアドバイス

「幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿」と幼児教育の連携の柱となる「生活科」に焦点を当てて、保育実践と共に学んでほしいと思います。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科の関連について	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が生まれた背景と生活科の関連について理解する
2	白取 真実	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と生活科への接続	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と生活科の目標の繋がりについて理解する
3	白取 真実	「健康な心と体」と生活科	10の姿「健康な心と体」が活きる生活科での取り組みについて理解する
4	白取 真実	「自立心」と生活科	10の姿「自立心」と保育について理解する
5	白取 真実	「協同性」と生活科	10の姿「協同性」と保育について理解する
6	白取 真実	「道徳性・規範意識の芽生え」と生活科	10の姿「道徳性・規範意識の芽生え」と保育について理解する
7	白取 真実	「社会生活との関わり」と生活科	10の姿「社会生活との関わり」と保育について理解する
8	白取 真実	「思考力の芽生え」と生活科	10の姿「思考力の芽生え」と保育について理解する
9	白取 真実	「自然との関わり・生命尊重」と生活科	10の姿「自然との関わり・生命尊重」と保育について理解する
10	白取 真実	「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」と生活科	10の姿「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」と保育について理解する
11	白取 真実	「言葉による伝え合い」と生活科	10の姿「言葉による伝え合い」と保育について理解する
12	白取 真実	「豊かな感性と表現」と生活科	10の姿「豊かな感性と表現」と保育について理解する
13	白取 真実	保幼小連携のためのスタートカリキュラム	スタートカリキュラムの必要性とその意義について理解する
14	白取 真実	生活科の実践での中の保幼小接続実践	幼児教育と小学校教育の接続：「遊び」と「学習」について理解する
15	白取 真実	カリキュラム・マネジメントの重要性	幼児教育と小学校教育の接続とカリキュラムマネジメントについて理解する

レポート作成等の方法・留意点

論題は自分の身近にあるものや興味のある分野から選択すると取り組み易くなります。関連する資料を集めてみるのも良いでしょう。テーマが多岐に渡ると焦点がぼけてしまうので、１つに絞り論旨を明確にしてください。まず始めに、書こうと思うことを、事例や他の人の考え方そして自分の考え等をバランスよく入れながら箇条書きにしていきます。次に仕上がりの文章をイメージしながら並べ替えて文にしていきます。最後に、規定の字数になるように調整しながら、読み手に伝わりやすい文章に整えてください。辞書を用いて誤字や脱字、用語の誤用に注意しながら進めましょう。ホームページも参考文献として記載してください。引用が多い場合には不合格となりますので、自分の言葉で考えを述べられるようにして下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	保育所保育指針・幼稚園教育要領などを熟読し、子どもの発達過程を事前に学んでおく必要があります。また、乳幼児期だけに限らず小学校生活について、小学校で習う「生活科」について調べておきましょう。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
国語（対象：2016 ～ 2018 年度入学生） Japanese　Language	近藤 万里子	単独	卒 選	幼 選必	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	3055	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
－	－	

授業の概要

保幼小連携の課題について考え、現在の取り組みについて知る。就学前の子どものことばの発達および言語獲得のレディネスについて理解する。

授業の目的

・保幼小連携の課題について考え、就学前の子どものことばの育成に必要な土台を築くための要素を見つけることを目的とする。
・子どものことばの発達及び言語獲得のレディネスについて理解を深める。
・子どもが日本語を獲得していく構造を知るために文法など日本語の特徴について学び、保育者としての指導力を修得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保幼小連携の課題について考えることができる。
②	就学前の子どもに必要なことばの習得のための要素及びレディネスについて理解することができる。
③	日本語の特徴について理解することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3 版』みらい

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『小学校学習指導要領　国語編＜平成29年告示＞』
大豆生田啓友他『保育・幼児教育シリーズ　言葉の指導法』玉川大学出版部
佐竹恒夫他『②はじめてみよう　ことばの療育』ミネルヴァ書房
榎沢良彦他『シードブック　保育内容言葉　第２版』建帛社

試験対策

試験は、教科書・サブテキストに添って出題します。日頃から教科書やサブテキストをよく読み、内容を理解するように努めて下さい。

学習のアドバイス

乳幼児のことばの発達の順序の表を作成し、自分なりにまとめると理解しやすいでしょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	言語構造	日本語の構造
2	近藤 万里子	保幼小連携	保育園・幼稚園と小学校の違い
3	近藤 万里子	教科「国語」とは	領域「言葉」から教科「国語」へ
4	近藤 万里子	レディネス期	子どもの発達を捉える
5	近藤 万里子	ことばの発達の様相(1)	言語前期
6	近藤 万里子	ことばの発達の様相(2)	語彙獲得期と文形成期
7	近藤 万里子	ことばの発達の様相(3)	会話と読み書き能力の発達
8	近藤 万里子	ことばの発達の様相(4)	自我形成とことば
9	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(1)	身体の発達
10	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(2)	人間関係
11	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(3)	環境との関わり
12	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(4)	表現能力の発達
13	近藤 万里子	言語の生理学的な基礎	ことばの遅れのある子どもへの理解
14	近藤 万里子	文字について	記号・文字への関心・気づき
15	近藤 万里子	文字を読む・書くための レディネス	文字を読む力・書く力

レポート作成等の方法・留意点

レポート課題を意識しながら指定教科書や参考書を読み進めて下さい。レポート課題に関連しそうな箇所には線を引くなどしておくとレポート作成時に役に立ちます。引用を除いてテキストなどに書いてあることをそのまま書き写すのではなく、自分の考えを自分の言葉で表現して下さい。課題第２回は第１回で書いたことを土台として書くことができますので、必ず第１回から課題を提出して下さい。また、課題について話し合える人を見つけて議論するとより自分の考えを深めることができるでしょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・「保幼小連携」など、授業内容に関連する情報を本やニュースで予め集めておくこと。 ・最低でも教科書は読み込み、疑問点等はまとめておくこと。	60時間
復習	・各題目ごとに、内容をまとめておくこと。その際に教科書を丸写しするのではなく、自分の言葉でまとめること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
国語（対象：2019年度入学生以降） Japanese　Language	近藤 万里子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
1	講義	通信	2	30時間	4450	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
－	－	

授業の概要

保幼小連携の課題について考え、現在の取り組みについて知る。就学前の子どものことばの発達および言語獲得のレディネスについて理解する。

授業の目的

・保幼小連携の課題について考え、就学前の子どものことばの育成に必要な土台を築くための要素を見つけることを目的とする。
・子どものことばの発達及び言語獲得のレディネスについて理解を深める。
・子どもが日本語を獲得していく構造を知るために文法など日本語の特徴について学び、保育者としての指導力を修得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼小連携の課題について考えることができる。
②	就学前の子どもに必要なことばの習得のための要素及びレディネスについて理解することができる。
③	日本語の特徴について理解することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3 版』みらい

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
文部科学省『小学校学習指導要領　国語編＜平成29年告示＞』
大豆生田啓友他『保育・幼児教育シリーズ　言葉の指導法』玉川大学出版部
佐竹恒夫他『②はじめてみよう　ことばの療育』ミネルヴァ書房
榎沢良彦他『シードブック　保育内容言葉　第２版』建帛社

試験対策

試験は、教科書・サブテキストに添って出題します。日頃から教科書やサブテキストをよく読み、内容を理解するように努めて下さい。

学習のアドバイス

乳幼児のことばの発達の順序の表を作成し、自分なりにまとめると理解しやすいでしょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	言語構造	日本語の構造
2	近藤 万里子	保幼小連携	保育園・幼稚園と小学校の違い
3	近藤 万里子	教科「国語」とは	領域「言葉」から教科「国語」へ
4	近藤 万里子	レディネス期	子どもの発達を捉える
5	近藤 万里子	ことばの発達の様相(1)	言語前期
6	近藤 万里子	ことばの発達の様相(2)	語彙獲得期と文形成期
7	近藤 万里子	ことばの発達の様相(3)	会話と読み書き能力の発達
8	近藤 万里子	ことばの発達の様相(4)	自我形成とことば
9	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(1)	身体の発達
10	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(2)	人間関係
11	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(3)	環境との関わり
12	近藤 万里子	ことばの発達に必要な要素(4)	表現能力の発達
13	近藤 万里子	言語の生理学的な基礎	ことばの遅れのある子どもへの理解
14	近藤 万里子	文字について	記号・文字への関心・気づき
15	近藤 万里子	文字を読む・書くための レディネス	文字を読む力・書く力

レポート作成等の方法・留意点

レポート課題を意識しながら指定教科書や参考書を読み進めて下さい。レポート課題に関連しそうな箇所には線を引くなどしておくとレポート作成時に役に立ちます。引用を除いてテキストなどに書いてあることをそのまま書き写すのではなく、自分の考えを自分の言葉で表現して下さい。課題第２回は第１回で書いたことを土台として書くことができますので、必ず第１回から課題を提出して下さい。また、課題について話し合える人を見つけて議論するとより自分の考えを深めることができるでしょう。

赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3 版』みらい

予習	・「保幼小連携」など、授業内容に関連する情報を本やニュースで予め集めておくこと。 ・最低でも教科書は読み込み、疑問点等はまとめておくこと。	60時間
復習	・各題目ごとに、内容をまとめておくこと。その際に教科書を丸写しするのではなく、自分の言葉でまとめること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
体育理論 Theory of Physical Education	眞鍋 隆祐	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	1090	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼児体育指導に携わった経験を持つ教員が、これまでの研究や経験を活かし、根拠に基づいた指導をする。
–	–	

授業の概要

身体構造や機能、さらには身体活動や運動による生理的機能の変化について理解し、身体や年齢に合わせた運動指導の基本を習得する。

授業の目的

1. 身体の構造・機能の基礎についての知識を養う。
2. 健康の維持・増進のための身体活動・運動の意義を学習する。
3. 身体活動・運動が身体に及ぼす影響についての理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	身体活動・運動による生理機能の変化を理解することによって、健康の維持・増進のための身体活動・運動の意義を具体的に説明できるようになる。
②	適切な運動処方を理解し、実践的な応用が検討できるようになる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

森田恭光他『スポーツ・健康科学概論テキスト』杏林書院

参考書

岡野進『概説スポーツ 新版』創文企画
野井真吾『からだの" おかしさ"を科学する　すこやかな子どもへ6つの提案』かもがわ出版

試験対策

記述式の試験を行います。
教科書やサブテキストを精読し、理解を深めてから試験に臨んでください。

学習のアドバイス

教科書や参考文献を読む際には、アウトプット（自分以外の人に伝える）することを意識しながら読み進めてください。「理解する」という意味は、内容を自分以外の人にわかりやすく伝えられるようになるまでのことを指します。アウトプットを意識しながら読み進めていくことによって、自分の言葉で発信できるようになります。そうすることによって、レポートを書く際には自分の考えを文章として表現できるようになります。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	眞鍋 隆祐	健康と運動・スポーツ(1)	健康に関する歴史的背景と現状
2	眞鍋 隆祐	健康と運動・スポーツ(2)	国民衛生の動向
3	眞鍋 隆祐	健康と運動・スポーツ(3)	生活習慣病
4	眞鍋 隆祐	健康と運動・スポーツ(4)	スポーツ・運動の必要性
5	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(1)	からだの構造
6	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(2)	運動とエネルギー
7	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(3)	運動と神経
8	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(4)	運動と血液
9	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(5)	運動とホルモン
10	眞鍋 隆祐	運動生理・生化学(6)	運動と環境
11	眞鍋 隆祐	トレーニング処方・実践方法(1)	運動処方
12	眞鍋 隆祐	トレーニング処方・実践方法(2)	健康づくりのための運動実践方法
13	眞鍋 隆祐	栄養摂取(1)	ウエイトコントロール
14	眞鍋 隆祐	栄養摂取(2)	栄養素の働きと食事摂取基準
15	眞鍋 隆祐	スポーツ障害と救急処置	救急処置法

レポート作成等の方法・留意点

参考文献は学生便覧に指定された様式で明記してください。また、テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけのレポートは評価の対象になりません。
自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現するように心掛けてください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	内容をより深めるために、教科書で示されている脚注の参考文献や他の参考書・文献も併せて読んでください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入し、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
体育実技 Physical Education	前野 浩嗣	単独	卒 ～18 必 / 19～ 選	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	実技	スクーリング	1	30時間	1100	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	中学校、高校、大学の指導経験を活かして、指導アドバイスを行う。
－	－	

授業の概要

体力の維持、向上と、コミュニケーション能力の維持、向上について考え、学ぶ。

授業の目的

この授業は、体育実技の実施を通して、自らの身体の認識を高め、保育者に必要な体力の維持、向上、コミュニケーションスキルの獲得を目指します。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	積極的に身体を動かして、スポーツの楽しさを感じることで運動習慣を身につける。
②	テニスの基本技術を身につけ、練習・ゲームにおいて仲間とのコミュニケーションをとることができる。
③	２０メートルシャトルランにより、体力の維持、向上することを目指す。

成績評価方法及び基準

受講態度	40%
運動種目に対する理解度	20%
技能の優劣よりも、技能に対する向上心と積極的な参加態度と達成度を評価	20%
毎時間の小テスト（シャトルラン記録）の積極的な参加態度と達成度を評価	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

なし

参考書

日本テニス協会『新版テニス指導教本』大修館書店
日本テニス協会『JTA テニスルールブック2018』日本テニス協会
弘卓三他『スポーツ・健康科学テキスト第３版』杏林書院

試験対策

試験は、20 メートルシャトルラン、テニスの基本技能試験を行いますが、授業への積極的な参加態度をより評価します。
向上心をもって、授業に取り組んで下さい。

学習のアドバイス

授業は、テニス初心者を想定して進めます。技能の優劣は気にせず、向上心をもって積極的に楽しみながら受講して下さい。
20 メートルシャトルランのテスト・記録評価は、個人の体力に合わせて指導します。
雨天時は教室や柔道場で、リズム体操やストレッチ、簡単な筋力トレーニングなどを行います。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	前野 浩嗣	ガイダンス	授業の進め方など、ストレッチや体ほぐし運動など
2	前野 浩嗣	体ほぐし運動	ウォーミングアップトレーニング、リズム体操など
3	前野 浩嗣	ストローク練習(1)	ラケットの握り方、ボール慣れ、ショートストロークなど
4	前野 浩嗣	ストローク練習(2)	フォアー・バックハンドストロークなど
5	前野 浩嗣	サーブ練習	アンダーハンドサーブ、サイドハンドサーブなど
6	前野 浩嗣	ミニゲーム(1)	ショートストロークでクロスやストレートなど
7	前野 浩嗣	ミニゲーム(2)	ショートサーブ、ストロークゲームなど
8	前野 浩嗣	ミニゲーム(3)	ショートストローク、ボレー・ポーチショットなど
9	前野 浩嗣	練習・ゲーム(1)	グランドストロークでクロスやストレート、ゲームなど
10	前野 浩嗣	練習・ゲーム(2)	サーブ、サーブリターン、ストローク、ゲームなど
11	前野 浩嗣	練習・ゲーム(3)	試合形式で行うゲーム(シングルス戦)など
12	前野 浩嗣	練習・ゲーム(4)	試合形式で行うゲーム(シングルス戦)など
13	前野 浩嗣	練習・ゲーム(5)	試合形式で行うゲーム(ダブルス戦)など
14	前野 浩嗣	練習・ゲーム(6)	試合形式で行うゲーム(ダブルス戦)など
15	前野 浩嗣	練習・ゲーム(7)	試合形式で行う試験(シングルス戦)など、まとめ

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	体調の管理をして、テニスの基本技術やルールを学習して、授業に参加して下さい。	15時間
復習	身体活動を通して、自らの身体の管理、健康的な生活習慣の確立を積極的に実施すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	講義の中で、各自のデータを解説、コメントして、指導アドバイスをする。

科目名		担当教員	担当形態	履修形態		
社会福祉概論		小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Social Welfare				選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2010	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	—	
—	—	

授業の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学びます。その上で、社会福祉の法体系、行財政と実施機関、社会福祉施設や専門職など、社会福祉の制度や実施体系を学びます。社会福祉における相談援助、利用者保護に関わる仕組みを理解し、近年の子育て支援や共生社会の実現と障害者施策、在宅・地域福祉、諸外国の動向など、社会福祉の動向と課題を学びます。

授業の目的

保育が社会福祉の一分野であることを理解するために、社会福祉の全体像を捉えます。社会福祉の理念と概念や成り立ちを学び、社会福祉の仕組みを理解します。その上で社会福祉の実践について学び、今後の動向と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

本科目では具体的に以下の１～５の内容について学習することが求められます。

①	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
②	社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
③	社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
④	社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
⑤	社会福祉の動向と課題について理解する。

これらは、保育に携わる専門職である保育士の素養として不可欠なこととなりますので、真摯に学習に取り組み、着実に理解を深めていくことが求められます。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11 版』ミネルヴァ書房

参考書

橋本好市他『保育と社会福祉』みらい
相澤譲治他『九訂　保育士をめざす人の社会福祉』みらい

試験対策

教科書全体から、正誤問題、穴埋問題、論述問題などを出題します。「私だけの社会福祉学習ノート」を作成するなどして、試験に臨んでください。

学習のアドバイス

現代社会では、社会福祉に関係するさまざまな出来事が起こっています。日ごろからそうした出来事に関心を持ち、探求しておくことが大切です。また、社会福祉が自分にとって身近なことであることを意識し、メディア等で理解を深めておくことも必要です。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会福祉の基礎概念	社会福祉に関する基本的な考え方や、人権・権利との関係性、各種の理論について概観し理解を深める。
2	小野 浩孝	社会福祉を取り巻く状況	現代の社会福祉を取り巻く各種の状況について理解を深める。
3	小野 浩孝	社会福祉の歴史と展開	福祉国家の成立と展開、わが国及び欧米の社会福祉の歴史と展開について理解を深める。
4	小野 浩孝	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉法制、行政制度と社会福祉の運営について理解を深める。
5	小野 浩孝	社会福祉の機関と施設	社会福祉の機関と施設について理解を深める。
6	小野 浩孝	社会福祉の援助と方法	ソーシャルワークに関わる理論と実践について概観するとともに理解を深める。
7	小野 浩孝	社会保障・公的扶助	社会保障の機能、社会保障制度の体系、公的扶助について理解を深める。
8	小野 浩孝	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉という考え方を理解するとともに、各種法制度の体系、子ども家庭福祉をめぐる諸課題について理解を深める。
9	小野 浩孝	高齢者福祉	高齢者福祉の理念、法制度、実施体系について理解を深める。
10	小野 浩孝	障害者福祉	障害の概念、障害者福祉の基本理念、各種法制度、障害者福祉の諸課題について理解を深める。
11	小野 浩孝	地域福祉	地域福祉の概念を知るとともに、地域福祉実践における諸理論について理解を深める。
12	小野 浩孝	これからの社会福祉の課題	現代の社会福祉を取り巻く諸課題を概観するとともに、それらへの対応について理解を深める。
13	小野 浩孝	社会福祉を支える人たち	社会福祉従事者の現状と課題、各種資格とその機能について理解を深める。
14	小野 浩孝	全体の総括	13までの学習内容を振り返り、重要用語・人名・研究課題を改めて学習ノート等に整理する。
15	小野 浩孝	理解度の確認	サブテキストの理解度テスト及び市販の問題集や過去の国家試験問題に取り組み、学習の理解度を確認する。

レポート作成等の方法・留意点

課題文に「説明してください」とあるように、受講者の皆さんは、教科書を良く読んだ上で、皆さんのレポートを読む相手に向けて、丁寧に、そして分かり易く書いてください。そうしたトレーニングは、社会人としての基礎・基本であり、大学卒業後もきっと役立つことでしょう。使用するレポート用紙、提出時の体裁などは、大学の規則に従ってください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	指定教科書を精読した上で、不明な内容がある場合は他の資料・文献等も活用し確実な理解を得られるようにすることが大切です。サブテキストに示されている重要用語や研究課題及び理解度テストがありますのでこれらを活用して十分な理解が得られているかを確認することも大切です。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会福祉（対象：2016～2018年度入学生） Social Welfare	小野 浩孝	単独	卒選	幼選	保必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2011	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	―	
―	―	

授業の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学びます。その上で、社会福祉の法体系、行財政と実施機関、社会福祉施設や専門職など、社会福祉の制度や実施体系を学びます。社会福祉における相談援助、利用者保護に関わる仕組みを理解し、近年の子育て支援や共生社会の実現と障害者施策、在宅・地域福祉、諸外国の動向など、社会福祉の動向と課題を学びます。

授業の目的

保育が社会福祉の一分野であることを理解するために、社会福祉の全体像を捉えます。社会福祉の理念と概念や成り立ちを学び、社会福祉の仕組みを理解します。その上で社会福祉の実践について学び、今後の動向と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

本科目では具体的に以下の１～５の内容について学習することが求められます。

①	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
②	社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
③	社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
④	社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
⑤	社会福祉の動向と課題について理解する。

これらは、保育に携わる専門職である保育士の素養として不可欠なこととなりますので、真摯に学習に取り組み、着実に理解を深めていくことが求められます。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11 版』ミネルヴァ書房

参考書

橋本好市他『保育と社会福祉』みらい
相澤譲治他『九訂　保育士をめざす人の社会福祉』みらい

試験対策

教科書全体から、正誤問題、穴埋問題、論述問題などを出題します。「私だけの社会福祉学習ノート」を作成するなどして、試験に臨んでください。

学習のアドバイス

現代社会では、社会福祉に関係するさまざまな出来事が起こっています。日ごろからそうした出来事に関心を持ち、探求しておくことが大切です。また、社会福祉が自分にとって身近なことであることを意識し、メディア等で理解を深めておくことも必要です。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会福祉の基礎概念	社会福祉に関する基本的な考え方や、人権・権利との関係性、各種の理論について概観し理解を深める。
2	小野 浩孝	社会福祉を取り巻く状況	現代の社会福祉を取り巻く各種の状況について理解を深める。
3	小野 浩孝	社会福祉の歴史と展開	福祉国家の成立と展開、わが国及び欧米の社会福祉の歴史と展開について理解を深める。
4	小野 浩孝	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉法制、行政制度と社会福祉の運営について理解を深める。
5	小野 浩孝	社会福祉の機関と施設	社会福祉の機関と施設について理解を深める。
6	小野 浩孝	社会福祉の援助と方法	ソーシャルワークに関わる理論と実践について概観するとともに理解を深める。
7	小野 浩孝	社会保障・公的扶助	社会保障の機能、社会保障制度の体系、公的扶助について理解を深める。
8	小野 浩孝	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉という考え方を理解するとともに、各種法制度の体系、子ども家庭福祉をめぐる諸課題について理解を深める。
9	小野 浩孝	高齢者福祉	高齢者福祉の理念、法制度、実施体系について理解を深める。
10	小野 浩孝	障害者福祉	障害の概念、障害者福祉の基本理念、各種法制度、障害者福祉の諸課題について理解を深める。
11	小野 浩孝	地域福祉	地域福祉の概念を知るとともに、地域福祉実践における諸理論について理解を深める。
12	小野 浩孝	これからの社会福祉の課題	現代の社会福祉を取り巻く諸課題を概観するとともに、それらへの対応について理解を深める。
13	小野 浩孝	社会福祉を支える人たち	社会福祉従事者の現状と課題、各種資格とその機能について理解を深める。
14	小野 浩孝	全体の総括	13までの学習内容を振り返り、重要用語・人名・研究課題を改めて学習ノート等に整理する。
15	小野 浩孝	理解度の確認	サブテキストの理解度テスト及び市販の問題集や過去の国家試験問題に取り組み、学習の理解度を確認する。

レポート作成等の方法・留意点

課題文に「説明してください」とあるように、受講者の皆さんは、教科書を良く読んだ上で、皆さんのレポートを読む相手に向けて、丁寧に、そして分かり易く書いてください。そうしたトレーニングは、社会人としての基礎・基本であり、大学卒業後もきっと役立つことでしょう。使用するレポート用紙、提出時の体裁などは、大学の規則に従ってください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	指定教科書を精読した上で、不明な内容がある場合は他の資料・文献等も活用し確実な理解を得られるようにすることが大切です。サブテキストに示されている重要用語や研究課題及び理解度テストがありますのでこれらを活用して十分な理解が得られているかを確認することも大切です。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会福祉（対象：2019年度入学生以降） Social Welfare	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4040	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	—	
—	—	

授業の概要

現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学びます。その上で、社会福祉の法体系、行財政と実施機関、社会福祉施設や専門職など、社会福祉の制度や実施体系を学びます。社会福祉における相談援助、利用者保護に関わる仕組みを理解し、近年の子育て支援や共生社会の実現と障害者施策、在宅・地域福祉、諸外国の動向など、社会福祉の動向と課題を学びます。

授業の目的

保育が社会福祉の一分野であることを理解するために、社会福祉の全体像を捉えます。社会福祉の理念と概念や成り立ちを学び、社会福祉の仕組みを理解します。その上で社会福祉の実践について学び、今後の動向と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

本科目では具体的に以下の１～５の内容について学習することが求められます。

①	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
②	社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
③	社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
④	社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
⑤	社会福祉の動向と課題について理解する。

これらは、保育に携わる専門職である保育士の素養として不可欠なこととなりますので、真摯に学習に取り組み、着実に理解を深めていくことが求められます。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11 版』ミネルヴァ書房

参考書

橋本好市他『保育と社会福祉』みらい
相澤譲治他『九訂　保育士をめざす人の社会福祉』みらい

試験対策

教科書全体から、正誤問題、穴埋問題、論述問題などを出題します。「私だけの社会福祉学習ノート」を作成するなどして、試験に臨んでください。

学習のアドバイス

現代社会では、社会福祉に関係するさまざまな出来事が起こっています。日ごろからそうした出来事に関心を持ち、探求しておくことが大切です。また、社会福祉が自分にとって身近なことであることを意識し、メディア等で理解を深めておくことも必要です。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会福祉の基礎概念	社会福祉に関する基本的な考え方や、人権・権利との関係性、各種の理論について概観し理解を深める。
2	小野 浩孝	社会福祉を取り巻く状況	現代の社会福祉を取り巻く各種の状況について理解を深める。
3	小野 浩孝	社会福祉の歴史と展開	福祉国家の成立と展開、わが国及び欧米の社会福祉の歴史と展開について理解を深める。
4	小野 浩孝	社会福祉の仕組みと運営	社会福祉法制、行政制度と社会福祉の運営について理解を深める。
5	小野 浩孝	社会福祉の機関と施設	社会福祉の機関と施設について理解を深める。
6	小野 浩孝	社会福祉の援助と方法	ソーシャルワークに関わる理論と実践について概観するとともに理解を深める。
7	小野 浩孝	社会保障・公的扶助	社会保障の機能、社会保障制度の体系、公的扶助について理解を深める。
8	小野 浩孝	子ども家庭福祉	子ども家庭福祉という考え方を理解するとともに、各種法制度の体系、子ども家庭福祉をめぐる諸課題について理解を深める。
9	小野 浩孝	高齢者福祉	高齢者福祉の理念、法制度、実施体系について理解を深める。
10	小野 浩孝	障害者福祉	障害の概念、障害者福祉の基本理念、各種法制度、障害者福祉の諸課題について理解を深める。
11	小野 浩孝	地域福祉	地域福祉の概念を知るとともに、地域福祉実践における諸理論について理解を深める。
12	小野 浩孝	これからの社会福祉の課題	現代の社会福祉を取り巻く諸課題を概観するとともに、それらへの対応について理解を深める。
13	小野 浩孝	社会福祉を支える人たち	社会福祉従事者の現状と課題、各種資格とその機能について理解を深める。
14	小野 浩孝	全体の総括	13までの学習内容を振り返り、重要用語・人名・研究課題を改めて学習ノート等に整理する。
15	小野 浩孝	理解度の確認	サブテキストの理解度テスト及び市販の問題集や過去の国家試験問題に取り組み、学習の理解度を確認する。

レポート作成等の方法・留意点

課題文に「説明してください」とあるように、受講者の皆さんは、教科書を良く読んだ上で、皆さんのレポートを読む相手に向けて、丁寧に、そして分かり易く書いてください。そうしたトレーニングは、社会人としての基礎・基本であり、大学卒業後もきっと役立つことでしょう。使用するレポート用紙、提出時の体裁などは、大学の規則に従ってください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	指定教科書を精読した上で、不明な内容がある場合は他の資料・文献等も活用し確実な理解を得られるようにすることが大切です。サブテキストに示されている重要用語や研究課題及び理解度テストがありますのでこれらを活用して十分な理解が得られているかを確認することも大切です。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会福祉援助技術 Social Work	齊藤　崇	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2021	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	福祉事務所の実践経験を踏まえ、現場での実践に基づいた事例を交えつつ、講義を行っていく。
フィードバック能力	－	

認定要件

「社会福祉援助技術」は、1.相談援助」及び2.保育相談支援の2科目を受講し、両方の単位を修得した場合に認定する。

授業の概要

1.相談援助

相談援助（ソーシャルワーク）の発展過程から、その体系と方法を理解する。特に方法については、演習を用いて実際にロールプレイなどを行い、その振り返りを行うことで、理解を深める事業を行います。

2.保育相談支援

子育てを取り巻く状況や家庭のありようが変化している現状を踏まえ、複雑化・多様化した保育の問題に対して、どのような視点をもち、どのような対応すべきかについて、演習を通して様々な価値に触れていきます。そのうえで、保育士に求められる視点を確認していきます。

授業の目的

1.相談援助

講義、グループワークおよびロールプレイを通じて、福祉における相談援助の倫理・価値を学び、相談援助について理解できる。

保育の実践場面において、社会福祉の視点で捉えることができる。

2.保育相談支援

講義及びグループワークを通じて、保育相談支援の意義とその方法について学び、理解できるようになる。

それぞれの場面における保育相談支援の方法について理解ができる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

1.相談援助

①	相談援助の概要について理解する。
②	相談援助の方法と技術について理解する。
③	相談援助の具体的展開について理解する。
④	保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

2.保育相談支援

①	保育相談支援の意義と原則について理解する。
②	保護者支援の基本を理解する。
③	保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
④	保育所等児童養護施設における保護者支援の実際について理解する。

成績評価方法及び基準

1.相談援助、2.保育相談支援 共通

授業（グループワーク含）への取り組み	20%
スクーリング試験	80%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

1.相談援助　　片山義弘他『新保育ライブラリ 相談援助［新版］』北大路書房

2.保育相談支援　福丸由佳他『新保育ライブラリ 保育相談支援』北大路書房

参考書

1.相談援助　　木下大生他『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波書店

2.保育相談支援　空閑浩人『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房

試験対策

1.相談援助、2.保育相談支援 共通

試験は、多肢選択式および記述式問題となります。教科書およびレジュメから出題します。

学習のアドバイス

1.相談援助、2.保育相談支援 共通

グループワーク・ロールプレイには積極的に参加をしてください。より多くの意見・価値観に触れることはとても重要であると考えます。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1.相談援助			
1	齊藤　崇	相談援助の概要(1)	相談援助の理論・意義・機能
2	齊藤　崇	相談援助の概要(2)	相談援助と保育・ソーシャルワーク
3	齊藤　崇	相談援助の方法と技術	相談援助の対象と過程
4	齊藤　崇	演習	ロールプレイを通じて相談援助の技術・アプローチを学ぶ
5	齊藤　崇	相談援助の具体的展開(1)	計画・記録・評価
6	齊藤　崇	相談援助の具体的展開(2)	関係機関・専門家の連携・協働・社会資源の活用
7	齊藤　崇	事例分析(1)	虐待の予防と対応
8	齊藤　崇	事例分析(2)、まとめ	グループワークを通じての事例検討 相談援助を行ううえでの自身の気づきについてまとめる。
2.保育相談支援			
1	齊藤　崇	保育相談支援の意義	保育相談支援の意義と保育士の専門性を生かした支援
2	齊藤　崇	保育相談支援の基本(1)	子どもの最善の利益の重視と成長の喜びの共有
3	齊藤　崇	保育相談支援の基本(2)	保護者の養育力の向上を資する支援と地域資源の活用・関係機関の連携・協力
4	齊藤　崇	保育相談支援の基本(3)	受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
5	齊藤　崇	保育相談支援の実際(1)	保育に関する保護者に対する指導・保護者支援の内容
6	齊藤　崇	保育相談支援の実際(2)	保護者支援の計画・記録・評価・カンファレンス
7	齊藤　崇	保育相談支援の実際(3)	保護者支援の方法と技術(ロールプレイ)
8	齊藤　崇	児童福祉施設における 保育相談支援、まとめ	特別な対応を要する家庭・要保護児童の家庭に対する支援 演習を通じて保育相談支援に必要な視点を考えることができる。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

1.相談援助

予習	教科書の通読をし、全体像を把握してください。また、新聞・ネット等で社会福祉や保育に関する情報をみるよう心がけてください。	30時間
復習	教科書および講義で使用したレジュメ等を再度確認してください。疑問点があれば、次回講義の際に質問をしてください。	

2.保育相談支援

予習	教科書の通読をし、全体像を把握してください。また、新聞・ネット等で社会福祉や保育に関する情報をみるよう心がけてください。	30時間
復習	教科書を通読して全体像を把握してください。また、保育に関するニュースなどについて関心を払うよう心がけてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

1.相談援助、2.保育相談支援 共通

有	演習の発表の際は、教員よりコメントします。また、都度質問に応じます。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
児童福祉論 Child and Family Welfare	渡辺 修宏	単独	卒	幼	保
			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2030	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	保育士、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士として障害児支援に携わった経験と、市町村立保育所父母の会役員として保育所運営支援にかかわった経験を踏まえた指導を行う。
−	地域理解力	

授業の概要

現代社会における「家庭」「子育て」の有り様や課題について理解し、その課題の解決を図る取り組みの基礎を修得する。

授業の目的

1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	上記の「授業の目的」を達成し、保育者に求められる子ども家庭福祉全般に関する理解を得ることを目標とする。また、保育者に求められる子ども家庭福祉の専門性について、自身で考察できる力を得ることを目標とする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

伊藤嘉余子他『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉1 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

参考書

赤木正典他『子ども家庭福祉論』建帛社
福祉小六法編集委員会『福祉小六法』みらい出版

試験対策

教科書およびサブテキストが試験範囲となります。

学習のアドバイス

指定教科書を必要に応じて読み繰り返し（精読）、内容の理解を着実に進めてください。わからないところがあればそのままにせず、参考書やその他情報ツール等を上手に用いて適切な理解に努めてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	渡辺 修宏	児童家庭福祉の理念と概念	本科目の概要と学ぶべき意義の確認
2	渡辺 修宏	児童家庭福祉の歴史	古代から現代に至る児童家庭福祉の歴史
3	渡辺 修宏	児童家庭福祉の制度	児童家庭福祉の制度と法体系
4	渡辺 修宏	児童家庭福祉の行政機関	国、地方、各種行政機関の概要
5	渡辺 修宏	児童福祉施設等	児童福祉施設とそれにかかわる機関
6	渡辺 修宏	児童家庭福祉の費用	児童家庭福祉にかかわる財源等・行財政
7	渡辺 修宏	児童家庭福祉の専門職	児童家庭福祉にかかわる各専門職
8	渡辺 修宏	連携とネットワーク	児童家庭福祉にかかわるネットワーク
9	渡辺 修宏	権利擁護と児童家庭福祉	子ども権利擁護にかかわる取り組み
10	渡辺 修宏	少子化と子育て支援	少子化・子育て支援の現状と課題
11	渡辺 修宏	母子保健、健全育成	母子保健、児童の健全育成の現状と課題
12	渡辺 修宏	非行問題・障害児支援	非行問題、障害児世帯支援の現状と課題
13	渡辺 修宏	子ども虐待・DV 対策	児童虐待、DV 問題の現状と課題
14	渡辺 修宏	社会的養護、ひとり親支援	社会的養護、ひとり親世帯支援の現状と課題
15	渡辺 修宏	児童家庭福祉の展望	児童家庭福祉の現状と課題および展望

レポート作成等の方法・留意点

指定教科書を十分に読み、その上で興味・関心のある箇所やわかりにくい箇所について、他の文献を参考にしつつ理解を深めてください。レポートは、学習した内容についての自身の理解や考えをまとめるものです。教科書や他の文献中の表現をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけの文章としないよう、よく考えて書いてください。各種文献を引用する場合は、その引用文章量は必要最小限とし、引用箇所と文献を必ず明記してください。事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前には必ず推敲し、他者が読みやすい文章であることを十分に確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	児童福祉を中心とする対人援助領域において用いられる専門用語等が多数登場します。事前に指定教科書をよく読み、不明な用語があればよく調べておいてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
児童家庭福祉 Child and Family Welfare	渡辺　修宏	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2031	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	保育士、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士として障害児支援に携わった経験と、市町村立保育所父母の会役員として保育所運営支援にかかわった経験を踏まえた指導を行う。
－	地域理解力	

授業の概要

現代社会における「家庭」「子育て」の有り様や課題について理解し、その課題の解決を図る取り組みの基礎を修得する。

授業の目的

1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	上記の「授業の目的」を達成し、保育者に求められる子ども家庭福祉全般に関する理解を得ることを目標とする。また、保育者に求められる子ども家庭福祉の専門性について、自身で考察できる力を得ることを目標とする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

伊藤嘉余子他『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉1 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

参考書

赤木正典他『子ども家庭福祉論』建帛社
福祉小六法編集委員会『福祉小六法』みらい出版

試験対策

教科書およびサブテキストが試験範囲となります。

学習のアドバイス

指定教科書を必要に応じて読み繰り返し（精読）、内容の理解を着実に進めてください。わからないところがあればそのままにせず、参考書やその他情報ツール等を上手に用いて適切な理解に努めてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	渡辺　修宏	児童家庭福祉の理念と概念	本科目の概要と学ぶべき意義の確認
2	渡辺　修宏	児童家庭福祉の歴史	古代から現代に至る児童家庭福祉の歴史
3	渡辺　修宏	児童家庭福祉の制度	児童家庭福祉の制度と法体系
4	渡辺　修宏	児童家庭福祉の行政機関	国、地方、各種行政機関の概要
5	渡辺　修宏	児童福祉施設等	児童福祉施設とそれにかかわる機関
6	渡辺　修宏	児童家庭福祉の費用	児童家庭福祉にかかわる財源等・行財政
7	渡辺　修宏	児童家庭福祉の専門職	児童家庭福祉にかかわる各専門職
8	渡辺　修宏	連携とネットワーク	児童家庭福祉にかかわるネットワーク
9	渡辺　修宏	権利擁護と児童家庭福祉	子ども権利擁護にかかわる取り組み
10	渡辺　修宏	少子化と子育て支援	少子化・子育て支援の現状と課題
11	渡辺　修宏	母子保健、健全育成	母子保健、児童の健全育成の現状と課題
12	渡辺　修宏	非行問題・障害児支援	非行問題、障害児世帯支援の現状と課題
13	渡辺　修宏	子ども虐待・DV 対策	児童虐待、DV 問題の現状と課題
14	渡辺　修宏	社会的養護、ひとり親支援	社会的養護、ひとり親世帯支援の現状と課題
15	渡辺　修宏	児童家庭福祉の展望	児童家庭福祉の現状と課題および展望

レポート作成等の方法・留意点

指定教科書を十分に読み、その上で興味・関心のある箇所やわかりにくい箇所について、他の文献を参考にしつつ理解を深めてください。レポートは、学習した内容についての自身の理解や考えをまとめるものです。教科書や他の文献中の表現をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけの文章としないよう、よく考えて書いてください。各種文献を引用する場合は、その引用文章量は必要最小限とし、引用箇所と文献を必ず明記してください。事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前には必ず推敲し、他者が読みやすい文章であることを十分に確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	児童福祉を中心とする対人援助領域において用いられる専門用語等が多数登場します。事前に指定教科書をよく読み、不明な用語があればよく調べておいてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こども家庭福祉 Child and Family Welfare	渡辺 修宏	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4030	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	保育士、介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士として障害児支援に携わった経験と、市町村立保育所父母の会役員として保育所運営支援にかかわった経験を踏まえた指導を行う。
−	地域理解力	

授業の概要

現代社会における「家庭」「子育て」の有り様や課題について理解し、その課題の解決を図る取り組みの基礎を修得する。

授業の目的

1. 現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解する。
3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	上記の「授業の目的」を達成し、保育者に求められるこども家庭福祉全般に関する理解を得ることを目標とする。また、保育者に求められる子ども家庭福祉の専門性について、自身で考察できる力を得ることを目標とする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

伊藤嘉余子他『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉1 子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房

参考書

浅井春夫『子ども家庭福祉第3版』建帛社
福祉小六法編集委員会『福祉小六法』みらい出版

試験対策

教科書およびサブテキストが試験範囲となります。必ず読了しておいて下さい。

学習のアドバイス

指定教科書を必要に応じて読み繰り返し（精読）、内容の理解を着実に進めてください。わからないところがあればそのままにせず、参考書やその他情報ツール等を上手に用いて適切な理解に努めてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の理念と概念	本科目の概要と学ぶべき意義の確認
2	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の歴史	古代から現代に至る子ども家庭福祉の歴史
3	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の制度	子ども家庭福祉の制度と法体系
4	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の行政機関	国、地方、各種行政機関の概要
5	渡辺 修宏	児童福祉施設等	児童福祉施設とそれにかかわる機関
6	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の費用	子ども家庭福祉にかかわる財源等・行財政
7	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉にかかわる各専門職
8	渡辺 修宏	連携とネットワーク	子ども家庭福祉にかかわるネットワーク
9	渡辺 修宏	権利擁護と子ども家庭福祉	子ども権利擁護にかかわる取り組み
10	渡辺 修宏	少子化と子育て支援	少子化・子育て支援の現状と課題
11	渡辺 修宏	母子保健、健全育成	母子保健、子どもの健全育成の現状と課題
12	渡辺 修宏	非行問題・障害児支援	非行問題、障害児世帯支援の現状と課題
13	渡辺 修宏	子ども虐待・DV 対策	子ども虐待、DV 問題の現状と課題
14	渡辺 修宏	社会的養護、ひとり親支援	社会的養護、ひとり親世帯支援の現状と課題
15	渡辺 修宏	子ども家庭福祉の展望	貧困家庭、外国籍の子どもを含む家庭福祉の現状とそこでの課題および展望

レポート作成等の方法・留意点

指定教科書を十分に読み、その上で興味・関心のある箇所やわかりにくい箇所について、他の文献を参考にしつつ理解を深めてください。レポートは、学習した内容についての自身の理解や考えをまとめるものです。教科書や他の文献中の表現をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけの文章としないよう、よく考えて書いてください。各種文献を引用する場合は、その引用文章量は必要最小限とし、引用箇所と文献を必ず明記してください。事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前には必ず推敲し、他者が読みやすい文章であることを十分に確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	子ども福祉を中心とする対人援助領域において用いられる専門用語等が多数登場します。事前に指定教科書をよく読み、不明な用語があればよく調べておいてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
児童養護原理	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Social Child protection			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2060	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	
－	地域理解力	

授業の概要

現代社会における社会的養護の理念と概念、および歴史的変遷について理解します。その上で、社会的養護の基本原則、子どもの人権擁護や保育士の倫理と責務を踏まえた社会的養護の基本について理解していきます。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、対象や形態、関係の専門職等について学び、社会的養護に関する社会的状況や施設等の運営管理、虐待の防止など、社会的養護の現状と課題について理解します。

授業の目的

本授業では、保育所における保育と並んで、保育の重要な領域である社会的養護の理論的な側面について学びます。社会的養護の理念と概念や成り立ちを学び、社会的養護の仕組みを理解します。その上で社会的養護の種類と専門職について学び、社会的養護の現状と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の理念と概念やその成り立ちを理解する。
②	社会的養護の制度と実施体系を理解する。
③	家庭養護と施設養護の種類とそれに関わる専門職について説明できる。
④	社会的養護の現状と課題について展望できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小川恭子他『実践に生かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅰ』教育情報出版

試験対策

試験は正誤、穴埋、選択、記述等です。教科書にそって出題します。

学習のアドバイス

教科書を精読し、内容の理解に努めてください。分からないところをそのままにせず、参考書やその他の情報ツール等を効果的に活用しながら、着実な理解を積み重ねてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護に関する今日的状況	社会的養護に関する今日的状況について考察する
2	小野 浩孝	社会的養護の基本理念	社会的養護の基本理念について理解する
3	小野 浩孝	社会的養護の歩み	社会的養護の歴史を学ぶ
4	小野 浩孝	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理について学ぶ
5	小野 浩孝	社会的養護の過程	社会的養護の具体的過程を理解する
6	小野 浩孝	社会的養護の仕組みと法・実施体制	社会的養護の仕組み・法体系および実施体系を把握する
7	小野 浩孝	社会的養護の対象と求められる環境	社会的養護の対象と求められる生活環境について考察する
8	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（1）	乳児院・児童養護施設
9	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（2）	母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設
10	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（3）	自立援助ホーム・障害児支援施設・婦人保護施設
11	小野 浩孝	家庭養護を担う機能・制度	里親とファミリーホームおよび社会的養護から見る養子制度
12	小野 浩孝	社会的養護を担う人々	社会的養護に関わる専門職および専門職の倫理と責務を学ぶ
13	小野 浩孝	児童福祉施設の運営管理と多職種連携	児童福祉施設の運営管理および多職種連携を学ぶ
14	小野 浩孝	社会的養護従事者が取り組むべき課題	パーマネンシー保障・虐待防止および当事者組織との協働を理解する
15	小野 浩孝	全体のまとめ	社会的養護とは何かについて振り返る

レポート作成等の方法・留意点

レポート作成にあたっては、まず課題にかかわる教科書や参考書の該当箇所を精読して内容を理解するとともに、関連情報の収集に努めてください。次いで理解した内容と収集した情報を整理し、レポートのアウトラインと構成を考えてください。執筆に際しては事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前によく推敲し、第三者が理解できる文章であることを確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画にそって教科書を予め読み込んでおくこと。特にレポート課題に関係する箇所は精読しておくこと。	60時間
復習	提出したレポートはよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会的養護 Social Care	小野 浩孝	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2061	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	
−	地域理解力	

授業の概要

現代社会における社会的養護の理念と概念、および歴史的変遷について理解します。その上で、社会的養護の基本原則、子どもの人権擁護や保育士の倫理と責務を踏まえた社会的養護の基本について理解していきます。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、対象や形態、関係の専門職等について学び、社会的養護に関する社会的状況や施設等の運営管理、虐待の防止など、社会的養護の現状と課題について理解します。

授業の目的

本授業では、保育所における保育と並んで、保育の重要な領域である社会的養護の理論的な側面について学びます。社会的養護の理念と概念や成り立ちを学び、社会的養護の仕組みを理解します。その上で社会的養護の種類と専門職について学び、社会的養護の現状と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の理念と概念やその成り立ちを理解する。
②	社会的養護の制度と実施体系を理解する。
③	家庭養護と施設養護の種類とそれに関わる専門職について説明できる。
④	社会的養護の現状と課題について展望できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小川恭子他『実践に生かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅰ』教育情報出版

試験対策

試験は正誤、穴埋、選択、記述等です。教科書にそって出題します。

学習のアドバイス

教科書を精読し、内容の理解に努めてください。分からないところをそのままにせず、参考書やその他の情報ツール等を効果的に活用しながら、着実な理解を積み重ねてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護に関する今日的状況	社会的養護に関する今日的状況について考察する
2	小野 浩孝	社会的養護の基本理念	社会的養護の基本理念について理解する
3	小野 浩孝	社会的養護の歩み	社会的養護の歴史を学ぶ
4	小野 浩孝	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理について学ぶ
5	小野 浩孝	社会的養護の過程	社会的養護の具体的過程を理解する
6	小野 浩孝	社会的養護の仕組みと法・実施体制	社会的養護の仕組み・法体系および実施体系を把握する
7	小野 浩孝	社会的養護の対象と求められる環境	社会的養護の対象と求められる生活環境について考察する
8	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（1）	乳児院・児童養護施設
9	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（2）	母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設
10	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（3）	自立援助ホーム・障害児支援施設・婦人保護施設
11	小野 浩孝	家庭養護を担う機能・制度	里親とファミリーホームおよび社会的養護から見る養子制度
12	小野 浩孝	社会的養護を担う人々	社会的養護に関わる専門職および専門職の倫理と責務を学ぶ
13	小野 浩孝	児童福祉施設の運営管理と多職種連携	児童福祉施設の運営管理および多職種連携を学ぶ
14	小野 浩孝	社会的養護従事者が取り組むべき課題	パーマネンシー保障・虐待防止および当事者組織との協働を理解する
15	小野 浩孝	全体のまとめ	社会的養護とは何かについて振り返る

レポート作成等の方法・留意点

レポート作成にあたっては、まず課題にかかわる教科書や参考書の該当箇所を精読して内容を理解するとともに、関連情報の収集に努めてください。次いで理解した内容と収集した情報を整理し、レポートのアウトラインと構成を考えてください。執筆に際しては事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前によく推敲し、第三者が理解できる文章であることを確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画にそって教科書を予め読み込んでおくこと。特にレポート課題に関係する箇所は精読しておくこと。	60時間
復習	提出したレポートはよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会的養護Ⅰ	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Social Care Ⅰ			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4060	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	
－	地域理解力	

授業の概要

現代社会における社会的養護の理念と概念、および歴史的変遷について理解します。その上で、社会的養護の基本原則、子どもの人権擁護や保育士の倫理と責務を踏まえた社会的養護の基本について理解していきます。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、対象や形態、関係の専門職等について学び、社会的養護に関する社会的状況や施設等の運営管理、虐待の防止など、社会的養護の現状と課題について理解します。

授業の目的

本授業では、保育所における保育と並んで、保育の重要な領域である社会的養護の理論的な側面について学びます。社会的養護の理念と概念や成り立ちを学び、社会的養護の仕組みを理解します。その上で社会的養護の種類と専門職について学び、社会的養護の現状と課題について展望できることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の理念と概念やその成り立ちを理解する。
②	社会的養護の制度と実施体系を理解する。
③	家庭養護と施設養護の種類とそれに関わる専門職について説明できる。
④	社会的養護の現状と課題について展望できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小川恭子他『実践に生かす社会的養護Ⅰ』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅰ』教育情報出版

試験対策

試験は正誤、穴埋、選択、記述等です。教科書にそって出題します。

学習のアドバイス

教科書を精読し、内容の理解に努めてください。分からないところをそのままにせず、参考書やその他の情報ツール等を効果的に活用しながら、着実な理解を積み重ねてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護に関する今日的状況	社会的養護に関する今日的状況について考察する
2	小野 浩孝	社会的養護の基本理念	社会的養護の基本理念について理解する
3	小野 浩孝	社会的養護の歩み	社会的養護の歴史を学ぶ
4	小野 浩孝	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理	子どもの権利擁護と社会的養護の基本原理について学ぶ
5	小野 浩孝	社会的養護の過程	社会的養護の具体的過程を理解する
6	小野 浩孝	社会的養護の仕組みと法・実施体制	社会的養護の仕組み・法体系および実施体系を把握する
7	小野 浩孝	社会的養護の対象と求められる環境	社会的養護の対象と求められる生活環境について考察する
8	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（1）	乳児院・児童養護施設
9	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（2）	母子生活支援施設・児童心理治療施設・児童自立支援施設
10	小野 浩孝	社会的養護を担う施設の役割と機能（3）	自立援助ホーム・障害児支援施設・婦人保護施設
11	小野 浩孝	家庭養護を担う機能・制度	里親とファミリーホームおよび社会的養護から見る養子制度
12	小野 浩孝	社会的養護を担う人々	社会的養護に関わる専門職および専門職の倫理と責務を学ぶ
13	小野 浩孝	児童福祉施設の運営管理と多職種連携	児童福祉施設の運営管理および多職種連携を学ぶ
14	小野 浩孝	社会的養護従事者が取り組むべき課題	パーマネンシー保障・虐待防止および当事者組織との協働を理解する
15	小野 浩孝	全体のまとめ	社会的養護とは何かについて振り返る

レポート作成等の方法・留意点

レポート作成にあたっては、まず課題にかかわる教科書や参考書の該当箇所を精読して内容を理解するとともに、関連情報の収集に努めてください。次いで理解した内容と収集した情報を整理し、レポートのアウトラインと構成を考えてください。執筆に際しては事実と意見を明確に分け、論理的な構成を心がけてください。提出前によく推敲し、第三者が理解できる文章であることを確認してから提出してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画にそって教科書を予め読み込んでおくこと。特にレポート課題に関係する箇所は精読しておくこと。	60時間
復習	提出したレポートはよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
発達心理学	栗田 明子	単独	卒	幼	保
Developmental psychology			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2080	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	–	臨床発達心理士として、小中学校の巡回相談に従事しており、「気になる子」のアセスメントや教員へのコンサルテーションを通して、子どもの理解と援助に貢献しており当該授業を行う上で十分な臨床経験がある。
–	–	

授業の概要

「発達心理学」では、生涯発達という視点から発達を捉え、各発達段階における心理的・身体的特徴、発達課題を理解するとともに、乳幼児期の生活や遊びを通した学びの過程および心理学における学習のメカニズムを学ぶことで乳幼児の心身の発達について理解を深める。

授業の目的

保育実践にかかわる心理学の知識を修得するため、子どもの発達にかかわる心理学の基礎を学び、子どもへの理解を深めます。生涯発達の観点から、各領域の発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育との関連を考察します。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児期を中心に、子どもの発達の特質を「社会性」「認知」「言語」「運動」「感情」「自己」「性格」などの領域に分けて考えていきます。また「発達段階論」を通して生涯発達のプロセスを学び、保育をすすめる上での留意点について検討し、ポイントを身につけます。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

本郷一夫他『シードブック 保育の心理学』建帛社

参考書

柏木恵子他『発達心理学への招待』ミネルヴァ書房
無藤隆他『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房

試験対策

教科書に記載されている、発達心理学の理論・学説などを中心に、発達の各側面について出題します。保育士試験問題に準じた多肢選択問題を予定していますので、各自準備学習をして試験に臨んでください。

学習のアドバイス

保育実践、子ども理解のためには、発達のプロセスや理論を学ぶことがとても重要です。基盤となる知識をしっかり身につけてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	栗田 明子	子どもの発達を理解することの意義	発達について諸理論と初期環境の役割、子どもの発達の背景を学ぶ
2	栗田 明子	子どもの発達と保育	子ども観、保育観、保育所保育指針の改定について学ぶ
3	栗田 明子	身体と運動の発達	粗大運動・微細運動・反射について学ぶ
4	栗田 明子	乳児期・幼児期前期の認知発達	ピアジェの発達理論とこの時期の認知の発達的特徴を学ぶ
5	栗田 明子	幼児期後期・児童期の認知発達	ピアジェの発達理論とこの時期の認知の発達的特徴を学ぶ
6	栗田 明子	言語の発達	言語の表出・理解のプロセスと養育者の役割について学ぶ
7	栗田 明子	感情の発達	感情の表出、調整、理解のプロセスと共感性（愛着）について学ぶ
8	栗田 明子	社会性の発達	自己の発達および向社会的行動と道徳性の発達について学ぶ
9	栗田 明子	仲間関係の発達	パーテンの社会的参加と月齢ごとの仲間関係の発達を学ぶ
10	栗田 明子	子どもの学びと発達(1)	学習の原理について学ぶ
11	栗田 明子	子どもの学びと発達(2)	知能と学力、意欲と動機づけについて学ぶ
12	栗田 明子	生活と遊びを通した学び	遊びの発達的視点、遊びとコンピテンス、小学校との接続を学ぶ
13	栗田 明子	特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援(1)	「気になる」子どもの種類について学ぶ
14	栗田 明子	特別な配慮を必要とする子どもの特徴と支援(2)	「気になる」子どもの保育における配慮と支援を学ぶ
15	栗田 明子	子どもの発達と現代的課題	幼児教育の充実と次世代教育の一貫性について学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

教科書や保育所保育指針から適宜引用することとしますが、丸写しではなく、自分なりに考えまとめてください。また、教科書以外の各自で読んだ文献を参考にした場合、特に評価します（「保育所保育指針P.○○」など引用したことを明示してください）。
インターネットから転載した場合は不可とします。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書の該当箇所を通して読み、どのような内容なのかをまず理解して下さい。教科書を読まずに、インターネットで検索してレポートに引用する人が目立ちます。	60時間
復習	索引を用いて重要な語句をチェックし、改めて理論や学説を学習して下さい。教科書の事例と理論とのリンクがわかると、より理解が深まると思います。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育心理学（対象：2015 年度入学生まで）	栗田 明子	単独	卒	幼	保
Educational Psychology			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2091	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	臨床発達心理士として、小中学校の巡回相談に従事しており、「気になる子」のアセスメントや教員へのコンサルテーションを通して、子どもの理解と援助に貢献しており当該授業を行う上で十分な臨床経験がある。
－	－	

授業の概要

子どもの保育や援助・指導を行う際には、子どものやる気を引き出し、持続的に取り組ませる方法や、それらが後にどのように生かされ、子どもの心身の発達に影響をおよぼすのかを考える必要がある。本科目では、子どもの心身の発達および学習の過程に関する基礎的な知識を身につけ、子どもを理解するための具体的な方法や主体的な学びを支える保育者の援助・態度について理解することを目的とする。なお、本科目はパワーポイントを用いて講義を展開する。さらに、討論やグループワークを取り入れながら講義内容の理解を深めるため、講義への積極的な参加が求められる。

授業の目的

子どもの心身の発達を踏まえたうえで、①生活の中での学び、②遊びの中での学び、③生きる力としてのレジリエンスや道徳性、④やる気を引き出す支援、⑤問題行動の理解と対応などを理論と事例をもとに理解を深め、保育における発達援助について学びます。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育実践において、子どもの心身の発達過程および発達の概念を理解することの意義を説明できる。
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達に関する具体的な内容について説明できる。
③	様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的な理論を理解し、教育・保育実践への応用可能性について提案できる。
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、子どもの発達特徴と関連づけながら説明できる。
⑤	子どもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身につける。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%
授業参加度	10%
提出物	30%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

清水益治他『新保育ライブラリ 保育の心理学Ⅱ』北大路書房

参考書

清水益治他『新保育ライブラリ 子どもの理解と援助』北大路書房
青木智子他『子どものための心理学』北樹出版
中澤潤『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房

試験対策

教科書に記載されている、教育心理学の理論・学説などを中心に、発達の各側面について出題します。多肢選択問題を予定していますので、各自準備学習をして試験に臨んでください。

学習のアドバイス

教育心理学の様々な理論と、教科書に取り上げられている事例をもとに、保育実践を関連させながら理解を進めてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	栗田 明子	子ども理解における発達の把握	発達の把握をする必要性、方法を理解する	ガイダンス	子どもの心身の発達および学習の過程を理解することの意義について考える
2	栗田 明子	個人差や発達過程に応じた保育	個人差や発達過程を理解することの重要性及び発達障害の児童の支援について学ぶ	発達とは何か(1)	生涯発達とは何か、発達段階および発達課題について理解する
3	栗田 明子	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用	環境からの働きかけ(アフォーダンス)について学ぶ	発達とは何か(2)	乳幼児期の運動・言語・認知発達の特徴について理解する
4	栗田 明子	環境としての保育者と子どもの発達　子ども相互の関わりと関係づくり	保育者の関わり方の種類を事例を通して理解する	子どもの学習(1)	経験に基づく学習（学習理論）と子どもの成長について理解する
5	栗田 明子	自己主張と自己抑制	自己制御の2 つの側面の発達過程や使われ方、子ども関係における重要性の理解	子どもの学習(2)	記憶能力の発達について理解し、適切な保育者の援助・態度について学ぶ
6	栗田 明子	子ども集団と保育の環境	子どもの「集団」をとらえる方法の理解	やる気の引き出し方	動機づけ理論をとおして、やる気を促す保育・教育の方法について理解する
7	栗田 明子	子どもの生活と遊び	子どもの生活場面での学びを行動理論で理解する	社会性と情緒の発達	子ども同士の関わりのなかで育つ社会性や情緒的発達について理解する
8	栗田 明子	子どもの遊びと認知過程	子どもの生活場面での遊びを認知発達理論で理解する	子どもの個性	パーソナリティ理論をとおして、個性とは何かについて理解する
9	栗田 明子	生涯にわたる生きる力の基礎を培う	レジリエンスや道徳性など「生きる力」を保育でどう取り入れるか考える	子どもを理解する方法(1)	観察と記録の意義および方法について理解する
10	栗田 明子	基本的生活習慣の獲得と発達援助(1)	行動分析の基本的な考え方	子どもを理解する方法(2)	省察と評価の意義および方法について理解する
11	栗田 明子	基本的生活習慣の獲得と発達援助(2)	応用行動分析を用いた基本的生活習慣の獲得	子どもを理解する方法(3)	職員間の対話、保護者との情報共有の必要性と意義について理解する
12	栗田 明子	発達の課題に応じた援助やかかわり	ハヴィガーストなど発達課題について学ぶ	発達援助の課題と対応(1)	特別な配慮を必要とする子どもについて理解する
13	栗田 明子	発達の連続性と就学への支援	就学の準備について学ぶ（小1 プロブレム）	発達援助の課題と対応(2)	共生社会の形成に向けた教育・保育の在り方について考える
14	栗田 明子	発達援助における協働	保育者同士の協働（リーダーシップ論）を学ぶ	発達援助の課題と対応(3)	発達の連続性を理解し、適切な就学支援の方法について考える
15	栗田 明子	現代社会における子どもの発達の問題－発達障害などの理解－	発達障害や虐待など今日的な子どものこころの問題について学ぶ	まとめ	本科目の振り返り

レポート作成等の方法・留意点

教科書や保育所保育指針から適宜引用することとしますが、丸写しではなく、自分なりに考えまとめてください。また、教科書以外の各自で読んだ文献を参考にした場合、特に評価します（引用したことは明示してください）。インターネットから転載した場合は不可とします。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング受講前に、指定教科書の各章末の演習問題に目を通しておいてください。進度に従っていくつかをグループワークの題材にします。	30時間
復習	スクーリング授業内で指示した、指定教科書や配付プリントの重要事項をよく復習して試験に備えてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内の小課題については返却の際に全体に向けてフィードバックします。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育心理学（2016～2018年度入学生） Educational Psychology	栗田　明子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2092	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	臨床発達心理士として、小中学校の巡回相談に従事しており、「気になる子」のアセスメントや教員へのコンサルテーションを通して、子どもの理解と援助に貢献しており当該授業を行う上で十分な臨床経験がある。
－	－	

授業の概要

子どもの保育や援助・指導を行う際には、子どものやる気を引き出し、持続的に取り組ませる方法や、それらが後にどのように生かされ、子どもの心身の発達に影響をおよぼすのかを考える必要がある。本科目では、子どもの心身の発達および学習の過程に関する基礎的な知識を身につけ、子どもを理解するための具体的な方法や主体的な学びを支える保育者の援助・態度について理解することを目的とする。なお、本科目はパワーポイントを用いて講義を展開する。さらに、討論やグループワークを取り入れながら講義内容の理解を深めるため、講義への積極的な参加が求められる。

授業の目的

子どもの心身の発達を踏まえたうえで、①生活の中での学び、②遊びの中での学び、③生きる力としてのレジリエンスや道徳性、④やる気を引き出す支援、⑤問題行動の理解と対応などを理論と事例をもとに理解を深め、保育における発達援助について学びます。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育実践において、子どもの心身の発達過程および発達の概念を理解することの意義を説明できる。
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達に関する具体的な内容について説明できる。
③	様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的な理論を理解し、教育・保育実践への応用可能性について提案できる。
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、子どもの発達特徴と関連づけながら説明できる。
⑤	子どもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身につける。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%	
授業参加度	10%	
提出物	30%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

清水益治他『新保育ライブラリ 保育の心理学Ⅱ』北大路書房

参考書

清水益治他『新保育ライブラリ 子どもの理解と援助』北大路書房
青木智子他『子どものための心理学』北樹出版
中澤潤『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房

試験対策

教科書に記載されている、教育心理学の理論・学説などを中心に、発達の各側面について出題します。多肢選択問題を予定していますので、各自準備学習をして試験に臨んでください。

学習のアドバイス

教育心理学の様々な理論と、教科書に取り上げられている事例をもとに、保育実践を関連させながら理解を進めてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	栗田 明子	ガイダンス	子どもの心身の発達および学習の過程を理解することの意義について考える
2	栗田 明子	発達とは何か(1)	生涯発達とは何か、発達段階および発達課題について理解する
3	栗田 明子	発達とは何か(2)	乳幼児期の運動・言語・認知発達の特徴について理解する
4	栗田 明子	子どもの学習(1)	経験に基づく学習（学習理論）と子どもの成長について理解する
5	栗田 明子	子どもの学習(2)	記憶能力の発達について理解し、適切な保育者の援助・態度について学ぶ
6	栗田 明子	やる気の引き出し方	動機づけ理論をとおして、やる気を促す保育・教育の方法について理解する
7	栗田 明子	社会性と情緒の発達	子ども同士の関わりのなかで育つ社会性や情緒的発達について理解する
8	栗田 明子	子どもの個性	パーソナリティ理論をとおして、個性とは何かについて理解する
9	栗田 明子	子どもを理解する方法(1)	観察と記録の意義および方法について理解する
10	栗田 明子	子どもを理解する方法(2)	省察と評価の意義および方法について理解する
11	栗田 明子	子どもを理解する方法(3)	職員間の対話、保護者との情報共有の必要性と意義について理解する
12	栗田 明子	発達援助の課題と対応(1)	特別な配慮を必要とする子どもについて理解する
13	栗田 明子	発達援助の課題と対応(2)	共生社会の形成に向けた教育・保育の在り方について考える
14	栗田 明子	発達援助の課題と対応(3)	発達の連続性を理解し、適切な就学支援の方法について考える
15	栗田 明子	まとめ	本科目の振り返り

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング受講前に、指定教科書の各章末の演習問題に目を通しておいてください。進度に従っていくつかをグループワークの題材にします。	60時間
復習	スクーリング授業内で指示した、指定教科書や配付プリントの重要事項をよく復習して試験に備えてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内の小課題については返却の際に全体に向けてフィードバックします。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こども家庭支援の心理学 Psychology to support children and families	五十嵐 元子	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4100	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	子ども家庭支援センターでの臨床心理士としての活動を活かし、支援に必要な基礎知識と具体的な支援方法について解説する。
－	地域理解力	

授業の概要

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。さらに、家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題、子どもの精神保健とその課題について理解する。

授業の目的

生涯発達の観点から子どもの発達や家族の関係性について理解を深められるよう、心理学の基礎知識を習得する。ライフコースと仕事・子育て、親としての育ち、特別な配慮を要する家庭に関して、VTR視聴やグループデスカッションを通して、理解を深める。現代の社会的状況と家庭での子育てのあり方とを結びつけて、子どもと保護者とのかかわりについて考え、子どもと保護者の精神保健とその課題に関する知識を養う。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題について解説できる。家族・家庭の機能、親子関係及び家族関係について学んだことを説明できる。
②	子育て家庭に関する現状とその課題について解説できる。子どもの精神保健とその課題について理解し、説明することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

白川佳子他『新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学』中央法規

参考書

無藤隆他『子育て支援の心理学-家庭・園・地域で育てる-』有斐閣コンパクト
荒井聡『具体例で学ぶ 保育園での保護者支援』群青社［発売・星雲社］

試験対策

試験は主に教科書にある内容を習得し、かつ自分の考えが述べられるかを見ていきます。問題形式は、論述問題です。繰り返し教科書を読み、知識を保育現場で活用する気持ちで試験に臨んでください。

学習のアドバイス

日頃から、家族と子育てのあり方に関するトピックを意識しておくと、教科書の内容をより深く理解することができます。
様々な場面を思い浮かべながら、保育者として、自分だったらどう対応するかを考えるようにしてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	生涯発達の心理学的基礎（1）	生涯発達の定義について
2	五十嵐 元子	生涯発達の心理学的基礎（2）	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について
3	五十嵐 元子	生涯発達の心理学的基礎（3）	学童期後期から青年期にかけての発達について
4	五十嵐 元子	家族・家庭の理解（1）	家族・家庭の意義と機能
5	五十嵐 元子	家族・家庭の理解（2）	親子関係・家族関係の理解
6	五十嵐 元子	家族・家庭の理解（3）	子育ての経験と親としての育ち
7	五十嵐 元子	子育て家庭に関する現状と課題（1）	子育てを取り巻く社会的状況を知る
8	五十嵐 元子	子育て家庭に関する現状と課題（2）	ライフコースと仕事・子育て
9	五十嵐 元子	子育て家庭に関する現状と課題（3）	多様な家庭とその理解
10	五十嵐 元子	子育て家庭に関する現状と課題（4）	特別な配慮を要する家庭について知る
11	五十嵐 元子	子どもの精神保健とその課題（1）	子どもの生活・生育環境とその影響
12	五十嵐 元子	子どもの精神保健とその課題（2）	子どもの心の健康にかかわる問題
13	五十嵐 元子	困難事例の理解（1）	児童虐待について考える①教科書や参考書に掲載されている事例についてまとめる
14	五十嵐 元子	困難事例の理解（2）	児童虐待について考える②新聞やニュースから自分の考えをまとめる
15	五十嵐 元子	まとめ	学習内容をまとめ、家庭支援における保育士の役割を考察する

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。
教科書・参考書にある事例については、支援のねらいと方法を理解すること。
テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点や重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポート返却時にコメントを記入する。質問には適宜受け応える。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもの理解と援助 Understanding support of children	栗田 明子	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	4110	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	–	臨床発達心理士として、小中学校の巡回相談に従事しており、「気になる子」のアセスメントや教員へのコンサルテーションを通して、子どもの理解と援助に貢献しており当該授業を行う上で十分な臨床経験がある。
–	–	

授業の概要

子どもの保育や援助・指導を行う際には、子どものやる気を引き出し、持続的に取り組ませる方法や、それらが後にどのように生かされ、子どもの心身の発達に影響をおよぼすのかを考える必要がある。本科目では、子どもの心身の発達および学習の過程に関する基礎的な知識を身につけ、子どもを理解するための具体的な方法や主体的な学びを支える保育者の援助・態度について理解することを目的とする。なお、本科目はパワーポイントを用いて講義を展開する。さらに、討論やグループワークを取り入れながら講義内容の理解を深めるため、講義への積極的な参加が求められる。

授業の目的

子どもの心身の発達を踏まえたうえで、①生活の中での学び、②遊びの中での学び、③生きる力としてのレジリエンスや道徳性、④やる気を引き出す支援、⑤問題行動の理解と対応などを理論と事例をもとに理解を深め、保育における発達援助について学びます。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育実践において、子どもの心身の発達過程および発達の概念を理解することの意義を説明できる。
②	乳幼児期から青年期の各時期における運動・言語・認知・社会性の発達に関する具体的な内容について説明できる。
③	様々な学習の形態や概念およびその過程を説明する代表的な理論を理解し、教育・保育実践への応用可能性について提案できる。
④	主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、子どもの発達特徴と関連づけながら説明できる。
⑤	子どもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身につける。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%	
授業参加度	10%	
提出物	30%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

清水益治他『新保育ライブラリ 保育の心理学Ⅱ』北大路書房

参考書

清水益治他『新保育ライブラリ 子どもの理解と援助』北大路書房
青木智子他『子どものための心理学』北樹出版
中澤潤『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房

試験対策

教科書に記載されている、こどもの理解と援助の理論・学説などを中心に、発達の各側面について出題します。多肢選択問題を予定していますので、各自準備学習をして試験に臨んでください。

学習のアドバイス

こどもの理解と援助の様々な理論と、教科書に取り上げられている事例をもとに、保育実践を関連させながら理解を進めてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	栗田 明子	ガイダンス	子どもの心身の発達および学習の過程を理解することの意義について考える
2	栗田 明子	発達とは何か(1)	生涯発達とは何か、発達段階および発達課題について理解する
3	栗田 明子	発達とは何か(2)	乳幼児期の運動・言語・認知発達の特徴について理解する
4	栗田 明子	子どもの学習(1)	経験に基づく学習（学習理論）と子どもの成長について理解する
5	栗田 明子	子どもの学習(2)	記憶能力の発達について理解し、適切な保育者の援助・態度について学ぶ
6	栗田 明子	やる気の引き出し方	動機づけ理論をとおして、やる気を促す保育・教育の方法について理解する
7	栗田 明子	社会性と情緒の発達	子ども同士の関わりのなかで育つ社会性や情緒的発達について理解する
8	栗田 明子	子どもの個性	パーソナリティ理論をとおして、個性とは何かについて理解する
9	栗田 明子	子どもを理解する方法(1)	観察と記録の意義および方法について理解する
10	栗田 明子	子どもを理解する方法(2)	省察と評価の意義および方法について理解する
11	栗田 明子	子どもを理解する方法(3)	職員間の対話、保護者との情報共有の必要性と意義について理解する
12	栗田 明子	発達援助の課題と対応(1)	特別な配慮を必要とする子どもについて理解する
13	栗田 明子	発達援助の課題と対応(2)	共生社会の形成に向けた教育・保育の在り方について考える
14	栗田 明子	発達援助の課題と対応(3)	発達の連続性を理解し、適切な就学支援の方法について考える
15	栗田 明子	まとめ	本科目の振り返り

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング受講前に、指定教科書の各章末の演習問題に目を通しておいてください。進度に従っていくつかをグループワークの題材にします。	15時間
復習	スクーリング授業内で指示した、指定教科書や配付プリントの重要事項をよく復習して試験に備えてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内の小課題については返却の際に全体に向けてフィードバックします。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
小児保健Ⅱ	宍戸 洲美	単独	卒	幼	保
Child healthⅡ			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2110	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	2007年度よりNPO法人日本子育てアドバイザー協会の子育てアドバイザー養成講座講師を勤めている。子育て支援の経験を生かし、実践的に指導する。
－	地域理解力	

受講要件

「小児保健Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

子どもの精神的な健康の保持増進とそれを阻害する要因について学ぶ。また、子どもの健康保持増進するための幅広い保健活動や施策について学ぶ。

授業の目的

・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に及ぼす影響について理解し、精神保健活動の重要性について学ぶ。
・子どもの健康を保持増進するための保健活動とそのための保健活動計画の立て方について理解する。
・今日的な子どもの健康問題を理解し、関連法や施策に基づいて解決のために必要な地域保健活動のあり方を学ぶ。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの精神保健活動とはどのようなことかわかる。
②	子どもの健康の保持・増進を考えた保健活動計画が立てられる。
③	子どもの健康問題の解決にあたり関連法や施策を活用した地域保健活動をイメージすることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座：第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会
子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議

参考書

加藤忠明他『図表で学ぶ子どもの保健！』建帛社
財団法人厚生労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

試験は教科書に沿って出題する。日頃から教科書をよく読み、内容を理解しておく。

学習のアドバイス

レポートは理解した内容を自分の言葉で表現するように訓練する。
教科書だけでなく、サブテキストや参考書等も読み内容を深める。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	宍戸 洲美	子どもの精神保健(1)	子どもの生活環境と精神保健
2	宍戸 洲美	子どもの精神保健(2)	子どもの心の健康とその課題
3	宍戸 洲美	健康及び安全の実施体制(1)	職員間の連携と組織的な取り組み
4	宍戸 洲美	健康及び安全の実施体制(2)	家庭・専門機関・地域との連携
5	宍戸 洲美	保健活動の計画及び評価(1)	保健計画の作成と活用及び自己評価
6	宍戸 洲美	保健活動の計画及び評価(2)	個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
7	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(1)	保育における養護と教育の一体性
8	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(2)	子どもの健康増進と保育の環境
9	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(3)	子どもの生活習慣と心身の健康及び発達援助と保健活動
10	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(1)	体調不良や傷害への対応及び感染症の予防と対応
11	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(2)	個別的な配慮を必要とする子どもの対応
12	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(3)	乳幼児及び障害のある子どもへの対応
13	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(1)	子どもの養育環境と心の健康問題
14	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(2)	心と身体の健康づくりと地域保健活動
15	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(3)	母子保健対策と保育

レポート作成等の方法・留意点

教科書・資料、参考書などを読み、論題に従って必要なデータを集める。次に、論旨が明らかになるように論文の組み立てを考えプロットを作成する。自分の書いたものを読み直してから清書する。文字は丁寧に誤字・脱字に注意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目に沿って、計画的に教科書やサブテキスト資料等で学習する。	60時間
復習	レポートに書かれた評価を参考にして、不足している学びを補う。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
子どもの保健ＩB Child health ＩB	宍戸 洲美	単独	卒	幼	保
			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2111	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	2007年度よりNPO法人日本子育てアドバイザー協会の子育てアドバイザー養成講座講師を勤めている。子育て支援の経験を生かし、実践的に指導する。
−	地域理解力	

受講要件

「子どもの保健ＩA」が受講済であること。

授業の概要

子どもの精神的な健康の保持増進とそれを阻害する要因について学ぶ。また、子どもの健康保持増進するための幅広い保健活動や施策について学ぶ。

授業の目的

・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に及ぼす影響について理解し、精神保健活動の重要性について学ぶ。
・子どもの健康を保持増進するための保健活動とそのための保健活動計画の立て方について理解する。
・今日的な子どもの健康問題を理解し、関連法や施策に基づいて解決のために必要な地域保健活動のあり方を学ぶ。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの精神保健活動とはどのようなことかがわかる。
②	子どもの健康の保持・増進を考えた保健活動計画が立てられる。
③	子どもの健康問題の解決にあたり関連法や施策を活用した地域保健活動をイメージすることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

新保育士養成講座編纂委員会『新保育士養成講座：第７巻　子どもの保健』全国社会福祉協議会
子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議

参考書

加藤忠明他『図表で学ぶ子どもの保健！』建帛社
財団法人厚生労働統計協会 厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

試験は教科書に沿って出題する。日頃から教科書をよく読み、内容を理解しておく。

学習のアドバイス

レポートは理解した内容を自分の言葉で表現するように訓練する。
教科書だけでなく、サブテキストや参考書等も読み内容を深める。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	宍戸 洲美	子どもの精神保健(1)	子どもの生活環境と精神保健
2	宍戸 洲美	子どもの精神保健(2)	子どもの心の健康とその課題
3	宍戸 洲美	健康及び安全の実施体制(1)	職員間の連携と組織的な取り組み
4	宍戸 洲美	健康及び安全の実施体制(2)	家庭・専門機関・地域との連携
5	宍戸 洲美	保健活動の計画及び評価(1)	保健計画の作成と活用及び自己評価
6	宍戸 洲美	保健活動の計画及び評価(2)	個別対応と子ども集団全体の健康と安全・衛生管理
7	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(1)	保育における養護と教育の一体性
8	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(2)	子どもの健康増進と保育の環境
9	宍戸 洲美	子どもの保健と環境(3)	子どもの生活習慣と心身の健康及び発達援助と保健活動
10	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(1)	体調不良や傷害への対応及び感染症の予防と対応
11	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(2)	個別的な配慮を必要とする子どもの対応
12	宍戸 洲美	子どもの疾患と適切な対応(3)	乳幼児及び障害のある子どもへの対応
13	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(1)	子どもの養育環境と心の健康問題
14	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(2)	心と身体の健康づくりと地域保健活動
15	宍戸 洲美	心と身体の健康問題と地域保健活動(3)	母子保健対策と保育

レポート作成等の方法・留意点

教科書・資料、参考書などを読み、論題に従って必要なデータを集める。次に、論旨が明らかになるように論文の組み立てを考えプロットを作成する。自分の書いたものを読み直してから清書する。文字は丁寧に誤字・脱字に注意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目に沿って、計画的に教科書やサブテキスト資料等で学習する。	60時間
復習	レポートに書かれた評価を参考にして、不足している学びを補う。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
小児保健実習 Exercise in Child Health	両角　理恵、高橋　良子	クラス分け	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	2120	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育所の子ども達を対象に、発育・発達相談、保健指導等を行ってきた経験を活かし、乳幼児の養護や健康管理、安全管理、応急手当などについて事例を交えながら指導を行う。
－	－	

受講要件

「小児保健Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

保育現場を想定した演習形式を用いて、子どもの心と体の健康を保持・増進するための保健活動の実際について学ぶ。

授業の目的

「小児保健Ⅰ」「小児保健Ⅱ」で学んだ理論や知識をもとに、実際の保育現場や家庭での育児や看護に必要な実践的技術の習得を行い、保育者の重要な資質である子どもの心身の健康状態を判断できる力を育成する。また、不慮の事故や子どもの緊急症状に対する対処方法、応急手当、健康教育などの実践能力を養うことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	「小児保健Ⅰ」「小児保健Ⅱ」で学んだ知識を基礎とし、グループ演習を通して実践の場で役立てる応用力や技術を身につけることを目指す。子どもの養護、身体発育の評価、保健衛生に関連した生活援助、病気への対応、応急手当、保健計画、健康教育の実際、保健だよりの作成等を取り上げグループ演習を行い、保育保健の知識の応用および実践的な技術を習得できることを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング技術試験	20%	
授業内課題	70%	
授業態度	10%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

鈴木美枝子『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全』創成社

参考書

授業内で紹介する。

試験対策

授業を通して学んだ技術の習得状況を試験します。授業後、教科書や配付資料を読み返し、自宅で積極的に練習してください。

学習のアドバイス

授業の形式は、講義をしてから基本的なことを実習します。実物大の人形で実習するので各自が積極的に取り組むこと。事前に教科書などを読んでおくとよい。授業後は教科書や配付資料を読み返しておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	両角　理恵 高橋　良子	オリエンテーション 子どもの養護と教育(1)	スクーリング学習内容の説明 だっこ・おんぶ
2	両角　理恵 高橋　良子	子どもの養護と教育(2)	排泄
3	両角　理恵 高橋　良子	子どもの養護と教育(3)	衣服の着脱・沐浴
4	両角　理恵 高橋　良子	子どもの生活習慣への援助と教育	睡眠・排泄・外遊び
5	両角　理恵 高橋　良子	子どもの発育・発達の観察評価(1)	乳児の身体計測と評価
6	両角　理恵 高橋　良子	子どもの発育・発達の観察評価(2)	幼児の身体計測と評価
7	両角　理恵 高橋　良子	子どもの発育・発達の観察評価(3)	発育評価を活用した事例検討
8	両角　理恵 高橋　良子	子どもの健康観察と健康管理	日常の健康観察・健康診断、感染症対策・予防
9	両角　理恵 高橋　良子	体調不良の子どもへの対応(1)	発熱、脱水、けいれん
10	両角　理恵 高橋　良子	体調不良の子どもへの対応(2)	発疹、腹痛、頭痛、鼻汁・鼻閉
11	両角　理恵 高橋　良子	体調不良の子どもへの対応(3)	嘔吐、下痢、嘔吐物の処理、薬について
12	両角　理恵 高橋　良子	個別の配慮が必要な子どもの援助	食物アレルギー、エピペン、喘息、障害のあるこどもへの対応
13	両角　理恵 高橋　良子	子どもの心と体の健康づくりのために	保健計画、健康教育、保健だより、歯みがき指導の実際
14	両角　理恵 高橋　良子	園での安全対策と望ましい保育環境	安全管理、安全教育、保育環境、災害への備え
15	両角　理恵 高橋　良子	保育における応急手当	けがの対応、一次救命処置、健康及び安全管理の実施体制

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業の内容に合わせて教科書を読んでおく。	15時間
復習	配付したプリントおよび教科書を参考に、授業内で使用したワークシートや課題の内容を振り返る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
子どもの保健演習 Exercise in Child Health	両角 理恵、高橋 良子	クラス分け	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	2121	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育所の子ども達を対象に、発育・発達相談、保健指導等を行ってきた経験を活かし、乳幼児の養護や健康管理、安全管理、応急手当などについて事例を交えながら指導を行う。
－	－	

受講要件

「子どもの保健ＩA」が受講済であること。

授業の概要

保育現場を想定した演習形式を用いて、子どもの心と体の健康を保持・増進するための保健活動の実際について学ぶ。

授業の目的

「子どもの保健ＩA」「子どもの保健ＩB」で学んだ理論や知識をもとに、実際の保育現場や家庭での育児や看護に必要な実践的技術の習得を行い、保育者の重要な資質である子どもの心身の健康状態を判断できる力を育成する。また、不慮の事故や子どもの緊急症状に対する対処方法、応急手当、健康教育などの実践能力を養うことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	「子どもの保健ＩA」「子どもの保健ＩB」で学んだ知識を基礎とし、グループ演習を通して実践の場で役立てる応用力や技術を身につけることを目指す。子どもの養護、身体発育の評価、保健衛生に関連した生活援助、病気への対応、応急手当、保健計画、健康教育の実際、保健だよりの作成等を取り上げグループ演習を行い、保育保健の知識の応用および実践的な技術を習得できることを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング技術試験	20%	
授業内課題	70%	
授業態度	10%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

鈴木美枝子『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全』創成社

参考書

授業内で紹介する。

試験対策

授業を通して学んだ技術の習得状況を試験します。授業後、教科書や配付資料を読み返し、自宅で積極的に練習してください。

学習のアドバイス

授業の形式は、講義をしてから基本的なことを実習します。実物大の人形で実習するので各自が積極的に取り組むこと。事前に教科書などを読んでおくとよい。授業後は教科書や配付資料を読み返しておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	両角 理恵 高橋 良子	オリエンテーション 子どもの養護と教育(1)	スクーリング学習内容の説明 だっこ・おんぶ
2	両角 理恵 高橋 良子	子どもの養護と教育(2)	排泄
3	両角 理恵 高橋 良子	子どもの養護と教育(3)	衣服の着脱・沐浴
4	両角 理恵 高橋 良子	子どもの生活習慣への援助と教育	睡眠・排泄・外遊び
5	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(1)	乳児の身体計測と評価
6	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(2)	幼児の身体計測と評価
7	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(3)	発育評価を活用した事例検討
8	両角 理恵 高橋 良子	子どもの健康観察と健康管理	日常の健康観察・健康診断、感染症対策・予防
9	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(1)	発熱、脱水、けいれん
10	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(2)	発疹、腹痛、頭痛、鼻汁・鼻閉
11	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(3)	嘔吐、下痢、嘔吐物の処理、薬について
12	両角 理恵 高橋 良子	個別の配慮が必要な子どもの援助	食物アレルギー、エピペン、喘息、障害のある子どもへの対応
13	両角 理恵 高橋 良子	子どもの心と体の健康づくりのために	保健計画、健康教育、保健だより、歯みがき指導の実際
14	両角 理恵 高橋 良子	園での安全対策と望ましい保育環境	安全管理、安全教育、保育環境、災害への備え
15	両角 理恵 高橋 良子	保育における応急手当	けがの対応、一次救命処置、健康および安全管理の実施体制

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業の内容に合わせて教科書を読んでおく。	15時間
復習	配付したプリントおよび教科書を参考に、授業内で使用したワークシートや課題の内容を振り返る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもの健康と安全 Child Health and Safety	両角 理恵、高橋 良子	クラス分け	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	4270	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育所の子ども達を対象に、発育・発達相談、保健指導等を行ってきた経験を活かし、乳幼児の養護や健康管理、安全管理、応急手当などについて事例を交えながら指導を行う。
－	－	

受講要件

「こどもの保健」が受講済であること。

授業の概要

保育現場を想定した演習形式を用いて、子どもの心と体の健康を保持・増進するための保健活動の実際について学ぶ。

授業の目的

「こどもの保健」で学んだ理論や知識をもとに、実際の保育現場や家庭での育児や看護に必要な実践的技術の習得を行い、保育者の重要な資質である子どもの心身の健康状態を判断できる力を育成する。また、不慮の事故や子どもの緊急症状に対する対処方法、応急手当、健康教育などの実践能力を養うことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	「こどもの保健」で学んだ知識を基礎とし、グループ演習を通して実践の場で役立てる応用力や技術を身につけることを目指す。子どもの養護、身体発育の評価、保健衛生に関連した生活援助、病気への対応、応急手当、保健計画、健康教育の実際、保健だよりの作成等を取り上げグループ演習を行い、保育保健の知識の応用および実践的な技術を習得できることを目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング技術試験	20%
授業内課題	70%
授業態度	10%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

鈴木美枝子『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの健康と安全』創成社

参考書

授業内で紹介する。

試験対策

授業を通して学んだ技術の習得状況を試験します。授業後、教科書や配付資料を読み返し、自宅で積極的に練習してください。

学習のアドバイス

授業の形式は、講義をしてから基本的なことを実習します。実物大の人形で実習するので各自が積極的に取り組むこと。事前に教科書などを読んでおくとよい。授業後は教科書や配付資料を読み返しておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	両角 理恵 高橋 良子	オリエンテーション 子どもの養護と教育(1)	スクーリング学習内容の説明 だっこ・おんぶ
2	両角 理恵 高橋 良子	子どもの養護と教育(2)	排泄
3	両角 理恵 高橋 良子	子どもの養護と教育(3)	衣服の着脱・沐浴
4	両角 理恵 高橋 良子	子どもの生活習慣への援助と教育	睡眠・排泄・外遊び
5	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(1)	乳児の身体計測と評価
6	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(2)	幼児の身体計測と評価
7	両角 理恵 高橋 良子	子どもの発育・発達の観察評価(3)	発育評価を活用した事例検討
8	両角 理恵 高橋 良子	子どもの健康観察と健康管理	日常の健康観察・健康診断、感染症対策・予防
9	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(1)	発熱、脱水、けいれん
10	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(2)	発疹、腹痛、頭痛、鼻汁・鼻閉
11	両角 理恵 高橋 良子	体調不良の子どもへの対応(3)	嘔吐、下痢、嘔吐物の処理、薬について
12	両角 理恵 高橋 良子	個別の配慮が必要な子どもの援助	食物アレルギー、エピペン、喘息、障害のある子どもへの対応
13	両角 理恵 高橋 良子	子どもの心と体の健康づくりのために	保健計画、健康教育、保健だより、歯みがき指導の実際
14	両角 理恵 高橋 良子	園での安全対策と望ましい保育環境	安全管理、安全教育、保育環境、災害への備え
15	両角 理恵 高橋 良子	保育における応急手当	けがの対応、一次救命処置、健康および安全管理の実施体制

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業の内容に合わせて教科書を読んでおく。	15時間
復習	配付したプリントおよび教科書を参考に、授業内で使用したワークシートや課題の内容を振り返る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
乳児保育(対象：2016～2018年度入学生) Infant Care And Education	韓 仁愛	単独	卒	幼	保
			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2221	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育現場の経験を活かし、３歳未満児の成長発達に基づく乳児保育の在り方につなげる実践力について学べるように進め、指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

授業の概要

3歳未満児の発達を理解した上で、生活とあそびをどのように進めていくのかについて学び、環境づくり、保育計画作成、連絡帳作成など、体験することで、乳児保育の実際について理解を深めていく。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国における乳児保育に触れ、視野を広げることで、いずれか保育者になる学生がより多面的で実践的な乳児保育を学ぶ。

授業の目的

本授業は、受講生が乳児保育に携わる際に必要な子ども対応と環境構成・保育計画・連絡帳等を授業内容で取り組む。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国の乳児保育を知ることで、乳児保育の実践につなげるための基本を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの月齢・年齢に相応しい保育のあり方を工夫し・探求できる。
②	保育計画の必要性を理解し、環境づくり、連絡帳作成など、乳児保育担当者の仕事を体験できる。
③	柔軟な担当制を通した保育者同士の連携の重要性と保育のあり方について理解する。

成績評価方法及び基準

授業態度	20%	※演習課題: 指導計画作成・環境づくり・連絡帳作成をそれぞれ10%
演習課題	30%	
筆記試験	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

乳児保育研究会『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房

参考書

厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
神田英雄『0歳から3歳　保育・子育てと発達研究をむすぶ』全国保育団体連絡会

試験対策

教科書の内容と共に授業内で配布した参考資料にも十分に目を通し、学びを深めてください。

学習のアドバイス

教員から提示するレジュメと教科書の要点をしっかりと理解した上で、自分の意見を持ち、記述できるようにしてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓　仁愛	ガイダンス	授業計画及び評価基準など
2	韓　仁愛	3歳未満児の実践に学ぶ（1）	映像を通して0歳児・1歳児・2歳児の姿を通して学ぶ
3	韓　仁愛	3歳未満児の実践に学ぶ（2）	実践事例から子どもの姿と保育者の関わりについて学ぶ
4	韓　仁愛	記録と全体的な計画	全ての計画に基づく、1歳児の月の指導計画(月案)・ 週の指導計画(週案)を作成する
5	韓　仁愛	記録の分析と振り返り	作成した月案・週案をグループワークを通して振り返る
6	韓　仁愛	乳児保育と環境づくり（1）	乳児保育における環境づくりの重要性
7	韓　仁愛	乳児保育と環境づくり（2）	2歳児の保育室環境について演習を実施、振り返る
8	韓　仁愛	保護者理解と支援（1）	子育て支援を含む保護者支援のあり方について学ぶ
9	韓　仁愛	保護者理解と支援（2）	0歳児の保護者への連絡帳を作成し、内容を検討する
10	韓　仁愛	保育所以外の乳児保育（1）	地域型保育の中でも家庭的保育事業、小規模保育事業などに触れる
11	韓　仁愛	保育所以外の乳児保育（2）	各自の調査内容を元に、保育所以外の乳児保育を情報交流し、まとめる
12	韓　仁愛	諸外国の乳児保育について	韓国やイタリアの乳児保育と比較を通して学ぶ
13	韓　仁愛	担当制と職員間の連携	緩やかな担当制と保育者の連携について
14	韓　仁愛	乳児保育とおもちゃ	3歳未満児のおもちゃの重要性について
15	韓　仁愛	授業全体の振り返り	授業内容全体を振り返り 乳児保育担当者としての役割と大事にしていきたいこと

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書や参考書を読み込み、３歳未満児保育について理解をしておく。	60時間
復習	授業時に使用したレジュメ及び資料はファイリングしておく。 配布した授業資料をよく読み返し、重要なポイントを整理しておく。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入し、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
乳児保育Ⅰ	韓 仁愛	単独	卒	幼	保
Infant Care And Education Ⅰ			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4250	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	ー	保育現場の経験を活かし、３歳未満児の成長発達に基づく乳児保育の在り方について学べるように指導する。
ー	地域理解力	

授業の概要

乳児保育の意義と必要性を知ると共に、３未満児の発達の特徴を理解し、その上で日頃の生活と遊びの進め方、環境構成の重要性、保育計画の必要性と保育者の関わり方等について学ぶ。

授業の目的

本授業はいずれか乳児保育に携わる学生たちが、乳児保育の歴史を知り３歳未満児の成長発達、環境構成や保育計画の意義を理解することで、乳児保育の実践につなげるための基本を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳児保育の意義及び必要性を理解する。
②	乳児保育の歴史的変遷過程から学び、今後の課題を把握する。
③	３歳未満児の発達の特徴を知り、年齢・月齢に寄り添う関わり方を考察する。
④	全体的な計画に基づく保育計画と記録の意義と必要性に気づく。
⑤	保育所、家庭的保育事業、乳児院などの共通点と相違点から乳児保育のあり方を模索する。
⑥	職員間の連携と保護者との協働、他機関や地域との連携などについて理解を深める。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

乳児保育研究会『改訂5 版　資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房

参考書

厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

神田英雄『0歳から3歳　保育・子育てと発達研究をむすぶ』全国保育団体連絡会

試験対策

主に教科書とサブテキストの内容を中心に出題します。

学習のアドバイス

各章で示す要点をしっかりと理解した上で、自分の意見を持ち、記述できるようにしてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓 仁愛	乳児保育について	乳児保育とは何か
2	韓 仁愛	乳児保育の歴史	乳児保育の変遷過程について
3	韓 仁愛	0歳児前半の姿と保育	0歳児前半の発達の理解と保育のポイント
4	韓 仁愛	0 歳児後半の姿と保育	0 歳児後半の発達の理解と保育のポイント
5	韓 仁愛	1 歳児の姿と保育	1 歳児の発達の理解と保育のポイント
6	韓 仁愛	2 歳児の姿と保育	2 歳児の発達の理解と保育のポイント
7	韓 仁愛	3歳未満児の生活と環境	基本的な生活習慣と環境構成
8	韓 仁愛	3歳未満児の遊びと環境	あそびとおもちゃについて
9	韓 仁愛	乳児保育の記録・保育計画	計画の必要性と個人指導計画の意義
10	韓 仁愛	保護者理解と子育て支援	保護者の生活を含む子育て支援のあり方
11	韓 仁愛	保育所以外の乳児保育(1)	家庭的保育、乳児院など
12	韓 仁愛	保育所以外の乳児保育(2)	一時保育、病児保育など
13	韓 仁愛	改定「保育所保育指針」	新指針の乳児保育の内容について
14	韓 仁愛	乳児保育の連携と協働	担当制とチームワークのあり方
15	韓 仁愛	全体の振り返り	まとめ

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書に目を通し、理解を深めてください。その他、レポート課題に関連する諸資料を収集し、その内容を付け加えましょう。そして、レポート作成にあたり最も大事なことは、まとめた内容について自分の意見を持ち、自分の言葉として記述することです。その際には、自論に流されないためにも、何に基づいてそのように思うのか根拠を示しましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書や参考書を読み込み、３歳未満児保育について理解をしておくこと。	60時間
復習	提出したレポートをよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入し、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
障害児保育（対象：2016～2018年度入学生） Early Childhood Special Education	川尻 泰樹	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2231	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
－	－	

授業の概要

障害という形での育ちに困難がある子どもに関する基礎的な知識を身につけ、子ども理解の重要な視点と豊かな園生活を送るための工夫を学びます。併せて、保護者支援、個別保育支援計画、地域の専門機関との連携についても考えます。

授業の目的

障害児保育の理念について知る。各種障害の特徴と対応について理解を得る。障害児へ、および、障害児を含む子ども集団への保育実践への準備性を高める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	障害児に対する保育、障害児を含む保育の要点を理解する。
②	当事者理解の足場を得る。
③	保育と支援の要点を理解する。

成績評価方法及び基準

受講態度	20%	
スクーリング試験	80%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

尾崎康子他『よくわかる障害児保育 第2 版』ミネルヴァ書房

参考書

堀智晴他『障害児保育の理論と実践～インクルーシブ保育の実現に向けて』ミネルヴァ書房
芹澤清音『発達障がい児の保育とインクルージョン～個別支援から共に育つ保育へ』大月書店
他、自身で良いと思う本があれば、それを学んでください。

試験対策

試験は主に基礎知識とその応用を問います。
スクーリングの内容を習得し、かつ自分の考えが述べられるかを確認します。
教科書を通読し、スクーリングを妥当に受講していれば通過可能です。

学習のアドバイス

スクーリングの内容をよく復習し、教科書を熟読してください。
スクーリングにおいてシラバスを重視しますが、形骸的・硬直化した授業は避けます。
学生の皆さんの主体的な学びを歓迎します。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	川尻 泰樹	障害児保育の理念	「障害」の概念とその変遷
2	川尻 泰樹	障害児保育の形態	分離保育・統合保育・インクルーシヴ保育
3	川尻 泰樹	障害各論(1)	知的障害の特徴と保育、ダウン症
4	川尻 泰樹	障害各論(2)	発達障害①自閉症スペクトラムの特徴と保育
5	川尻 泰樹	障害各論(3)	発達障害② ADHD・LD の特徴と保育
6	川尻 泰樹	障害各論(4)	発達障害の世界を疑似体験し、困っていることを考える
7	川尻 泰樹	障害各論(5)	感覚器の障害の特徴と保育
8	川尻 泰樹	障害各論(6)	肢体不自由とダウン氏症候群の特徴と保育
9	川尻 泰樹	障害各論(7)	子どもと保育のアセスメント
10	川尻 泰樹	各論(1)	保護者支援
11	川尻 泰樹	各論(2)	園内カンファレンス
12	川尻 泰樹	各論(3)	個別支援計画と保育を考える
13	川尻 泰樹	各論(4)	地域の専門機関・学校との連携
14	川尻 泰樹	各論(5)	発達支援の技法～療育を知る
15	川尻 泰樹	まとめ	一人ひとりが参加する保育とは何か
			※総合的に、上記を扱いますが、討議や質問を歓迎します。 その際、上記順とは必ずしも合致しないこともあります。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	指定教科書を中心に、関心を抱いてください。	60時間
復習	指定教科書、スクーリングの内容を中心に、関心を深めてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

無	

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
音楽実技 Practice of Music	若原 真由子	オムニバス	卒	幼	保
			選	選必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2250	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭及び音楽科教育の実務経験を活かし、音楽表現活動の技能を習得して保育実践に活かせるよう指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	－	

授業の概要

乳幼児の園生活における音楽表現活動を豊かにするために保育者として必要な知識（音楽と発達、保育者に必要な音楽性）と技術（歌唱・視唱技能、楽器演奏技能、リトミック、創作）を身に付け、その指導法を学ぶ。

授業の目的

幼児の音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念と実技学習する。本授業では、幼児の生活の中での音楽に関する表現活動を理解し、援助するために必要な知識と技能を身に付けると共に、自らの感性を豊かにし、表現力を高めることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育現場で必要となる基本的な歌唱・視唱技能、楽器の演奏技能を習得する。
②	保育の中での音楽表現活動を援助する力を身に付ける。

成績評価方法及び基準

発表	10%
提出物	10%
授業への取り組み	10%
スクーリング試験	70%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

・フェルディナント・バイエル『バイエルピアノ教則本 新訂』音楽之友社
・大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 選べる3 ステップ 改訂版』学研プラス
・大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 選べる3 ステップ 改訂版』学研プラス
上記以外は、その都度必要に応じてプリントを配付する。
手持ちのバイエルがある人は教科書のバイエルを購入しなくてもよい。

参考書

・松山祐士『こどもの歌名曲アルバム』ドレミ楽譜出版社
・鈴木みゆき他『乳幼児の音楽』樹村房
・大学音楽研究グループ『教職課程のための大学ピアノ教本－バイエルとツェルニーによる展開－』教育芸術社

試験対策

・授業の最終日にピアノと弾きうたいの実技試験を行う。
・授業の開始時からその技能や表現力を身に付けられるよう毎日の練習が必要である。

学習のアドバイス

・保育における音楽表現活動の指導理念の講義と実技を組み合わせながら、各内容を総合的に進めていくため、復習（乳幼児の音楽と発達、手遊び、歌唱、弾き歌いの方法）を必ず行い、即実践に生かせるようにする。
・取り上げる教材や課題によって、グループワーク（リトミック、合奏）を行うため、受講者同士が連携して練習や発表ができるようにする。
・ピアノ実技は毎回ごとの予習と復習（バイエル50～70番、子どもの歌3曲）は必ず行うようにする。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原 真由子	ガイダンス	スクーリングの学習内容とピアノ実技についての説明
2	若原 真由子	音楽表現活動の意義と役割	音楽表現活動の事例（歌、手遊び、合奏、リトミック、身体表現）
3	若原 真由子	幼児の発達と音楽	幼児の音楽的発達と保育者に必要な音楽性
4	若原 真由子	わらべ歌、手遊びの展開法	代表例の実践と発表
5	若原 真由子	童謡の視唱と弾き歌いの方法	歌詞の意味と読譜の練習
6	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（1）	楽器アンサンブルの指導法と実践
7	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（2）	グループごとに練習、発表
8	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（3）	身体表現の指導法と実践
9	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（4）	グループごとに練習、発表
10	若原 真由子	楽器アンサンブルと身体表現	楽器演奏と身体表現の組み合わせ
11	若原 真由子	「うたあそび」の創作	自作の歌詞と旋律をつくる
12	若原 真由子	創作曲の完成	創作曲の弾き歌いの練習、発表
13	若原 真由子	リトミックの基礎知識	リトミック教育の意義と歴史
14	若原 真由子	リトミックの指導法	童謡を題材としたリトミックの実践
15	若原 真由子	まとめと発表	創作曲の弾き歌い、童謡、リトミック、ピアノ曲の発表
			（注）各授業日に担当教員の指導によるピアノ実技を行う。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	ピアノの初心者は、スクーリング開始前までに教科書を中心に練習をすること。	60時間
復習	授業で配付した歌や手遊びの資料は読譜や実践を繰り返し復習すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	創作曲の添削後の弾き歌いの発表、授業で学んだ童謡の弾き歌いやグループワークのリトミック、楽器アンサンブルの発表をもって授業終了となる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こどもと音楽 Children and Music Expression	若原 真由子	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	4240	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭及び音楽科教育の実務経験を活かし、音楽表現活動の技能を習得して保育実践に活かせるよう指導する。
フィードバック能力	−	

授業の概要

乳幼児の園生活における音楽表現活動を豊かにするために、保育者として必要な知識（音楽の発達、保育者に必要な音楽性）と技術（歌唱・視唱技能、楽器演奏技能、リトミック、創作）を身に付け、その指導法を学ぶ。

授業の目的

乳幼児の音楽表現に関する内容を中心にその指導理念と実技学習をする。本授業では乳幼児の生活の中で音楽に関する表現活動を理解し、援助するために必要な知識と技能を身に付けるとともに、自らの感性を豊かにし、表現力を高めることを目標とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育現場で必要となる基本的な歌唱・視唱技能、楽器の演奏技能を習得する。
②	保育の中での音楽表現活動を援助する力を身に付ける。

成績評価方法及び基準

発表	10%
提出物	10%
授業への取り組み	10%
スクーリング試験	70%

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

・フェルディナント・バイエル『バイエルピアノ教則本 新訂』音楽之友社
・大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第1巻 選べる3ステップ 改訂版』学研ﾌﾟﾗｽ
・大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集 第2巻 選べる3ステップ 改訂版』学研ﾌﾟﾗｽ
上記以外は、その都度必要に応じてプリントを配付する。
手持ちのバイエルがある人は教科書のバイエルを購入しなくてもよい。

参考書

・松山祐士『こどもの歌名曲アルバム』ドレミ楽譜出版社
・鈴木みゆき他『乳幼児の音楽』樹村房
・大学音楽研究グループ『教職課程のための大学ピアノ教本ーバイエルとツェルニーによる展開ー』教育芸術社

試験対策

・授業の最終日にピアノと弾き歌いの実技試験を行う。
・授業の開始時から技能や表現力を身に着けられるよう毎日の練習が必要である。

学習のアドバイス

・保育における音楽表現活動の指導理念の講義と実技を組み合わせながら、各内容を総合的に進めていくため、復習（乳幼児の音楽と発達、手遊び、歌唱、弾き歌いの方法）を必ず行い、即実践に生かせるようにする。
・取り上げる教材や課題によって、グループワーク（リトミック、合奏）を行うため、受講者同士が連携して練習や発表ができるようにする。
・ピアノ実技は毎回ごとの予習と復習（バイエル50〜70 番、子どもの歌３曲）は必ず行うようにする。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	若原 真由子	ガイダンス	スクーリングの学習内容とピアノ実技についての説明
2	若原 真由子	音楽表現活動の意義と役割	音楽表現活動の事例（歌、手遊び、合奏、リトミック、身体表現）
3	若原 真由子	幼児の発達と音楽	幼児の音楽的発達と保育者に必要な音楽性
4	若原 真由子	わらべ歌、手遊びの展開法	代表例の実践と発表
5	若原 真由子	童謡の視唱と弾き歌いの方法	歌詞の意味と読譜の練習
6	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（1）	楽器アンサンブルの指導法と実践
7	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（2）	グループごとに練習、発表
8	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（3）	身体表現の指導法と実践
9	若原 真由子	童謡を中心とした表現活動（4）	グループごとに練習、発表
10	若原 真由子	楽器アンサンブルと身体表現	楽器演奏と身体表現の組み合わせ
11	若原 真由子	「うたあそび」の創作	自作の歌詞と旋律をつくる
12	若原 真由子	創作曲の完成	創作曲の弾き歌いの練習、発表
13	若原 真由子	リトミックの基礎知識	リトミック教育の意義と歴史
14	若原 真由子	リトミックの指導法	童謡を題材としたリトミックの実践
15	若原 真由子	まとめと発表	創作曲の弾き歌い、童謡、リトミック、ピアノ曲の発表
			（注）各授業日に担当教員の指導によるピアノ実技を行う。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	ピアノの初心者はスクーリング開始前までに教科書を中心に練習をすること。	60時間
復習	授業で配付した歌や手遊びの資料は、読譜や実践を繰り返し復習すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	創作曲の添削後の弾き歌いの発表、授業で学んだ童謡の弾き歌いやグループワークのリトミック、楽器アンサンブルの発表をもって授業終了となる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
身体表現 Expressive body movements	髙橋 裕勝	単独	卒	幼	保
			選	選必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2260	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの身体表現の実際をイメージさせながら指導する。
－	－	

授業の概要

身体表現活動の実践を通して、自らが身体表現の楽しさを体験するとともに、乳幼児の身体表現の捉え方とその援助方法について学ぶ。

授業の目的

子どもたちに身体表現の楽しさを伝えるためには、保育者自らがその楽しさを体験していることが重要である。そこで本講義では、身体表現活動をとおして、身体を使った遊びや表現することの楽しさを味わうとともに、保育者にとって必要な基礎的知識と技術、豊かな表現力を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもにおける身体表現とは何か、その発達について概説できる。
②	子どもの創造力や活動意欲を引き出すために必要な援助方法について概説できる。
③	身体表現の楽しさを自らの体験をもって理解することができる。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	30%	スクーリング試験は、論文形式で行う。
授業態度	20%	課題発表は、積極的に他者と交流し参加すること。
課題発表	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

なし

参考書

古市久子『保育表現技術 豊かに育つ・育てる身体表現』ミネルヴァ書房
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

スクーリング学習の理解度と自分の考えが述べられているのかを確認します。 毎時の授業内容をしっかりと記録すること。

学習のアドバイス

スポーツウエア、スポーツシューズを着用すること。ピアス、指輪、ネックレス、ブレスレット、時計、付け爪等は外すこと。
授業に不要な物、スマートフォンはカバンにしまい学習環境と見栄えを整えること。スマートフォンの使用は指示がある時のみ。
ケガや事故の防止、安全管理に努めて協力的に行動すること。授業中はもちろんであるが、その前後も体調の管理に努めること。
必要に応じて水分補給の時間を設けるが、その他の飲食は禁止する。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	髙橋 裕勝	オリエンテーション	豊かな身体表現とは
2	髙橋 裕勝	子どもの身体表現の発達	年齢に応じた身体表現
3	髙橋 裕勝	身体表現を支えるリズム	手遊び、歌遊び
4	髙橋 裕勝	基本運動	からだをほぐす
5	髙橋 裕勝	身体を使った表現活動	模倣
6	髙橋 裕勝	運動あそび（1）	鬼ごっこ、ボールを用いた遊び
7	髙橋 裕勝	運動あそび（2）	新聞紙を用いた遊び
8	髙橋 裕勝	運動あそび（3）	縄、マットを用いた遊び
9	髙橋 裕勝	リズム運動（1）	ダンス基本ステップの実践
10	髙橋 裕勝	リズム運動（2）	ダンス基本ステップの習得
11	髙橋 裕勝	身体表現活動の実践（1）	グループ分け、内容の決定
12	髙橋 裕勝	身体表現活動の実践（2）	発表の打合せと練習
13	髙橋 裕勝	身体表現活動の実践（3）	発表の打合せと練習
14	髙橋 裕勝	身体表現活動の実践（4）	発表の打合せと練習
15	髙橋 裕勝	まとめ	表現発表会
			（各回の内容は、授業の進行状況により前後する場合がある）

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	本講義は、実技が中心となるため、日頃から身体のコンディショニングに努めること。	60時間
復習	授業の内容と気づいたことや感じたことを記憶が鮮明な内にノートに記録すること。 講義で学んだことを日常生活でも意識し、豊かな表現力を身につける努力をすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	課題発表は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容指導法（健康・環境） Early Childhood Care and Education Methods for Health and Environment	永井　理恵子、韓　仁愛	オムニバス	卒	幼	保
			必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	4160	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、領域「環境」の理論を指導するとともに、実際の様々な活動を指導する。
−	地域理解力	

受講要件

「こともと健康」及び「こどもと環境」が受講済であること。

授業の概要

乳幼児期から就学までの子どもの育ちを理解し、小学校以降につながる保育の展開を学び、実践的に体得する。領域「健康」「環境」のねらいおよび内容について理解を深める。講義内での指導案作成や模擬保育では、効果的な形式や提示の方法の工夫として、保育実践場面での具体的な活用を想定したICTの活用を試みる。

授業の目的

乳幼児に関する課題や現状を踏まえた上で、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」に示された領域「健康」「環境」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させ理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児に関する課題や現状を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「健康」「環境」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させ理解を深める。さらに、具体的な保育場面を設定し、保育を構想する方法を身につける。領域「健康」「環境」の特性および幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を保育構想に活用することができる。

成績評価方法及び基準

指導案・レポートの提出	40%	
模擬保育の実践・発表	40%	
グループワーク・課題発表への積極的参加度	20%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

河邉貴子他『演習　保育内容 健康 基礎的事項の理解と指導法』建帛社
榎沢良彦『シートブック 保育内容　環境 第3版』建帛社
文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』
厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』

参考書

茗井香保里他『乳幼児の健康　教育・保育に向けた計画と実践』大学図書出版
奥井智久『子どもと環境　実技・実践編』三晃書房

試験対策

授業で使用した資料やノートをよく読み返しておくこと。

学習のアドバイス

授業中に取り上げた重要事項は必ずメモしておくこと。不明な点は授業中ないし後に質問すること。こどもたちを取り巻く現状を取り上げた新聞記事やニュース等には常に目を向け、情報収集すること。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓　仁愛	ガイダンス	子どもの心身の健康を育む環境とは何かを理解する
2	韓　仁愛	領域「健康」のねらいと内容	領域「健康」のねらいと内容ならびに全体構成について理解する
3	韓　仁愛	健康にかかわる現代的課題 (教材研究)	乳幼児期の発育・発達の特徴を踏まえ、幼児期に経験して身につけてほしい健康課題を、小学校との繋がりにおいて明らかにする
4	韓　仁愛	心身の健康を育む保育の構想 （教材研究）	幼児期の健康課題に対処するために必要な適切な環境構成や保育者の関わり方について、カメラを用いて調査する
5	韓　仁愛	心身の健康を育む保育の実践 （教材研究の成果）	幼児期の健康課題に関する教材研究の成果を発表する 前回撮影したデータをICT機器上ないしはポスターにする
6	永井　理恵子	安全に関する理解	園外での活動や小学校への通学、災害時に備えた安全教育の意義について理解する（リスクとハザード）
7	永井　理恵子	領域「環境」のねらいと内容	領域「環境」のねらいと内容ならびに全体構成について、小学校との繋がりにおいて理解する
8	永井　理恵子	子どもをとりまく環境 自然物、人工物、社会的環境など （教材研究）	大学構内や近隣を散策して、身近にある自然物や標識・文字などを発見し、幼児を取り巻く環境と幼児の発達とのつながりについて考えながらカメラで取材する
9	永井　理恵子	子どもをとりまく環境 （ポートフォリオ作成）	前回に取材したデータを用いて、実際の保育場面で幼児とともにICT機器を用いて環境を認識する活動を班で想定し実践する
10	永井　理恵子	身近な素材や自然に親しむ 保育の実践(教材研究の成果)	身近な素材や自然物を用いる際の留意点について理解する。前回作成したポートフォリオを更に深める
11	永井　理恵子	交通安全と災害時への対応	交通ルール、道路標識、避難訓練などについて学ぶ
12	永井　理恵子	保育場面を想定した指導案の計画	前回取材したデータを用いて、子どもの運動遊びと環境とのかかわりを踏まえた活動・指導案を、小学校教育との繋がりを意識しながら計画する
13	永井　理恵子 韓　仁愛	保育場面を想定した指導案の作成	取材データを用いて、子どもの運動遊びと環境とのかかわりを踏まえた活動・指導案を、小学校教育との繋がりを意識しながら実際に作成する
14	永井　理恵子 韓　仁愛	模擬保育(1)	指導案に基づいた模擬保育の実践と振り返り(グループ1)
15	永井　理恵子 韓　仁愛	模擬保育(2)	指導案に基づいた模擬保育の実践と振り返り(グループ2)

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	題目に関連する箇所のテキストを読んでおく。	60時間
復習	授業終了後、その内容についてテキストや配布資料を読み返し、課題があれば抽出して質問する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	指導案は添削して返却する。課題発表については、その場で講評する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容指導法（人間関係・言葉） Teaching Methods For Children Care Content(Human Relations & Language)	五十嵐 元子、近藤 万里子	オムニバス	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	4170	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	○臨床心理士として幼稚園・保育所への発達臨床コンサルテーションの実務経験から人間関係の発達について解説する。○特別支援学校初等教育部での教諭経験からことばの発達とその教育方法について解説する。
フィードバック能力	－	

受講要件

「こどもと人間関係」及び「こどもと言葉」が受講済であること。

授業の概要

乳幼児期から就学までの子どもの育ちに関して理解を深め、小学校以降につながる保育実践の展開を体得する。領域「言葉」「人間関係」のねらい及び内容について理解を深める。

授業の目的

養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれ関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。特に「人間関係」「言葉」の領域に注目し、子どもが生活や遊びを通して体験していることを把握し、保育者が留意、配慮すべき事項への理解を深め、指導案を作成し、実践できる技能を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児に関する課題や現状を踏まえた上で、幼稚園教育要領・保育所保育指針に示された「言葉」「人間関係」のねらい及び内容について乳幼児の姿と保育実践とを関連させ理解を深める。具体的な保育場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。領域「人間関係」「言葉」の特性および幼児の体験との関連を考慮した教材の効果的な活用法を理解し、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を保育構想に活用することができる。

成績評価方法及び基準

授業への参加・貢献度	20%
指導案作成・発表	40%
レポート	40%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

横山真貴子他『子どもと保育者でつくる人間関係-「わたし」から「わたしたち」へ-』保育出版社
赤羽根有里子他『新時代の保育双書　保育内容ことば　第3版』みらい
文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』
厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説』

試験対策

・指導案の作成と発表を見通して、子どもの年齢クラスに応じた遊びや活動の内容を調べておくこと。
・手遊びや絵本の読み聞かせなどの保育技術のなかで自分が得意とするものを習得しておくこと。

学習のアドバイス

・幼稚園教育要領や保育所保育指針にある領域「言葉」と「人間関係」のねらいと内容を熟読しておくこと。
・領域「言葉」「人間関係」のねらいと内容に応じた具体的な遊びや活動を調べてみましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子 近藤 万里子	ガイダンス	授業の評価、領域の捉え方について学ぶ
2	近藤 万里子	乳児期の言葉	乳児期の言葉の発達と人的環境についての学ぶ
3	近藤 万里子	幼児期の言葉	幼児期の言葉の発達と人的環境についての学ぶ
4	近藤 万里子	子どもの言葉の発達過程	小学校以降の言葉のつながりについて学ぶ
5	近藤 万里子	言葉を育む援助	保育における言葉の援助技術を身につける
6	五十嵐 元子	乳児期の人間関係	乳児の発達、人間関係の基盤、保育者の配慮について学ぶ
7	五十嵐 元子	幼児期の人間関係	幼児の発達、個と集団での人間関係、幼保小の連携について学ぶ。幼児の情報機器を活用した保育内容を考える。
8	五十嵐 元子	保護者、地域の人間関係	保護者、地域の専門機関との関係について学ぶ
9	五十嵐 元子	保育をめぐる現代的諸問題	保育における問題や幼児の豊かな体験へとつながる情報機器の活用法について、グループでディスカッションを行う
10	五十嵐 元子	指導案作成の説明・準備	言葉と人間関係をテーマにした保育計画に関して、発表を行う。
11	五十嵐 元子	指導案作成(1)	部分指導案の立案と教材研究
12	五十嵐 元子	指導案作成(2)	部分指導案の完成、模擬保育の準備
13	近藤 万里子	指導案作成(3)	言葉と人間関係をテーマにした指導案の発表を行う(グループ1)
14	近藤 万里子	指導案作成(4)	言葉と人間関係をテーマにした指導案の発表を行う(グループ2)
15	近藤 万里子	まとめ	模擬保育を通してこどもを理解する視点を身につける

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業前までに該当する教科書の箇所を熟読し、分からない用語を調べておく。授業で使用する課題準備を行う。	60時間
復習	授業内容に該当する教科書の箇所を再度熟読し、授業内容の振り返りをノートに記述する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内課題に対してはそのポイントを述べ、発表や模擬実践に関してはコメントをつける。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容指導法（表現）	髙橋 裕勝、天野 泉	オムニバス	卒	幼	保
Teaching Method for Childcare Content (Expression)	若原 真由子		必	必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	4180	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの表現活動の進め方について事例を挙げながら授業を行う。
―	―	

受講要件

「こどもと表現」が受講済であること。

授業の概要

豊かな感性や表現はどのようにしてうまれるのか、身体の動きや音・リズム、素材の色や形や質感など授業で様々な表現を体験しながら、表現活動の特徴や面白さを確認し子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。また、授業での実践経験の積み重ねから幼児にとっての総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。

授業の目的

乳幼児期の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な保育場面を想定して保育を構想し実現する方法を身に付ける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	乳幼児期の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な保育場面を想定して保育を構想し実現する方法を身に付ける。
②	豊かな表現活動を支える教材や情報機器等の活用法及び指導案の作成と、保育環境の構成と具体的な保育実践のための技術を実践的に習得する。
③	領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科等のつながりを理解する。

成績評価方法及び基準

発表	40%	担当教員3名で総合的に評価します。 発表・ディスカッションは、積極的に取り組むこと。
課題提出	20%	
意欲・態度	20%	
ディスカッション	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

無藤隆他『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林
文部科学省『幼稚園教育要領<平成29年告示>』
厚生労働省『保育所保育指針<平成29年告示>』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示>』

参考書

必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、発表や課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

自分自身が表現活動に熱中し思い切り楽しむこと。お互いの発言や表現を認め合い協力的に行動すること。
動きやすく汚れてもよい服装や靴で受講すること。
授業に不要な物、スマートフォンはカバンにしまい、机上の学習環境と見栄えを整えること。
指示がある場合を除き、スマートフォンの使用を禁止する。飲食は授業の前に済ませておくこと。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	髙橋 裕勝	幼稚園・小学校の身体表現の実際	幼稚園・小学校で実践されたダンス発表の映像資料領域と教科のつながりを理解する
2	髙橋 裕勝	指導案の作成	保育現場で実践された既存の身体表現活動を基に、グループで指導案を作成する
3	髙橋 裕勝	模擬保育の準備	グループで作成した指導案を基に、教具の準備や各々の役割を決め、模擬保育に向けて準備する
4	髙橋 裕勝	模擬保育の実践	模擬保育を実践し、グループ間で観察し合う 模擬保育の自身の振り返りと仲間との意見交換を通して、保育を改善する視点を身に付ける
5	髙橋 裕勝	実践の記録と表現の評価	本授業で実践してきた②指導案の作成～④模擬保育の実践について、記述による省察に撮影した画像を加えてITを活用し資料を作成する。資料の作成を通して、乳幼児の表現の評価の考え方を理解する
6	若原 真由子	表現活動と保育の構想	視覚教材や事例から乳幼児の表現の背景や要因を考察し、乳幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導方法を考える。
7	若原 真由子	音楽表現と教材研究Ⅰ	物語や絵本の情景を自分なりにイメージし、楽器や声、身の回りの音を使い表現する
8	若原 真由子	音楽表現と教材研究Ⅱ	物語や絵本のイメージを音で表現するための教材研究と指導案作成をグループで協同して行う
9	若原 真由子	音楽表現活動の実践	模擬保育を指導案にそって実践し、その振り返りを通して乳幼児の表現活動を生み出す要因や保育の改善方法について話しあう
10	若原 真由子	ICTを活用した保育実践	各グループごとの活動をカメラを用いて写真に撮り、ドキュメンテーションの作成を行い、互いに見合う中で仲間の表現を学び知る。
11	天野 泉	乳幼児の造形表現のねらい及び内容	映像や事例から、乳幼児の表現の芽生えの姿や発達について理解し、乳幼児の素朴な表現に気付き共感することを考える
12	天野 泉	乳幼児期の発達と造形表現	視覚教材を用いて乳幼児の発達段階と造形表現の変化を関連付けながら、乳幼児のための造形表現を援助するための方法を考える
13	天野 泉	造形表現の指導法Ⅰ	造形表現の指導案作成：乳幼児のための造形表現の在り方を踏まえた実践をするために、指導案をグループで作成する
14	天野 泉	造形表現の指導法Ⅱ	グループで作成した指導案に沿って教材研究を深める
15	天野 泉	造形表現の指導方法と保育の構想	グループでの模擬保育を指導案にそって実践し、その振り返りを通して保育の改善方法について話しあう

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	各回の授業内容を確認し、予め資料を収集する等して準備しておくこと。 特に、幼稚園教育要領や保育所保育指針等との関連について調べておくこと。	60時間
復習	毎回の授業内容は、自分なりの方法で整理・記録すること。 授業で学んだ知識・技能を反復練習し、継続的に自身の表現力の向上に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	発表・課題は、個人や全体に向けてタイムリーにコメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
学校保健Ⅱ（対象：2018年度入学生まで） School health Ⅱ	中村 千景	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2330	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	小学校・中学校・高等学校での養護教諭経験を活かし、特別な配慮を必要とする子どもの実際や、組織活動について教授する。
－	－	

受講要件

「学校保健Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

学校保健Ⅰでの学びを活かし、さらに学びを深める。子どもたちの健康問題の現状を理解し、心身の健康を保持増進するための具体的な教育の在り方や、特別な支援を要する子どもたちについて学ぶ。

授業の目的

学校現場における健康問題とその管理・指導について理解を深め、その展開の実際を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	学齢期の子どもの心身の健康を保持増進するための教育の在り方を学ぶ。
②	学校でみられる心身の健康問題の現状と、管理の在り方を学ぶ。
③	特別な支援を要する子どもの理解を深める。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

瀧澤利行他『新版 基礎から学ぶ学校保健 第2 版』建帛社

参考書

子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議
財団法人厚生労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

自分の考えを問う問題があるので、自分はどう考えるかを書くことができるようにすること。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト・参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにするとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	中村 千景	学校における健康づくり(1)	学校におけるヘルスプロモーションの展開
2	中村 千景	学校における健康づくり(2)	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
3	中村 千景	学校における健康づくり(3)	性教育
4	中村 千景	学校における健康づくり(4)	体力づくり
5	中村 千景	学校精神保健(1)	児童生徒の精神疾患とこころの問題
6	中村 千景	学校精神保健(2)	子どものこころの危機サイン
7	中村 千景	学校精神保健(3)	健康相談とカウンセリング
8	中村 千景	学校精神保健(4)	精神保健活動
9	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(1)	特別な支援を要する子どもとは
10	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(2)	特別支援学校における学校保健
11	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(3)	通常の学級に在籍する発達障害児における学校保健
12	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(4)	重い障害の子どもと学校保健
13	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(1)	学校保健行政と学校保健組織活動
14	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(2)	学校保健組織活動の展開
15	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(3)	学校保健の関係職員と教職員の組織的活動の原理

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書を充分に読み、理解を深めてください。学習した内容について自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。レポートを書くにあたって関心のあることやよく理解できなかったことなどについては他の文献を利用し、利用した場合は、参考文献・引用文献（引用箇所も明記）をレポートの参考文献欄に明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画の題目・内容と教科書・サブテキストの題目を同一としている。教科書だけではなく、サブテキストもあわせてよく読むこと。	60時間
復習	教科書やサブテキストで学んだ内容を更に深めるために、参考書を利用し理解すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
学校保健Ⅱ（対象：2019年度入学生以降）	中村 千景	単独	卒	幼	保
School health Ⅱ			選	選	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4380	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	小学校・中学校・高等学校での養護教諭経験を活かし、特別な配慮を必要とする子どもの実際や、組織活動について教授する。
－	－	

受講要件

「学校保健Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

学校保健Ⅰでの学びを活かし、さらに学びを深める。子どもたちの健康問題の現状を理解し、心身の健康を保持増進するための具体的な教育の在り方や、特別な支援を要する子どもたちについて学ぶ。

授業の目的

学校現場における健康問題とその管理・指導について理解を深め、その展開の実際を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	学齢期の子どもの心身の健康を保持増進するための教育の在り方を学ぶ。
②	学校でみられる心身の健康問題の現状と、管理の在り方を学ぶ。
③	特別な支援を要する子どもの理解を深める。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

瀧澤利行他『新版 基礎から学ぶ学校保健 第2 版』建帛社

参考書

子どものからだと心白書2020編集委員会『子どものからだと心白書2020』子どものからだと心・連絡会議
財団法人厚生労働統計協会　厚生の指標『国民衛生の動向2020/2021年』厚生労働統計協会

試験対策

自分の考えを問う問題があるので、自分はどう考えるかを書くことができるようにすること。

学習のアドバイス

教科書やサブテキスト・参考書で学んだことをノートに整理し、理解を深めるようにするとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	中村 千景	学校における健康づくり(1)	学校におけるヘルスプロモーションの展開
2	中村 千景	学校における健康づくり(2)	喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育
3	中村 千景	学校における健康づくり(3)	性教育
4	中村 千景	学校における健康づくり(4)	体力づくり
5	中村 千景	学校精神保健(1)	児童生徒の精神疾患とこころの問題
6	中村 千景	学校精神保健(2)	子どものこころの危機サイン
7	中村 千景	学校精神保健(3)	健康相談とカウンセリング
8	中村 千景	学校精神保健(4)	精神保健活動
9	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(1)	特別な支援を要する子どもとは
10	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(2)	特別支援学校における学校保健
11	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(3)	通常の学級に在籍する発達障害児における学校保健
12	中村 千景	特別な支援を要する子どもと学校保健(4)	重い障害の子どもと学校保健
13	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(1)	学校保健行政と学校保健組織活動
14	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(2)	学校保健組織活動の展開
15	中村 千景	学校保健の組織と運営および学校保健組織活動(3)	学校保健の関係職員と教職員の組織的活動の原理

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書を充分に読み、理解を深めてください。学習した内容について自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現してください。レポートを書くにあたって関心のあることやよく理解できなかったことなどについては他の文献を利用し、利用した場合は、参考文献・引用文献（引用箇所も明記）をレポートの参考文献欄に明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業計画の題目・内容と教科書・サブテキストの題目を同一としている。教科書だけではなく、サブテキストもあわせてよく読むこと。	60時間
復習	教科書やサブテキストで学んだ内容を更に深めるために、参考書を利用し理解すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートはコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
看護学（対象：2018年度入学生まで） Introduction to Nursing	古城　恵子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2340	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	病院や保育所勤務を通し、乳幼児やその家族の健康課題に対する看護を実践してきた。実務経験で得た事例を紹介しながら、看護学をベースに健康課題や支援方法について指導する。
－	－	

授業の概要

看護における“日常生活上のケアや指導を行う業務”に着目し、健康課題の改善・解決に向けて必要な知識と技術を学ぶ。また、園で安心・安全に生活できるよう、集団生活における対人対物管理について学ぶ。

授業の目的

看護を要するヒトの理解を深め、個に応じた心身の健康と社会性等の総合的な観点からアセスメントする知識と技術を養う。また、園で活用する看護学に基づいた支援を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	看護とは何かを理解する。
②	個と集団の健康管理、環境管理、危機管理について理解する。
③	個別に援助を要する子どもについて、家庭や関係機関と連携した支援方法を学ぶ。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

藤井寿美子他『養護教諭のための看護学　四訂版』大修館書店

参考書

厚生労働省「障害児支援施策」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000117218.html
厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」(2018 年改訂版)
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf
厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2019 年改訂版) https://www.mhlw.go.jp/content/000511242.pdf
厚生労働省「子ども虐待対応の手引き」https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/00.html

試験対策

試験は日常的に幼稚園・保育園で体験する事象の記述問題です。教科書と参考書で学習を深め臨んでください。

学習のアドバイス

・教科書や参考文献をよく読んで要点をしっかり捉えてください。
・教科書や参考文献を写しただけのレポートは評価されません。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	古城 恵子	総論	看護学総論・基礎看護論
2	古城 恵子	各論ー小児看護	基礎知識・健康障害・突然死・心の傷へのケア・学校感染症
3	古城 恵子	各論ー思春期看護	基礎知識・健康に関わる問題・青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用に関わる問題 ・思春期の健康障害
4	古城 恵子	各論ー母性看護	基礎知識・妊娠、分娩・望まない妊娠への対処
5	古城 恵子	各論ー成人・老年看護	基礎知識・成人の健康障害・高齢者
6	古城 恵子	各論ー眼科・耳鼻科疾患と看護	基礎知識、目科疾患とけが、眼科ケア・耳・鼻・咽頭疾患の疾患
7	古城 恵子	各論ー皮膚科・歯科疾患と看護	基礎知識・注意すべき皮膚疾患・歯・口の基礎知識･歯科疾患・歯科保健
8	古城 恵子	各論ー訴えや症状に対する理解と看護	訴えや症状に対応するための基本的事項・対応　アレルギー疾患とエピペン
9	古城 恵子	各論ー障害のある子どもの理解と看護	障害の理解・特別支援教育・発達障害
10	古城 恵子	各論ー個別相談支援	肢体不自由の子ども　医療的ケアを必要とする子ども
11	古城 恵子	各論ー個別相談支援	虐待の関する実態　虐待の早期発見早期対応・虐待体験のある子どもの支援
12	古城 恵子	各論ー健康診断・健康相談・健康教育	健康診断・健康相談・健康づくり・体力づくり
13	古城 恵子	各論ー学校安全と危機管理	学校安全・危機管理体制（救急・緊急・災害）救急体制・救急処置
14	古城 恵子	基礎看護技術	清潔・衣服整容食事・排泄・罨法・環境管理・感染予防
15	古城 恵子	家庭・地域との連携	地域の保健・医療・福祉等の諸機関の役割と機能

レポート作成等の方法・留意点

指定教科書を十分に読み、関心のあるところ、わからなかったところについて、他の文献（参考文献含む）をあたり、理解を深めてください。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめ自分の言葉で表現してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	授業内に関連する情報を新聞やニュース等から集め、疑問点や問題点を洗い出しておくこと。	60時間
復習	通信学習（自宅学習）で、理解が不十分な部分は教科書を読みかえす等、以降の学習に繋げること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
看護学（対象：2019年度入学生以降） Introduction to Nursing	古城　恵子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4440	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	病院や保育所勤務を通し、乳幼児やその家族の健康課題に対する看護を実践してきた。実務経験で得た事例を紹介しながら、看護学をベースに健康課題や支援方法について指導する。
–	–	

授業の概要

看護における“日常生活上のケアや指導を行う業務”に着目し、健康課題の改善・解決に向けて必要な知識と技術を学ぶ。また、園で安心・安全に生活できるよう、集団生活における対人対物管理について学ぶ。

授業の目的

看護を要するヒトの理解を深め、個に応じた心身の健康と社会性等の総合的な観点からアセスメントする知識と技術を養う。また、園で活用する看護学に基づいた支援を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	看護とは何かを理解する。
②	個と集団の健康管理、環境管理、危機管理について理解する。
③	個別に援助を要する子どもについて、家庭や関係機関と連携した支援方法を学ぶ。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

藤井寿美子他『養護教諭のための看護学　四訂版』大修館書店

参考書

厚生労働省「障害児支援施策」 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000117218.html
厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン」(2018 年改訂版)
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000201596.pdf
厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(2019 年改訂版) https://www.mhlw.go.jp/content/000511242.pdf
厚生労働省「子ども虐待対応の手引き」https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dv12/00.html

試験対策

試験は日常的に幼稚園・保育園で体験する事象の記述問題です。教科書と参考書で学習を深め臨んでください。

学習のアドバイス

・教科書や参考文献をよく読んで要点をしっかり捉えてください。
・教科書や参考文献を写しただけのレポートは評価されません。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	古城 恵子	総論	看護学総論・基礎看護論
2	古城 恵子	各論ー小児看護	基礎知識・健康障害・突然死・心の傷へのケア・学校感染症
3	古城 恵子	各論ー思春期看護	基礎知識・健康に関わる問題・青少年の喫煙・飲酒・薬物乱用に関わる問題 ・思春期の健康障害
4	古城 恵子	各論ー母性看護	基礎知識・妊娠、分娩・望まない妊娠への対処
5	古城 恵子	各論ー成人・老年看護	基礎知識・成人の健康障害・高齢者
6	古城 恵子	各論ー眼科・耳鼻科疾患と看護	基礎知識、目科疾患とけが、眼科ケア・耳・鼻・咽頭疾患の疾患
7	古城 恵子	各論ー皮膚科・歯科疾患と看護	基礎知識・注意すべき皮膚疾患・歯・口の基礎知識･歯科疾患・歯科保健
8	古城 恵子	各論ー訴えや症状に対する理解と看護	訴えや症状に対応するための基本的事項・対応　アレルギー疾患とエピペン
9	古城 恵子	各論ー障害のある子どもの理解と看護	障害の理解・特別支援教育・発達障害
10	古城 恵子	各論ー個別相談支援	肢体不自由の子ども　医療的ケアを必要とする子ども
11	古城 恵子	各論ー個別相談支援	虐待の関する実態　虐待の早期発見早期対応・虐待体験のある子どもの支援
12	古城 恵子	各論ー健康診断・健康相談・健康教育	健康診断・健康相談・健康づくり・体力づくり
13	古城 恵子	各論ー学校安全と危機管理	学校安全・危機管理体制（救急・緊急・災害）救急体制・救急処置
14	古城 恵子	基礎看護技術	清潔・衣服整容食事・排泄・罨法・環境管理・感染予防
15	古城 恵子	家庭・地域との連携	地域の保健・医療・福祉等の諸機関の役割と機能

レポート作成等の方法・留意点

指定教科書を十分に読み、関心のあるところ、わからなかったところについて、他の文献（参考文献含む）をあたり、理解を深めてください。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめ自分の言葉で表現してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	授業内に関連する情報を新聞やニュース等から集め、疑問点や問題点を洗い出しておくこと。 通信学習（自宅学習）で、理解が不十分な部分は教科書を読みかえす等、以降の学習に繋げること。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
児童と文化Ⅰ Children and Culture Ⅰ	永井　理恵子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4410	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	幼稚園教諭としての実務経験をふまえ、児童文化について教授する。
－	地域理解力	

授業の概要

子どもを取り巻く多様な児童文化に関する基礎的知識を習得する。子どもは、家庭・地域・保育教育機関において子どもを取り巻く文化との相互的な関わりを通して成長するため、健全な心身の育ちにおいて文化は重要な役割をもつ。「児童と文化Ⅰ」では、その歴史的背景や種類・特性、魅力を学生自身の文化的経験と照らし合わせながら学び、遊びや生活場面における文化の具体的様相を学ぶ。

授業の目的

本授業では、児童文化と児童文化財についての歴史や理論の基礎を保育現場との関連性を持たせながら専門的に学習する。さらに、児童文化を継承する保育者の役割を理解すると共に、自らが子どもの視点で児童文化財の魅力を感じて楽しめるようになることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	児童文化と児童文化財の歴史や理論を概説できる。
②	児童文化を継承する保育者の役割を理解する。
③	児童文化財の魅力を子どもの視点で理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

皆川美恵子他『新版　児童文化』ななみ書房

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

試験対策

試験は記述問題となるので、自分のレポートや実習日誌を読み直しておくのも効果的である。

学習のアドバイス

テキストだけでなく幅広く児童文化に関わる文献や書籍を読み、自身の児童文化論を形成するよう努めること。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井　理恵子	子どもと児童文化（1）	児童文化とは何かについて学ぶ
2	永井　理恵子	子どもと児童文化（2）	児童文化の歴史と現在について学ぶ
3	永井　理恵子	子どもと遊び（1）	「遊び」の原理について学ぶ
4	永井　理恵子	子どもと遊び（2）	子どもの「遊び」の歴史について学ぶ
5	永井　理恵子	子どもと遊び（3）	子どもの「遊び」の種類について学ぶ
6	永井　理恵子	子どもとおもちゃ（1）	「おもちゃ」の歴史について学ぶ
7	永井　理恵子	子どもとおもちゃ（2）	「おもちゃ」の種類について学ぶ
8	永井　理恵子	子どもとおもちゃ（3）	「人形」と「ぬいぐるみ」について学ぶ
9	永井　理恵子	子どもと文学（1）	「絵本」の原理と、その歴史、種類について学ぶ
10	永井　理恵子	子どもと文学（2）	現代の保育現場における様々な文学系児童文化について学ぶ
11	永井　理恵子	子どもと文化施設	子どもを取り巻く様々な児童文化施設について学ぶ
12	永井　理恵子	児童文化活動	児童文化を取り巻く様々な社会的活動について学ぶ
13	永井　理恵子	子どもと生育儀礼	子どもの生育儀礼について学ぶ
14	永井　理恵子	子どもと年中行事	子どもを取り巻く年中行事について学ぶ
15	永井　理恵子	子どもの発達を支える児童文化	子どもの発達に寄与する児童文化の役割について学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

レポート作成に当たっては、指定されたテキストおよびサブテキストを熟読するのは言うまでもないが、児童文化財は多様なものがあり、参考文献も多様に存在する。指定されたテキストおよびサブテキストのみならず、自分なりに参考文献も探し、それを含めて論述すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキストおよびサブテキストを読む他、サブテキストで指示された学習活動をおこなうこと。	60時間
復習	そのテーマに即した実際場面を考え、体験してみること。「児童と文化Ⅱ」への足掛かりとなる。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
基礎栄養学（対象：2018年度入学生まで） Nutrition	黒田 圭一	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	2360	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	
−	−	

授業の概要

乳幼児から児童までの健康維持・増進に必要な健康と医学の知識を養うため、ヒトに必要な栄養について学びます。

授業の目的

基礎栄養学では、人体が摂取しなければならない栄養素の種類を知り、そのはたらきを学びます。さらに各種栄養成分の化学的性質やその消化吸収および代謝・生理作用の知識について学び習得することを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	ヒトに必要な栄養素の種類について述べることができる。
②	栄養素のはたらきについて述べることができる。
③	栄養素の化学的性質について述べることができる。
④	栄養成分の消化と吸収について述べることができる。
⑤	栄養素の欠乏症と過剰症について述べることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

五十嵐脩他『First Stageシリーズ 精選栄養学』実教出版

参考書

吉川春寿他『総合栄養学事典』同文書院
林淳三『基礎栄養学』建帛社
（日本標準食品成分表、日本人の食事摂取基準）

試験対策

試験は、記述問題です。教科書、サブテキストに沿って出題します。多くの名称を勉強しますので、正確な名称と性質を理解して下さい。

学習のアドバイス

栄養学では大変多くの名称が出てきます。まずこの名称を正確に理解しましょう。なかなか最初は覚えられませんが、根気よく何度も教科書、参考書を読み直して理解しましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	黒田 圭一	五大栄養素	栄養素とはたらき
2	黒田 圭一	炭水化物の種類	種類とはたらき
3	黒田 圭一	食物繊維	種類と生理作用
4	黒田 圭一	脂質の種類	種類とはたらき
5	黒田 圭一	タンパク質の種類	種類とはたらき
6	黒田 圭一	タンパク質の栄養価	栄養評価法
7	黒田 圭一	脂溶性ビタミン	種類とはたらき
8	黒田 圭一	水溶性ビタミン	種類とはたらき
9	黒田 圭一	無機質の種類	種類とはたらき
10	黒田 圭一	炭水化物の吸収	酵素と消化吸収
11	黒田 圭一	脂質の吸収	酵素と消化吸収
12	黒田 圭一	タンパク質の吸収	酵素と消化吸収
13	黒田 圭一	ビタミンの代謝	欠乏症と過剰症
14	黒田 圭一	無機質の吸収	吸収率を良くする
15	黒田 圭一	食事摂取基準	自分の食事摂取基準を確認する

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成するときには、課題についてよく理解し、何を求められているのかを考えます。次に資料を集めます。資料は、出来るだけ多くの本をみて、そこから選びます。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	教科書で勉強した内容、特に名称について、栄養学事典、食品学辞典で調べてみましょう。 手元に辞典がない時は、web で検索して調べてみましょう。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートを添削し、コメントを記載して、返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
基礎栄養学（対象：2019年度入学生以降） Nutrition	黒田 圭一	単独	卒 選	幼 選	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4390	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	
－	－	

授業の概要

乳幼児から児童までの健康維持・増進に必要な健康と医学の知識を養うため、ヒトに必要な栄養について学びます。

授業の目的

基礎栄養学では、人体が摂取しなければならない栄養素の種類を知り、そのはたらきを学びます。さらに各種栄養成分の化学的性質やその消化吸収および代謝・生理作用の知識について学び習得することを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	ヒトに必要な栄養素の種類について述べることができる。
②	栄養素のはたらきについて述べることができる。
③	栄養素の化学的性質について述べることができる。
④	栄養成分の消化と吸収について述べることができる。
⑤	栄養素の欠乏症と過剰症について述べることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

五十嵐脩他『First Stageシリーズ 精選栄養学』実教出版

参考書

吉川春寿他『総合栄養学事典』同文書院
林淳三『基礎栄養学』建帛社
（日本標準食品成分表、日本人の食事摂取基準）

試験対策

試験は、記述問題です。教科書、サブテキストに沿って出題します。多くの名称を勉強しますので、正確な名称と性質を理解して下さい。

学習のアドバイス

栄養学では大変多くの名称が出てきます。まずこの名称を正確に理解しましょう。なかなか最初は覚えられませんが、根気よく何度も教科書、参考書を読み直して理解しましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	黒田 圭一	五大栄養素	栄養素とはたらき
2	黒田 圭一	炭水化物の種類	種類とはたらき
3	黒田 圭一	食物繊維	種類と生理作用
4	黒田 圭一	脂質の種類	種類とはたらき
5	黒田 圭一	タンパク質の種類	種類とはたらき
6	黒田 圭一	タンパク質の栄養価	栄養評価法
7	黒田 圭一	脂溶性ビタミン	種類とはたらき
8	黒田 圭一	水溶性ビタミン	種類とはたらき
9	黒田 圭一	無機質の種類	種類とはたらき
10	黒田 圭一	炭水化物の吸収	酵素と消化吸収
11	黒田 圭一	脂質の吸収	酵素と消化吸収
12	黒田 圭一	タンパク質の吸収	酵素と消化吸収
13	黒田 圭一	ビタミンの代謝	欠乏症と過剰症
14	黒田 圭一	無機質の吸収	吸収率を良くする
15	黒田 圭一	食事摂取基準	自分の食事摂取基準を確認する

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成するときには、課題についてよく理解し、何を求められているのかを考えます。次に資料を集めます。資料は、出来るだけ多くの本をみて、そこから選びます。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	教科書で勉強した内容、特に名称について、栄養学事典、食品学辞典で調べてみましょう。 手元に辞典がない時は、web で検索して調べてみましょう。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートを添削し、コメントを記載して、返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
キャリアデザイン	林 恵	単独	卒	幼	保
Career design			選	選	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	講義	通信	2	30時間	4460	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育者養成校の教員として17年間勤務したことから、学生が働くことへイメージと意識をもてるような授業を展開する。
フィードバック能力	−	

授業の概要

この授業では保育者として働くことに焦点を当て、「保育者にとってキャリアとはなにか」「保育者の専門性を高めていくとはどういうことか」を考え、学びを進めていく。キャリア形成の基礎的な知識、保育者を選択するということ、生涯発達から考える保育者としてのキャリア形成など具体的な場面を想定して学ぶ。

授業の目的

キャリア形成の基礎的な知識、生涯発達から考える保育者としてのキャリア形成などの学びを深めることは、学生個々の様々な進路選択の際に有用だと考える。また、保育職を続けていくうちに生じる様々な課題を積極的に捉え解決に向けた思考能力を付けることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者としてのキャリア形成について説明することができる。
②	自分がどのように保育者として生きるか、長期的視点を基に考え、まとめることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	試験を基に評価をおこないます。

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

石川昭義他『保育者のためのキャリア形成論』建帛社

参考書

エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー－自分のほんとうの価値を発見しよう（Career Anchors and Career Survival）』白桃書房
渡辺桜『保育者論　保育職の魅力発見！』みらい

試験対策

レポート課題を復習しておいてください。

学習のアドバイス

学生の皆さんのこれからの生き方について考える機会になると思います。保育者として働くことは社会（世界・日本・地域・所属する組織・かかわる親子等）、そして自分にどのような意味をもつものになるでしょうか。自分と照らし合わせながら学習を進めてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵	保育者のためのキャリア形成	キャリアという用語について理解する。 専門職としての保育者を裏付ける制度について理解する。
2	林 恵	保育職を選択するということ	保育者を目指す一般的なきっかけなどを知り、自分はなぜ保育者を目指そうとしたのかを振り返る。
3	林 恵	キャリア形成を支援する	保育者を目指してから、実際に保育者になるまでに向き合うだろう課題について知る。
4	林 恵	我が国の保育観と保育者の役割	幼稚園教育要領と保育所保育指針に通底する我が国の保育観と保育者に求められる役割について理解する。
5	林 恵	社会的養護における保育者の役割	保育所以外の児童福祉施設、それ以外の社会的養護を必要とする場面での保育者の役割について学ぶ
6	林 恵	保育者の専門性(1)	保育者の「やりがい」「楽しみや喜び」を起点とし、保育の専門性について考える。
7	林 恵	保育者の専門性(2)	子育て支援、保護者支援の場面で保育者に求められるソーシャルワーカー、カウンセラーとしての役割について考える。
8	林 恵	保育者の同僚性と協働	保育者に求められる「人間性」「倫理観」とともに、同僚と協働して働いていくことの意義について理解する。
9	林 恵	保育における評価	保育園・幼稚園の自己評価、関係者評価、第三者評価についての位置づけと内容を知る。
10	林 恵	保育者と保幼小の連携	子どもが幼稚園、保育所から小学校へ滑らかな接続を図っていくための保育者の役割について知る。
11	林 恵	保育実習とキャリア形成	幼稚園教員免許、保育士資格を取得するために必要な実習の内容と実習がキャリア形成に及ぼす影響について知る。
12	林 恵	海外の保育を学ぶ	保育者が海外の保育から学ぶことの意義や保育者のキャリアや専門性の獲得に及ぼす影響について考える。
13	林 恵	保育職における職位と施設長の責務	保育職の職位とキャリアパスの特徴を学び、職員のリーダーとしての役割や職員全体で学びあうための施設長の責務について理解する。
14	林 恵	保育者としてのアイデンティティ	保育者がどのような悩みをもち、そのような環境の中で成長していくのか、保育者としての道のりを理解する。
15	林 恵	保育者としてのキャリア形成	よい保育者として成長していく学びの段階と、成長し続けるために、必要な環境について学ぶ。

レポート作成等の方法・留意点

テキストを熟読してから作成してください。特に１〜3章、８章、11章、13〜15章はしっかり学んでください。テキストに書かれていることを意識し、その上で経験と照らし合わせ、自己の振り返り、意見を述べてください。単なる作文にならないように注意してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキストを熟読してください。	60時間
復習	レポートのコメントに目を通してください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにコメントを付けて返します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育実習指導（対象：2018年度入学生まで）	林 恵、三島 秀晃	オムニバス	卒	幼	保
Instruction of Teaching Practice	若原 真由子		選	必	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	3070	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての経験を基に具体的場面に基づく指導をおこなう。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

〈2015年度入学生まで〉
幼児教育課程論、保育内容の指導法（健康Ⅰ、人間関係Ⅰ、環境Ⅰ、言葉Ⅰ、表現Ⅰ）が履修済であることが望ましい。
〈2016～2018年度入学生〉
教職論、教育原理、幼児教育課程論、保育内容の指導法（健康Ⅰ、人間関係Ⅰ、環境Ⅰ、言葉Ⅰ、表現Ⅰ）が履修済であることが望ましい。

授業の概要

教育実習のための事前指導をおこなう。実習についての理解、心構え、実習日誌の書き方、子どもの姿のとらえ方、具体的な指導計画の立て方、実習で必要な保育技術等について学ぶ。

授業の目的

本科目は、教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化させ、実習に対して十分な知識と心構えを持って臨むことができるようにすること、および、実習体験を深化させることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	実習に生かすことのできる子ども観をもち、実習日誌や指導案の書き方について理解し実際に記入することができる。
②	幼稚園での教育実習をおこなうにふさわしい態度と意欲を表現することができる。

成績評価方法及び基準

授業態度・貢献度	30%	興味関心をもって真剣に聞くなど、授業へ取り組む姿勢、
授業内発表の内容	30%	授業内の模擬保育（発表）への取り組み、
提出物の状況	40%	指導案の作成とその内容　等で評価する。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

山本淳子他『実習の記録と指導案』ひかりのくに
開仁志『保育指導案 大百科事典』一藝社

試験対策

筆記試験は行わない。

学習のアドバイス

保育参観、小学校や高齢者施設などの地域社会との交流会、ボランティア活動、未就園児保育、園庭一般公開、あるいは子育て支援相談など、多くの幼稚園ではさまざまな活動や行事の際に、園外者が幼稚園の活動に参加したり、幼児の活動を見学したりできる機会が設けられています。幼稚園や幼児の活動を観察するよい機会となるので、このような機会があれば積極的に参加してみましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵	本授業の概要について	講義全体の説明と大まかな実習の流れについて
2	林 恵	教育実習の概要	教育実習の意義と目的、日程と内容について確認する。
3	林 恵	実習に向けた心構え	教育実習生としての自覚、心構え、礼儀等について理解する。
4	林 恵	実習の種類	観察実習、部分実習、責任実習について知る。
5	林 恵	日誌の記入(1)	教育実習日誌の基本的な事項の記入法を理解する。
6	林 恵	日誌の記入(2)	教育実習日誌の記入方法とその観点について学ぶ。
7	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場から学ぶ子どもの姿(1)	観察の観点について学ぶ。
8	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場から学ぶ子どもの姿(2)	観察から考察する。
9	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場から学ぶ子どもの姿(3)	観察と考察を記録する。
10	林 恵	幼稚園教育要領と指導案	幼稚園教育要領の内容を確認し、指導案の意義と作成方法について学ぶ。
11	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(1)	部分実習指導案の作成方法について学ぶ。
12	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(2)	部分実習指導案を実際に作成する。
13	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(3)	責任実習指導案を作成する。
14	三島 秀晃 若原 真由子	模擬保育	部分実習指導案に基づいて模擬保育を実施し、自己の過不足について認識する。
15	三島 秀晃 若原 真由子	まとめ	全体を振り返り、実習に向けての課題を整理する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	今まで学習した内容について確認をしておいてください。特に幼児の発達についてよく理解をしておくようにしてください。文章を書くことが苦手な人は普段から意識して練習をしておいてください。	15時間
復習	実習の振り返りは各自で実施します。自己の課題を明確にし、克服に努めてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	発表にはコメントを述べる。指導案は添削をおこなう。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育実習指導（対象：2019年度入学生以降） Instruction of Teaching Practice	林 恵、三島 秀晃 若原 真由子	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	ー

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	1	30時間	4520	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての経験を基に具体的場面に基づく指導をおこなう。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

保育者論、教育原理、こどもと健康、こどもと人間関係、こどもと環境、こどもと言葉、こどもと表現、教育課程・保育の計画と評価、特別支援教育、こども演習が履修済であることが望ましい。

授業の概要

教育実習のための事前指導をおこなう。実習についての理解、心構え、実習日誌の書き方、子どもの姿のとらえ方、具体的な指導計画の立て方、実習で必要な保育技術等について学ぶ。

授業の目的

本科目は、教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化させ、実習に対して十分な知識と心構えを持って臨むことができるようにすること、および、実習体験を深化させることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	実習に生かすことのできる子ども観をもち、実習日誌や指導案の書き方について理解し実際に記入することができる。
②	幼稚園での教育実習をおこなうにふさわしい態度と意欲を表現することができる。

成績評価方法及び基準

授業態度・貢献度	30%	興味関心をもって真剣に聞くなど、授業へ取り組む姿勢、
授業内発表の内容	30%	授業内の模擬保育（発表）への取り組み、
提出物の状況	40%	指導案の作成とその内容　等で評価する。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

山本淳子他『実習の記録と指導案』ひかりのくに
開仁志『保育指導案 大百科事典』一藝社

試験対策

筆記試験は行わない。

学習のアドバイス

保育参観、小学校や高齢者施設などの地域社会との交流会、ボランティア活動、未就園児保育、園庭一般公開、あるいは子育て支援相談など、多くの幼稚園ではさまざまな活動や行事の際に、園外者が幼稚園の活動に参加したり、幼児の活動を見学したりできる機会が設けられています。幼稚園や幼児の活動を観察するよい機会となるので、このような機会があれば積極的に参加してみましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵	本授業の概要について	講義全体の説明と大まかな実習の流れについて
2	林 恵	教育実習の概要	教育実習の意義と目的、日程と内容について確認する。
3	林 恵	実習に向けた心構え	教育実習生としての自覚、心構え、礼儀等について理解する。
4	林 恵	実習の種類	観察実習、部分実習、責任実習について知る。
5	林 恵	日誌の記入(1)	教育実習日誌の基本的な事項の記入法を理解する。
6	林 恵	日誌の記入(2)	教育実習日誌の記入方法とその観点について学ぶ。
7	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場におけるこどもの姿(1)	観察の観点について学ぶ。
8	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場におけるこどもの姿(2)	観察から考察する。
9	三島 秀晃 若原 真由子	保育現場におけるこどもの姿(3)	観察と考察を記録する。
10	林 恵	幼稚園教育要領と指導案	幼稚園教育要領の内容を確認し、指導案の意義と作成方法について学ぶ。
11	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(1)	部分実習指導案の作成方法について学ぶ。
12	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(2)	部分実習指導案を実際に作成する。
13	三島 秀晃 若原 真由子	指導案の作成(3)	責任実習指導案を作成する。
14	三島 秀晃 若原 真由子	模擬保育	部分実習指導案に基づいて模擬保育を実施し、自己の過不足について認識する。
15	三島 秀晃 若原 真由子	まとめ	全体を振り返り、実習に向けての課題を整理する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	今まで学習した内容について確認をしておいてください。特に幼児の発達についてよく理解をしておくようにしてください。文章を書くことが苦手な人は普段から意識して練習をしておいてください。	15時間
復習	実習の振り返りは各自で実施します。自己の課題を明確にし、克服に努めてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	発表にはコメントを述べる。指導案は添削をおこなう。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育実習 Student Teaching	林 恵、三島 秀晃 若原 真由子	複数	卒	幼	保
			選	必	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2・3	実習	スクーリング	4	160時間	3080	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての経験を基に具体的場面に基づく指導をおこなう。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教育実習の履修資格」の教科及び「教育実習指導」が修得済であること。

授業の概要

学校教育法に規定された幼稚園で、教育実習Ⅰ（10日間）と教育実習Ⅱ（10日間）をおこなう。実習では指導教諭の指導を受けながら、幼稚園の機能と幼稚園教諭としての職務内容、幼稚園教諭としての保育・教育技術を理解し身につけていく。

授業の目的

教育実習は実習幼稚園の教職員の指導と支援を得ながら、子どもと積極的に直接触れ合い理解し、幼児や保育者の観察と幼児教育の実践を経験する重要な機会である。子どもの「生きる力」の基礎がどう培われているのか、子どもや教職員の活動を観察し社会性や5 領域の内容がどのように実践されているのかを知り、幼稚園教員として必要な実践的な資質や能力、技術や技能を身に付けることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園の概要と教育内容を知り、実践につなげる。
②	部分・責任実習を指導案に基づいて円滑におこなう。
③	保育実践に必要な技術を身に付け、実践する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	実習先からの実習評価票と実習日誌（一緒に提出が課せられているレポート等含む）を併せて評価します。
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

「教育実習指導」の中で指示する。

学習のアドバイス

指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵、三島 秀晃 若原 真由子	【事前指導】	教育実習指導で15 回おこなう ①日誌 ②心がまえ ③子ども観察と子ども観 ④指導案作成 ⑤実習の目標のたて方 など
2		【教育実習・前半】 日数：2週間（10日間）	実習幼稚園の保育方針と一日の生活や学習活動(保育)の流れの理解
3			観察実習による子どもの活動の観察と子ども理解の促進、観察実習による教員の保育活動や援助技術の理解、観察実習による教職員の園務役割やその内容の理解
4			園の施設･設備･保育環境の理解と教職員の安全･衛生への配慮理解 幼稚園教育要領のねらいと内容の実践での実現を知る
5		【教育実習・後半】 日数：2週間（10日間）	実習幼稚園の保育方針と一日の生活や学習活動(保育)の流れの理解 子ども理解に基づく一人ひとりの子どもの個性に対応した保育活動
6			教職員の使命感、責任感、教育的愛情の理解の促進 教員の保育や援助技術の理解と学級経営や保育指導能力の理解
7			園の教育課程や指導計画の目標や目的の理解と実践での実現の理解 部分実習指導案の立案と保育活動への参加実習
8			責任実習指導案の立案と一日の保育活動への参加実習の実践 手遊びやピアノの弾き語り、絵本の読み聞かせや紙芝居を演じる 幼稚園教育要領のねらいと内容の実践での実現を知る
9		【事後指導】	教育実習園への礼状の作成 教育実習日誌の整理と点検 教育実習のまとめ、発表原稿の作成
10			
11			
12			
13			
14			
15			

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	実習事前指導の内容をよく振り返り、「幼稚園教育要領」をよく読み理解したうえで実習に臨む。幼児の発達段階の特性を理解する。教育実習日誌の作成方法、指導案の作成方法などの教育実習に必須の知識や技術を復習し、手遊びや絵本の読み聞かせ方法、教材制作やピアノ演奏の技術なども確認する。	－
復習	実習を振り返り、保育に関する自分の力の過不足を知り、その克服に努める。	

課題へのフィードバック有無および方法

無	

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
教育実習Ⅰ				林 恵、三島 秀晃 若原 真由子		複数	卒	幼	保
Student Teaching Ⅰ							選	必	－
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
2	実習	実習	2	80時間	4530		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての経験を基に具体的場面に基づく指導をおこなう。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教育実習の履修資格」の教科及び「教育実習指導」が修得済であること。

授業の概要

学校教育法に規定された幼稚園で、教育実習Ⅰ（10日間）をおこなう。実習では指導教諭の指導を受けながら、幼稚園の機能と幼稚園教諭としての職務内容、幼稚園教諭としての保育・教育技術を理解し身につけていく。

授業の目的

子どもの姿を観察から捉え、子どもの「生きる力」の基礎がどう培われているのか、子どもや教職員の活動を観察し社会性や5 領域の内容がどのように実践されているのかを知り、幼稚園教員として必要な実践的な資質や能力、技術や技能を身に付けることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園の概要と教育内容を知り、実践につなげる。
②	子どもの姿、教員の意図等を観察から捉え、考察し、日誌に記録する。
③	保育実践に必要な技術を身に付け、実践する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	実習先からの実習評価票と実習日誌（一緒に提出が課せられているレポート等含む）を併せて評価します。
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

「教育実習指導」の中で指示する。

学習のアドバイス

指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林 恵、三島 秀晃 若原 真由子	【事前指導】	教育実習指導で15 回おこなう ①日誌 ②心がまえ ③子ども観察と子ども観 ④指導案作成 ⑤実習の目標のたて方など
2		【教育実習・前半】 日数：2週間（10日間）	実習幼稚園の保育方針と一日の生活や学習活動(保育)の流れの理解
3			観察実習による子どもの活動の観察と子ども理解の促進、観察実習による教員の保育活動や援助技術の理解、観察実習による教職員の園務役割やその内容の理解
4			園の施設・設備・保育環境の理解と教職員の安全・衛生への配慮理解 幼稚園教育要領のねらいと内容の実践での実現を知る
5		【事後指導】	教育実習園への礼状の作成 教育実習日誌の整理と点検 教育実習のまとめ、発表原稿の作成
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	実習事前指導の内容をよく振り返り、「幼稚園教育要領」をよく読み理解したうえで実習に臨む。幼児の発達段階の特性を理解する。教育実習日誌の作成方法、指導案の作成方法などの教育実習に必須の知識や技術を復習し、手遊びや絵本の読み聞かせ方法、教材制作やピアノ演奏の技術なども確認する。	－
復習	実習を振り返り、保育に関する自分の力の過不足を知り、その克服に努める。	

課題へのフィードバック有無および方法

無	

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習指導Ⅰ（対象：2018年度入学生まで）	白取 真実、小野 浩孝	オムニバス	卒	幼	保
Teaching for nursery training			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	2281	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を活かし、具体的な保育場面を想定した指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

＜2015年度入学生まで＞
保育学Ⅰ、保育学Ⅱ、教職論、保育内容の指導法4領域以上 が履修済であることが望ましい。
＜2016～2018年度入学生＞
保育原理、教育原理、子どもの保健ⅠA、保育内容の指導法4領域以上 が履修済であることが望ましい。

授業の概要

・保育実習の意義・目的を理解し、実習に関する基本的事項を総合的に学ぶ。
・子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。
・実習の計画・実践・観察・記録・評価について具体的に学ぶ。

授業の目的

本科目は、保育・施設実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にすることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所の一日の流れを理解し、実習日誌の書き方、指導案の作成方法を習得する。
②	児童福祉施設等における実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
③	実習施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益について理解する。
④	児童福祉施設等における実習の意義・目的を理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	50%	
授業の参加態度	30%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

試験対策

授業中に指導された実習に関する重要事項については特に留意すること。

学習のアドバイス

実習では、あらゆる教科で学んだ知識や技術を保育の現場で実践する力が求められます。また実習生として自覚を持ち、意欲的に学び続ける必要があります。実習の大切さを充分に意識し、真摯に取り組んでください。
保育所・施設の一日流れをあらかじめ調べ、覚えておきましょう。また、施設の種別を調べ、各施設の概要をまとめておきましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実 小野 浩孝	ガイダンス・保育実習の概要	スクーリングの説明・保育士資格取得に必要な実習とは何か
2	白取 真実 小野 浩孝	実習の心構え・守秘義務について	実習生としての言葉使い・振る舞いについて
3	白取 真実 小野 浩孝	実習園の決定方法・実習生に求められるもの	実習先の探し方・オリエンテーションの受け方
4	白取 真実	実習日誌の使い方	実習日誌の意義、実習課題の立て方について
5	白取 真実	実習日誌の書き方(1)	メモを取るためのポイント
6	白取 真実	実習日誌の書き方(2)	実習日誌を書くときの文章表現
7	白取 真実	部分実習指導案の意義・使い方	実習指導案の使い方と作成意義
8	白取 真実	実習指導案立案の手順	実習指導案の作成方法について
9	白取 真実	部分実習指導案の作成	実際に部分実習指導案を作成する
10	小野 浩孝	児童福祉施設等の役割や機能について(1)	児童福祉施設等の役割や機能、利用者について確認する
11	小野 浩孝	児童福祉施設等の役割や機能について(2)	施設の一日の生活の流れと実習内容について確認する
12	小野 浩孝	児童福祉施設等について詳しく調べる	自分の興味のある実習先について詳しく調べ、施設の役割や機能、施設の利用者について確認する
13	小野 浩孝	施設利用者の理解	施設利用者の人権、最善の利益について考える
14	小野 浩孝	施設の実際について	特別なケアを必要とする利用者への援助について考える
15	小野 浩孝	全体のまとめ	授業の総復習

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前に保育所や施設でのボランティア活動を行うなどし、実習先に対する理解を深めておきましょう。	60時間
復習	スクーリングで学んだことを踏まえて、保育現場で必要な教材等を作成しておきましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された課題は添削し、返却する。発表の際はコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習指導Ⅰ（対象：2019年度入学生以降） Teaching for nursery training	白取 真実、小野 浩孝	オムニバス	卒	幼	保
			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	演習	スクーリング	2	30時間	4300	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を活かし、具体的な保育場面を想定した指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

保育原理、教育原理、こどもの保健、こどもと健康、こどもと人間関係、こどもと環境、こどもと言葉、こどもと表現 が履修済であることが望ましい。

授業の概要

・保育実習の意義・目的を理解し、実習に関する基本的事項を総合的に学ぶ。
・子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について学ぶ。
・実習の計画・実践・観察・記録・評価について具体的に学ぶ。

授業の目的

本科目は、保育・施設実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にすることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所の一日の流れを理解し、実習日誌の書き方、指導案の作成方法を習得する。
②	児童福祉施設等における実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
③	実習施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益について理解する。
④	児童福祉施設等における実習の意義・目的を理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	50%
授業の参加態度	30%
提出物	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

試験対策

授業中に指導された実習に関する重要事項については特に留意すること。

学習のアドバイス

実習では、あらゆる教科で学んだ知識や技術を保育の現場で実践する力が求められます。また実習生として自覚を持ち、意欲的に学び続ける必要があります。実習の大切さを充分に意識し、真摯に取り組んでください。
保育所・施設の一日流れをあらかじめ調べ、覚えておきましょう。また、施設の種別を調べ、各施設の概要をまとめておきましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実 小野 浩孝	ガイダンス・保育実習の概要	スクーリングの説明・保育士資格取得に必要な実習とは何か
2	白取 真実 小野 浩孝	実習の心構え・守秘義務について	実習生としての言葉使い・振る舞いについて
3	白取 真実 小野 浩孝	実習園の決定方法・実習生に求められるもの	実習先の探し方・オリエンテーションの受け方
4	白取 真実	実習日誌の使い方	実習日誌の意義、実習課題の立て方について
5	白取 真実	実習日誌の書き方(1)	メモを取るためのポイント
6	白取 真実	実習日誌の書き方(2)	実習日誌を書くときの文章表現
7	白取 真実	部分実習指導案の意義・使い方	実習指導案の使い方と作成意義
8	白取 真実	実習指導案立案の手順	実習指導案の作成方法について
9	白取 真実	部分実習指導案の作成	実際に部分実習指導案を作成する
10	小野 浩孝	児童福祉施設等の役割や機能について(1)	児童福祉施設等の役割や機能、利用者について確認する
11	小野 浩孝	児童福祉施設等の役割や機能について(2)	施設の一日の生活の流れと実習内容について確認する
12	小野 浩孝	児童福祉施設等について詳しく調べる	自分の興味のある実習先について詳しく調べ、施設の役割や機能、施設の利用者について確認する
13	小野 浩孝	施設利用者の理解	施設利用者の人権、最善の利益について考える
14	小野 浩孝	施設の実際について	特別なケアを必要とする利用者への援助について考える
15	小野 浩孝	全体のまとめ	授業の総復習

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前に保育所や施設でのボランティア活動を行うなどし、実習先に対する理解を深めておきましょう。	60時間
復習	スクーリングで学んだことを踏まえて、保育現場で必要な教材等を作成しておきましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された課題は添削し、返却する。発表の際はコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習ＩＡ	白取 真実、小野 浩孝	複数	卒	幼	保
Nursery training ＩA			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	実習	スクーリング	2	90時間	2290	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を生かし、具体的な保育場面に基づく指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「保育実習履修資格」の教科及び「保育実習指導Ｉ」が修得済であること。

授業の概要

保育所の役割や機能について学ぶ。
保育の計画・観察・記録・自己評価等、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
これまでの学習を踏まえて、子どもの生活や活動と保育士の役割や援助について総合的に学ぶ。

授業の目的

地域との関わりや保護者への支援について、具体的な場面を捉えるなどして理解を深める。
保育士の実際の行動から業務内容や職業倫理について理解を深める。
乳幼児の発達過程について、実際の子どもの姿から理解を深める。
保育環境や保育内容の工夫について、実際の保育士の姿から読み取り、保育技術の向上に繋げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所の役割や機能について概説できる。
②	保育士の業務内容や職業倫理について概説できる。
③	乳幼児の発達過程や保育環境・保育内容の工夫について概説できる。
④	保育実習全般において、これまでの学習を生かして積極的に行動できる。

成績評価方法及び基準

実習の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社

参考書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社
相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所他『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわることの喜びを感じて欲しい。
実習園の特徴をＨＰなどを利用し、事前に十分に理解しておきましょう。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
		【実習の進め方】	
1	白取 真実 小野 浩孝	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(5)の内容について積極的に理解することを心がけてください。	
1		(1)保育所の役割と機能	①保育所の生活と一日の流れ②保育所保育指針の理解と保育の展開
2		(2)子ども理解	①子どもの観察とその記録による理解 ②子どもの発達過程の理解 ③子どもへの援助やかかわり
3		(3)保育内容・保育環境	①保育の計画に基づく保育内容 ②子どもの発達過程に応じた保育内容 ③子どもの生活や遊びと保育環境 ④子どもの健康と安全
4		(4)保育の計画、観察、記録	①保育課程と指導計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価
5		(5)専門職としての保育士の役割と倫理	①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理
			※基本的には観察実習・参加実習であるが、実習園の指導のもと部分実習を実施することもある。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前指導及びその他の科目の学習成果をもとに、自己課題を精査・確認して実習に臨むこと。 実習前に、挨拶等の礼儀やマナーが身についているかを各自で確認すること。	―
復習	実習後は、自己課題等に関する振り返りを行い、新たな課題を設定する作業を必ず実施すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習Ⅰ（保育所）	白取 真実、小野 浩孝	複数	卒	幼	保
Guidance to child care field study Ⅰ （Nursery school）			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
2	実習	実習	2	90時間	4310	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を生かし、具体的な保育場面に基づく指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「保育実習履修資格」の教科及び「保育実習指導Ⅰ」が修得済であること。

授業の概要

保育所の役割や機能について学ぶ。
保育の計画・観察・記録・自己評価等、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。
これまでの学習を踏まえて、子どもの生活や活動と保育士の役割や援助について総合的に学ぶ。

授業の目的

地域との関わりや保護者への支援について、具体的な場面を捉えるなどして理解を深める。
保育士の実際の行動から業務内容や職業倫理について理解を深める。
乳幼児の発達過程について、実際の子どもの姿から理解を深める。
保育環境や保育内容の工夫について、実際の保育士の姿から読み取り、保育技術の向上に繋げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所の役割や機能について概説できる。
②	保育士の業務内容や職業倫理について概説できる。
③	乳幼児の発達過程や保育環境・保育内容の工夫について概説できる。
④	保育実習全般において、これまでの学習を生かして積極的に行動できる。

成績評価方法及び基準

実習の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社

参考書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社
相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所他『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわることの喜びを感じて欲しい。
実習園の特徴をＨＰなどを利用し、事前に十分に理解しておきましょう。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
		【実習の進め方】	
1	白取 真実 小野 浩孝	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(5)の内容について積極的に理解することを心がけてください。	
1		(1)保育所の役割と機能	①保育所の生活と一日の流れ②保育所保育指針の理解と保育の展開
2		(2)子ども理解	①子どもの観察とその記録による理解 ②子どもの発達過程の理解 ③子どもへの援助やかかわり
3		(3)保育内容・保育環境	①保育の計画に基づく保育内容 ②子どもの発達過程に応じた保育内容 ③子どもの生活や遊びと保育環境 ④子どもの健康と安全
4		(4)保育の計画、観察、記録	①保育課程と指導計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価
5		(5)専門職としての保育士の役割と倫理	①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理
			※基本的には観察実習・参加実習であるが、実習園の指導のもと部分実習を実施することもある。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前指導及びその他の科目の学習成果をもとに、自己課題を精査・確認して実習に臨むこと。 実習前に、挨拶等の礼儀やマナーが身についているかを各自で確認すること。	―
復習	実習後は、自己課題等に関する振り返りを行い、新たな課題を設定する作業を必ず実施すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
相談援助 Social Work	齊藤　崇	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	**30**時間	2022	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	福祉事務所の実践経験を踏まえ、現場での実践に基づいた事例を交えつつ、講義を行っていく。
－	－	

授業の概要

相談援助（ソーシャルワーク）の発展過程から、その体系と方法を理解する。特に方法については、演習を用いて実際にロールプレイなどを行い、その振り返りを行うことで、理解を深める事業を行います。

授業の目的

講義、グループワークおよびロールプレイを通じて、福祉における相談援助の倫理・価値を学び、相談援助について理解できる。
保育の実践場面において、社会福祉の視点で捉えることができる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	相談援助の概要について理解する。
②	相談援助の方法と技術について理解する。
③	相談援助の具体的展開について理解する。
④	保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

成績評価方法及び基準

授業（グループワーク含）への取り組み	20%
スクーリング試験	80%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

片山義弘他『新保育ライブラリ 相談援助［新版］』北大路書房

参考書

木下大生他『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事』岩波書店

試験対策

試験は、多肢選択式および記述式問題となります。教科書およびレジュメから出題します。

学習のアドバイス

グループワーク・ロールプレイには積極的に参加をしてください。より多くの意見・価値観に触れることはとても重要であると考えます。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	齊藤　崇	相談援助の概要(1)	相談援助の理論・意義・機能
2	齊藤　崇	相談援助の概要(2)	相談援助と保育・ソーシャルワーク
3	齊藤　崇	相談援助の方法と技術	相談援助の対象と過程
4	齊藤　崇	演習	ロールプレイを通じて相談援助の技術・アプローチを学ぶ
5	齊藤　崇	相談援助の具体的展開(1)	計画・記録・評価
6	齊藤　崇	相談援助の具体的展開(2)	関係機関・専門家の連携・協働・社会資源の活用
7	齊藤　崇	事例分析(1)	虐待の予防と対応
8	齊藤　崇	事例分析(2)、まとめ	グループワークを通じての事例検討 相談援助を行ううえでの自身の気づきについてまとめる。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書の通読をし、全体像を把握してください。また、新聞・ネット等で社会福祉や保育に関する情報をみるよう心がけてください。	30時間
復習	教科書および講義で使用したレジュメ等を再度確認してください。疑問点があれば、次回講義の際に質問をしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	演習の発表の際は、教員よりコメントをします。また、都度質問に応じます。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育相談支援 Consultation and Support for Child Care	齊藤　崇	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	**30**時間	2023	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	福祉事務所の実践経験を踏まえ、現場での実践に基づいた事例を交えつつ、講義を行っていく。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	−	

授業の概要

子育てを取り巻く状況や家庭のありようが変化している現状を踏まえ、複雑化・多様化した保育の問題に対して、どのような視点をもち、どのような対応すべきかについて、演習を通して様々な価値に触れていきます。そのうえで、保育士に求められる視点を確認していきます。

授業の目的

講義及びグループワークを通じて、保育相談支援の意義とその方法について学び、理解できるようになる。
それぞれの場面における保育相談支援の方法について理解ができる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育相談支援の意義と原則について理解する。
②	保護者支援の基本を理解する。
③	保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する。
④	保育所等児童養護施設における保護者支援の実際について理解する。

成績評価方法及び基準

授業（グループワーク含）への取り組み	20%
スクーリング試験	80%

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

福丸由佳他『新保育ライブラリ 保育相談支援』北大路書房

参考書

空閑浩人『ソーシャルワーク論』ミネルヴァ書房

試験対策

試験は、多肢選択式および記述式問題となります。教科書およびレジュメから出題します。

学習のアドバイス

グループワーク・ロールプレイには積極的に参加をしてください。より多くの意見・価値観に触れることはとても重要であると考えます。

授業計画

保育相談支援

回数	担当教員	題目	内容
1	齊藤　崇	保育相談支援の意義	保育相談支援の意義と保育士の専門性を生かした支援
2	齊藤　崇	保育相談支援の基本(1)	子どもの最善の利益の重視と成長の喜びの共有
3	齊藤　崇	保育相談支援の基本(2)	保護者の養育力の向上を資する支援と地域資源の活用・関係機関の連携・協力
4	齊藤　崇	保育相談支援の基本(3)	受容的かかわり、自己決定、秘密保持の尊重
5	齊藤　崇	保育相談支援の実際(1)	保育に関する保護者に対する指導・保護者支援の内容
6	齊藤　崇	保育相談支援の実際(2)	保護者支援の計画・記録・評価・カンファレンス
7	齊藤　崇	保育相談支援の実際(3)	保護者支援の方法と技術(ロールプレイ)
8	齊藤　崇	児童福祉施設における 保育相談支援、まとめ	特別な対応を要する家庭・要保護児童の家庭に対する支援 演習を通じて保育相談支援に必要な視点を考えることができる。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書の通読をし、全体像を把握してください。また、新聞・ネット等で社会福祉や保育に関する情報をみるよう心がけてください。	30時間
復習	教科書を通読して全体像を把握してください。また、保育に関するニュースなどについて関心を払うよう心がけてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	演習の発表の際は、教員よりコメントをします。また、都度質問に応じます。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
こども家庭支援論 Child and Family Support theory	榎本 裕子	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	4050	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として子ども家庭支援センター、保育園、障がい児通所事業での実務経験を活かし、事例を挙げながら、子ども家庭支援について解説する。
－	地域理解力	

授業の概要

子育て家庭に対する支援の意義や必要性、目的と機能を理解する。保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本に関する認識を深め、保護者や地域の子育てを実践する力を向上できるような支援や家庭の状況に応じた支援、保育士に求められる基本的態度などを理解する。子育て家庭に対する支援の体制を学び、ニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状及び課題について理解する。

授業の目的

子ども家庭支援の意義や役割、保育士としての基本姿勢や支援体制など、支援の基礎的知識を学習する。家族や家庭の状況を理解するために、家庭生活をとりまく社会状況を把握し、支援のための社会資源を選べるような知識を養う。子育て困難にある家族や家庭に対する多様な支援機関との連携及び支援の実際について理解し、今後の課題について考察する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子育て家庭を取り巻く社会的状況を視野に入れ、家族や家庭が抱える問題や課題を分析し、支援に必要な社会資源を選び取り、支援計画を考案できる。
②	子育て支援に関する施策及び子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について説明することができる。
③	子ども家庭支援における保育士のソーシャルワークの必要性について説明することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

石動瑞代他『学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会 保育と子ども家庭支援論』みらい

参考書

草野いづみ『みんなで考える家族・家庭支援論』同文書院

試験対策

教科書・参考書をよく読み、子ども家庭を理解するための基礎的な知識や支援のあり方、子ども家庭への保育の役割などについて自分の言葉で表現できるようにしてください。

学習のアドバイス

・子どもが健やかに成長するためには、家族・家庭の在り方、支援の在り方・対策が必要です。

・教科書や参考書だけでなく、日常的に様々な情報（ニュース・新聞など）に関心を持ち、ここで学ぶ内容に関連付けて解釈することで、理解を深めてください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	榎本 裕子	子どもと家庭を取り巻く環境	家族構造・家族規模の変化から家族観・家庭観の変化を知る
2	榎本 裕子	子ども家庭支援の基本的な考え方	子ども家庭支援とは何か。子ども家庭支援の基本的視点
3	榎本 裕子	子育て家庭を支える法と制度	子育て支援に関する国の取り組み
4	榎本 裕子	子育て家庭を支える社会資源	子育て家庭の福祉を図るための多様な社会資源とその役割を知る
5	榎本 裕子	保育士に求められる相談スキル	保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持）
6	榎本 裕子	保育所の特性を生かす 子ども家庭支援	保育の専門性を活かした子ども家庭支援と意義
7	榎本 裕子	地域の子育て家庭への支援	地域社会・関係機関と連携した子育て支援
8	榎本 裕子	さまざまな子ども家庭への支援	子ども家庭のさまざまな形があることの理解と支援の展開
9	榎本 裕子	要保護児童等及びその家庭への支援	不適切な養育環境への気づきのポイントを知り、子どもとその家庭への支援の展開を学ぶ
10	榎本 裕子	障害のある子どもへの支援	障がいのある子どもの発達の姿を理解し、その家庭への支援の展開を学ぶ
11	榎本 裕子	子どもの貧困	子どもの貧困の現状と課題
12	榎本 裕子	子どもの貧困への支援	貧困への対応・支援の流れ
13	榎本 裕子	保育と子ども家庭支援	保育が子ども家庭支援に果たす役割
14	榎本 裕子	子ども家庭支援における ソーシャルワーク	保育現場に求められるソーシャルワーク
15	榎本 裕子	幼児教育と子どもの育ち	子どもの成長や学びの連続性

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキスト・参考書を充分に読み、理解を深めて下さい。理解が深まったら、課題について何を求められているのかを考え、自分の考えをまとめ、自分の言葉で表現して下さい。教科書や参考文献をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけの文章としないよう、良く考えて書いてください。引用した参考文献は、引用箇所と文献を明記してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書・参考書をよく読んでおく。日常の情報（ニュース、本など）を収集し、その情報も含めて、自分なりに支援の方法について整理・記録をしておく。	60時間
復習	提出したレポートはよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対して、添削及びコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
子育て支援 Support of Parenting	榎本 裕子	単独	卒	幼	保
			選	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	30時間	4290	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士として子ども家庭支援センター、保育園、障がい児通所事業の実務経験を活かし、事例を挙げながら子育て支援について解説する
–	地域理解力	

授業の概要

保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）の特徴を理解する。子どもや保護者の状況把握及び、支援の計画と実践、記録・評価・カンファレンス、職員間の連携の方法等、保育士の行う子育て支援の具体的方法について学ぶ。さらに保育所や地域において、特別な配慮が必要な子どもや家庭等、様々な対象に即した支援の内容・方法・技術について実践例を通して学ぶ。

授業の目的

保育所の特性を生かした子育て支援を理解し、その支援についての具体的展開について学ぶ。様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に学び、支援の実際を理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育士が行う子育て支援の基本的な方法について説明することができる。
②	子育て家庭が抱える問題を把握し、その支援につなげる支援計画が考案できる。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	50%
授業への参加度	30%
課題提出物	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

原信夫他『子育て支援「子どもが育つ」をともに支える』北樹出版
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』

参考書

長島和代他『日常の保育を基盤とした　子育て支援　－子どもの最善の利益を護るために－』萌文書林
石動瑞代他『学ぶ・わかる・みえる　シリーズ保育と現代社会　保育と子ども家庭支援論』みらい

試験対策

教科書・参考書をよく読み、子育て支援を理解するための基礎的な知識や具体的な支援のあり方について自分の言葉で説明できるようにしてください。

学習のアドバイス

「子育て支援」では支援の実践的な事項を具体的に学ぶことを理解し、教科書や参考書だけでなく、日常の情報（ニュースや新聞など）に関心を持ち、「自分ならどう支援できるか」という視点で考えてみてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	榎本 裕子	子育て支援の特性(1)	保育とともに行う保護者支援	ガイダンス	子育て支援・保護者支援
2	榎本 裕子	子育て支援の特性(2)	支援ニーズへの気づきと多面的な理解	子育て支援の特性(1)	日常的・継続的なかかわりを通した保護者への支援
3	榎本 裕子	子育て支援の特性(3)	子ども・保護者が出会う「多様な他者」とは	子育て支援の特性(2)	保育士が行う、多用な機会や場の提供
4	榎本 裕子	子育て支援を行うために	保育士に求められる姿	子育て支援を行うために	自分とは異なる他者を理解するということ
5	榎本 裕子	子育て支援の展開	子育て支援のプロセス	子育て支援の展開	事例で考える支援の展開
6	榎本 裕子	子育て支援とその実際（1）	保育所利用家庭と地域の子育て家庭への支援	子育て支援とその実際(1)	保護者が抱える子育ての悩みと相談内容及び支援の内容
7	榎本 裕子	子育て支援とその実際（2）	・特別な配慮を要する子どもと家庭への支援 ・要保護児童等の家庭に対する支援	子育て支援とその実際(2)	・障がいのある子ども及びその家庭への支援 ・子ども虐待の予防と対応
8	榎本 裕子	子育て支援とその実際（3）	多様なニーズを抱える子育て家庭への支援	まとめ	これまでの学習の振返り 子育て支援で大切にしたいこと

レポート作成等の方法・留意点

・レポート作成の際には、課題に沿った文章の構成にすることに気をつけ、どのように展開し、まとめるかを考えること。
・テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけのレポートにならないように、自分の言葉で表現すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書を通読するとともに、ミニワークの活用を積極的に実施し、疑問点を洗い出しておくこと。	60時間
復習	スクーリングで学んだ内容を振返り、理解を深めておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育者論（対象：2016～2018年度入学生） Theory of Early Childhood Teacher	永井 理恵子	単独	卒	幼	保
			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2051	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	－	幼稚園教諭として幼稚園勤務経験のある教員が、保育者の職務、その内容、方法等について教授する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

「保育原理」が受講済であること。

授業の概要

現代社会における教職・保育職の重要性の高まりを受け、その意義、役割、資質能力、職務内容について修得し、自己の適性を考える。

授業の目的

保育原理で学習したことをもとに、保育者とは何かということを深く考察することを目的としている。保育の本質を問直し、乳幼児の発達上の特性をも考慮しながら、各個人の保育観・子ども観を形成していく。また、保育所保育指針をもとに保育所が求められている現状を把握し地域に根付いた保育所のあり方について検討を行う。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者の専門性とは何かを総合的に理解する。
②	保育者の仕事内容を理解する。
③	保護者や地域社会と保育者の関係について理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

上野恭裕『プロとしての保育者論』保育出版社(情報教育出版)

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』
厚生労働省「保育所保育指針＜平成29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29 年告示＞』

試験対策

試験は記述問題となるのでレポート作成の方法に従って記述すること。その際、自分のレポートを読み直しておくのも効果的であろう。

学習のアドバイス

テキストだけでなく他の文献や書籍を活用し、自身の保育観と照らし合わせること。また、他の科目と関連している科目であることから、今までの学習とこれからの学習に生かすように意識しながら学習する。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	働く目的を考える	人はなぜ働くのか、子どもとどのように向き合うべきかを理解する。
2	永井 理恵子	保育現場が求める保育者像(1)	保育者に求められる気づきとは何かを知る。
3	永井 理恵子	保育現場が求める保育者像(2)	保育者としての基本的資質とプロ意識について学ぶ。
4	永井 理恵子	保育現場での保育者	「信頼される保育者」とはどのような存在なのかを理解する。
5	永井 理恵子	保育者の仕事内容を理解する(1)	自由保育・主活動における保育者の役割を理解する。
6	永井 理恵子	保育者の仕事内容を理解する(2)	子どもの生活に寄り添うとはどういうことなのかを理解する。
7	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事(1)	園全体から見た保育者の仕事を理解する。
8	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事(2)	集団生活から見た保育者の仕事を理解する。
9	永井 理恵子	事例から見た保育者の仕事(3)	保護者・教職員同士の関わりを理解する。
10	永井 理恵子	保護者と保育者の役割について	「信頼される保育者」になるために必要なことを学ぶ。
11	永井 理恵子	地域社会における保育者の役割	子育てを支える地域社会を目指して保育者ができることを考察する。
12	永井 理恵子	子ども理解	子どもを理解するための視点、手段と方法について。
13	永井 理恵子	虐待について	虐待の実態を知り、発見と対応を学ぶ。
14	永井 理恵子	行事に対する保育者の取り組み	行事の必要性、保育士の具体的な役割、地域との連携について。
15	永井 理恵子	幼保小連携について	幼稚園、保育園、小学校連携の具体的な取り組みと今後の課題について。

レポート作成等の方法・留意点

レポートを作成する際に、何を言いたいのか、という基本を常に留意していくことが大切である。当初、自分が意図したはずの内容が書いているうちにずれてしまうことが多々ある。書き終わってからも読み直し、自分の言いたいことが表現されているかに注意すること。
また、レポートを書く際に、さまざまな文献を参照することと思うが、他の著者の意見と自分の意見を混同しないこと。これは自分自身の意識の中でも必要だが、レポート作成の上ではことさら注意が必要である。自分の意見と引用文献とは明確に区別し、引用文献には必ず出典を明記すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育所保育指針・保育所保育指針の解説書を読み込んでおく。	60時間
復習	総合的な意味での援助について学習のたびにふり返る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容総論（対象：2015年度入学生まで） The General Contents of Child Care	高橋 かほる	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2211	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験や子育ての経験、更に教育研究所や30年以上大学教員や保育現場の先生方と研究を重ねた経験を活かし、具体的且つ理論的な授業を行う。
−	−	

授業の概要

本授業では、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における保育の全体的構造を知る。また、保育内容について具体的イメージをつかみ、子どもの発達等の基本的知識を学ぶ。

授業の目的

変化が激しい現代において、必要とされる教育・保育の動向を知り、具体的事例と共に理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育課程の指導法について理解する科目群の一環として、子ども理解や発達、社会的状況を通して保育内容について考察する。特に、保育に対する総合理解を深める。
②	変化の時代の中で、子どもが子どもらしく育つには、育ちや発達を理解し、一日の保育の流れの中で相応しい援助ができるよう配慮することが大切と把握できることを到達目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	70%	主体的に授業に参加すること。
レポート提出	20%	
授業参加度	10%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

谷田貝公昭他『新版　保育内容総論【コンパクト版 保育者養成シリーズ】』一藝社

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針　解説書』
内閣府『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

試験対策

・試験は語句や事例の読み取り及び援助の説明などの記述問題です。
・基本的には教科書に沿って出題します。
・日頃から、専門用語の意味を十分理解したり、子どもの言動の読み取りには、年齢の違いや個性によって特性があることを調べておきましょう。

学習のアドバイス

・スクーリング受講前に指定教科書を読み、理解し、自分の考えをまとめておいて下さい。
・スクーリングにおいてディスカッションを行う予定です。
・配布プリントやノートなどを読み返し、グループワークの振り返りを行う視点をもちましょう。
・授業への積極的な参加を心掛けてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	高橋 かほる	ガイダンス	授業のすすめ方	保育内容とは	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の基本及び特徴と全体構造を学ぶ。
2	高橋 かほる	保育の基本(1)	環境を通して行う保育	保育内容の区分	子どもに望ましい総合的な体験や経験とは何か、また５領域の概要について知る。
3	高橋 かほる	保育の基本(2)	幼児期に育みたい資質・能力	教育・養護の関連	養護及び教育の意味の類似点と相異点を学び、一体的に展開する保育を考える。
4	高橋 かほる	保育内容の国家的基準	保育所保育指針と保育内容	３法の共通点	「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知る。
5	高橋 かほる	遊びと保育内容	自発的な活動としての遊びと学び	保育内容と遊び	遊びの定義や乳幼児期の特性を生かした遊びを知る。遊びと教材の関係を学ぶ。
6	高橋 かほる	子どもの発達的特徴と保育内容(1)	0歳児の保育内容	個と集団の育ち	個性・社会性の育成とは何かを学ぶ。個を生かした集団作りについて学ぶ。
7	高橋 かほる	子どもの発達的特徴と保育内容(2)	1･2歳児の保育内容	子どもの思考	子どもの体験と認識や思考の関連を知る。子ども理解と保育を考える。
8	高橋 かほる	子どもの発達的特徴と保育内容(3)	3歳児の保育内容	記録の意義	記録の意義や方法を学び、ねらいや内容を意識して、指導案の作成を行う。
9	高橋 かほる	子どもの発達的特徴と保育内容(4)	4歳児の保育内容	保育の一日の流れ	一日の流れを知り模擬保育を行う。子どもは遊びや生活の中で成長する事を学ぶ。
10	高橋 かほる	保育の計画	カリキュラム・マネジメント、作成と展開	低年齢児の保育	乳児の特徴や望ましい経験について具体的に知り基本的信頼関係の重要性を学ぶ。
11	高橋 かほる	保育の記録と評価	子どもの理解と遊び理解	３歳児の保育内容	３歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
12	高橋 かほる	家庭や地域との連携	家庭・地域・小学校との連携	４歳児の保育内容	４歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
13	高橋 かほる	保育内容の歴史的変遷	戦前・戦後から見た保育内容	５歳児の保育内容	５歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
14	高橋 かほる	保育の多様な展開	多文化共生の保育	インクルーシブ保育	保幼小の関係の中で、子供たちは多様な個性と出会い共に育つ大切さを学ぶ。
15	高橋 かほる	保育者に求められる専門性	保育者の専門性と保育の質の向上	保育の動向	社会的状況の大きな変化の中で、現代の保育の動向を知り、PDCAを学び行う。 保育における情報機器の具体的な使用例について学ぶ。

レポート作成等の方法・留意点

・教科書とサブテキストを丁寧に読み、さらに参考文献にもあたり、理解を深める。
・理解が深まったら、自分の考えをまとめ、文章全体の流れを組み立てる。
・自分の言葉で表現する。参考文献等の言葉をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけのレポートにならないようにする。
・引用した参考文献は、引用箇所と文献を明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・スクーリング開始前までに教科書に目を通しておくこと。 ・授業内容に関連する情報をニュース等から集め、考察しておくこと。 ・教科書や参考書を読み込み、具体性や理論について読み込んでおくこと。	30時間
復習	・学んだことを記憶が鮮明なうちに復習し理解を深めておくこと。 ・自分の理解が不十分な部分は、より復習し、以降の学習に繋げておくこと。 ・提出物はよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。 ・スクーリングで指摘した箇所を重点的に練習しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物は、コメントをする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容総論(対象：2016～2018年度入学生)	高橋 かほる	単独	卒	幼	保
The General Contents of Child Care			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	2212	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験や子育ての経験、更に教育研究所や30年以上大学教員や保育現場の先生方と研究を重ねた経験を活かし、具体的且つ理論的な授業を行う。
－	－	

授業の概要

本授業では、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における保育の全体的構造を知る。また、保育内容について具体的イメージをつかみ、子どもの発達等の基本的知識を学ぶ。

授業の目的

変化が激しい現代において、必要とされる教育・保育の動向を知り、具体的事例と共に理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育課程の指導法について理解する科目群の一環として、子ども理解や発達、社会的状況を通して保育内容について考察する。特に、保育に対する総合理解を深める。
②	変化の時代の中で、子どもが子どもらしく育つには、育ちや発達を理解し、一日の保育の流れの中で相応しい援助ができるよう配慮することが大切と把握できることを到達目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	70%	主体的に授業に参加すること。
レポート提出	20%	
授業参加度	10%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

谷田貝公昭他『新版　保育内容総論【コンパクト版 保育者養成シリーズ】』一藝社

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針　解説書』
内閣府『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

試験対策

・試験は語句や事例の読み取り及び援助の説明などの記述問題です。
・基本的には教科書に沿って出題します。
・日頃から、専門用語の意味を十分理解したり、子どもの言動の読み取りには、年齢の違いや個性によって特性があることを調べておきましょう。

学習のアドバイス

・スクーリング受講前に指定教科書を読み、理解し、自分の考えをまとめておいて下さい。
・スクーリングにおいてディスカッションを行う予定です。
・配布プリントやノートなどを読み返し、グループワークの振り返りを行う視点をもちましょう。
・授業への積極的な参加を心掛けてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	高橋 かほる	保育内容とは	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の基本及び特徴と全体構造を学ぶ。
2	高橋 かほる	保育内容の区分	子どもに望ましい総合的な体験や経験とは何か、また５領域の概要について知る。
3	高橋 かほる	教育・養護の関連	養護及び教育の意味の類似点と相異点を学び、一体的に展開する保育を考える。
4	高橋 かほる	３法の共通点	「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知る。
5	高橋 かほる	保育内容と遊び	遊びの定義や乳幼児期の特性を生かした遊びを知る。遊びと教材の関係を学ぶ。
6	高橋 かほる	個と集団の育ち	個性・社会性の育成とは何かを学ぶ。個を生かした集団作りについて学ぶ。
7	高橋 かほる	子どもの思考	子どもの体験と認識や思考の関連を知る。子ども理解と保育を考える。
8	高橋 かほる	記録の意義	記録の意義や方法を学び、ねらいや内容を意識して、指導案の作成を行う。
9	高橋 かほる	保育の一日の流れ	一日の流れを知り模擬保育を行う。 子どもは遊びや生活の中で成長する事を学ぶ。
10	高橋 かほる	低年齢児の保育	乳児の特徴や望ましい経験について具体的に知り基本的信頼関係の重要性を学ぶ。
11	高橋 かほる	３歳児の保育内容	３歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
12	高橋 かほる	４歳児の保育内容	４歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
13	高橋 かほる	５歳児の保育内容	５歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
14	高橋 かほる	インクルーシブ保育	保幼小の関係の中で、子供たちは多様な個性と出会い共に育つ大切さを学ぶ。
15	高橋 かほる	保育の動向	社会的状況の大きな変化の中で、現代の保育の動向を知り、PDCAを学び行う。 保育における情報機器の具体的な使用例について学ぶ。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・スクーリング開始前までに教科書に目を通しておくこと。 ・授業内容に関連する情報をニュース等から集め、考察しておくこと。 ・教科書や参考書を読み込み、具体性や理論について読み込んでおくこと。	60時間
復習	・学んだことを記憶が鮮明なうちに復習し理解を深めておくこと。 ・自分の理解が不十分な部分は、より復習し、以降の学習に繋げておくこと。 ・提出物はよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。 ・スクーリングで指摘した箇所を重点的に練習しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物については、コメントをする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容総論(対象：2019年度入学生以降) The General Contents of Child Care	髙橋 かほる	単独	卒 必	幼 必	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	4150	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験や子育ての経験、更に教育研究所や30年以上大学教員や保育現場の先生方と研究を重ねた経験を活かし、具体的且つ理論的な授業を行う。
−	−	

授業の概要

本授業では、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園における保育の全体的構造を知る。また、保育内容について具体的イメージをつかみ、子どもの発達等の基本的知識を学ぶ。

授業の目的

変化が激しい現代において、必要とされる教育・保育の動向を知り、具体的事例と共に理解を深める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育・保育課程の指導法について理解する科目群の一環として、子ども理解や発達、社会的状況を通して保育内容について考察する。特に、保育に対する総合理解を深める。
②	変化の時代の中で、子どもが子どもらしく育つには、育ちや発達を理解し、一日の保育の流れの中で相応しい援助ができるよう配慮することが大切と把握できることを到達目標とする。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	70%	主体的に授業に参加すること。
レポート提出	20%	
授業参加度	10%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

谷田貝公昭他『新版　保育内容総論【コンパクト版 保育者養成シリーズ】』一藝社

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針　解説書』
内閣府『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

試験対策

・試験は語句や事例の読み取り及び援助の説明などの記述問題です。
・基本的には教科書に沿って出題します。
・日頃から、専門用語の意味を十分理解したり、子どもの言動の読み取りには、年齢の違いや個性によって特性があることを調べておきましょう。

学習のアドバイス

・スクーリング受講前に指定教科書を読み、理解し、自分の考えをまとめておいて下さい。
・スクーリングにおいてディスカッションを行う予定です。
・配布プリントやノートなどを読み返し、グループワークの振り返りを行う視点をもちましょう。
・授業への積極的な参加を心掛けてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	髙橋 かほる	保育内容とは	保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園の基本及び特徴と全体構造を学ぶ。
2	髙橋 かほる	保育内容の区分	子どもに望ましい総合的な体験や経験とは何か、また５領域の概要について知る。
3	髙橋 かほる	教育・養護の関連	養護及び教育の意味の類似点と相異点を学び、一体的に展開する保育を考える。
4	髙橋 かほる	３法の共通点	「育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知る。
5	髙橋 かほる	保育内容と遊び	遊びの定義や乳幼児期の特性を生かした遊びを知る。遊びと教材の関係を学ぶ。
6	髙橋 かほる	個と集団の育ち	個性・社会性の育成とは何かを学ぶ。個を生かした集団作りについて学ぶ。
7	髙橋 かほる	子どもの思考	子どもの体験と認識や思考の関連を知る。子ども理解と保育を考える。
8	髙橋 かほる	記録の意義	記録の意義や方法を学び、ねらいや内容を意識して、指導案の作成を行う。
9	髙橋 かほる	保育の一日の流れ	一日の流れを知り模擬保育を行う。 子どもは遊びや生活の中で成長する事を学ぶ。
10	髙橋 かほる	低年齢児の保育	乳児の特徴や望ましい経験について具体的に知り基本的信頼関係の重要性を学ぶ。
11	髙橋 かほる	３歳児の保育内容	３歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
12	髙橋 かほる	４歳児の保育内容	４歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
13	髙橋 かほる	５歳児の保育内容	５歳児の特性を学び、特性を生かす保育を具体的に知る。
14	髙橋 かほる	インクルーシブ保育	保幼小の関係の中で、子供たちは多様な個性と出会い共に育つ大切さを学ぶ。
15	髙橋 かほる	保育の動向	社会的状況の大きな変化の中で、現代の保育の動向を知り、PDCAを学び行う。 保育における情報機器の具体的な使用例について学ぶ。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	・スクーリング開始前までに教科書に目を通しておくこと。 ・授業内容に関連する情報をニュース等から集め、考察しておくこと。 ・教科書や参考書を読み込み、具体性や理論について読み込んでおくこと。	60時間
復習	・学んだことを記憶が鮮明なうちに復習し理解を深めておくこと。 ・自分の理解が不十分な部分は、より復習し、以降の学習に繋げておくこと。 ・提出物はよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。 ・スクーリングで指摘した箇所を重点的に練習しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物については、コメントをする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
乳児保育（対象：2015年度入学生まで） Infant Care And Education	韓 仁愛	単独	卒 必	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2220	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育現場の経験を活かし、３歳未満児の成長発達に基づく乳児保育の在り方につなげる実践力について学べるように進め、指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

授業の概要

3歳未満児の発達を理解した上で、生活とあそびをどのように進めていくのかについて学び、環境づくり、保育計画作成、連絡帳作成など、体験することで、乳児保育の実際について理解を深めていく。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国における乳児保育に触れ、視野を広げることで、いずれか保育者になる学生がより多面的で実践的な乳児保育を学ぶ。

授業の目的

本授業は、受講生が乳児保育に携わる際に必要な子ども対応と環境構成・保育計画・連絡帳等を授業内容で取り組む。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国の乳児保育を知ることで、乳児保育の実践につなげるための基本を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの月齢・年齢に相応しい保育のあり方を工夫し・探求できる。
②	保育計画の必要性を理解し、環境づくり、連絡帳作成など、乳児保育担当者の仕事を体験できる。
③	柔軟な担当制を通した保育者同士の連携の重要性と保育のあり方について理解する。

成績評価方法及び基準

授業態度	20%	※演習課題:
演習課題	30%	指導計画作成・環境づくり・連絡帳作成をそれぞれ10%
筆記試験	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

乳児保育研究会『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房

参考書

厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
神田英雄『0歳から3歳　保育・子育てと発達研究をむすぶ』全国保育団体連絡会

試験対策

教科書の内容と共に授業内で配布した参考資料にも十分に目を通し、学びを深めてください。

学習のアドバイス

教員から提示するレジュメと教科書の要点をしっかりと理解した上で、自分の意見を持ち、記述できるようにしてください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	韓 仁愛	乳児保育について	乳児保育とは何か	ガイダンス	授業計画及び評価基準など
2	韓 仁愛	乳児保育と保育所の1日	保育所の1日、デイリープログラム	3歳未満児の実践に学ぶ（1）	映像を通して0歳児・1歳児・2歳児の姿を通して学ぶ
3	韓 仁愛	0歳児前半の子どもの姿と保育	0歳児前半の発達の理解と保育のポイント	3歳未満児の実践に学ぶ（2）	実践事例から子どもの姿と保育者の関わりについて学ぶ
4	韓 仁愛	0歳児後半の子どもの姿と保育	0 歳児後半の発達の理解と保育のポイント	記録と全体的な計画	全ての計画に基づく、1歳児の月の指導計画(月案)・週の指導計画(週案)を作成する
5	韓 仁愛	1 歳児の子どもの姿と保育	1 歳児の発達の理解と保育のポイント	記録の分析と振り返り	作成した月案・週案をグループワークを通して振り返る
6	韓 仁愛	2 歳児の子どもの姿と保育	2 歳児の発達の理解と保育のポイント	乳児保育と環境づくり（1）	乳児保育における環境づくりの重要性
7	韓 仁愛	乳児保育と基本的生活習慣	食事・排泄・着脱・睡眠・清潔等の理解	乳児保育と環境づくり（2）	2歳児の保育室環境について演習を実施、振り返る
8	韓 仁愛	乳児保育と環境づくり	生活とあそびの環境づくり、おもちゃ	保護者理解と支援（1）	子育て支援を含む保護者支援のあり方について学ぶ
9	韓 仁愛	保育計画及び個人指導計画	計画の必要性と個人指導計画の意味	保護者理解と支援（2）	0歳児の保護者への連絡帳を作成し、内容を検討する
10	韓 仁愛	保護者理解と子育て支援	保護者の生活を含む子育て支援のあり方	保育所以外の乳児保育（1）	地域型保育の中でも家庭的保育事業、小規模保育事業などに触れる
11	韓 仁愛	乳児保育の歴史	「三歳児神話」及び乳児保育の変遷過程	保育所以外の乳児保育（2）	各自の調査内容を元に、保育所以外の乳児保育を情報交流し、まとめる
12	韓 仁愛	保育所以外の乳児保育	乳児院、家庭的保育、小規模保育事業等	諸外国の乳児保育について	韓国やイタリアの乳児保育と比較を通して学ぶ
13	韓 仁愛	改定「保育所保育指針」	新指針の乳児保育の内容について	担当制と職員間の連携	緩やかな担当制と保育者の連携について
14	韓 仁愛	保育者の役割と連携	担当制とチームワークのあり方	乳児保育とおもちゃ	3歳未満児のおもちゃの重要性について
15	韓 仁愛	全体の振り返り	まとめ	授業全体の振り返り	授業内容全体を振り返り乳児保育担当者としての役割と大事にしていきたいこと

レポート作成等の方法・留意点

教科書や参考書のレポート課題の内容に目を通し、授業で配布・説明された内容を踏まえてまとめてください。
引用・参考文献がある場合には必ずレポートの最後に記載しましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書や参考書を読み込み、３歳未満児保育について理解をしておく。	30時間
復習	授業時に使用したレジュメ及び資料はファイリングしておく。 配布した授業資料をよく読み返し、重要なポイントを整理しておく。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入し、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
乳児保育Ⅱ Infant Care And Education Ⅱ	韓 仁愛	単独	卒 選	幼 選	保 必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	30時間	4260	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	保育現場の経験を活かし、３歳未満児の成長発達に基づく乳児保育の在り方につなげる実践力について学べるように進め、指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

「乳児保育Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

3歳未満児の発達を理解した上で、生活とあそびをどのように進めていくのかについて学び、環境づくり、保育計画作成、連絡帳作成など、体験することで、乳児保育の実際について理解を深めていく。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国における乳児保育に触れ、視野を広げることで、いずれか保育者になる学生がより多面的で実践的な乳児保育を学ぶ。

授業の目的

本授業は、受講生が乳児保育に携わる際に必要な子ども対応と環境構成・保育計画・連絡帳等を授業内容で取り組む。さらに、保育所以外の乳児保育や諸外国の乳児保育を知ることで、乳児保育の実践につなげるための基本を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの月齢・年齢に相応しい保育のあり方を工夫し・探求できる。
②	保育計画の必要性を理解し、環境づくり、連絡帳作成など、乳児保育担当者の仕事を体験できる。
③	柔軟な担当制を通した保育者同士の連携の重要性と保育のあり方について理解する。

成績評価方法及び基準

授業態度	20%	※演習課題: 指導計画作成・環境づくり・連絡帳作成をそれぞれ10%
演習課題	30%	
筆記試験	50%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

乳児保育研究会『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』ひとなる書房

参考書

厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』
神田英雄『0歳から3歳　保育・子育てと発達研究をむすぶ』全国保育団体連絡会

試験対策

教科書の内容と共に授業内で配布した参考資料にも十分に目を通し、学びを深めてください。

学習のアドバイス

教員から提示するレジュメと教科書の要点をしっかりと理解した上で、自分の意見を持ち、記述できるようにしてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓　仁愛	ガイダンス	授業計画及び評価基準など
2	韓　仁愛	3歳未満児の実践に学ぶ（1）	映像を通して0歳児・1歳児・2歳児の姿を通して学ぶ
3	韓　仁愛	3歳未満児の実践に学ぶ（2）	実践事例から子どもの姿と保育者の関わりについて学ぶ
4	韓　仁愛	記録と全体的な計画	全ての計画に基づく、1歳児の月の指導計画(月案)・ 週の指導計画(週案)を作成する
5	韓　仁愛	記録の分析と振り返り	作成した月案・週案をグループワークを通して振り返る
6	韓　仁愛	乳児保育と環境づくり（1）	乳児保育における環境づくりの重要性
7	韓　仁愛	乳児保育と環境づくり（2）	2歳児の保育室環境について演習を実施、振り返る
8	韓　仁愛	保護者理解と支援（1）	子育て支援を含む保護者支援のあり方について学ぶ
9	韓　仁愛	保護者理解と支援（2）	0歳児の保護者への連絡帳を作成し、内容を検討する
10	韓　仁愛	保育所以外の乳児保育（1）	地域型保育の中でも家庭的保育事業、小規模保育事業などに触れる
11	韓　仁愛	保育所以外の乳児保育（2）	各自の調査内容を元に、保育所以外の乳児保育を情報交流し、まとめる
12	韓　仁愛	諸外国の乳児保育について	韓国やイタリアの乳児保育と比較を通して学ぶ
13	韓　仁愛	担当制と職員間の連携	緩やかな担当制と保育者の連携について
14	韓　仁愛	乳児保育とおもちゃ	3歳未満児のおもちゃの重要性について
15	韓　仁愛	授業全体の振り返り	授業内容全体を振り返り 乳児保育担当者としての役割と大事にしていきたいこと

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書や参考書を読み込み、３歳未満児保育について理解をしておく。	60時間
復習	授業時に使用したレジュメ及び資料はファイリングしておく。 配布した授業資料をよく読み返し、重要なポイントを整理しておく。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出物にはコメントを記入し、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
障害児保育（対象：2015年度入学生まで）	川尻　泰樹	単独	卒	幼	保
Early Childhood Special Education			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2230	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
－	－	

授業の概要

障害という形での育ちに困難がある子どもに関する基礎的な知識を身につけ、子ども理解の重要な視点と豊かな園生活を送るための工夫を学びます。併せて、保護者支援、個別保育支援計画、地域の専門機関との連携についても考えます。

授業の目的

障害児保育の理念について知る。各種障害の特徴と対応について理解を得る。障害児へ、および、障害児を含む子ども集団への保育実践への準備性を高める。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	障害児に対する保育、障害児を含む保育の要点を理解する。
②	当事者理解の足場を得る。
③	保育と支援の要点を理解する。

成績評価方法及び基準

受講態度	20%	
スクーリング試験	80%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

尾崎康子他『よくわかる障害児保育 第2 版』ミネルヴァ書房

参考書

堀智晴他『障害児保育の理論と実践～インクルーシブ保育の実現に向けて』ミネルヴァ書房
芹澤清音『発達障がい児の保育とインクルージョン～個別支援から共に育つ保育へ』大月書店
他、自身で良いと思う本があれば、それを学んでください。

試験対策

試験は主に基礎知識とその応用を問います。
スクーリングの内容を習得し、かつ自分の考えが述べられるかを確認します。
教科書を通読し、スクーリングを妥当に受講していれば通過可能です。

学習のアドバイス

スクーリングの内容をよく復習し、教科書を熟読してください。
スクーリングにおいてシラバスを重視しますが、形骸的・硬直化した授業は避けます。
学生の皆さんの主体的な学びを歓迎します。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容　主な教科書該当箇所	題目	内容
1	川尻 泰樹	障害児保育の理念と歴史	P4-7	障害児保育の理念	「障害」の概念とその変遷
2	川尻 泰樹	障害児保育の制度と形態	P2、3、24、25	障害児保育の形態	分離保育・統合保育・インクルーシヴ保育
3	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：知的障害	P40-47	障害各論(1)	知的障害の特徴と保育、ダウン症
4	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：ダウン症候群	P48-51	障害各論(2)	発達障害①自閉症スペクトラムの特徴と保育
5	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：自閉症	P56-73	障害各論(3)	発達障害② ADHD・LD の特徴と保育
6	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：ADHD、LD	P74-89、90-99	障害各論(4)	発達障害の世界を疑似体験し、困っていることを考える
7	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：視覚障害・聴覚障害	P106-115	障害各論(5)	感覚器の障害の特徴と保育
8	川尻 泰樹	個々の障害についての学習：肢体不自由	P116-121	障害各論(6)	肢体不自由とダウン氏症候群の特徴と保育
9	川尻 泰樹	障害のある子を含む保育の実際	P52-55、66-69、82-85、98-103、128-141	障害各論(7)	子どもと保育のアセスメント
10	川尻 泰樹	保育所・幼稚園での支援体制	P34-35、142-155	各論(1)	保護者支援
11	川尻 泰樹	関係諸機関との連携	P144-145、154-155	各論(2)	園内カンファレンス
12	川尻 泰樹	保護者・家族の支援	P158-175	各論(3)	個別支援計画と保育を考える
13	川尻 泰樹	子どもの姿を丁寧に知る：聴取や観察によるアセスメント	P178-179、180-187	各論(4)	地域の専門機関・学校との連携
14	川尻 泰樹	子どもの姿を丁寧に知る：検査によるアセスメント	P188-195	各論(5)	発達支援の技法～療育を知る
15	川尻 泰樹	育ちを支援する専門的な技法	P200-229	まとめ	一人ひとりが参加する保育とは何か
				※総合的に、上記を扱いますが、討議や質問を歓迎します。その際、上記順とは必ずしも合致しないこともあります。	

レポート作成等の方法・留意点

・教科書と参考文献を読んだうえで、レポート課題と関係する文献を自分で調べて、レポート作成の参考にしてください。
・自分の考えを読み手に理解できるように、文章にしてください。
・文献からの引用は「　」にし、最後に出典を記してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	指定教科書を中心に、関心を抱いてください。	30時間
復習	指定教科書、スクーリングの内容を中心に、関心を深めてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
養護内容	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Practical Social Child Protection and Foster Care			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・ｽｸｰﾘﾝｸﾞ	2	60時間	2240	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	
−	地域理解力	

授業の概要

子どもの理解を踏まえた社会的養護の内容について具体的に理解します。また施設養護及び家庭養護の実際について理解します。社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画等の計画・記録・自己評価の実際について学び、作成する力を養います。社会的養護に関わる相談援助の方法・技術などの専門的な技術や、子ども虐待の防止と家庭支援について理解します。

授業の目的

社会的養護とは何か、その基本的枠組みと仕組みを復習した上で、施設養護と家庭養護の生活特性及び実際を具体的に理解します。さらに社会的養護の内容について理解し、アセスメントと個別支援計画作成および社会的養護に関わる専門的技術を習得することを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の内容について理解を深める。
②	施設養護及び家庭養護の生活特性および実際を具体的に理解する。
③	アセスメントと個別支援計画が作成でき、記録及び自己評価を行うことができるようになる。
④	社会的養護に関わる専門的技術を習得し、相談援助の方法・技術とその実践について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小木曽宏他『よくわかる社会的養護内容 第3版』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅱ』教育情報出版

試験対策

試験は記述式です。教科書およびスクーリングで学習した内容から出題します。

学習のアドバイス

今まで学んだ社会的養護に関する理論や知識をしっかり復習して授業に臨んでください。
スクーリングでは補助教材を配布します。また参考書等は適宜紹介します。
学習成果に関わるので、授業に積極的に参加してください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護の基本的枠組みと仕組み	社会的養護の基本的枠組みと仕組みについて理解を深める	社会的養護の基本的枠組みと仕組み	社会的養護とは何か、社会的養護の実施体系
2	小野 浩孝	施設養護の特性および実際	社会的養護における施設養護の特性および実際について理解を深める	施設養護の生活特性及び実際(1)	乳児院、児童養護施設の生活特性及び実際
3	小野 浩孝	里親制度の特性および実際	社会的養護における里親制度の特性、現状と課題について理解を深める	施設養護の生活特性及び実際(2)	児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設の生活特性および実際
4	小野 浩孝	支援の計画と内容	社会的養護における支援の計画と内容について理解と深める	施設養護の生活特性及び実際(3)	福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設の生活特性及び実際
5	小野 浩孝	日常生活支援に関する事例分析	社会的養護における日常生活支援について事例分析を通して理解を深める	家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性及び実際の詳細
6	小野 浩孝	治療的支援に関する事例分析	社会的養護における治療的支援について事例分析を通して理解を深める	社会的養護における子どもの理解	社会的養護における子どもの事例分析（グループディスカッション）
7	小野 浩孝	自立支援に関する事例分析	社会的養護における自立支援について事例分析を通して理解を深める	日常生活支援の内容(1)	社会的養護における日常生活支援の内容に関する考察
8	小野 浩孝	反省的実践家としての保育士	保育士として自己評価と業務改善のあり方、スーパービジョンの活用、ケースカンファレンスの意義、メンタルヘルスについて学習する	日常生活支援の内容(2)	社会的養護における日常生活支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
9	小野 浩孝	保育士の専門性に関わる知識・技術とその応用	社会的養護の実践に求められる保育士としての知識・技術とその応用のあり方について理解を深める	治療的支援の内容	社会的養護における治療的支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
10	小野 浩孝	ソーシャルワークに関する知識・技術とその応用	社会的養護の実践に求められるソーシャルワークに関わる知識・技術とその応用について理解を深める	自立支援の内容	社会的養護における自立支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
11	小野 浩孝	施設の小規模化と課題	わが国の社会的養護における施設の小規模化の課題について理解を深める	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメント及び個別支援計画作成の実際（作成及びプレゼンテーション）
12	小野 浩孝	地域とのかかわり	社会的養護の実践にもとめられる他の機関や地域との連携について理解を深める	記録および自己評価	記録の意義と活用に関する理解
13	小野 浩孝	社会的養護の課題と展望	社会的養護の実践における今日的課題と今後の展望について学習する	社会的養護に関わる専門的技術	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（ロールプレイ）
14	小野 浩孝	子どもの権利の擁護	社会的養護における子どもの権利擁護について理解を深める	社会的養護の今後の課題と展望	社会的養護における家庭支援、課題と展望
15	小野 浩孝	保育士等の倫理及び責務	保育士等の専門職に求められる倫理および責務について理解を深める	全体のまとめ	社会的養護内容とは何かについて再考

レポート作成等の方法・留意点

教科書やその他の参考文献を精読し、課題に関する事実の整理をしっかり行ってから論述してください。教科書の内容をそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせたりしただけのレポートにならないようにしてください（引用部分には、学生便覧に指定された様式で注を明示してください）。また、誰が読んでも理解できる文章であることを確認してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング開始前までに教科書を通して読み、わからない用語などがある場合は事前に調べておくと授業に関する理解が高まります。	30時間
復習	教科書・サブテキストとともに、スクーリングで配付する補助教材を活用し、知識及び理解が深まっているかを確認してください。不明な点が残っている場合は適宜質問をするなどしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にて、グループディスカッションの発表へのコメント等のフィードバックを行います。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会的養護内容	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Practical Social Child Protection and Foster Care			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	2241	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
－	地域理解力	

授業の概要

子どもの理解を踏まえた社会的養護の内容について具体的に理解します。また施設養護及び家庭養護の実際について理解します。社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画等の計画・記録・自己評価の実際について学び、作成する力を養います。社会的養護に関わる相談援助の方法・技術などの専門的な技術や、子ども虐待の防止と家庭支援について理解します。

授業の目的

社会的養護とは何か、その基本的枠組みと仕組みを復習した上で、施設養護と家庭養護の生活特性及び実際を具体的に理解します。さらに社会的養護の内容について理解し、アセスメントと個別支援計画作成および社会的養護に関わる専門的技術を習得することを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の内容について理解を深める。
②	施設養護及び家庭養護の生活特性および実際を具体的に理解する。
③	アセスメントと個別支援計画が作成でき、記録及び自己評価を行うことができるようになる。
④	社会的養護に関わる専門的技術を習得し、相談援助の方法・技術とその実践について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小木曽宏他『よくわかる社会的養護内容 第3版』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅱ』教育情報出版

試験対策

試験は記述式です。教科書およびスクーリングで学習した内容から出題します。

学習のアドバイス

今まで学んだ社会的養護に関する理論や知識をしっかり復習して授業に臨んでください。
スクーリングでは補助教材を配布します。また参考書等は適宜紹介します。
学習成果に関わるので、授業に積極的に参加してください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護の基本的枠組みと仕組み	社会的養護とは何か、社会的養護の実施体系
2	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(1)	乳児院、児童養護施設の生活特性及び実際
3	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(2)	児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設の生活特性および実際
4	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(3)	福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設の生活特性及び実際
5	小野 浩孝	家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性及び実際の詳細
6	小野 浩孝	社会的養護における子どもの理解	社会的養護における子どもの事例分析（グループディスカッション）
7	小野 浩孝	日常生活支援の内容(1)	社会的養護における日常生活支援の内容に関する考察
8	小野 浩孝	日常生活支援の内容(2)	社会的養護における日常生活支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
9	小野 浩孝	治療的支援の内容	社会的養護における治療的支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
10	小野 浩孝	自立支援の内容	社会的養護における自立支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
11	小野 浩孝	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメント及び個別支援計画作成の実際（作成及びプレゼンテーション）
12	小野 浩孝	記録および自己評価	記録の意義と活用に関する理解
13	小野 浩孝	社会的養護に関わる専門的技術	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（ロールプレイ）
14	小野 浩孝	社会的養護の今後の課題と展望	社会的養護における家庭支援、課題と展望
15	小野 浩孝	全体のまとめ	社会的養護内容とは何かについて再考

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング開始前までに教科書を通して読み、わからない用語などがある場合は事前に調べておくと授業に関する理解が高まります。	60時間
復習	教科書・サブテキストとともに、スクーリングで配付する補助教材を活用し、知識及び理解が深まっているかを確認してください。不明な点が残っている場合は適宜質問するなどしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にて、グループディスカッションの発表へのコメント等のフィードバックを行います。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
社会的養護Ⅱ	小野 浩孝	単独	卒	幼	保
Social Care Ⅱ			必	選	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	30時間	4070	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	
−	地域理解力	

受講要件

「社会的養護Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

子どもの理解を踏まえた社会的養護の内容について具体的に理解します。また施設養護及び家庭養護の実際について理解します。社会的養護におけるアセスメントと個別支援計画等の計画・記録・自己評価の実際について学び、作成する力を養います。社会的養護に関わる相談援助の方法・技術などの専門的な技術や、子ども虐待の防止と家庭支援について理解します。

授業の目的

社会的養護とは何か、その基本的枠組みと仕組みを復習した上で、施設養護と家庭養護の生活特性及び実際を具体的に理解します。さらに社会的養護の内容について理解し、アセスメントと個別支援計画作成および社会的養護に関わる専門的技術を習得することを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	社会的養護の内容について理解を深める。
②	施設養護及び家庭養護の生活特性および実際を具体的に理解する。
③	アセスメントと個別支援計画が作成でき、記録及び自己評価を行うことができるようになる。
④	社会的養護に関わる専門的技術を習得し、相談援助の方法・技術とその実践について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小木曽宏他『よくわかる社会的養護内容 第3版』ミネルヴァ書房

参考書

小野澤昇他『子どもの未来を支える社会的養護』ミネルヴァ書房
中山正雄他『よりそい支える社会的養護Ⅱ』教育情報出版

試験対策

試験は記述式です。教科書およびスクーリングで学習した内容から出題します。

学習のアドバイス

今まで学んだ社会的養護に関する理論や知識をしっかり復習して授業に臨んでください。
スクーリングでは補助教材を配布します。また参考書等は適宜紹介します。
学習成果に関わるので、授業に積極的に参加してください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小野 浩孝	社会的養護の基本的枠組みと仕組み	社会的養護とは何か、社会的養護の実施体系
2	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(1)	乳児院、児童養護施設の生活特性及び実際
3	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(2)	児童自立支援施設、母子生活支援施設、児童心理治療施設の生活特性および実際
4	小野 浩孝	施設養護の生活特性及び実際(3)	福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設の生活特性及び実際
5	小野 浩孝	家庭養護の生活特性及び実際	家庭養護の生活特性及び実際の詳細
6	小野 浩孝	社会的養護における子どもの理解	社会的養護における子どもの事例分析（グループディスカッション）
7	小野 浩孝	日常生活支援の内容(1)	社会的養護における日常生活支援の内容に関する考察
8	小野 浩孝	日常生活支援の内容(2)	社会的養護における日常生活支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
9	小野 浩孝	治療的支援の内容	社会的養護における治療的支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
10	小野 浩孝	自立支援の内容	社会的養護における自立支援の内容の事例分析（グループディスカッション）
11	小野 浩孝	アセスメントと個別支援計画の作成	アセスメント及び個別支援計画作成の実際（作成及びプレゼンテーション）
12	小野 浩孝	記録および自己評価	記録の意義と活用に関する理解
13	小野 浩孝	社会的養護に関わる専門的技術	社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践（ロールプレイ）
14	小野 浩孝	社会的養護の今後の課題と展望	社会的養護における家庭支援、課題と展望
15	小野 浩孝	全体のまとめ	社会的養護内容とは何かについて再考

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング開始前までに教科書を通して読み、わからない用語などがある場合は事前に調べておくと授業に関する理解が高まります。	15時間
復習	教科書・サブテキストとともに、スクーリングで配付する補助教材を活用し、知識及び理解が深まっているかを確認してください。不明な点が残っている場合は適宜質問するなどしてください。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にて、グループディスカッションの発表へのコメント等のフィードバックを行います。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
美術表現	天野　泉	単独	卒	幼	保
Expression of art			必	選必	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	2270	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	子育て研究所のイベントで子どもたちに森の中の素材を使った造形遊びを指導した経験を活かし、幼稚園教諭、保育士にとしての指導力が身に付けられるよう実践的な指導をする。
フィードバック能力	－	

授業の概要

子どもの描画活動の発達過程について理解し、モダンテクニックを中心とした造形あそびの技法の基本を習得する。

授業の目的

子どもたちが造形あそびを豊かに展開するために必要な技術と知識を習得する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	美術製作の様々な技術と道具、素材、作品と歴史について知り、それらをもとに子どもたちと造形あそびを展開する計画を考案することができる。

成績評価方法及び基準

提出物	30%
試験	30%
授業態度	40%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

なし

参考書

片岡杏子『子どもは描きながら世界をつくる』ミネルヴァ書房
花篤實他『新造形表現』三晃書房
その他は授業内で紹介する。

試験対策

教材研究で扱う画材や道具に慣れておく。さまざまなビジュアルアート作品に触れておく。

学習のアドバイス

汚れても構わない服装で出席してください。講義中に設定した時間や、制作活動中に疑問に思うことがあれば、積極的に質問をしてください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	天野 泉	ガイダンス	授業の目標と内容、進め方と受け方、心構えについて説明
2	天野 泉	子どもの描画活動の発達過程と表現とは	さまざまな美術作品の鑑賞を通してディスカッションし、子どもの発達と造形表現に関する知識を習得する
≪教材研究Ⅰ≫　身近な自然や色、物の感触に親しむ経験と保育の環境を考える			
3	天野 泉	教材研究Ⅰ(1)	ちぎり絵・色水あそび
4	天野 泉	教材研究Ⅰ(2)	にじみ・吹き絵・たらし絵・ドリッピング
5	天野 泉	教材研究Ⅰ(3)	スクラッチ・バチック
6	天野 泉	教材研究Ⅰ(4)	糸ひき絵・ローリング
7	天野 泉	教材研究Ⅰ(5)	フィンガーペインティング・フロッタージュ
≪教材研究Ⅱ≫　子どもの経験や表現活動と二次元的な造形表現とを結びつける遊びの展開を考える			
8	天野 泉	教材研究Ⅱ(1)	切り絵・ステンシル；グループワークで協力して一つの作品を作る
9	天野 泉	教材研究Ⅱ(2)	マーブリング・泡の写し取り
10	天野 泉	教材研究Ⅱ(3)	デカルコマニー・マースキング
11	天野 泉	教材研究Ⅱ(4)	スタンピング
12	天野 泉	教材研究Ⅱ(5)	紙版画
13	天野 泉	教材研究Ⅱ(6)	スチレン版画；出来上がった作品についてプレゼンテーションする
≪教材研究Ⅲ≫　子どもの経験や表現活動と立体的な造形表現とを結びつける遊びの展開を考える			
14	天野 泉	教材研究Ⅲ(1)	小麦粉粘土・スライム
15	天野 泉	教材研究Ⅲ(2)	コラージュ；教材研究と作品について振り返る

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	自分が担当する模擬授業の準備をする。 教材研究で取り上げる表現技法についてあらかじめ調べる。	60時間
復習	他の学生の模擬授業で学んだことを自分の準備にフィードバックする。 教材研究で取り上げた表現技法を身近にある絵本やさまざまな媒体のデザインなどの中から見つけ出して、報告出来るよう準備する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	講義内で質疑応答の時間を設ける。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（健康Ⅱ）	韓　仁愛	単独	卒選	幼選	保選
Teaching Methods For children Care Content (HealthⅡ)					

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2370	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	保育士としての実務経験を活かし、子どもの健康を促すための保育のあり方と保育者の指導方法について指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

「保育内容の指導法（健康Ⅰ）」が受講済であること。

授業の概要

領域「健康」のねらい、内容および内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養うために必要な知識・技能を身につける。また乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達、運動発達の特徴について理解を深め、適切な指導方法について考える。

授業の目的

現代の子どもの健康は、子どもたちを取り巻く環境の変化により、多くの問題や課題が指摘されている。保育者として子どもの健康について考え、身体的・精神的側面に配慮した援助とは何か、その具体的な指導方法について学ぶ。
本講義では、レポート課題２つおよび科目修得試験を通して、「保育内容の指導法（健康Ⅰ）」で学習した基礎的理論について理解を深め、保育者として、具体的な活動展開ができるような応用実践力を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	身体の発達に応じた運動遊びの展開の仕方について理解する。
②	子どもの運動能力低下の背景を理解し、適切な援助・配慮事項について具体例を持って説明できる。
③	安全管理のための指導・援助の仕方について具体例を持って説明できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

榎沢良彦他『シードブック 保育内容 健康 第3 版』建帛社

参考書

無藤隆他『事例で学ぶ保育内容領域健康』萌文書林
河邉貴子『演習 保育内容 健康』建帛社

試験対策

試験は、記述問題となる。授業の到達目標を中心に、教科書やサブテキストをよく読んでおくこと。また、レポート課題の内容について、復習しておくこと。

学習のアドバイス

1. 教科書や参考文献を読んで、要点をしっかりと捉えること。
2. 教科書や参考文献を写しただけのレポートは評価されないため、自分の考えや意見をレポート等に反映するように心がけること。
3. 日頃から、身の周りにいる子どもを観察し、子どもの運動あそびと健康との関連性について考えること。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	韓　仁愛	領域「健康」の意味	健康とは何か、子どもにとっての健康について学ぶ
2	韓　仁愛	領域「健康」と他の領域との関係	領域の相互性と総合性、小学校教育の関連性について学ぶ
3	韓　仁愛	健康にかかわる子どもの生活実態	遊び、生活リズム等の実態について学ぶ
4	韓　仁愛	子どもの心身の健康	心と身体の関連、基本的生活習慣の形成について学ぶ
5	韓　仁愛	身体の発達と園生活(1)	子どもの身体発達について学ぶ
6	韓　仁愛	身体の発達と園生活(2)	子どもの運動発達について学ぶ
7	韓　仁愛	心の発達と園生活	子どもの情緒やパーソナリティ発達について学ぶ
8	韓　仁愛	遊びと健康	遊びと心身の健康との関連、運動遊びの意義について学ぶ
9	韓　仁愛	健康にかかわる遊びと保育者の援助(1)	固定遊具を用いた遊びについて学ぶ
10	韓　仁愛	健康にかかわる遊びと保育者の援助(2)	園庭における遊びについて学ぶ
11	韓　仁愛	健康にかかわる遊びと保育者の援助(3)	室内における遊びについて学ぶ
12	韓　仁愛	基本的生活習慣の指導・援助	基本的生活習慣とは何か、指導・援助のあり方について学ぶ
13	韓　仁愛	保健への配慮と指導・援助	子どもの健康状態の把握、疾病と予防・処置について学ぶ
14	韓　仁愛	安全の管理と指導・援助	安全管理の意義と目的、安全指導と援助のあり方について学ぶ
15	韓　仁愛	園外保育と健康	園外保育の意義と目的、実施のあり方について学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

・教科書やサブテキストを読む場合は、レポート課題の内容のみを読むのではなく、まずは一冊読み切ることが大切である。
　疑問に思った点や重要なキーワードについては、資料や参考文献を参照すること。
・レポート作成の際には、課題に沿った文章の構成にすることに気をつけ、どのように展開し、まとめるかを考えること。
・テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせただけのレポートにならないように、自分の考えを自分の言葉で表現するように心がけること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書や参考書を読み込み、単元ごとに気づいたこと、疑問点をまとめておくこと。 ルールや技法を理解した上で、レポート作成に臨むこと。	60時間
復習	提出したレポートをよく読み返し、重要なポイントを整理しておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	レポートにはコメントを記入して返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（人間関係Ⅱ）	五十嵐 元子	単独	卒	幼	保
Teaching Methods For Children Care Content(Human Relations Ⅱ)			選	選	選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2380	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	臨床心理士として幼稚園・保育所への発達臨床コンサルテーションに従事した経験から、人間関係の発達とその構築プロセスについて心理学的に解説する。
－	－	

受講要件

「保育内容の指導法（人間関係Ⅰ）」が受講済であること。

授業の概要

本授業では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている「人間関係」領域の指導のあり方について、理解を深めます。各年齢の人間関係の発達を理解し、それに応じた保育者の役割や保育の配慮・工夫を学びます。

授業の目的

子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育内容について理解した上で、子どもが日々の生活と遊びを通して、豊かな人間関係を育んでいくために必要な知識と技術を実践的に習得する。また、保育における教材等の活用、保育の環境の校正及び具体的展開のための知識を養う。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	領域「人間関係」のねらいや方法を参考にして、活動や遊びを考案できる。
②	子どもの人間関係の発達に応じた保育者の具体的なかかわりを実践できる。
③	保護者や同僚との連携の在り方について解説できる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

田代和美他『演習 保育内容 人間関係　基礎的事項の理解と指導法』建帛社

参考書

玉井美智子『子どもから学ぶ保育活動人間関係』学事出版

神田英雄『3 歳から6 歳－保育・子育てと発達研究をむすぶ“幼児編”』ちいさいなかま社

神田英雄『はじめての子育て　育ちのきほん－ 0歳から6歳』ひとなる書房

試験対策

試験は論文形式です。教科書に沿って出題するので、熟読し、自分の言葉で説明できるようにしてください。また、日頃より、保育現場を見学することで、具体的なイメージができ、教科書の内容も理解しやすくなります。

学習のアドバイス

・教科書や参考書をよく読んで要点を捉え、内容を理解するようにしてください。
・専門用語は正確に内容を理解し、自分の言葉で文章にできるようにしてください。
・サブテキストの課題や理解度テストに取り組んでください。
・子どもや保育者の具体的な様子を想像し、それを文章にできるように、事例をよく読むようにしてください。
・教科書や参考書を写しただけのレポートは認められません。
・レポート作成で参考にした文献、引用した文献は、参考文献欄に必ず記入してください。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	五十嵐 元子	領域「人間関係」のねらい	領域「人間関係」を学ぶ意味を考える
2	五十嵐 元子	人間関係とは	人間関係が人にとってどのような意味があるのかを考える
3	五十嵐 元子	領域「人間関係」と保育	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」の内容を理解し、保育の在り方を学ぶ
4	五十嵐 元子	0 歳児の人とのかかわりと保育	0 歳児の人との関係の特徴を踏まえた保育を考える
5	五十嵐 元子	1 歳児の人とのかかわりと保育	1 歳児の人との関係の特徴を踏まえた保育を考える
6	五十嵐 元子	2 歳児の人とのかかわりと保育	2 歳児の人との関係の特徴を踏まえた保育を考える
7	五十嵐 元子	3 歳児の遊びと人間関係	3 歳児の典型的な遊びと他児との関係の特徴を捉え、保育を考える
8	五十嵐 元子	4 歳児の遊びと人間関係	4 歳児の典型的な遊びと他児との関係の特徴を捉え、保育を考える
9	五十嵐 元子	5 歳児の遊びと人間関係	5 歳児の典型的な遊びと他児との関係の特徴を捉え、保育を考える
10	五十嵐 元子	気にかかる子どもへの援助	気にかかる子どもの理解と支援を考える
11	五十嵐 元子	特別な支援を必要とする子どもへの援助	発達の困難を理解し、支援を考える
12	五十嵐 元子	育ちを支える保育者同士の人間関係	保育者同士の連携を学ぶ
13	五十嵐 元子	育ちを支える保護者と保育者の人間関係	保護者との信頼関係を築き、協力関係へと発展させていくために必要なことを学ぶ
14	五十嵐 元子	育ちにかかわる「私たち」の人間関係	自分の人間関係の発達を振り返る
15	五十嵐 元子	学習のまとめ	これまでの学習内容を振り返る

レポート作成等の方法・留意点

教科書及び参考書を熟読したうえで、テーマに即した専門用語を理解すること。
テキストや参考書をそのまま写すのではなく、自分の言葉で表現すること。
子どもの様子を思い描きながら、文章を作成すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書にある重要な用語や大切だと思うことは、ノートに書きだし、まとめるようにする。	60時間
復習	自分で作成したレポートを見直し、文章表現の改善点と重要事項を捉えるようにすること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（環境Ⅱ） Teaching Methods For Children Care Content （Environment Ⅱ）	永井 理恵子	単独	卒 選	幼 選	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2390	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、領域「環境」の理論を指導するとともに、実際の様々な活動を指導する。
−	−	

受講要件

「保育内容の指導法（環境Ⅰ）」が受講済であること。

授業の概要

「保育内容の指導法（環境Ⅰ）」を受けて、さらに深い高度な知識の修得を目指すとともに、保育の現場で役立つ実践的な内容を学ぶ。こどもが環境にどのようにかかわって活動を生み出していくのか、具体的な保育事例をとおして、こどもが主体的に活動するための環境や保育者の在り方について理解する。

授業の目的

本科目では「保育内容の指導法（環境Ⅰ）」での学習を受けて、「環境」についてのさらなる知識や技能の修得を目指します。その際、子どもの発育成長につながる人、モノ、自然等の環境の提供を保育者の役割として視点に据える。保育・教育の場での保育者としての活動で、子どもの発育成長の特性と環境を結びつけて考えることができるような実践的な学習をしていきます。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの発育成長について、環境の特性を理解することができる。
②	年長児に必要な環境について、保育・教育活動の中から具体的に提示することができる。
③	季節に応じた「自然環境」に関わる活動について、800 字程度で具体的かつ、論理的に提示することができる。
④	保育内容（環境）の視点から、「環境」の意義について、論理的に説明することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

吉田淳他『新・保育実践を支える 環境』福村出版

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』（『幼稚園教育要領解説』を含む）

厚生労働省『保育所保育指針＜平成29 年告示＞』（『保育所保育指針解説』を含む）

試験対策

科目修得試験は『保育所保育指針』の「第1 章 総則」の4 幼児教育を行う施設として共有すべき事項、および「第2 章　保育の内容」の２：1 歳以上3 歳未満児の保育に関わるねらい及び内容、３：３歳以上児の保育に関するねらい及び内容、もしくは『幼稚園教育要領』の「第2　幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」」および「第2 章 ねらい及び内容」の保育内容 環境にかかわる部分から出題します。よく読んでおきましょう。

学習のアドバイス

本科目の学習にあたっては「授業計画」の各回のテーマをもとに、学習内容をノートにまとめるようにし、レポート課題作成に関わる部分だけの学習とならないようにしましょう。また各回のまとめには自分の考えも併記すると理解が深まります。参考書の中にある各事例にも注目し、保育者のはたらきと具体的な環境、子どもの行動を一体的にとらえて理解を深めていくことが重要です。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	永井 理恵子	環境とは何か	「環境Ⅰ」の学習内容についての想起、テキストの「まえがき」、および「目次」について
2	永井 理恵子	保育における環境の役割	子どもの発育成長に環境が果たす役割を学ぶ
3	永井 理恵子	保育内容領域環境の対象(1)	自然を取り入れた「環境遊び」の方法
4	永井 理恵子	保育内容領域環境の対象(2)	園内外の物的環境についての理解
5	永井 理恵子	保育内容領域環境の対象(3)	自然環境、社会文化的環境についての理解
6	永井 理恵子	0、1、2 歳児の保育活動	当該年代の子どもの特性と環境との関わり
7	永井 理恵子	3 歳児の保育活動	当該年代の子どもの特性と環境との関わり
8	永井 理恵子	4 歳児の保育活動	当該年代の子どもの特性と環境との関わり
9	永井 理恵子	5 歳児の保育活動	当該年代の子どもの特性と環境との関わり
10	永井 理恵子	教育・保育課程編成下の保育内容「環境」	「ねらい」「内容」の理解と意図の具体化
11	永井 理恵子	指導計画の策定と保育内容「環境」	環境を視点にした年間行事と各指導計画との往還
12	永井 理恵子	2008 年以前の「環境」についての認識	「環境」制定以前の環境構成観
13	永井 理恵子	2009 年以降の保育内容の領域「環境」についての認識	「環境」の現代的な捉え
14	永井 理恵子	子どもの発育成長と環境の視点	子どもにとっての「環境」という存在の確認
15	永井 理恵子	保育者の役割としての環境の視点	「人的環境」「環境の構成者」としての保育者の価値

レポート作成等の方法・留意点

テキストや参考書等の内容を十分に読み、子どもの発育成長に不可欠な「環境」について考えてください。引用を除いて、テキスト等の記述をそのまま書き写すのではなく、自分自身の言葉で述べなければなりません（引用時のルールについては『学生便覧』の該当箇所を参照すること）。保育者がどのように「環境」を整え、それによって子どもはどのような経験を得ることができ、どのような発育成長を遂げていくことができるのか（保育者はどのように発育成長してほしいのかという意図）を、一つのまとまりをもって考察してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	本科目の履修にあたっては、「環境Ⅰ」での学習が基礎に据えられます。「環境Ⅰ」履修時の資料やノート、教科書等を参考にしながら何を学習したのかを思い起こしてみましょう。 物的・人的・自然・社会文化的環境のそれぞれの特性と、具体例をあげることができることが不可欠です。また「一人ひとりの子どもの発育成長に資する環境とは何か」「専門家としての保育者が整える環境とはどうあるべきか」について、学習のあらゆる段階で考えてみましょう。その際に「指針」や「要領」の総則で述べられている「環境を構成する」というときの「環境」との相違点を理解することが、あなたの学習に示唆を与えます。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（言葉Ⅱ） The contents of childcare: LanguageⅡ	近藤　万里子	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2400	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	特別支援学校小学部の教諭として言語遅滞の子どもの指導などの経験を活かし、子どもの言葉の発達に繋がる関わりなどの指導を行う。
－	－	

受講要件

「保育内容の指導法（言葉Ⅰ）」が受講済であること。

授業の概要

「保育内容の指導法（言葉Ⅰ）」で学んだ内容を土台とし、子どものことばの発達過程と豊かな言語を育む保育についてのより深く学ぶ。また、実際の保育場面を想定して保育を構想し、実演することで必要な技術等を身に付ける。

授業の目的

・子どものことばの発達過程と豊かな言語を育む保育についてのさらなる理解を目的とする。

・様々な事例を通して実践的な対応を学んでいく。

・言葉等のやり取りを通し、子どもの健やかな成長に寄与できる実力を身につける。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもの言葉の発達を捉え、具体的に保育者としてどう行動すべきか、自ら考えることができる。
②	その物語が子どもに与える影響や物語自体の意味を理解し、児童文化財を演じることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

戸田雅美他『演習　保育内容　言葉　基礎的事項の理解と指導法』建帛社

参考書

厚生労働省『保育所保育指針解説』

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

試験対策

記述問題も含みますので日頃から自分の考えを文章で表現する練習をして下さい。

学習のアドバイス

「保育内容の指導法（言葉Ⅰ）」で学んだことをよく復習しておくこと。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	言葉をめぐる自己体験	子どもの立場になって言葉を考える
2	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（1）	言葉の育つ道筋
3	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（2）	言葉が育まれるために
4	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（3）	社会的なルールとしての言葉
5	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（4）	言葉が支えるもの
6	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（5）	言葉への興味
7	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（6）	言葉で考える
8	近藤 万里子	言葉の育ちと保育（7）	言葉で表現する
9	近藤 万里子	言葉を使った関わり	配慮を要する子ども
10	近藤 万里子	言葉で育てる児童文化財（1）	童話
11	近藤 万里子	言葉で育てる児童文化財（2）	絵本
12	近藤 万里子	言葉で育てる児童文化財（3）	パネルシアター・紙芝居・ペープサート
13	近藤 万里子	言葉で育てる児童文化財（4）	ことば遊び
14	近藤 万里子	言葉で育てる児童文化財（5）	劇遊び
15	近藤 万里子	まとめ	復習と総括

レポート作成等の方法・留意点

教科書や明記した参考文献以外にも自分で資料を集めて作成すると尚良いです。引用したものは必ず引用箇所と文献を明記して下さい。保育者の関わり方については自分を保育者の立場に置き換えて考えて下さい。引用だけにならないように引用をもとにして自分の考えを述べて下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書はしっかりと読み込み、各章ごとにまとめておくこと。	60時間
復習	各章ごとに学んだ内容を自分の言葉でまとめておくこと。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対しては、コメント欄以外のレポートの文章自体に下線を引き、良い内容の文章を評価する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（表現Ⅱ） Teaching Methods For Children Care Content（Environment Ⅱ）	髙橋 裕勝	単独	卒選	幼選	保選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	2410	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもの表現活動の進め方について事例を挙げながら指導する。
–	–	

受講要件

「保育内容の指導法（表現Ⅰ）」が受講済であること。

授業の概要

子どもの生活や遊びの中で、物と関わることによって生まれる造形表現について学習する。
保育者は子どもの表現をどのように捉えるのか、発達段階に照らした造形指導の在り方、実践保育上で造形活動にかかわる保育者のスタンスを考える。
造形表現の実技演習や保育実践事例を基に、保育者を志す者が実習に臨む心得をはじめ、造形に関する用具や材料、技法などの基本的な知識、子どもの自発性と主体性を軸とする活動構成について学ぶ。
保育研究における保育実践の記録の必要性や、現代の社会問題を背景にした保育現場の危機的な状況への対処方法など、保育者の担う役割や責任について学ぶ。

授業の目的

領域「表現」に含まれる造形表現の学習を通して、子どもの自発的で主体的な表現に対する保育者の援助のあり方をテーマとする。
このテーマを追究することにより保育実践に向けた、子どもの表現の捉え方、活動展開、指導方法などを学び、子どもの表現についての認識と理解を深めることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者として、子どもの造形活動における表現の捉え方、活動展開、指導方法について概説できる。
②	自由遊び中の造形活動を促す環境構成の在り方を理解し、保育実践に繋げることができる。
③	造形活動を一斉活動として行う際の適切な援助の在り方を理解し、保育実践に繋げることができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

中川香子他『新時代の保育双書　保育内容表現　第2 版』みらい
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29 年告示＞』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29 年告示＞』

参考書

無藤隆他『事例で学ぶ保育内容　領域　表現』萌文書林
平田智久他『保育内容　表現』ミネルヴァ書房

試験対策

試験は教科書に沿って出題します。章ごとに内容をまとめ理解するよう努めてください。

学習のアドバイス

教科書とサブテキストを用いた学習が中心となりますが、制作活動にも取り組んで下さい。
教科書の第Ⅱ部 実践編「造形遊びの事例」（カラー頁）が参考になります。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	髙橋 裕勝	第Ⅰ理論編	幼稚園・保育所における表現について
2	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(1)	子どもの発達を考える
3	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(2)	幼児の造形活動の発達を考える
4	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(3)	児童期以降の造形活動
5	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(4)	絵を描く活動はどのように発達するか
6	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(5)	子どもの絵に特徴的な表現を見る
7	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(6)	子どもに特徴的な表現と芸術のつながり
8	髙橋 裕勝	子どもの造形活動の発達の特徴(7)	立体表現の発達を見る
9	髙橋 裕勝	表現を育てる環境(1)	0、1、2歳児の造形環境 3歳児の造形環境
10	髙橋 裕勝	表現を育てる環境(2)	4歳児の造形環境 5歳児の造形環境
11	髙橋 裕勝	表現を育む保育者の援助(1)	0、1、2歳児の造形援助
12	髙橋 裕勝	表現を育む保育者の援助(2)	3、4、5歳児の造形援助
13	髙橋 裕勝	幼児造形表現教育の広がり	小学校との連携 美術館と保育現場の連携
14	髙橋 裕勝	第Ⅱ実践編(1)	造形遊びの事例から学ぼう
15	髙橋 裕勝	第Ⅱ実践編(2)	表現のための基本技法

レポート作成等の方法・留意点

教科書やサブテキストを十分に読み、分からない所は他の参考文献や資料を調べたりして理解を深めてください。
レポートは学習した内容について自分の考えをまとめるものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつぎ合わせただけのレポートにならないよう自分の考えをまとめ自分の言葉で表現してください。
作成の前に『学生便覧』のレポート作成方法を一読すること。 レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意しましょう。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前に教科書やサブテキストを十分に読むこと。関心のあるところ、不明なところは他の文献を用いて理解を深めること。	60時間
復習	返却されたレポートの添削内容をよく読んで理解すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポート課題は、添削して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
児童と文化Ⅱ Children and Culture Ⅱ	三島　秀晃	単独	卒 選	幼 選	保 選

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	講義	通信	2	30時間	4420	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭としての実務経験をふまえ、児童文化を教授する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	－	

受講要件

「児童と文化Ⅰ」が受講済であること。

授業の概要

児童文化をに関する基礎的知識をもとに、子どもが「主体的・対話的で深い学び」を展開していく指導方法を習得する。幼児期の生活のほとんどは、遊びによって占められている。それゆえ、保育者は幼児が自ら主体的に遊びこめるように指導することが重要である。「児童と文化Ⅱ」では、その実践的な発達に応じた指導方法を学ぶ。

授業の目的

本授業では、「児童と文化Ⅰ」での学びをふまえ、保育現場における児童文化財の実践的な活用方法を理解し、子どもが主体的に遊びたくなる指導方法を身につけることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	児童文化財、児童文化施設の活用方法を理解する。
②	年齢に応じた児童文化財、児童文化施設の活用方法を理解する。
③	児童文化財を活用して、保育を実践することができる。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

皆川美恵子他『新版　児童文化』ななみ書房

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

試験対策

試験は記述問題となるので、サブテキストと自身のレポートを照らし合わせ学習することが効果的である。

学習のアドバイス

「児童と文化Ⅰ」での学びを振り返り、年齢に応じた実践的な保育方法を、教科書と参考書を照らし合わせながら学ぶように努めること。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	三島　秀晃	児童文化施設の活用方法	保育現場における、児童文化施設の活用方法について学ぶ
2	三島　秀晃	児童文化財の活用方法	保育現場における、児童文化財の活用方法について学ぶ
3	三島　秀晃	児童文化活動の実際	保育現場における、児童文化活動の実際について学ぶ
4	三島　秀晃	わらべうた遊び(1)	保育現場における、様々な環境に応じた「わらべうた遊び」の指導方法を学ぶ
5	三島　秀晃	わらべうた遊び(2)	保育現場における、年齢に応じた「わらべうた遊び」の指導方法を学ぶ
6	三島　秀晃	折り紙遊び	保育現場における「折り紙遊び」の指導方法を学ぶ
7	三島　秀晃	フラワーペーパー遊び	保育現場における「フラワーペーパー遊び」の指導方法を学ぶ
8	三島　秀晃	絵本の読み聞かせ	保育現場における、発達に応じた絵本の選び方を学ぶ
9	三島　秀晃	子どもと年中行事(1)	保育現場における「1学期の年中行事」の実際を学ぶ
10	三島　秀晃	子どもと年中行事(2)	保育現場における「2学期の年中行事」の実際を学ぶ
11	三島　秀晃	子どもと年中行事(3)	保育現場における「3学期の年中行事」の実際を学ぶ
12	三島　秀晃	伝承遊び(1)	保育現場における「伝承遊び」の実際を学ぶ
13	三島　秀晃	伝承遊び(2)	保育現場における「伝承遊び」の指導方法を学ぶ
14	三島　秀晃	児童文化と 主体的で対話的な深い学び(1)	子どもが主体的に遊びたくなる環境構成について学ぶ
15	三島　秀晃	児童文化と 主体的で対話的な深い学び(2)	子どもが自身で遊びを展開していく指導方法を学ぶ

レポート作成等の方法・留意点

レポート作成に当たっては、指定されたテキスト及び、サブテキストを熟読し、参考書と照らし合わせ、保育者として、子どもが主体的に遊びを展開していく指導方法を考え、論述すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	テキスト及び、サブテキストを読み、自身の幼少期の遊びと照らし合わせることができるようにしておくこと。	60時間
復習	学習内容に応じた活動を、実際に自身で実践する。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに、コメントを記入して返却する。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
教育実習Ⅱ Student Teaching Ⅱ				林　恵、三島　秀晃、 若原　真由子		複数	卒	幼	保
							選	必	－
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
3	実習	実習	2	80時間	4540		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、教育実習の意義、目的から具体的事項までを指導する。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教育実習の履修資格」の教科及び「教育実習Ⅰ」が修得済であること。

授業の概要

学校教育法に規定された幼稚園（こども園）で教育実習Ⅱ（10日間）をおこなう。実習では指導教諭の指導を受けながら、幼稚園の機能と幼稚園教諭としての職務内容、幼稚園教諭としての保育・教育技術を身につけていく。「教育実習Ⅰ」での学習をもとに、１日を通した指導案を立案し実践する。

授業の目的

幼稚園の保育を実践し、幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもの実態を知り、それに適した援助を自分で考えられるようになる。将来目標とする幼稚園教諭像をもち、そのための自己課題を明確にする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	作成した指導案を実践し、省察を深め、自らの課題や改善方法を発見できる。
②	保育者間の連携の重要性に気づき、チームワークに必要な姿勢や技術を説明できる。
③	将来目標とする幼稚園教諭像をもち、自身の現状を分析し、課題を見つけ出すことができる。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	実習先からの実習評価票と実習日誌（一緒に提出が課せられているレポート等含む）を併せて評価します。
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領<平成29年告示＞』

参考書

「教育実習指導」の中で指示する。

学習のアドバイス

指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりとおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	林・三島・若原	【事前指導】	教育実習指導で15回おこなう。 ①日誌、②心構え、③子ども観察と子ども観、④指導案作成、 ⑤実習目標の立て方など
2		【教育実習Ⅱ】 日数：2週間（10日間）	実習幼稚園の保育方針と一日の生活や学習活動（保育）の流れの理解
3			子ども理解に基づく一人ひとりの個性に対応した保育活動の理解
4			教職員の使命感、責任感、教育的愛情の理解の促進
5			教員の保育や援助技術の理解と学級経営や保育指導能力の理解
6			園の教育課程、指導計画の目標・目的の理解、実践における理解
7			部分実習指導案の立案及び一日の保育活動への参加実習
8			責任実習指導案の立及び一日の保育活動への参加実習と実践
9			手遊びやピアノの弾き語り、絵本の読み聞かせや紙芝居を演じる
10			幼稚園教育要領のねらいと内容を実践し、その実際を知る。
11		【事後指導】	教育実習園への礼状の作成
12			教育実習日誌の整理と点検
13			教育実習のまとめ、発表原稿の作成
14			
15			

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	実習事前指導の内容をよく振り返り、「幼稚園教育要領」を熟読し理解した上で実習に臨む。幼児の発達段階の特性を理解しておく。日誌・指導案の作成方法などを復習する。手遊びや絵本の読み聞かせ方法、教材作成やピアノ演奏の技術なども確認する。	－
復習	実習を振り返り、保育に関する自分の力の過不足を知り、その克服に努める。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票に基づいて、実習全体についてコメントをする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教職実践演習（幼稚園） （対象：2015 年度入学生まで） Practice for Teaching Instructions	林 恵、五十嵐 元子、 近藤 万里子、三島 秀晃	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	3060	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭としての幼稚園での勤務等を基に具体的場面を想定した指導を行う。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教職実践演習（幼稚園）」の履修資格を確認してください。

授業の概要

授業はオムニバスでおこなわれる。履修カルテの分析を試み、各自の幼稚園教諭として学んだ事柄の過不足について知り、その確認と補完をおこなう。

授業の目的

この科目の受講を通して、学生自身が幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術などが身についているかどうかを確認、自己の課題を明確にしたうえで、その課題解決の方法を模索する。授業では、1）社会性、倫理観、コミュニケーションなど社会人及び教職に必要な力の理解、2）保育実践や幼稚園教育要領などの理解、3）実践で必要な力の理解などについて取り上げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	自己の不十分な学習内容や課題を自覚し、必要な知識や技術などを確実に身につける。

成績評価方法及び基準

授業への貢献度	30%	「教育実習」の成績評価後に単位認定となります。なお、「教育実習」が不合格の場合は、単位認定されません。
授業内発表および授業内課題	50%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29 年告示＞』
実習日誌を持参すること。

参考書

参考書等は必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、授業内の課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

教職履修カルテの分析、指導案の作成、教材の制作などを行うので、事前に復習や計画を立案しておくことが望ましい。

授業計画

	＜通信学習＞			＜スクーリング学習＞		
回数	担当教員	題目	内容	担当教員	題目	内容
1	林 恵	科目全体の振り返り	幼稚園教諭として十分な知識が身についているか、今までの学習を振り返り過不足を知る。	近藤 万里子	授業の概要	授業の概要と日程の説明
2	林 恵	幼稚園教育要領の理解	幼稚園教育要領を読み返し、その内容（5領域、3つの柱、10の姿等）がどのように関連しているのかを確認する。	近藤 万里子	自己課題の明確化	自己評価シートを基に、幼稚園教諭としての自己課題の確認を行なう
3	林 恵	幼稚園教育要領と実習場面の考察	教育実習で知った実践の内容が幼稚園教育要領とどのように関連しているのかを考察する。	近藤 万里子	自己課題への対応	自己課題からどのように幼稚園教諭に必要な力を身に付けていくか考える。
4				三島 秀晃	教育実習の振り返り	実習中の振り返りを行ない、自己の課題を見つける。
5				三島 秀晃	実習の課題解決に向けて	実習で明らかになった自己課題の解決に向けたディスカッションを行なう。
6				三島 秀晃	新教育要領と新保育指針	改訂された幼稚園教育要領と保育所保育指針について、保育現場での具体的な取り組み方について学ぶ。
7				林 恵	様々な教育実践	世界や日本における様々な教育実践の具体的方法を学び、自分が取り組みたい保育について考える。
8				林 恵	幼稚園教諭としての心構え	子どもの人権を守るためにはどのような心構えが必要か、具体的な考え方を理解する。
9				林 恵	幼稚園教諭としてのキャリア形成	自分はどのような幼稚園教諭になろうとしているのか、今までの学びをもとにディスカッションを行なう。
10				五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(1)	実習で経験した具体的場面を共有し、意味を探る。
11				五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(2)	共有した場面を劇で再現できるようシナリオ作りをおこなう。
12				五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(3)	グループ内で劇の練習をおこなう。
13				五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(4)	グループごとに発表する。
14				五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(5)	各グループの発表についてディスカッションを行い、子ども理解について考える。
15				五十嵐 元子	全体のふりかえりとまとめ	授業全体の学びをふり返り再度、自己課題を確認する。

レポート作成等の方法・留意点

幼稚園教育要領の内容が、幼稚園教育の実践の場でどのように実現されているかを自らの教育実習の事例から考察する。実践の場での事例を考察する場合には、教師、及び、子ども、それぞれの言動（こどもの生の発言、教師の声掛け）や行動（こどもがどのように行動したか、教師はどのように援助したか）などが明瞭に分かるように記入し、レポートを作成しなさい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教職履修カルテを基に今までの学習について振り返りをおこなっておくこと。	30時間
復習	明確になった自己の課題に関して、その克服方法に基づいて改善を試みること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にてディスカッション、発表などの際にコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教職実践演習（幼稚園） （対象：2016 ～2018年度入学生） Practice for Teaching Instructions	林 恵、五十嵐 元子、 近藤 万里子、三島 秀晃	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	–

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	3061	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
–	実践力	幼稚園教諭としての幼稚園での勤務等を基に具体的場面を想定した指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教職実践演習（幼稚園）」の履修資格を確認してください。

授業の概要

授業はオムニバスでおこなわれる。履修カルテの分析を試み、各自の幼稚園教諭として学んだ事柄の過不足について知り、その確認と補完をおこなう。

授業の目的

この科目の受講を通して、学生自身が幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術などが身についているかどうかを確認、自己の課題を明確にしたうえで、その課題解決の方法を模索する。授業では、1）社会性、倫理観、コミュニケーションなど社会人及び教職に必要な力の理解、2）保育実践や幼稚園教育要領などの理解、3）実践で必要な力の理解などについて取り上げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	自己の不十分な学習内容や課題を自覚し、必要な知識や技術などを確実に身につける。

成績評価方法及び基準

授業への貢献度	30%	「教育実習」の成績評価後に単位認定となります。なお、「教育実習」が不合格の場合は、単位認定されません。
授業内発表および授業内課題	50%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29 年告示＞』
実習日誌を持参すること。

参考書

参考書等は必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、授業内の課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

教職履修カルテの分析、指導案の作成、教材の制作などを行うので、事前に復習や計画を立案しておくことが望ましい。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	授業の概要	授業の概要と日程の説明
2	近藤 万里子	自己課題の明確化	自己評価シートを基に、幼稚園教諭としての自己課題の確認を行なう
3	近藤 万里子	自己課題への対応	自己課題からどのように幼稚園教諭に必要な力を身に付けていくかを考える。
4	三島 秀晃	教育実習の振り返り	実習中の振り返りを行ない、自己の課題を見つける。
5	三島 秀晃	実習の課題解決に向けて	実習で明らかになった自己課題の解決に向けたディスカッションを行なう。
6	三島 秀晃	新教育要領と新保育指針	改訂された幼稚園教育要領と保育所保育指針について、保育現場での具体的な取り組み方について学ぶ。
7	林 恵	様々な教育実践	世界や日本における様々な教育実践の具体的方法を学び、自分が取り組みたい保育について考える。
8	林 恵	幼稚園教諭としての心構え	子どもの人権を守るためにはどのような心構えが必要か、具体的な考え方を理解する。
9	林 恵	幼稚園教諭としてのキャリア形成	自分はどのような幼稚園教諭になろうとしているのか、今までの学びをもとにディスカッションを行なう。
10	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(1)	実習で経験した具体的場面を共有し、意味を探る。
11	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(2)	共有した場面を劇で再現できるようシナリオ作りをおこなう。
12	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(3)	グループ内で劇の練習をおこなう。
13	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(4)	グループごとに発表する。
14	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(5)	各グループの発表についてディスカッションを行い、子ども理解について考える。
15	五十嵐 元子	全体のふりかえりとまとめ	授業全体の学びをふり返り、再度自己課題を確認する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教職履修カルテを基に今までの学習について振り返りをおこなっておくこと。	60時間
復習	明確になった自己の課題に関して、その克服方法に基づいて改善を試みること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にてディスカッション、発表などの際にコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教職実践演習（幼稚園） （対象：2019年度入学生以降） Practice for Teaching Instructions	林 恵、五十嵐 元子、 近藤 万里子、三島 秀晃	オムニバス	卒	幼	保
			選	必	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	4550	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭としての幼稚園での勤務等を基に具体的場面を想定した指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「教職実践演習（幼稚園）」の履修資格を確認してください。

授業の概要

授業はオムニバスでおこなわれる。履修カルテの分析を試み、各自の幼稚園教諭として学んだ事柄の過不足について知り、その確認と補完をおこなう。

授業の目的

この科目の受講を通して、学生自身が幼稚園教諭として必要な資質、能力、技術などが身についているかどうかを確認、自己の課題を明確にしたうえで、その課題解決の方法を模索する。授業では、1）社会性、倫理観、コミュニケーションなど社会人及び教職に必要な力の理解、2）保育実践や幼稚園教育要領などの理解、3）実践で必要な力の理解などについて取り上げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	自己の不十分な学習内容や課題を自覚し、必要な知識や技術などを確実に身につける。

成績評価方法及び基準

授業への貢献度	30%	「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の成績評価後に単位認定となります。なお、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」が不合格の場合は、単位認定されません。
授業内発表および授業内課題	50%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29 年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29 年告示＞』
実習日誌を持参すること。

参考書

参考書等は必要に応じて紹介する。

試験対策

筆記試験は実施しないが、授業内の課題に真摯に取り組むこと。

学習のアドバイス

教職履修カルテの分析、指導案の作成、教材の制作などを行うので、事前に復習や計画を立案しておくことが望ましい。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	近藤 万里子	授業の概要	授業の概要と日程の説明
2	近藤 万里子	自己課題の明確化	自己評価シートを基に、幼稚園教諭としての自己課題の確認を行なう
3	近藤 万里子	自己課題への対応	自己課題からどのように幼稚園教諭に必要な力を身に付けていくかを考える。
4	三島 秀晃	教育実習の振り返り	実習中の振り返りを行ない、自己の課題を見つける。
5	三島 秀晃	実習の課題解決に向けて	実習で明らかになった自己課題の解決に向けたディスカッションを行なう。
6	三島 秀晃	新教育要領と新保育指針	改訂された幼稚園教育要領と保育所保育指針について、保育現場での具体的な取り組み方について学ぶ。
7	林 恵	様々な教育実践	世界や日本における様々な教育実践の具体的方法を学び、自分が取り組みたい保育について考える。
8	林 恵	幼稚園教諭としての心構え	子どもの人権を守るためにはどのような心構えが必要か、具体的な考え方を理解する。
9	林 恵	幼稚園教諭としてのキャリア形成	自分はどのような幼稚園教諭になろうとしているのか、今までの学びをもとにディスカッションを行なう。
10	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(1)	実習で経験した具体的場面を共有し、意味を探る。
11	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(2)	共有した場面を劇で再現できるようシナリオ作りをおこなう。
12	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(3)	グループ内で劇の練習をおこなう。
13	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(4)	グループごとに発表する。
14	五十嵐 元子	劇づくりをとおした子ども理解(5)	各グループの発表についてディスカッションを行い、子ども理解について考える。
15	五十嵐 元子	全体のふりかえりとまとめ	授業全体の学びをふり返り、再度自己課題を確認する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教職履修カルテを基に今までの学習について振り返りをおこなっておくこと。	60時間
復習	明確になった自己の課題に関して、その克服方法に基づいて改善を試みること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	授業内にてディスカッション、発表などの際にコメントを述べる。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
保育実習ＩB Nursery training Ⅰ				小野 浩孝、白取 真実		複数	卒	幼	保
							選	－	必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
3	実習	スクーリング	2	90時間	2300				

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

「保育実習ＩA」が修得済であること。

授業の概要

児童福祉施設等で主に指導保育士の保育活動や利用児者の集団、個別活動を観察することにより、利用児・者への理解を深め、居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職能について学ぶ。

授業の目的

保育所以外の児童福祉施設等の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	児童福祉施設等の内容・機能等を実地の体験を通して理解する。
②	施設における保育士の職務内容及び役割、他の職員とのチームワークなどを体験的に把握する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわる喜びを感じてほしい。各実習先の概要・利用者の特徴について調べ、理解しておくこと。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
授業の到達目標にあるように、施設における保育士としての役割と意義について体験学習をする。 これまで学んだ理論を確認しながら実践としての学びを深める。 まず、施設の選定であるが、虐待に関心があるのなら児童養護施設、障害についてより深い学びをしたいのなら障害者入所施設や児童発達支援センター、というように、自分自身の学びの関心を見極めるところから始める。また、宿泊、通所などの施設の特性を踏まえた上での選定を心がける必要がある。保育士としての役割、入所者の姿、施設そのものの理解等、実習期間における自己課題を確認し、その上で実習にあたる。実習を終えた段階で、自己課題がどこまで達成されたかを検討する。			
		【実習の進め方】	
1	小野 浩孝 白取 真実	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(5)の内容について積極的に理解することを心掛けてください。	
1		(1)施設の役割と機能	①施設の生活と一日の流れ ②施設の役割と機能
2		(2)子ども理解	①子どもの観察とその記録 ②個々の状態に応じた援助やかかわり
3		(3)養護内容・生活環境	①計画に基づく活動や援助 ②子どもの心身の状態に応じた対応 ③子どもの活動と生活の環境 ④健康管理、安全対策の理解
4		(4)計画と記録	①支援計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価
5		(5)専門職としての保育士の役割と倫理	①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前指導及びその他の科目の学習成果をもとに、自己課題を精査・確認して実習に臨むこと。 実習前に、挨拶等の礼儀やマナーが身についているかを各自で確認すること。	―
復習	実習後は、自己課題等に関する振り返りを行い、新たな課題を設定する作業を必ず実施すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、日誌等の提出物を基にコメントをつけ、個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習Ⅰ（施設）	小野 浩孝、白取 真実	複数	卒	幼	保
Nursery training Ⅰ			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	実習	実習	2	90時間	4320	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「保育実習履修資格」の教科及び「保育実習Ⅰ（保育所）」が修得済であること。

授業の概要

児童福祉施設等で主に指導保育士の保育活動や利用児者の集団、個別活動を観察することにより、利用児・者への理解を深め、居住型児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職能について学ぶ。

授業の目的

保育所以外の児童福祉施設等の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の職務について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	児童福祉施設等の内容・機能等を実地の体験を通して理解する。
②	施設における保育士の職務内容及び役割、他の職員とのチームワークなどを体験的に把握する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわる喜びを感じてほしい。各実習先の概要・利用者の特徴について調べ、理解しておくこと。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
授業の到達目標にあるように、施設における保育士としての役割と意義について体験学習をする。 これまで学んだ理論を確認しながら実践としての学びを深める。 まず、施設の選定であるが、虐待に関心があるのなら児童養護施設、障害についてより深い学びをしたいのなら障害者入所施設や児童発達支援センター、というように、自分自身の学びの関心を見極めるところから始める。また、宿泊、通所などの施設の特性を踏まえた上での選定を心がける必要がある。保育士としての役割、入所者の姿、施設そのものの理解等、実習期間における自己課題を確認し、その上で実習にあたる。実習を終えた段階で、自己課題がどこまで達成されたかを検討する。			
		【実習の進め方】	
1	小野 浩孝 白取 真実	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(5)の内容について積極的に理解することを心掛けてください。	
1		(1)施設の役割と機能	①施設の生活と一日の流れ ②施設の役割と機能
2		(2)子ども理解	①子どもの観察とその記録 ②個々の状態に応じた援助やかかわり
3		(3)養護内容・生活環境	①計画に基づく活動や援助 ②子どもの心身の状態に応じた対応 ③子どもの活動と生活の環境 ④健康管理、安全対策の理解
4		(4)計画と記録	①支援計画の理解と活用 ②記録に基づく省察・自己評価
5		(5)専門職としての保育士の役割と倫理	①保育士の業務内容 ②職員間の役割分担や連携 ③保育士の役割と職業倫理

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前指導及びその他の科目の学習成果をもとに、自己課題を精査・確認して実習に臨むこと。 実習前に、挨拶等の礼儀やマナーが身についているかを各自で確認すること。	―
復習	実習後は、自己課題等に関する振り返りを行い、新たな課題を設定する作業を必ず実施すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、日誌等の提出物を基にコメントをつけ、個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ （対象:2018年度入学生まで）	小野 浩孝、白取 真実	オムニバス	卒	幼	保
Teaching for nursery training Ⅱ・Ⅲ			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	30時間	2500	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

「保育実習ＩＡ」「保育実習ＩＢ」が受講済であること。

授業の概要

「保育実習指導Ⅰ」の基礎事項の確認、その発展応用としてのより深い理論と実践との関連を学ぶ。基礎事項の確認として観察、記録の意義、子ども理解への必要性を学ぶ。保育所、保育所以外の児童福祉施設における役割と社会的使命を理解し、職務に伴う倫理性を理解する。保育所、保育所以外の児童福祉施設における援助のあり方の共通事項、相違を理解し援助に関しての基礎理念を学習する。これらの学習を通して児童福祉施設での実習を行うにあたって自己課題の確立、その問題解決への端緒をつかむことを目的とする。

授業の目的

保育実習ＩＡ・ＩＢでの学びを踏まえて、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	責任実習を行うことを踏まえて指導計画を作成・実施できるようにすること。
②	保育士の専門性と職業倫理について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	50%	
授業の参加態度	30%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
守巧他 『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』 わかば社
小櫃智子他 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』 わかば社
片山紀子他『新版保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房

参考書

幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

試験対策

授業内容は、保育実習を行う上で必要な事項であることを十分理解し、授業の中で指示された箇所は特に留意すること。

学習のアドバイス

積極的かつ主体的に取り組むことが求められます。保育実習ＩＡ・ＩＢで学んだことを振り返り自己の課題を明確にしておきましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	オリエンテーション	科目の説明・保育実習Ⅱの説明
2	白取 真実	保育実習ＩＡ振り返り(1)	保育実習ＩＡを振り返り自身の課題を明確にする
3	白取 真実	保育実習ＩＡ振り返り(2)	課題発表と事前準備
4	白取 真実	責任実習指導案を作成する(1)	責任実習に向けた指導案を作成する
5	白取 真実	責任実習指導案を作成する(2)	発表に向けた準備
6	白取 真実	責任実習指導案を作成する(3)	作成した指導案を発表する
7	小野 浩孝	保育実習Ⅲについて	保育実習Ⅲの概要と説明
8	小野 浩孝	保育実習ＩＢ振り返り(1)	保育実習ＩＢを振り返り自身の課題を明確にする
9	小野 浩孝	保育実習ＩＢ振り返り(2)	保育実習ＩＢにおける自身の課題を発表する
10	小野 浩孝	施設実習に関する理解(1)	各施設の詳細について調べ、実習課題を考える
11	小野 浩孝	施設実習に関する理解(2)	施設実習における実習課題の設定を行い、発表する
12	小野 浩孝	施設保育士に求められる専門性	保育士の倫理綱領、各施設別の倫理綱領の確認
13	小野 浩孝	施設における指導計画案について	施設におけるさまざまな計画について学習する
14	小野 浩孝	施設実習における部分実習・責任実習	施設における部分実習・責任実習・レクリエーションについて学ぶ
15	小野 浩孝	全体のまとめ	授業の総復習

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	これまで学んだことを基礎として授業を展開するので各実習日誌に目を通し、次の実習の課題を考えて授業に臨みましょう。	15時間
復習	これまで学習したことを踏まえて、実習における自己課題を明確にしておきましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された課題は添削し、返却する。発表の際はコメントを述べる。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習指導Ⅱ・Ⅲ（対象:2019年度入学生以降） Teaching for nursery training Ⅱ・Ⅲ	小野 浩孝、白取 真実	オムニバス	卒	幼	保
			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	1	30時間	4330	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

受講要件

「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」が受講済であること。

授業の概要

「保育実習指導Ⅰ」の基礎事項の確認、その発展応用としてのより深い理論と実践との関連を学ぶ。基礎事項の確認として観察、記録の意義、子ども理解への必要性を学ぶ。保育所、保育所以外の児童福祉施設における役割と社会的使命を理解し、職務に伴う倫理性を理解する。保育所、保育所以外の児童福祉施設における援助のあり方の共通事項、相違を理解し援助に関しての基礎理念を学習する。これらの学習を通して児童福祉施設での実習を行うにあたって自己課題の確立、その問題解決への端緒をつかむことを目的とする。

授業の目的

保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅰ（施設）での学びを踏まえて、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させることを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	責任実習を行うことを踏まえて指導計画を作成・実施できるようにすること。
②	保育士の専門性と職業倫理について理解する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	50%	
授業の参加態度	30%	
提出物	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
守巧他 『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』 わかば社
小櫃智子他 『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』 わかば社
片山紀子他『新版保育実習・教育実習の設定保育』朱鷺書房

参考書

幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

試験対策

授業内容は、保育実習を行う上で必要な事項であることを十分理解し、授業の中で指示された箇所は特に留意すること。

学習のアドバイス

積極的かつ主体的に取り組むことが求められます。保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅰ（施設）で学んだことを振り返り自己の課題を明確にしておきましょう。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	白取 真実	オリエンテーション	科目の説明・保育実習Ⅱ(保育所)の説明
2	白取 真実	保育実習Ⅰ(保育所) 振り返り(1)	保育実習Ⅰ(保育所) を振り返り自身の課題を明確にする
3	白取 真実	保育実習Ⅰ（保育所） 振り返り(2)	課題発表と事前準備
4	白取 真実	責任実習指導案を作成する(1)	責任実習に向けた指導案を作成する
5	白取 真実	責任実習指導案を作成する(2)	発表に向けた準備
6	白取 真実	責任実習指導案を作成する(3)	作成した指導案を発表する
7	小野 浩孝	保育実習Ⅲ(施設)について	保育実習Ⅲ(施設)の概要と説明
8	小野 浩孝	保育実習Ⅰ(施設) 振り返り(1)	保育実習Ⅰ(施設) を振り返り自身の課題を明確にする
9	小野 浩孝	保育実習Ⅰ(施設) 振り返り(2)	保育実習Ⅰ(施設) における自身の課題を発表する
10	小野 浩孝	施設実習に関する理解(1)	各施設の詳細について調べ、実習課題を考える
11	小野 浩孝	施設実習に関する理解(2)	施設実習における実習課題の設定を行い、発表する
12	小野 浩孝	施設保育士に求められる専門性	保育士の倫理綱領、各施設別の倫理綱領の確認
13	小野 浩孝	施設における指導計画案について	施設におけるさまざまな計画について学習する
14	小野 浩孝	施設実習における部分実習・ 責任実習	施設における部分実習・責任実習・レクリエーションについて学ぶ
15	小野 浩孝	全体のまとめ	授業の総復習

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	これまで学んだことを基礎として授業を展開するので各実習日誌に目を通し、次の実習の課題を考えて授業に臨みましょう。	15時間
復習	これまで学習したことを踏まえて、実習における自己課題を明確にしておきましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出された課題は添削し、返却する。発表の際はコメントを述べる。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
保育実習Ⅱ				白取 真実、小野 浩孝		複数	卒	幼	保
Nursery trainingⅡ							選	－	選必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
3	実習	スクーリング	2	90時間	2510		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を生かし具体的な保育場面に基づく指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

「保育実習ＩＡ」「保育実習ＩＢ」「保育実習指導Ⅱ・Ⅲ」が修得済であること。

授業の概要

「保育実習ＩA」での経験や既習の科目の学びを基礎とし、実習の課題を明確にして実習に臨む。

授業の目的

子どもの保育及び保護者、家庭、地域への子育て支援の実際を理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について実践的に理解する。
保育士としての自己の課題を明確にして資格取得後の進路への展望を広げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所保育の理解と実践を通して保育士としての力量を深めることができる。
②	部分・責任実習を円滑に行うことができるように指導案を生かした保育を展開できる。
③	本学で学んだ内容について実習を通して確実な知識、技術にする。

成績評価方法及び基準

実習の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社

参考書

相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

部分・責任実習で使用する教材を作成し、練習しておきましょう。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
保育実習Ⅰでは、観察実習〔主として観察〕と参加実習〔実際に子どもと関わる〕がメインでしたが保育実習Ⅱでは、部分・責任実習がメインとなります。手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演等の保育行為に加えて、制作活動、身体活動など、より深く子どもたちと関わることになります。部分・責任実習で使用する教材を作成し、練習しておきましょう。また保育行為も部分から全体へと責任の範囲がひろがります。 そのため、乳幼児理解を確実にし、子どもたちの姿を的確にとらえ、その姿に応じて、保育者の子どもへの願いとしてのねらいを立てるという作業が必要となります。このような実践には、これまでに学んだ学習を十分に活かすことが大切です。			
		【実習の進め方】	
1	白取 真実 小野 浩孝	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(4)の内容について積極的に理解することを心がけてください。	
1		(1)保育所の役割や機能の具体的展開	①養護と教育が一体となって行われる保育②保育所の社会的役割と責任
2		(2)観察に基づく保育理解	①子どもの心身の状態や活動の観察②保育士等の動きや実践の観察③保育所の生活の流れや展開の把握
3		(3)子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	①環境を通して行う保育②入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援③地域社会との連携
4		(4)指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	①保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解②作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5		(5)保育士の業務と職業倫理	①多様な保育の展開と保育士の業務②多様な保育の展開と保育士の職業倫理
		(6)自己課題の明確化	※実習園の指導に従い部分実習と責任実習を行う。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育実習ＩＡの実習を振り返りながら自己課題を持ち実習に取り組めるようにすること。	―
復習	実習を振り返り、自己の課題を整理し自身の保育実践に活用できるようにしましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
保育実習Ⅱ（保育所）				白取 真実、小野 浩孝		複数	卒	幼	保
Nursery trainingⅡ							選	－	選必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
3	実習	実習	2	90時間	4340		有		

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	保育士としての実務経験を生かし具体的な保育場面に基づく指導を行う。
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「保育実習履修資格」の教科及び「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習指導Ⅱ・Ⅲ」が修得済であること。

授業の概要

「保育実習Ⅰ（保育所）」での経験や既習の科目の学びを基礎とし、実習の課題を明確にして実習に臨む。

授業の目的

子どもの保育及び保護者、家庭、地域への子育て支援の実際を理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について実践的に理解する。
保育士としての自己の課題を明確にして資格取得後の進路への展望を広げる。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所保育の理解と実践を通して保育士としての力量を深めることができる。
②	部分・責任実習を円滑に行うことができるように指導案を生かした保育を展開できる。
③	本学で学んだ内容について実習を通して確実な知識、技術にする。

成績評価方法及び基準

実習の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小櫃智子他『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 図解明解』わかば社
小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社

参考書

相馬和子他『実習日誌の書き方』萌文書林
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

部分・責任実習で使用する教材を作成し、練習しておきましょう。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

保育実習Ⅰでは、観察実習〔主として観察〕と参加実習〔実際に子どもと関わる〕がメインでしたが保育実習Ⅱでは、部分・責任実習がメインとなります。手遊び、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演等の保育行為に加えて、制作活動、身体活動など、より深く子どもたちと関わることになります。部分・責任実習で使用する教材を作成し、練習しておきましょう。また保育行為も部分から全体へと責任の範囲がひろがります。
そのため、乳幼児理解を確実にし、子どもたちの姿を的確にとらえ、その姿に応じて、保育者の子どもへの願いとしてのねらいを立てるという作業が必要となります。このような実践には、これまでに学んだ学習を十分に活かすことが大切です。

回数	担当教員	題目	内容
		【実習の進め方】	
1	白取 真実 小野 浩孝	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(4)の内容について積極的に理解することを心がけてください。	
1		(1)保育所の役割や機能の具体的展開	①養護と教育が一体となって行われる保育②保育所の社会的役割と責任
2		(2)観察に基づく保育理解	①子どもの心身の状態や活動の観察②保育士等の動きや実践の観察③保育所の生活の流れや展開の把握
3		(3)子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携	①環境を通して行う保育②入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援③地域社会との連携
4		(4)指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	①保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解②作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5		(5)保育士の業務と職業倫理	①多様な保育の展開と保育士の業務②多様な保育の展開と保育士の職業倫理
		(6)自己課題の明確化	※実習園の指導に従い部分実習と責任実習を行う。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	保育実習Ⅰ(保育所)の実習を振り返りながら自己課題を持ち実習に取り組めるようにすること。	―
復習	実習を振り返り、自己の課題を整理し自身の保育実践に活用できるようにしましょう。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名				担当教員		担当形態	履修形態		
保育実習Ⅲ				小野 浩孝、白取 真実		複数	卒	幼	保
Nursery training Ⅲ							選	－	選必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD		実務経験		
3	実習	スクーリング	2	90時間	2520				

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習指導Ⅱ・Ⅲ」が修得済であること。

授業の概要

本授業では、保育実習Ⅰにおいて学んだ事項を基に、更に発展させ児童福祉施設等での具体的支援の方法や、支援計画の立案・実践等について身につける。

授業の目的

保育所以外の児童福祉施設等の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養う。
保育士としての自己の課題を明確化する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
②	家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につける。
③	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
④	保育士としての自己の課題を明確化する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%	
実習日誌の記載内容	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわる喜びを感じてほしい。各実習先の概要、利用者の特徴を理解し、自己課題を達成するための予備知識・技術を身につけておくこと。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
		保育実習ⅠBにおける施設実習で学んだ内容を深めるが、実習施設の選定については、たとえば、ⅠBで児童養護施設を体験した場合、今回、種別としては同じ児童養護施設で学ぶのも良いし、ⅠBで児童養護施設で学んだので今回は障害者入所施設や児童発達支援センターで学ぶという方法もある。その選定には各自の問題意識が深く関係するので、選定の時点から学習は始まっているといえる。 学びの視点としてはⅠBと同じく保育士の役割についての理解、入所者そのものへの理解、施設のあり方についての理解等の課題を持つことが望まれる。 実習の進め方についてはⅠBと同様に以下のようになる。	
		【実習の進め方】	
1	小野 浩孝 白取 真実	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(4)の内容について積極的に理解することを心掛けてください。	
1		(1)保育所以外の児童福祉施設等の役割と機能について	
2		(2)施設における支援の実際について	①受容し、共感する態度について ②個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども（利用者）理解について ③個別支援計画の作成と実践について ④子どもの家族への支援と対応について ⑤多様な社会との連携について ⑥地域社会との連携について
3		(3)保育士の多様な業務と職業倫理について	
4		(4)保育士としての自己課題の明確化	
5			

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	「保育実習ⅠB」及びその他の実習の記録等を振り返り自己課題を精査してから実習に臨むこと。また、ボランティア等に参加し、施設保育の実際を学ぶ努力をすること。	―
復習	実習後は、実習前に設定した自己課題等に関する振り返り（自己評価）を行い、新たな課題の発見に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実習Ⅲ（施設）	小野 浩孝、白取 真実	複数	卒	幼	保
Nursery training Ⅲ			選	－	選必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	実習	実習	2	90時間	4350	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	
フィードバック能力	地域理解力	

受講要件

学生便覧に記載されている「保育実習履修資格」の教科及び「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習指導Ⅱ・Ⅲ」が修得済であること。

授業の概要

本授業では、保育実習Ⅰにおいて学んだ事項を基に、更に発展させ児童福祉施設等での具体的支援の方法や、支援計画の立案・実践等について身につける。

授業の目的

保育所以外の児童福祉施設等の養護を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。
家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養う。
保育士としての自己の課題を明確化する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。
②	家庭と地域の生活実態にふれて、こども家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を身につける。
③	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
④	保育士としての自己の課題を明確化する。

成績評価方法及び基準

実習先の評価	80%
実習日誌の記載内容	20%

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

守巧他『施設実習パーフェクトガイド 全施設掲載』わかば社

参考書

小櫃智子他『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 教育・保育実習対応』わかば社
幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』財団法人幼少年教育研究所

学習のアドバイス

実習園の一員として責任の重さを常に自覚しつつ、子どもと実際にかかわる喜びを感じてほしい。各実習先の概要、利用者の特徴を理解し、自己課題を達成するための予備知識・技術を身につけておくこと。
指導案や使用教材などの事前の準備をしっかりおこない体調を整えて実習に臨むこと。実習中は謙虚且つ積極的な姿勢で学ぶこと。

授業計画

＜学外実習＞

回数	担当教員	題目	内容
保育実習Ⅰ(施設) における施設実習で学んだ内容を深めるが、実習施設の選定については、たとえば、Ⅰ(施設)で児童養護施設を体験した場合、今回、種別としては同じ児童養護施設で学ぶのも良いし、Ⅰ(施設) で児童養護施設で学んだので今回は障害者入所施設や児童発達支援センターで学ぶという方法もある。その選定には各自の問題意識が深く関係するので、選定の時点から学習は始まっているといえる。 学びの視点としてはⅠ(施設)と同じく保育士の役割についての理解、入所者そのものへの理解、施設のあり方についての理解等の課題を持つことが望まれる。 実習の進め方についてはⅠ(施設) と同様に以下のようになる。			
		【実習の進め方】	
1	小野 浩孝 白取 真実	(1)実習先選定	
2		(2)実習先連絡	
3		(3)オリエンテーション	実習園の状況を理解する 実習内容、日程の確認
4		(4)本実習	12日間、実働90時間以上
5		(5)実習終了後のまとめ	反省会 実習日誌等提出物の整理
		【実習中に学ぶ内容】 実習中には、様々なことを学習しますが、特に以下の(1)～(4)の内容について積極的に理解することを心掛けてください。	
1		(1)保育所以外の児童福祉施設等の役割と機能について	
2		(2)施設における支援の実際について	①受容し、共感する態度について ②個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども（利用者）理解について ③個別支援計画の作成と実践について ④子どもの家族への支援と対応について ⑤多様な社会との連携について ⑥地域社会との連携について
3		(3)保育士の多様な業務と職業倫理について	
4		(4)保育士としての自己課題の明確化	
5			

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	「保育実習Ⅰ(施設)」及びその他の実習の記録等を振り返り自己課題を精査してから実習に臨むこと。また、ボランティア等に参加し、施設保育の実際を学ぶ努力をすること。	―
復習	実習後は、実習前に設定した自己課題等に関する振り返り（自己評価）を行い、新たな課題の発見に努めること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	実習評価票、実習日誌を基に個別にフィードバックを行う。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
総合演習 Practice Training In Education	塩澤　恵美	単独	卒	幼	保
			選	―	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	2310	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
フィードバック能力	－	

受講要件

「保育実習ⅠA」が受講済であること。

授業の概要

履修科目及び実習等を通しての学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得状況について把握する。さらに現代の保育をめぐる環境の変化を踏まえ、保育に関わる問題の発見・解決のために分析、考察、検討を行うとともに子ども及び保護者を援助するための技術・方法等について学ぶ。

授業の目的

本演習では修得科目および実習時における自らの学びを振り返るとともに、乳幼児教育の専門知識・技能を身につけたことを確認することを目的とする。さらに受講生が問題意識を持ち、各々課題を設定して授業に臨み、保育者としての実践的指導力を形成することを目指す。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者としての責任感や使命感を再確認する。
②	具体的な問題解決に向けて、知識を活用する力を身につける。
③	自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%	「保育実習ⅠA」の成績評価後に単位認定となります。なお、「保育実習ⅠA」が不合格であった場合は、単位認定されません。
授業態度	20%	
授業内課題	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

〈通信学習〉寺田恭子他『保育・教職実践演習－わたしを見つめ、求められる保育者になるために－』ミネルヴァ書房
〈スクーリング学習〉授業時に資料を配付する。

参考書

小櫃智子他『保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み－幼稚園　保育所編』わかば社
生野金三他『保育・教職実践演習- 自己課題の発見・解決に向けて』萌文書林

試験対策

試験は記述式となります。
配付資料に記載されている学習内容を中心に、特に授業の中で指示された箇所は留意すること。

学習のアドバイス

・保育実習時の記録等を見直し、自らの保育実践を振り返っておいてください。
・授業後は配付プリントやノートを読み返し、グループワークの振り返りをしてください。
・スクーリングでは、遅刻・欠席をしないでください。
・スクーリング授業に臨むにあたっては、課題意識をもって積極的に参加してください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	塩澤 恵美	学修の振り返り（1）	振り返りの意義 保育者になるための理念を学ぶ科目	オリエンテーション	本科目のねらい、進め方、 評価基準について
2	塩澤 恵美	学修の振り返り（2）	子どもの心と身体の発達を学ぶ科目 子どもの権利と福祉を学ぶ科目	これまでの学修の振り返り(1)	これまでの学修を個人で振り返る
3	塩澤 恵美	学修の振り返り（3）	保育に関する方法を学ぶ科目	これまでの学修の振り返り(2)	これまでの学修をグループワークを 通して振り返り、発表する
4	塩澤 恵美	学修の振り返り（4）	保護者支援を学ぶ科目 実践の場で学ぶ科目	保育実践の 振り返りの意義	保育実践の振り返りの意義について学ぶ
5	塩澤 恵美	現代的課題（1）	少子化が就学前保育・教育に与える影響 保護者の不適切なかかわりと保護者支援	保育実践の 振り返り(1)	自らの保育実践を振り返る
6	塩澤 恵美	現代的課題（2）	長時間保育と子どもの発達 幼保小の連携	保育実践の 振り返り(2)	保育実践の振り返りをグループ内で 発表、討議する
7	塩澤 恵美	現代的課題（3）	子育ち環境と子どもの運動能力 子どもの生活環境と表現する力	保育実践の 振り返り(3)	保育実践の振り返りをグループ内で 発表、討議する
8	塩澤 恵美	現代的課題（4）	情報化社会における保育	保育をめぐる 現代的課題(1)	保育をめぐる現代的課題の現状を知る
9	塩澤 恵美	保育者の資質（1）	子どもへの尊敬と愛情のまなざし 多様性によりそう専門性	保育をめぐる 現代的課題(2)	各グループ毎に課題を設定し、検討する
10	塩澤 恵美	保育者の資質（2）	保護者と子育てを共有する関係性 子どもの権利と福祉を護る社会的意識	保育をめぐる 現代的課題(3)	各グループ毎に発表する
11	塩澤 恵美	保育者の資質（3）	子どもの力を伸ばす専門性と指導力	行事の意義と 安全	保育における行事の意義や安全管理の 考え方について学ぶ
12	塩澤 恵美	保育者の資質（4）	子どもを理解し、社会化へと導く専門性	保育の展開の 実際(1)	保育現場を想定し行事の計画をする
13	塩澤 恵美	自己課題（1）	自己分析	保育の展開の 実際(2)	各グループで行事のポスターを作成する
14	塩澤 恵美	自己課題（2）	自己課題の明確化	保育の展開の 実際(3)	ポスター作成および発表
15	塩澤 恵美	まとめ	学習の総復習	まとめ	授業の総復習

レポート作成等の方法・留意点

テキストを十分に読み、さらに参考文献等を活用して理解を深めてください。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめたものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせたりしただけのレポートにならないように、自分の言葉でまとめて表現してください。なお、テキストや参考文献から引用する場合には、必要最小限にして引用箇所と文献を明記してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング前に実習記録を読み返し、担当保育者の子どもへの援助に関する記載を確認しておくこと。	30時間
復習	スクーリング後、自己課題について考察すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	・提出されたレポートにコメントを記載して、返却する。 ・グループワークで取り組んだ課題については、発表後コメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育実践演習（対象：2016～2018年度入学生）	塩澤 恵美	単独	卒	幼	保
Childcare practice exercise			選	－	必

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
3	演習	スクーリング	2	30時間	2311	

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	－	

受講要件

「保育実習ＩＡ」が受講済であること。

授業の概要

履修科目及び実習等を通しての学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得状況について把握する。さらに現代の保育をめぐる環境の変化を踏まえ、保育に関わる問題の発見・解決のために分析、考察、検討を行うとともに子ども及び保護者を援助するための技術・方法等について学ぶ。

授業の目的

本演習では修得科目および実習時における自らの学びを振り返るとともに、乳幼児教育の専門知識・技能を身につけたことを確認することを目的とする。さらに受講生が問題意識を持ち、各々課題を設定して授業に臨み、保育者としての実践的指導力を形成することを目指す。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者としての責任感や使命感を再確認する。
②	具体的な問題解決に向けて、知識を活用する力を身につける。
③	自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%	「保育実習ＩＡ」の成績評価後に単位認定となります。なお、「保育実習ＩＡ」が不合格であった場合は、単位認定されません。
授業態度	20%	
授業内課題	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

授業時に資料を配付する。

参考書

小櫃智子他『保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み―幼稚園　保育所編』わかば社
生野金三他『保育・教職実践演習- 自己課題の発見・解決に向けて』萌文書林

試験対策

試験は記述式となります。
配付資料に記載されている学習内容を中心に、特に授業の中で指示された箇所は留意すること。

学習のアドバイス

・保育実習時の記録等を見直し、自らの保育実践を振り返っておいてください。
・授業後は配付プリントやノートを読み返し、グループワークの振り返りをしてください。
・スクーリングでは、遅刻・欠席をしないでください。
・スクーリング授業に臨むにあたっては、課題意識をもって積極的に参加してください。

授業計画

＜スクーリング学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	塩澤 恵美	オリエンテーション	本科目のねらい、進め方、評価基準について
2	塩澤 恵美	これまでの学修の振り返り(1)	これまでの学修を個人で振り返る
3	塩澤 恵美	これまでの学修の振り返り(2)	これまでの学修をグループワークを通して振り返り、発表する
4	塩澤 恵美	保育実践の振り返りの意義	保育実践の振り返りの意義について学ぶ
5	塩澤 恵美	保育実践の振り返り(1)	自らの保育実践を振り返る
6	塩澤 恵美	保育実践の振り返り(2)	保育実践の振り返りをグループ内で発表、討議する
7	塩澤 恵美	保育実践の振り返り(3)	保育実践の振り返りをグループ内で発表、討議する
8	塩澤 恵美	保育をめぐる現代的課題(1)	保育をめぐる現代的課題の現状を知る
9	塩澤 恵美	保育をめぐる現代的課題(2)	各グループ毎に課題を設定し、検討する
10	塩澤 恵美	保育をめぐる現代的課題(3)	各グループ毎に発表する
11	塩澤 恵美	行事の意義と安全	保育における行事の意義や安全管理の考え方について学ぶ
12	塩澤 恵美	保育の展開の実際(1)	保育現場を想定し行事の計画をする
13	塩澤 恵美	保育の展開の実際(2)	各グループで行事のポスターを作成する
14	塩澤 恵美	保育の展開の実際(3)	ポスター作成および発表
15	塩澤 恵美	まとめ	授業の総復習

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング前に実習記録を読み返し、担当保育者の子どもへの援助に関する記載を確認しておくこと。	60時間
復習	スクーリング後、自己課題について考察すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	・提出されたレポートにコメントを記載して、返却する。 ・グループワークで取り組んだ課題については、発表後コメントする。

科目名				担当教員	担当形態	履修形態		
保育実践演習（対象：2019年度入学生以降） Childcare practice exercise				塩澤　恵美	単独	卒	幼	保
						選	—	必
履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験		
3	演習	通信・スクーリング	2	60時間	4360			

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
−	実践力	
フィードバック能力	−	

受講要件

「保育実習Ⅰ(保育所)」、「保育実習Ⅰ(施設)」及び「こどもと音楽」が受講済であること。

授業の概要

履修科目及び実習等を通しての学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得状況について把握する。さらに現代の保育をめぐる環境の変化を踏まえ、保育に関わる問題の発見・解決のために分析、考察、検討を行うとともに子ども及び保護者を援助するための技術・方法等について学ぶ。

授業の目的

本演習では修得科目および実習時における自らの学びを振り返るとともに、乳幼児教育の専門知識・技能を身につけたことを確認することを目的とする。さらに受講生が問題意識を持ち、各々課題を設定して授業に臨み、保育者としての実践的指導力を形成することを目指す。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育者としての責任感や使命感を再確認する。
②	具体的な問題解決に向けて、知識を活用する力を身につける。
③	自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を修得したことを確認する。

成績評価方法及び基準

スクーリング試験	60%	「保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅰ（施設）」の成績評価後に単位認定となります。なお、「保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅰ（施設）」が不合格であった場合は、単位認定されません。
授業態度	20%	
授業内課題	20%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可
　原則として実施授業回数の3分の1を超えて欠席している者には、単位認定できない。

教科書

〈通信学習〉寺田恭子他『保育・教職実践演習－わたしを見つめ、求められる保育者になるためにー』ミネルヴァ書房
〈スクーリング学習〉授業時に資料を配付する。

参考書

小櫃智子他『保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み一幼稚園　保育所編』わかば社
生野金三他『保育・教職実践演習- 自己課題の発見・解決に向けて』萌文書林

試験対策

試験は記述式となります。
配付資料に記載されている学習内容を中心に、特に授業の中で指示された箇所は留意すること。

学習のアドバイス

・保育実習時の記録等を見直し、自らの保育実践を振り返っておいてください。
・授業後は配付プリントやノートを読み返し、グループワークの振り返りをしてください。
・スクーリングでは、遅刻・欠席をしないでください。
・スクーリング授業に臨むにあたっては、課題意識をもって積極的に参加してください。

授業計画

		＜通信学習＞		＜スクーリング学習＞	
回数	担当教員	題目	内容	題目	内容
1	塩澤 恵美	学修の振り返り（1）	振り返りの意義 保育者になるための理念を学ぶ科目	オリエンテーション	本科目のねらい、進め方、 評価基準について
2	塩澤 恵美	学修の振り返り（2）	子どもの心と身体の発達を学ぶ科目 子どもの権利と福祉を学ぶ科目	これまでの学修の振り返り(1)	これまでの学修を個人で振り返る
3	塩澤 恵美	学修の振り返り（3）	保育に関する方法を学ぶ科目	これまでの学修の振り返り(2)	これまでの学修をグループワークを 通して振り返り、発表する
4	塩澤 恵美	学修の振り返り（4）	保護者支援を学ぶ科目 実践の場で学ぶ科目	保育実践の 振り返りの意義	保育実践の振り返りの意義について学ぶ
5	塩澤 恵美	現代的課題（1）	少子化が就学前保育・教育に与える影響 保護者の不適切なかかわりと保護者支援	保育実践の 振り返り(1)	自らの保育実践を振り返る
6	塩澤 恵美	現代的課題（2）	長時間保育と子どもの発達 幼保小の連携	保育実践の 振り返り(2)	保育実践の振り返りをグループ内で 発表、討議する
7	塩澤 恵美	現代的課題（3）	子育ち環境と子どもの運動能力 子どもの生活環境と表現する力	保育実践の 振り返り(3)	保育実践の振り返りをグループ内で 発表、討議する
8	塩澤 恵美	現代的課題（4）	情報化社会における保育	保育をめぐる 現代的課題(1)	保育をめぐる現代的課題の現状を知る
9	塩澤 恵美	保育者の資質（1）	子どもへの尊敬と愛情のまなざし 多様性によりそう専門性	保育をめぐる 現代的課題(2)	各グループ毎に課題を設定し、検討する
10	塩澤 恵美	保育者の資質（2）	保護者と子育てを共有する関係性 子どもの権利と福祉を護る社会的意識	保育をめぐる 現代的課題(3)	各グループ毎に発表する
11	塩澤 恵美	保育者の資質（3）	子どもの力を伸ばす専門性と指導力	行事の意義と 安全	保育における行事の意義や安全管理の 考え方について学ぶ
12	塩澤 恵美	保育者の資質（4）	子どもを理解し、社会化へと導く専門性	保育の展開の 実際(1)	保育現場を想定し行事の計画をする
13	塩澤 恵美	自己課題（1）	自己分析	保育の展開の 実際(2)	各グループで行事のポスターを作成する
14	塩澤 恵美	自己課題（2）	自己課題の明確化	保育の展開の 実際(3)	ポスター作成および発表
15	塩澤 恵美	まとめ	学習の総復習	まとめ	授業の総復習

レポート作成等の方法・留意点

テキストを十分に読み、さらに参考文献等を活用して理解を深めてください。レポートは学習した内容について自分の考えをまとめたものです。テキストをそのまま抜き出したり、内容をつなぎ合わせたりしただけのレポートにならないように、自分の言葉でまとめて表現してください。なお、テキストや参考文献から引用する場合には、必要最小限にして引用箇所と文献を明記してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	スクーリング前に実習記録を読み返し、担当保育者の子どもへの援助に関する記載を確認しておくこと。	30時間
復習	スクーリング後、自己課題について考察すること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	・提出されたレポートにコメントを記載して、返却する。 ・グループワークで取り組んだ課題については、発表後コメントする。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育者論（特例）	小林 賢司	単独	卒	幼	保
Theory of Early Childhood Teacher			－	－	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	2	30時間	5011	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	－	小学校長、区の教育委員会指導室長や指導主事、都立教育研究所主任指導主事としての経験を活かし、教職に就く者としての基本的な知識、教師として身に付けるべき資質能力について具体的に指導する。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

授業の概要

今日及びこれからの我が国の教育の在り方や求められる教師像を踏まえ、教師に必要な基本的な知識・技能・態度を学ぶ。

授業の目的

この科目は、教育（保育）の目的と役割、教職の使命、教師の資質能力、教員の職務と研修、教員の服務と職務などについての基本的な知識を習得することを目指している。その上に立って、幼稚園の教師（保育者）としての豊かな人間性や資質能力の育成を目的としている。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園教育に携わる者として、自己の生き方・在り方や適性について考えられるようにするとともに、保育者として必要な実践に生かせる資質能力や教育的素養を身につける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して習得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

赤星晋作他『新教職概論　改訂新版』学文社

参考書

吉田辰雄他『教職入門』図書文化社

佐島群巳他『教師をめざす人のために〔教職論〕』学文社

小池俊夫他『次代を創る教師論』学文社

試験対策

試験は論文形式で行う。教科書の内容に基づくもの及び学習者の考えを問うものの両面から出題する。教科書を熟読するとともに、自分の考えを確立しておくことが大切である。また、日頃から、教育の動向に関心を持つようにすること。

学習のアドバイス

1.教科書や参考文献等を通して理解を確かなものにしてレポートに反映する。

2.教科書で学んだことと、実際の教育の現状を対比するなどして、自分の考えをまとめておくとよい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	保育者論を学ぶに当たって	・教師志望の理由　・保育者論とは
2	小林 賢司	教育観と教職観	・教育（保育）とは何か　・3つの教職観
3	小林 賢司	教職の意義と役割	・教職とはどんな仕事か　・教職の意義　・教員の役割
4	小林 賢司	教師の資質能力	・資質能力とは　・教員に求められる資質能力（技能的・人格的側面）
5	小林 賢司	教員免許制度	・教員免許状の種類　・教員免許制度の総合化　・弾力化と更新制
6	小林 賢司	教師の養成教育	・教員養成カリキュラムの改革　・教師の質の保証
7	小林 賢司	教育実習と介護等体験(1)	・教育実習の意義　・教育実習の事前・事後の指導
8	小林 賢司	教育実習と介護等体験(2)	・介護等体験の意義　・介護等体験の事前・事後の指導
9	小林 賢司	教員の採用と研修(1)	・教員採用の方法　・採用者の動向
10	小林 賢司	教員の採用と研修(2)	・教員の研修の保障　・研修の実際
11	小林 賢司	教師の服務	・教師の身分　・教師の服務と分限　・懲戒及び身分保障
12	小林 賢司	教師の職務	・幼稚園の教員組織　・教師の職務内容（チームとしての学校（園）運営）
13	小林 賢司	教員評価	・教員評価の導入　・近年の教員評価の動向と課題
14	小林 賢司	これからの学校と教師	・これからの学校　・これからの教師の在り方　・進路選択
15	小林 賢司	学習のまとめ	・「保育者論」のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

1.教科書及び参考書を熟読した上で、テーマについてまとめる。
2.テキストの引き写しは、評価の対象にならない。必ず自分で理解したうえで、自分の言葉でレポートにまとめる。
3.引用及び参考文献については、著者名、書名、出版社名、発行年等を参考文献欄に明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	1.事前に教科書やサブテキストをよく読み、専門的な用語や疑問に思ったことなどを調べておく。	60時間
復習	2.レポートで指摘されたことは、必ず補習し確かな理解を図る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育行政学（特例） Science of educational administration	小林 賢司	単独	卒 —	幼 —	保 —

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	2	30時間	5020	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	−	区の教育委員会の指導室長及び指導主事としての経験を活かし、実例を通して具体的に解説するなどして、教育行政をより卑近なものと感じられるように指導する。
−	−	

授業の概要

本科目では、現代の学校教育に関する社会的、制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的な知識も身に付ける。

授業の目的

社会状況の変化が学校教育に及ぼす影響とそれに対応するための教育政策の動向、現代公教育制度の法的・制度的な仕組みに関する基礎的な知識とそこに内在する課題のほか、学校と地域との連携や協働、学校管理下における事故・災害等の危機管理とその取組について理解する。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	教育に関する社会的事項については、学校を巡る近年の様々な状況の変化、子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題、近年の教育政策の動向、諸外国の教育事情や教育改革の動向などについて理解する。また、教育に関する制度的事項については、公教育の原理及び理念、公教育制度を構成していく教育関係法規、教育制度を支える教育行政の理念と仕組み、公教育制度を巡る諸課題について理解する。
②	学校と地域との連携については、地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法、地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解する。
③	学校の安全への対応については、学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性、学校を取り巻く新たな安全上の課題などについて理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して習得した知識・理解。

＊100〜90点:S評価、89〜80点:A評価、79〜70点:B評価、69〜60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小松茂久『教育行政学［改訂版］教育ガバナンスの未来図』昭和堂

参考書

河野和清『新しい教育行政学』ミネルヴァ書房
石弘光『新・学問のススメ－生涯学習のこれから』講談社現代新書
喜多明人他『（提言）学校安全法－子どもと学校を守る安全指針』不磨書房
文部科学省『諸外国教育動向　2010年度版』明石書店

試験対策

教科書の内容を十分に理解するとともに、テレビのニュースや新聞などを通して、教育行政、学校教育、子どもの状況などについて広く情報を得るように努めてください。

学習のアドバイス

・サブテキストの研究課題や理解度テストを通して自分の理解の度合いを評価してください。
・教科書や参考文献を通して得られた自己の考えや意見をレポートに反映してください。
・教科書や参考文献から引用しただけのレポートは評価できません。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	教育行政学を学ぶにあたって	教育行政学の学び方について
2	小林 賢司	教育行政のフロンティア－教育の方向性を探る－	公教育制度の成立と教育行政の歴史、教育行政の活動と領域
3	小林 賢司	教育行政と地方分権改革	中央と地方の教育行政機関、地方自治体における教育改革
4	小林 賢司	教職員改革と人事行政	教員の養成・採用・研修、新たな教員像と教員養成改革
5	小林 賢司	子どもの生活と教育課程行政	子どもの生活の変容、学習指導要領と教科書
6	小林 賢司	教育費と教育財政	教育にかかる費用、教育費を担う仕組み、 教育費をめぐるをさまざまな問題と格差
7	小林 賢司	生涯学習と社会教育行政	わが国の社会教育の展開、生涯学習社会とその教育行政
8	小林 賢司	少子高齢化社会と教育行政	少子高齢化問題と教育ガバナンス、少子高齢化施策と教育ガバナンスの課題
9	小林 賢司	教育福祉と教育行政	教育福祉とは、教育福祉実践と教育行政、教育と福祉の接合
10	小林 賢司	[働くこと]をめぐる教育ガバナンス	学校教育のなかの「働くこと」、 学校教育以外の場における働くことに関する教育
11	小林 賢司	異文化のなかの子ども・青年	海外・帰国子女の教育、外国籍児童生徒の教育
12	小林 賢司	グローバル時代の教育行政	グローバル時代の学力問題、国際理解と教育政策
13	小林 賢司	児童生徒と学校の安全	語り継ぐ防災教育と生きる力、安全な環境としての学校づくり
14	小林 賢司	世界の教育行政と教育改革	アメリカ・イギリス・フランス・ドイツ・中国の教育行政と教育政策、 世界の教育政策の方向性
15	小林 賢司	教育行政学を学んで	全体のまとめ

レポート作成等の方法・留意点

・レポート課題で問われている内容について、教科書や参考書を熟読した上で、論理的に述べてください。
・事前に、述べたいことをノートにまとめ、筋道を明確にして、表現方法にも気をつけながら論述してください。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	専門的な用語が多く出てくるため、教科書を読むだけでなく、不明な箇所がある場合は他の文献や信頼できる情報ツールを活用して、記載内容を確実に理解できるように努めてください。	60時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して返却します。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育課程・保育の計画と評価（特例） Planning and evaluation of educational curriculum and childcare	溝口 綾子	単独	卒	幼	保
			－	－	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	1	30時間	5031	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	実践力	幼稚園教諭及び幼児教育講座の教職経験を活かし、教育課程の意義や編成の方法の理解及びカリキュラムマネジメント実践の意義を理解できるようにする。
－	－	

授業の概要

学校教育における教育課程の役割・機能・意義を理解する。また、教育課程編成の基本原理や教育実践に即した編成の方法を理解する。

授業の目的

幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園においては、入園から修了までを見通し、乳幼児とともにどのような園生活を創り出していくかという保育の全体的な計画の作成は保育の質にかかわる重要な課題である。本授業では環境を通して行う教育・保育を基本とする全体的な計画のあり方・指導計画との関係性について学ぶことを目的とする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	保育所における全体的な計画、幼稚園における教育課程の意義と編成にあたっての基本的な考え方を理解するとともに、各園や地域の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。
②	保育所の全体的な計画や幼稚園の教育課程に基づく指導計画作成の前提として「遊び」「領域」「発達」の基礎的事項を把握する。
③	乳幼児期の発達の特性を理解するとともに、保育・教育の過程（計画・実践・評価・改善）の全体構造を捉え理解する。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ 教育課程総論』北大路書房
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』
文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』

参考書

厚生労働省『保育所保育指針・解説書』
文部科学省『幼稚園教育要領解説』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

試験対策

試験は教科書に記載されている学習内容を中心に広い視野から考えられる記述である。
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は日常的に目を通しておくこと。

学習のアドバイス

サブテキストも大いに活用して学習しましょう。時間的余裕があれば、幼稚園や保育所、こども園などの保育現場に出向き、学んだことを確かめてみましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	溝口 綾子	カリキュラムの基礎理論	保育所の保育計画、幼稚園の指導計画、保育所以外の児童福祉施設の計画と評価の意義
2	溝口 綾子	保育・教育における計画と評価	保育・教育の方針、目標と発達過程を踏まえた全体的な計画・教育課程と保育実践の評価
3	溝口 綾子	子ども理解と保育・教育の過程	計画・実践・記録・省察・評価・改善の循環の過程と、その全体構造の理解
4	溝口 綾子	「領域」の考え方と乳幼児期の発達の特性	5領域の考え方と乳幼児の遊びと保育者の援助の背景となる発達理解
5	溝口 綾子	保育・教育における全体的な計画と教育課程	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育要領・保育要領の意義と役割及び社会的背景
6	溝口 綾子	保育所の特性と全体的な計画の実際	保育所保育指針との関連及び保育の目標と計画の基本的な考え方
7	溝口 綾子	保育所の全体的な計画の編成と指導計画の関連	指導計画（長期・短期）作成の基本と手順及び作成上の留意点
8	溝口 綾子	保育所における指導計画作成の実際	乳幼児の生活の実態把握と課題の理解に基づいた保育の展開の具体化、保育実践事例と模擬保育
9	溝口 綾子	保育所における保育の評価と改善	保育記録と省察の仕方、保育士及び保育所の自己評価と改善の方法 保育所、幼稚園等におけるカリキュラム・マネジメントの重要性
10	溝口 綾子	保育所と小学校との連携	生活と発達の連続性と保育所児童保育要録の作成の実際
11	溝口 綾子	幼稚園における教育課程	幼稚園教育要領との関連及び教育課程編成の実際
12	溝口 綾子	教育課程と指導計画の関連	教育課程の基本的な考え方と指導計画の作成における留意事項
13	溝口 綾子	教育課程の評価・改善の方法と実際	教育課程に関わる自己評価とその具体例 教育課程の評価・改善にあたっての留意事項
14	溝口 綾子	幼稚園と小学校との連携	小学校との円滑な連携及び幼稚園幼児指導要録の作成の実際
15	溝口 綾子	乳幼児期の発達と保育（まとめ）	発達特性の理解と指導計画作成の基盤となる保育者の保育観・発達観

レポート作成等の方法・留意点

・教科書やサブテキストを読み返したり、他の参考文献や資料、実際の保育場面からの情報などを基に論題について内容を絞り込み、レポートの組み立てを考える。
・レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意する。
・レポートは必ず、第１回課題から提出すること。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は教科書と並行して学習すること。 ・５領域については、各領域のねらい（３つ）と内容の関連を調べること。	15時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートを添削、返却し、理解されていない箇所の再学習を促す。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
保育内容の指導法（特例） The Instruction Method of Childcare Contents	溝口 綾子	単独	卒	幼	保
			－	－	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	1	30時間	5040	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭及び幼児教育講座の実務経験を活かし、実際の保育から子どもの姿の読み取り、記録法、指導計画の立案等保育実践に活かせるようにする。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ能力	地域理解力	

授業の概要

園における保育の全体構造を知る。具体的には、園での子どもの遊びをどのように理解し、子どもが遊びの中で育つということをどう捉え保育を構想するのか、子どもの発達等の基本的な知識と援助の在り方を学ぶ。

授業の目的

子どもの自発性、主体性を最大限に生かす「環境を通しての教育」「遊びを通しての指導」「一人一人の発達の特性に応じた指導」という保育の方法的基盤について学習する。「遊び」を通した総合的な指導法については、実践事例を取り上げて理論と実践を結びつけて理解できるようにする。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	園における子どもの遊びと保育者～遊びを中心とした保育・遊びの充実とは・子どもの遊びを援助するについて理解する。
②	保育記録から生まれる指導計画～保育に生きる記録とは・保育記録の目的・保育記録と保育の関係性・「遊び」の読み取り・保育記録の中の計画性・さまざまな記録の様式・日の記録から週案作成についてその方法と実際を知り実践できるようにする。
③	子どもと保育者が織りなす生活～育ち合う子どもと保育者・一日の生活の組み立て・行事の捉え方・行事の意味と課題・個の自己発揮から協同的な遊びについて情報機器及び教材の活用法を通して理解する。
④	保育者の役割～遊びの必要性・総合的な遊び・領域の考え方・保育者の役割・保育者としての専門性と資質について把握し、実践に生かせるようにする。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

河邉貴子『遊びを中心とした保育：保育記録から読み解く「援助」と「展開」』萌文書林

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』『幼稚園教育要領解説』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針＜平成29年告示＞』『保育所保育指針解説書』

試験対策

試験は、教科書に記載されている学習内容を中心に、広い視野から考えられる記述問題である。幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針は日常的に目を通しておくことが必要である。

学習のアドバイス

サブテキストも大いに使い学習しましょう。時間的に余裕があれば、幼稚園や保育園の保育現場に出向き、学んだことを確かめてみましょう。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	溝口 綾子	遊びを中心とした保育	遊びの理解と援助
2	溝口 綾子	子どもの遊びの特徴	幼児期の発達の特性
3	溝口 綾子	保育実践と保育記録	事実把握と実態把握
4	溝口 綾子	保育記録の取り方	日の記録、個人記録の取り方のポイント
5	溝口 綾子	「遊び」の読み取りと指導計画及び教材研究	遊びの動機及び経験から読み取る
6	溝口 綾子	様々な保育記録の様式	指導案（週案）の反省記録・環境図記録・個人記録
7	溝口 綾子	「子どもの育ち」のイメージと保育の方向性	事例の記録と模擬保育
8	溝口 綾子	園における「一日の生活」の組み立て	好きな遊びと学級活動の連動（プロジェクターの活用法）
9	溝口 綾子	行事の捉え方と指導	園における様々な行事
10	溝口 綾子	行事の意味と課題	運動会、生活発表会の事例（教材、教具の活用法）
11	溝口 綾子	個の自己発揮から協働的学びへ	個と集団の育ち
12	溝口 綾子	保育者の基本的な役割	子ども理解と保育の組み立て
13	溝口 綾子	遊びの意義の再確認	遊びの必要性・遊びの面白さ
14	溝口 綾子	総合的な学びの保障	「領域」の考え方
15	溝口 綾子	保育者としての資質	専門性を高める

レポート作成等の方法・留意点

・提示された課題についてレポートを作成し、提出する。
・教科書やサブテキストを読み返したり、他の参考文献や資料、実際の保育場面からの情報などを基に、論題について絞り込み、レポートの組み立てを考える。
・レポートを書き終えたら読み返し、文章表現や誤字脱字に留意する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習 復習	・保育現場や公園などで遊んでいる子どもの姿を捉えて記録すること。 （いつ、どこで、誰と、何を、どのように） ・園の行事に参加したり参観したりして行事の意味を確認すること。	15時間

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートの添削、返却を行い、理解できていない箇所の再学習を促す。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
教育の方法と技術（特例） Methodology and Skill for Education	小林 賢司	単独	卒	幼	保
			－	－	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	1	30時間	5050	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
基礎力	－	小学校長、区教育委員会での指導室長や指導主事、都立教育研究所主任指導主事としての経験を活かして、教職に就く者としての基本的な知識、教師として身に付けるべき資質能力等について具体的に指導する。
－	地域理解力	

授業の概要

教育・保育の基本を学び、教師に求められる資質能力や態度を習得する。

授業の目的

幼児教育の専門職として必要な指導内容、指導方法と技術、教材と指導案の作成、情報処理の方法、家庭・地域・学校との連携などについて習得することを目指している。そして、幼稚園の教師として真摯に幼児と向き合い、円滑に関わりながら指導できる実践力を育てることを目的としている。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	幼稚園教育に携わる者として、幼児教育に関わる様々な保育の方法や技術を理解する。
②	幼児の心に寄り添うことのできる柔軟な対応力や指導力を身に付ける。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	授業、教科書、レポートを通して習得した知識・理解。

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

小田豊他『新保育ライブラリ 幼児教育の方法』北大路書房

参考書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』
厚生労働省『保育所保育指針解説書』
内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
民秋言『幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷と幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立』萌文書林

試験対策

試験は、論文形式で出題するので教科書を熟読しておくこと。また、常に教育の動向に関心をもつようにする。

学習のアドバイス

1.日頃から保育現場の状況について、各種報道等に常に関心をもつ。
2.教科書や参考文献等を通して理解を確かにしたうえでレポートに反映する。

授業計画

＜通信学習＞教科書及びサブテキストを基にして次のことを学ぶ。

回数	担当教員	題目	内容
1	小林 賢司	本科目のねらい、 幼児期にふさわしい教育の方法	環境を通しての教育　・遊びを通しての指導
2	小林 賢司	教育課程と指導計画	幼稚園教育要領に示されている、教育計画と指導計画
3	小林 賢司	教育と指導	教育と指導の違い
4	小林 賢司	幼児の主体的な生活を基盤とする 保育	子どもの主体性と保育者の意図など
5	小林 賢司	遊びのなかの学びをはぐくむ保育	遊びのなかの学びを規定するものなど
6	小林 賢司	「遊び」について考える、 「遊び」を内容とした教材研究	遊びと学びの関係
7	小林 賢司	方法としてのさまざまな 保育形態、指導案の作成	保育形態のタイプ　・指導案作成の方法など
8	小林 賢司	保育における個と集団の育ち	個の指導と集団の指導
9	小林 賢司	保育における評価、模擬保育、 情報機器の活用	保育における評価　・保育の実践と評価など
10	小林 賢司	幼児期の教育と小学校教育の関連	小学校との接続・連携　・円滑な接続のための幼小連携など
11	小林 賢司	小学校の生活科～幼小の関連～	幼児教育と小学校教育
12	小林 賢司	家庭や地域と連携した保育	保護者とのパートナーシップ　・地域の資源や教育力を活かす保育
13	小林 賢司	保育における カウンセリングマインド	基本的な生活習慣の育ちと、子どもの健やかな育ちを支援するためのカウンセリングマインド
14	小林 賢司	よりよい保育を目指して	教員の資質能力を高めるために
15	小林 賢司	これからの保育 ～様々なニーズに応えるために～	多様性に応じた保育

レポート作成等の方法・留意点

1.教科書及び参考書を熟読したうえでテーマについてまとめる。
2.テキストの引き写しは評価の対象にならない。必ず自分で理解したうえで、自分の言葉でまとめる。
3.引用及び参考文献については、著者名、書名、出版社名、発行年等を参考文献欄に明記する。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	事前に教科書やサブテキストをよく読み、専門的な用語や疑問に思ったことなどを調べておく。	15時間
復習	レポートで指摘されたことは、必ず補習し確かな理解を図る。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートにコメントを記入して、返却する。

科目名	担当教員	担当形態	履修形態		
幼児理解の理論と方法（特例） Theory and Method of Understanding Infants	茂木 寿美子	単独	卒	幼	保
			－	－	－

履修年次	授業形態	履修方法	単位数	授業時間数	科目CD	実務経験
幼特	講義	通信	1	30時間	5060	有

学習成果		担当教員の実務経験と当該授業との関連
－	実践力	幼稚園教諭や臨床心理士として児童相談所や医療機関等で培った経験をもとに、子ども理解に必要な知識の理解に必要な解説を行う。
－	－	

授業の概要

保育は「子どもを理解する」ことから始まります。そのためには「何」を「どのように」すればいいのかを、発達、カウンセリングマインド、記録やカンファレンス、特別な配慮を必要とする子どもたちなどのテーマの中で、様々な理論や事例を用いながら理解していきます。

授業の目的

保育は子ども達を理解するところから始まります。一人ひとりの子どもが園生活の中で何に興味を持ち、どんなふうに遊びたいと思っているのか、誰と一緒に活動したいのか、保育者はそれらを丁寧に捉えて保育の中で実現できるように工夫していきます。本科目は、具体的な事例を通して、子ども理解の多様な視点とその方法を学び、保育の中で豊かなまなざしで子どもを捉えられるようにすることを目的とします。

到達目標（学習成果に対する到達目標）

①	子どもを理解したり共感しあうことに必要な具体的な方法や知識を身に付けること、更に、それらを保護者と共に子どもの成長を喜び合える保育に繋げることができるようにします。事例も多く取り上げていますので、それらを丁寧に考えながら読みながら、どうしてそのような解釈ができるのかを理解できるようにしていきましょう。

成績評価方法及び基準

科目修得試験	100%	

＊100～90点:S評価、89～80点:A評価、79～70点:B評価、69～60点:C評価、59点以下:不可

教科書

高嶋景子他『新しい保育講座３ 子ども理解と援助』ミネルヴァ書房

参考書

「現代と保育」編集部『こどもをわかるということ』ひとなる書房
小林芳郎『学びと教えで育つ教育心理学一教育心理学入門一』保育出版社
河崎道夫『発達を見る目を豊かに』ひとなる書房

試験対策

主に教科書にある内容を習得できているか、自分の考えがきちんと述べられているかを試験採点の基準としていきます。問題の形式は、選択式・語句説明・論述で構成されます。繰り返し教科書を読み、知識を保育現場で活用する気持ちで試験に臨んで下さい。

学習のアドバイス

実際に日頃から子どもの事を理解しようとすること、即ち、どんな気持ちでいるのか、どうして…をしているのか、などと思いをはせる事から子ども理解が始まります。テキストにある事例と自分が観察した子どもの様子を照らし合わせ、子どもの思いを楽しみながら考えてみて下さい。

授業計画

＜通信学習＞

回数	担当教員	題目	内容
1	茂木 寿美子	子ども理解(1)	保育における子ども理解
2	茂木 寿美子	子ども理解(2)	カウンセリングマインドと子ども理解
3	茂木 寿美子	子ども理解(3)	実践の振り返りから生まれる子ども理解
4	茂木 寿美子	子どもの発達	発達の理論を背景としたそれぞれの子どもの発達と育ち
5	茂木 寿美子	それぞれの子どものねらい(1)	子ども理解のための視点とねらいの立て方
6	茂木 寿美子	それぞれの子どものねらい(2)	ねらいを踏まえた子どもの育ちの評価と学び
7	茂木 寿美子	子ども理解の方法(1)	子ども理解のための観察の要点と行動観察の取り方
8	茂木 寿美子	子ども理解の方法(2)	行動観察を生かした保育の進め方
9	茂木 寿美子	子ども理解の方法(3)	園内研修・保育カンファレンスの実際
10	茂木 寿美子	子ども理解の方法(4)	カンファレンスで活かしたい素材
11	茂木 寿美子	気になる子どもと発達の支援(1)	子どもの発達障害に関する理解
12	茂木 寿美子	気になる子どもと発達の支援(2)	統合保育と障碍のある子どもとの出会い
13	茂木 寿美子	気になる子どもと発達の支援(3)	特別支援に係る計画と実践を通した子ども理解
14	茂木 寿美子	保護者との連携(1)	保育現場で活かせるカウンセリング
15	茂木 寿美子	保護者との連携(2)	家族理解と子育て支援

レポート作成等の方法・留意点

・教科書と参考文献を読んだうえで、レポート課題と関係する文献を自分で調べて、レポート作成の参考にして下さい。
・自分の考えを読み手に理解できるように文章にして下さい。
・文献からの引用箇所は「」の中に書き、最後に出典を記して下さい。

準備学習の具体的な内容および必要な時間

予習	教科書をよく読み、実際に自分の近くにいる子ども達の様子に当てはめながら理解を深めていくこと。	15時間
復習	専門用語についての知識を事例に照らし合わせながら理解し、身に付けること。	

課題へのフィードバック有無および方法

有	提出されたレポートに対して講評を記入して返却する。

帝京短期大学
〒151－0071　東京都渋谷区本町6－31－1
Teikyo Junior College